元総社蒼海遺跡群

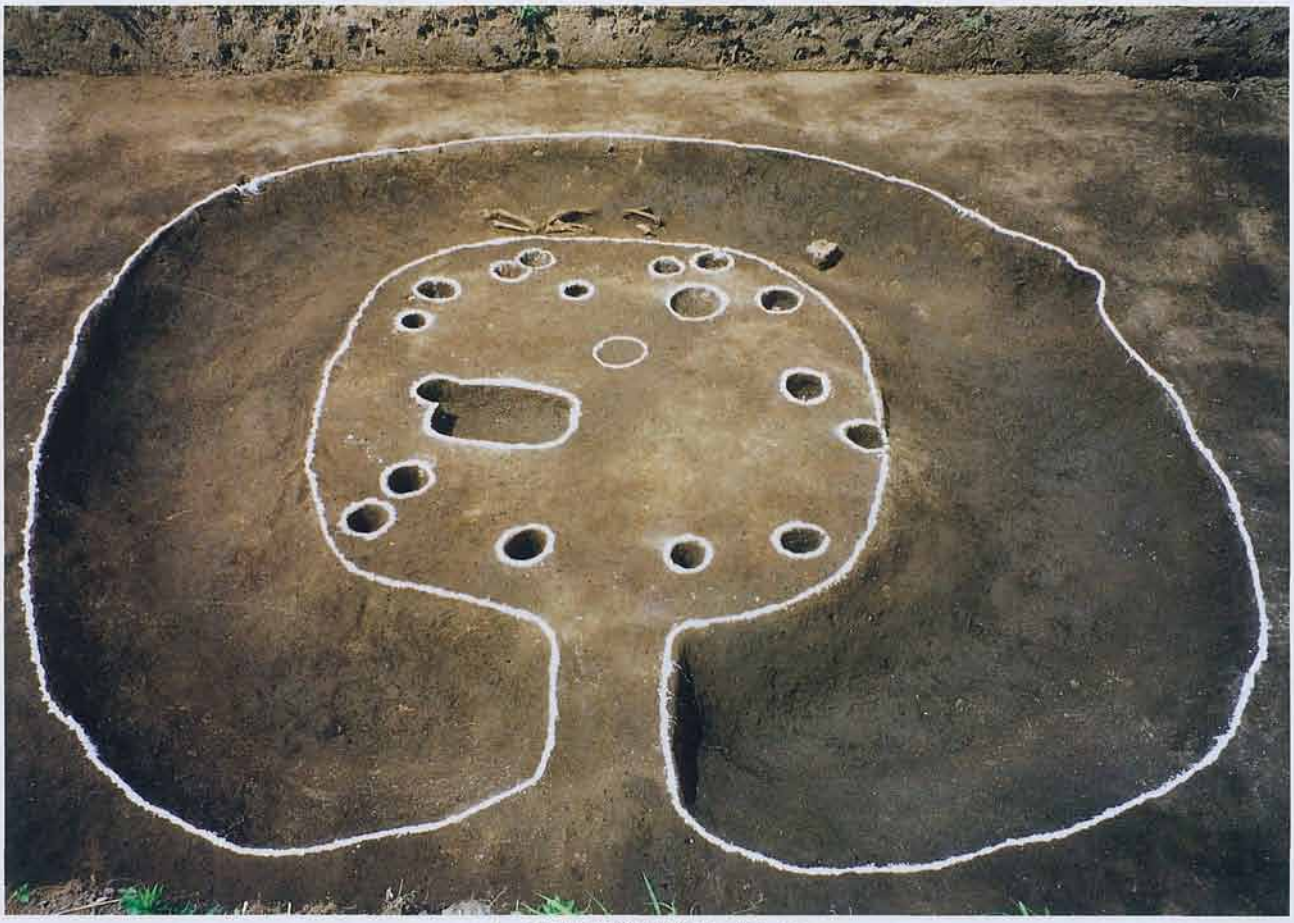
元総社小見内Ⅳ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1. W-3号溝跡全景(北から)



2. 2号周溝状遺構全景(南から)

3. C区全景(東から)

4. 元総社小見内IV遺跡出土遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬側が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域は古代より豊かな文化があふれる地であり、東日本でも際だった内容を示しています。今から約２万８千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの等多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内ほぼ全域にわたり残されています。古代の人々が暮らした家の跡や使用した石器や土器などの道具、水田跡なども多く、周辺の埋蔵文化財発掘調査によって多くの新しい知見が集積されています。

今年度調査を行いました元総社小見内Ⅳ遺跡は、前橋市の西部、国府推定域のわずか西の外れに位置します。国府に直接関連すると思われる構造物、道路、溝などの検出はされませんでしたが、住居跡、通路を伴う溝跡、土坑墓などが検出され、国府と国分二寺を結ぶ地域の律令期以前、律令期、律令期以後の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、酷暑の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成15年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見内Ⅳ遺跡発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町地内
発掘調査期間	平成14年６月４日～平成14年11月22日
整理・報告書作成期間	平成14年11月25日～平成15年３月25日
発掘・整理担当者	齊木一敏・高坂麻子（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は齊木・高坂が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石井春江・佐藤佳子・品川成夫・下境弥・下境米治・神馬宏明・冨岡和子・内藤旭・内藤よし
中島利夫・西山勝久・西山光彩・萩原和子・増澤恵美子・峰岸あや子
6．発掘調査で出土した遺物は、本発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に国土地理院発行の１／200,000地形図（宇都宮、長野）、１／25,000地形図（前橋）と１／2,500前橋市現形図を使用した。
3．本発掘調査の略称は、14A114である。
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　B…掘立柱建物跡　T…竪穴状遺構
W…溝跡　D…土坑　P…柱穴　I…井戸跡　A…道路状遺構　D…土坑墓
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　全体図…１／200・１／100・１／60　住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・溝跡・溝状遺構・土坑・柱穴・井戸跡・道路状遺構・周溝状遺構・土坑墓・土器埋納遺構・不明遺構…１／60　竈…１／30
遺物　土器…１／３　カワラケ・ミニチュア…１／２　瓦…１／４　古銭…１／２　鉄器・鉄製品…１／２　臼玉…１／１　石斧・砥石…１／３　石鏃…２／３
6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。
○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。
8．遺構平面図の ---------- は推定線、－·－·－ は切られるが存在する面を表す。
9．遺構平面図の●は土器、■は瓦、△は古銭、▲は鉄製品、□は石器・石製品の出土位置を表す。
10．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図	構築面…		焼土…	
	粘土…			
遺物実測図	須恵器断面…		灰釉陶器表面…	
	灰釉陶器断面…		青磁断面…	
	内黒…		黒色土器…	
	スス付着…		漆…	

目次

序 ・・・・・・・・・・ i

Ⅰ 調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地 ・・・・・・・・・・ 1

2 歴史的環境 ・・・・・・・・・・ 1

Ⅲ 調査の経過

1 調査方針 ・・・・・・・・・・ 6

2 調査経過 ・・・・・・・・・・ 6

Ⅳ 基本層序 ・・・・・・・・・・ 8

Ⅴ 遺構と遺物

1 竪穴住居跡 ・・・・・・・・・・ 15

2 掘立柱建物跡 ・・・・・・・・・・ 22

3 竪穴状遺構 ・・・・・・・・・・ 22

4 溝跡・溝状遺構 ・・・・・・・・・・ 24

5 土坑・柱穴・井戸跡 ・・・・・・・・・・ 26

6 道路状遺構 ・・・・・・・・・・ 26

7 周溝状遺構 ・・・・・・・・・・ 27

8 土坑墓群 ・・・・・・・・・・ 27

9 土器埋納土坑 ・・・・・・・・・・ 29

10 不明遺構 ・・・・・・・・・・ 29

11 グリッド等出土遺物 ・・・・・・・・・・ 29

Ⅵ 考察 ・・・・・・・・・・ 35

図　　版

口絵　1　W－3号溝跡全景
　　2　2号周溝状遺構全景
　　3　C区全景
　　4　元総社小見内Ⅳ遺跡出土遺物

ＰＬ．1　A区中央部全景他
　　2　H－3～6号住居跡
　　3　H－8～13号住居跡
　　4　H－14～18号住居跡
　　5　H－18・19～22号住居跡
　　6　H－22・23～27号住居跡
　　7　H－28～31号住居跡
　　8　H－32～34号住居跡
　　9　B区中央部全景他
　　10　W－1・2号溝跡他
　　11　H－2～6号住居跡出土遺物
　　12　H－10～19号住居跡出土遺物
　　13　H－19～31号住居跡出土遺物
　　14　H－31～34号住居跡、T－2号竪穴状遺構、D－5号土坑出土遺物
　　15　D－5・7・8・39・69号土坑、2号土器埋納土坑、1号不明遺構、グリッド出土遺物、瓦
　　16　1号土器埋納土坑から出土した土器、主な瓦
　　17　古銭、鉄製品・玉類・石器・砥石・石製品

挿　　図

Fig.　1　元総社蒼海遺跡群位置図
　　2　周辺遺跡図
　　3　本遺跡の位置図とグリッド設定図
　　4　A区標準土層図
　　5　B区標準土層図
　　6　C区標準土層図
　　7　A区全体図
　　8　B区全体図
　　9　C区全体図
　　10　D区全体図
　　11　時期別の遺構配置図
　　12　T－2号竪穴状遺構と周辺の遺構
　　13　H－1・2・3住居跡
　　14　H－2・3号住居跡竈
　　15　H－4・5号住居跡
　　16　H－6・8号住居跡、D－25・28号土坑
　　17　H－9・10・11号住居跡
　　18　H－12・13・14号住居跡
　　19　H－15・16・17号住居跡
　　20　H－18・19号住居跡
　　21　H－20・21・28号住居跡、D－69号土坑
　　22　H－22・23号住居跡
　　23　H－24・25・29号住居跡、D－72号土坑
　　24　H－26・27号住居跡
　　25　H－30・31・32号住居跡、D－82号土坑
　　26　H－33・35号住居跡
　　27　H－34号住居跡
　　28　B－1～3号掘立柱建物跡

29　Ｔ－１・２・３号竪穴状遺構
30　Ｔ－５・６・７号竪穴状遺構
31　Ｗ－１・２号溝跡、ＤＢ－２～８
32　Ｗ－３号溝跡
33　Ｗ－４・５号溝跡
34　Ｗ－６号溝跡
35　１～６号溝状遺構
36　Ｄ－１～27号土坑
37　Ｄ－29～60号土坑
38　Ｄ－61～89土坑
39　Ｄ－90～109土坑、Ｐ－55号柱穴
40　Ｄ－110～132号土坑、ＤＢ－１号土坑墓
41　Ｐ－１～41号柱穴
42　Ｐ－42～85号柱穴
43　Ｐ－66・67・72・73号柱穴、Ｉ－１・２号井戸跡、Ａ－１・２号道路状遺構
44　１・２号周溝状遺構、１号不明遺構
45　Ｈ－２・３号住居跡出土の土器
46　Ｈ－３・４・５・６・８号住居跡出土の土器
47　Ｈ－10・11・12・13号住居跡出土の土器
48　Ｈ－14・15・16・17号住居跡出土の土器
49　Ｈ－18・19号住居跡出土の土器
50　Ｈ－20・21号住居跡出土の土器
51　Ｈ－22・23号住居跡出土の土器
52　Ｈ－24・25号住居跡出土の土器
53　Ｈ－26・27・28・30・31号住居跡出土の土器
54　Ｈ－31・34・35号住居跡出土の土器
55　Ｔ－２号竪穴状遺構、Ｗ－２号溝跡、Ｄ－７・８・14・25・69号土坑出土の土器
56　Ｄ－39号土坑、２号周溝状遺構、１号不明遺構、グリッド出土、Ｃ区表採の土器
57　Ｔ－２号竪穴状遺構、Ｄ－５号土坑、１号土器埋納土坑出土の土器（カワラケ）
58　１・２号土器埋納土坑出土の土器（カワラケ）
59　瓦（１）
60　瓦（２）
61　瓦（３）
62　瓦（４）
63　古銭
64　鉄製品・玉類・石器・砥石・石製品

表

Tab.　1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2　住居跡一覧表
3　土坑・柱穴・井戸跡計測表
4　時期別の遺構数
5　小見内Ⅳ西部、小見内Ⅳ東部、小見内Ⅲ西部の比較
6　Ｔ－２号竪穴状遺構と周辺遺跡の遺構との比較
7　上野国分寺・尼寺中間地域の土坑墓
8　土器観察表
9　出土古銭一覧表
10　瓦観察表
11　鉄器・鉄製品観察表
12　石器・石製品観察表

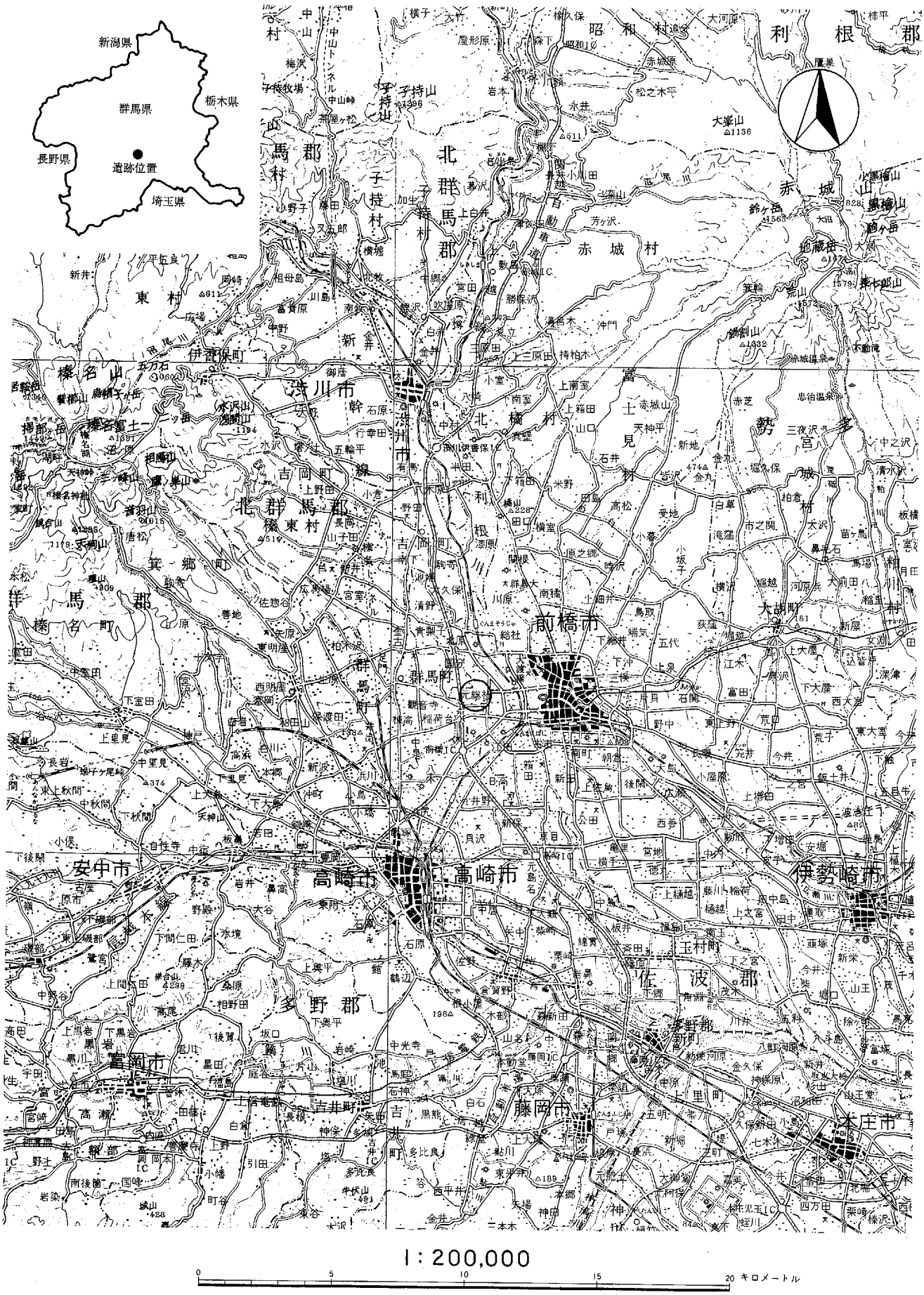


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業実施に伴い調査され、３年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成14年５月１日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。平成14年５月24日、調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、６月４日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見内Ⅳ遺跡」（遺跡コード：14Ａ114）の「小見内」は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の「Ⅳ」は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）、そして南部の現利根川氾濫原の四つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南へ約0.8kmの所に上野国総社神社があり、西へ約0.4kmの所には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

２　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連を窺わせる総社古墳群と山王廃寺、古代政治文化の中心地であった上野国府・国分寺、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の主に北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上野毛氏」の私寺であり、この古墳群には「上野毛氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元総社小見内Ⅲ遺跡からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されている。この遺跡からは官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定される。また、日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

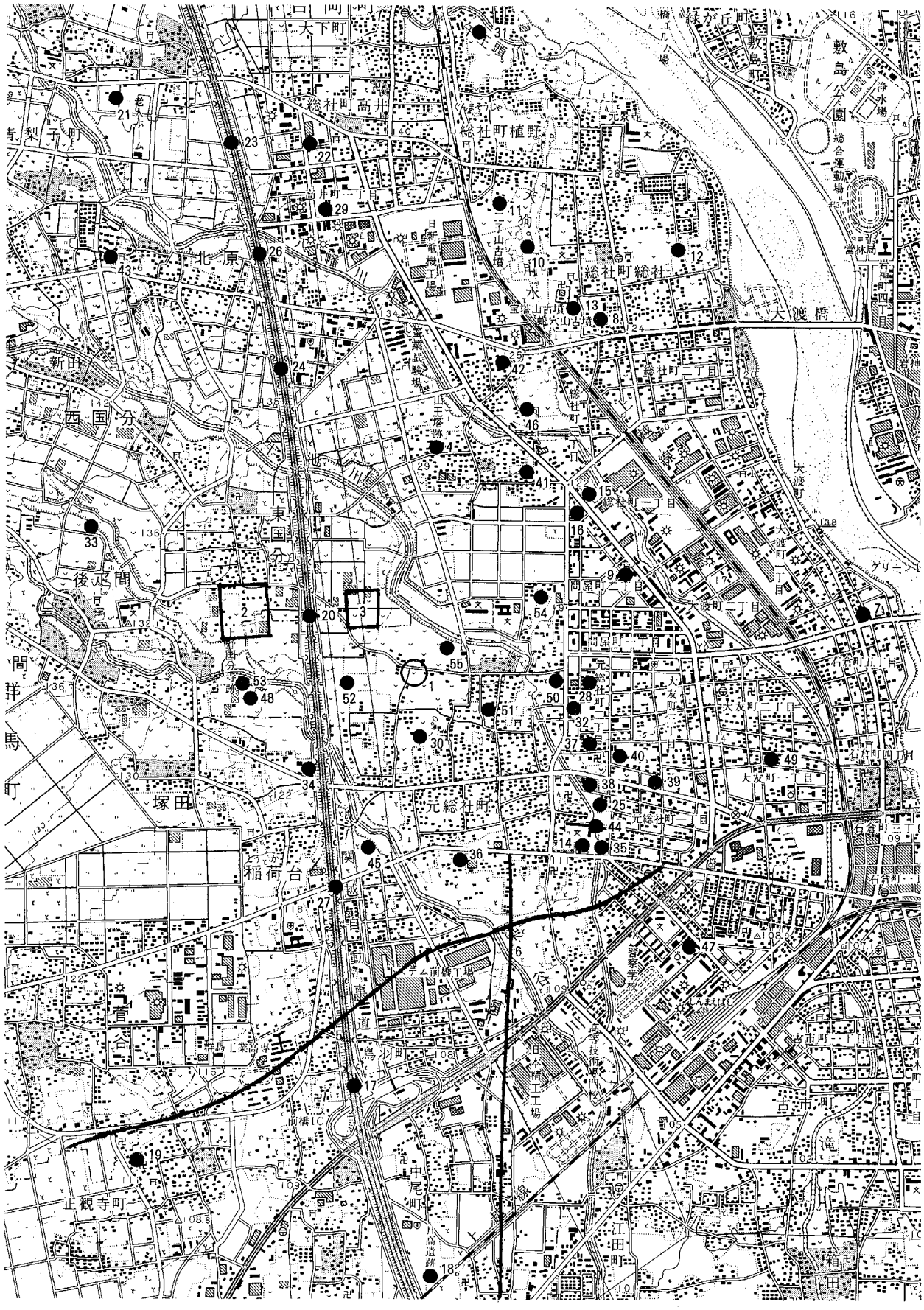

大下町
総社町高井
総社町植野
北原
総社町総社
大渡橋
新田
西国分
東国分
後正間
塚田
元総社町
稲荷台
鳥羽町
止観寺町
中尾町
江田町
古市町
敷島公園
総合運動場
浄水場
大渡町
大友町
石倉町
1:25,000
500m
0
500
1000
1500

Fig. 2 周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	本遺跡
2	上野国分寺跡(県教委)	1980 ～ 1988	奈　　良：金堂基壇、塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈　　良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古　　墳：塔心礎、根巻石
5	東山道(推定)		
6	日高道(推定)		
7	王山古墳	1972	古　　墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古　　墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古　　墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古　　墳：方墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古　　墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古　　墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古　　墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平　　安：掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄　　文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄　　文：住居跡
17	中尾遺跡(事業団)	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡(事業団)	1977	弥　　生：水田跡、方形周溝墓、住居跡、 木製農耕具 平　　安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ(高崎市)	1979 ～ 1981	弥　　生：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：溝跡
20	上野国分僧寺･尼寺中間地域	1980 ～ 1983	縄　　文：住居跡、配石遺構 弥　　生：住居跡、方形周溝墓 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡 中　　世：掘立柱建物跡、溝状遺構、道路状遺構
21	清里南部遺跡群 清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄　　文：ピット 奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡(事業団)	1980 ～ 1984	縄　　文：屋外埋甕 弥　　生：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、柵列 中　　世：住居跡、溝跡
24	国分境遺跡(事業団)	1990	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡(群馬町)	1991	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、畠跡 中　　世：土坑墓
25	元総社明神遺跡　Ⅰ～ⅩⅢ	1982 ～ 1996	古　　墳：住居跡、水田跡、堀跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、大形人形 中　　世：住居跡、溝跡、天目茶碗
26	北原遺跡(群馬町)	1982	縄　　文：土坑、集石遺構 古　　墳：水田跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡(事業団)	1978 ～ 1983	古　　墳：住居跡、鍛冶場跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
29	柿木遺跡	1983	奈良・平安：住居跡、溝跡
	柿木Ⅱ遺跡	1988	
30	草作遺跡	1984	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡 中　　世：井戸跡（蒼海城に伴う）
31	桜ヶ丘遺跡		弥　　生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡	1985	平　　安：住居跡
	総社桜ヶ丘Ⅱ遺跡	1987	奈良・平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
32	閑泉樋南遺跡	1985	古　　墳：住居跡（鬼高期） 奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡　Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985 ～ 1987	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平　　安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平　　安：溝跡、木製品
36	天神遺跡	1986	奈良・平安：住居跡
	天神Ⅱ遺跡	1988	
37	屋敷遺跡	1986	古　　墳：住居跡
	屋敷Ⅱ遺跡	1995	平　　安：住居跡 中　　世：堀跡、石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡、溝跡、地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡、溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平　　安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古　　墳：住居跡、溝跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄　　文：住居跡 平　　安：住居跡、溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平　　安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ （事業団）	1988 ～ 1991	古　　墳：水田跡、溝跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器 中　　世：溝跡
45	弥勒遺跡	1989	古　　墳：住居跡
	弥勒Ⅱ遺跡	1995	平　　安：住居跡
46	大屋敷遺跡 Ⅰ～Ⅵ	1992 ～ 2000	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄　　文：土坑 平　　安：住居跡、瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平　　安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古　　墳：畠跡、水田跡、溝 中　　世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古　　墳：住居跡、溝跡 平　　安：住居跡 溝跡
51	元総社宅地遺跡 1～23 トレンチ	2000	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構 中　　世：溝跡 近　　世：住居跡、（五輪塔の一部、椀類）
52	元総社小見遺跡	2000	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡、道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古　　墳：住居跡、畠跡 奈良・平安：住居跡、溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡、溝跡 中　　世：畠跡 近　　世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古　　墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡、溝跡 近　　世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古　　墳：住居跡、溝跡 奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡 中　　世：掘建柱建物跡、溝跡

※年代の（　　）は調査開始年度。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、本調査が必要とされた地域（1,924㎡）である。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へＸ89、Ｘ90、Ｘ91…と、北から南へＹ94、Ｙ95、Ｙ96…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ125・Ｙ130の公共座標は次のとおりである。

第　Ⅸ　系	Ｘ＝＋43834.907	Ｙ＝－71991.757	（新座標）
	Ｘ＝＋43480.000	Ｙ＝－71700.000	（旧座標）
緯　　度	36° 23′ 21″．2995	経　　度	139° 02′ 02″．3983
子午線収差角	28′ 27″．3	増　大　率	0.999963

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本発掘調査は６月４日より現地調査を開始した。Ａ区は直前まで農作物が栽培されていたことや住宅密集地に位置しているため狭い進入路しか確保できず、重機（バックフォー0.4㎥）で表土掘削を行った。それと平行して、鋤簾による遺構確認を行った。20日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。当初、住居跡を把握するのに苦労したものの、住居跡の軒数は少ないと見込まれたため調査は順調に進むかに思えたが、溝跡等から合計８体もの人骨が出土し、調査作業や事務処理に時間を要した。６月20日には、中学生が体験学習に現場を訪れ、発掘・整理作業を経験して帰校した。その後、調査は順調に進み、７月18日、ハイライダーで調査区全景の写真撮影を行い、Ａ区の調査を終了した。二面目の確認トレンチを入れた後、重機（バックフォー0.4㎥）で埋め戻しを行った。

７月22日よりＢ区の調査に移った。Ｂ区は手作業により雑草を除去した後、重機（バックフォー0.4㎥）で表土掘削を行った。鋤簾による遺構確認後、遺構掘下・精査に入った。９月下旬から10月初旬にかけ二度の台風に見舞われ調査区が水没したため、調査は中断、水抜き作業及び室内作業を余儀なくされた。10月４日、ハイライダーによる調査区全景の写真撮影を行い、Ｂ区を一旦終了した。その後、二面目の確認トレンチを入れたところ、新たに竪穴住居跡３軒を確認したため、再度掘り下げ調査を行った。Ｂ区の埋め戻しは10月８日に全て終了した。

10月３日よりＣ区の調査を開始した。Ｂ区と同じく重機（バックフォー0.4㎥）で表土掘削を行った後、鋤簾による遺構確認後、遺構掘下・精査に入った。調査区全景の写真撮影はハイライダーを設置する場所がなく、土山の上から脚立を用いて行った。11月７日、重機（バックフォー0.25㎥）を用いてＣ区の埋め戻し作業が終了した。

Ｄ区の調査は、Ｃ区の埋め戻し作業と並行し、11月６日より開始した。Ｄ区は調査面積が大変狭いため、重機（バックフォー0.25㎥）を用い、表土掘削を行った。鋤簾による遺構確認後、遺構掘下・精査を行った結果、調査区を南北に走る溝跡が検出された。全景撮影の後、埋め戻しを行い、12日にすべての調査を終了した。その後、13日より10日間、現場事務所において土器洗いや図面整理等を行った。21日には、中学生が体験学習に現場を訪れ、整理作業を経験して帰校した。22日より文化財保護課に戻り、遺物、図面、写真等の整理作業に取り組んだ。年が明けた１月24日にも中学生が体験学習に訪れ、整理作業を体験し帰校した。その後も整理作業を続行し、３月25日までにすべての作業を完成させる運びとなった。

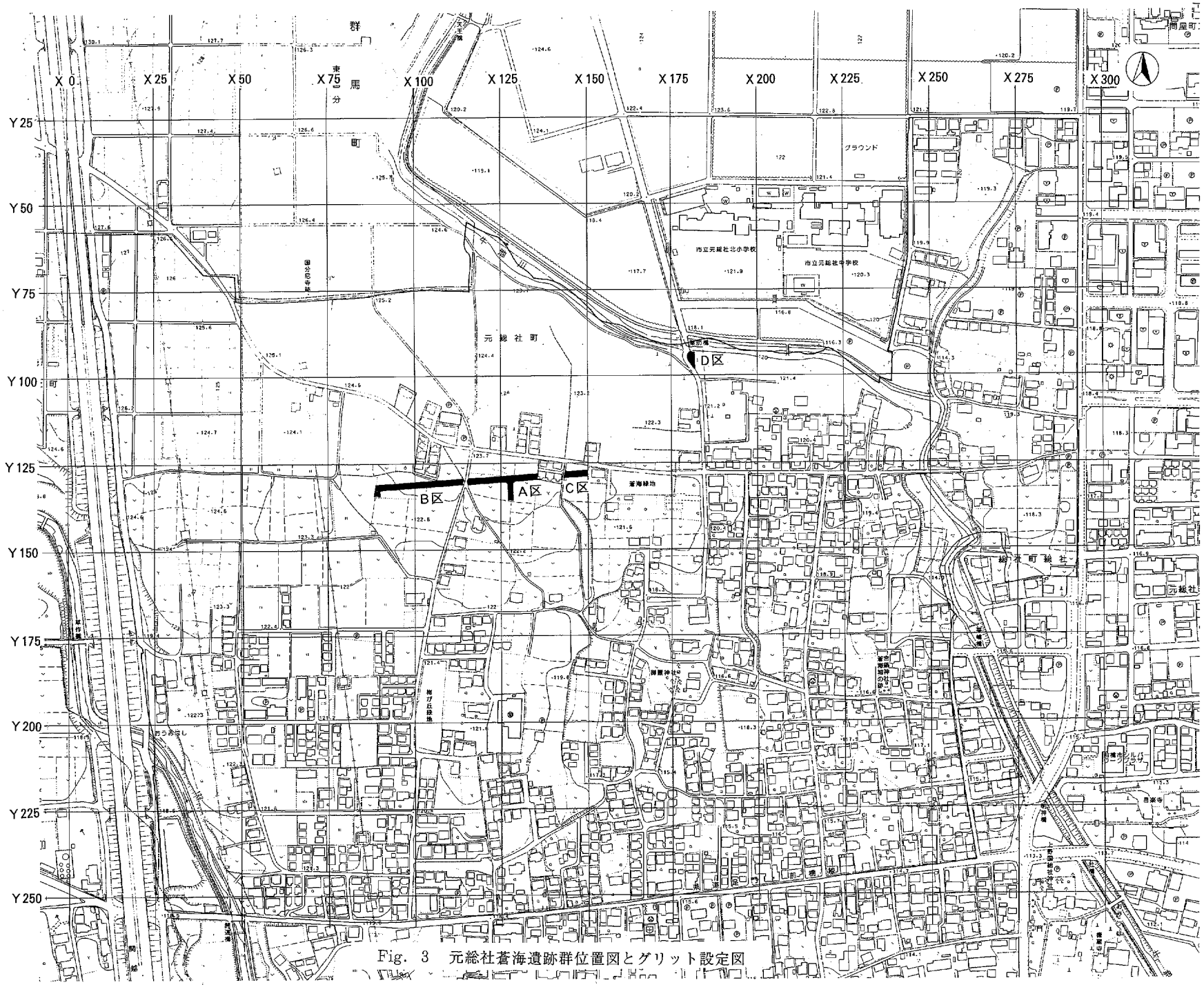


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリット設定図

Ⅳ　基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、下記のとおりである。

1　A区基本層序

Ⅰ 灰黄褐色粗砂層（10YR5／2）××　現耕作土
Ⅱ 黒褐色粗砂層　（10YR3／2）○×　As-B混土
Ⅲ 黒褐色細砂層　（10YR2／2）○△　As-C・Hr-FP含む
Ⅳ 黒色細砂層　（10YR2／1）○○　As-CをⅢ層より多量に含む
Ⅴ にぶい黄褐色微砂層（10YR4／3）○○　Ⅳ層とⅥ層の漸移層、白色軽石を含む（地山）
Ⅵ 褐色微砂層　（10YR4／4）○○　ローム層（地山）

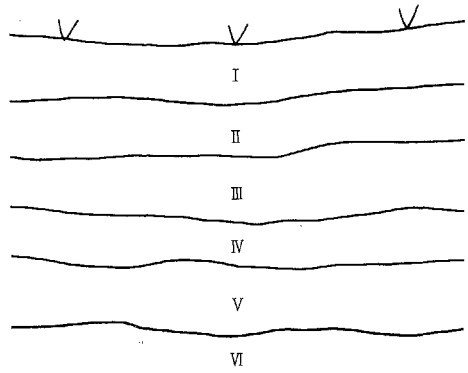


Fig. 4　A区標準土層

2　B区基本層序

Ⅰ 黒褐色粗砂層　（10YR3／2）○×　現耕作土
Ⅱ 黒褐色細砂層　（10YR3／2）○×　白色軽石・As-B含む
Ⅲ 黒褐色粗砂層　（10YR3／1）○×　As-B混土層
Ⅳ 黒褐色細砂層　（10YR3／2）○○　As-C・Hr-FP混じる
Ⅴ 黒色微砂層　（10YR2／1）○○　粘質土（地山）
Ⅵ 褐灰色微砂層　（10YR4／1）○○　粘質土（地山）

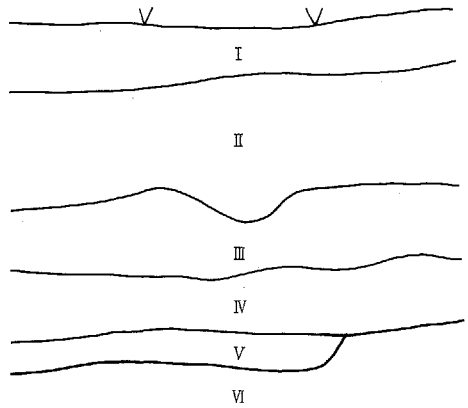


Fig. 5　B区標準土層

3　C区基本層序

Ⅰ 灰黄褐色粗砂層（10YR4／2）○×　現耕作土
Ⅱ にぶい黄褐色粗砂層（10YR5／3）△×　As-C・Hr-FP・As-Bわずかに含む
Ⅲ 黒褐色粗砂層　（10YR3／1）△×　As-C・Hr-FP・As-B含む
Ⅳ 黒色粗砂層　（10YR2／2）△×　As-C・Hr-FP含む
Ⅴ 黒褐色細砂層　（10YR3／1）△○　白く細かい軽石含む
Ⅵ 黒褐色細砂層　（10YR3／2）△○　As-C・Hr-FP含む
Ⅶ 黒褐色細砂層　（10YR2／2）×○　上部にAs-Cを含む
Ⅷ 褐灰色細砂層　（10YR4／1）×○　漸移層（地山）
Ⅸ 明黄褐色細砂層（10YR7／6）○△　ローム層（地山）

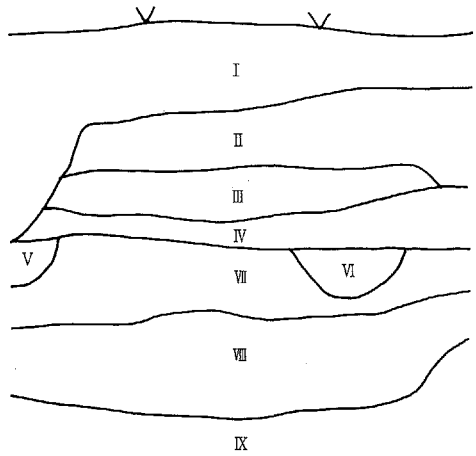


Fig. 6　C区標準土層

0　1：20　3 m

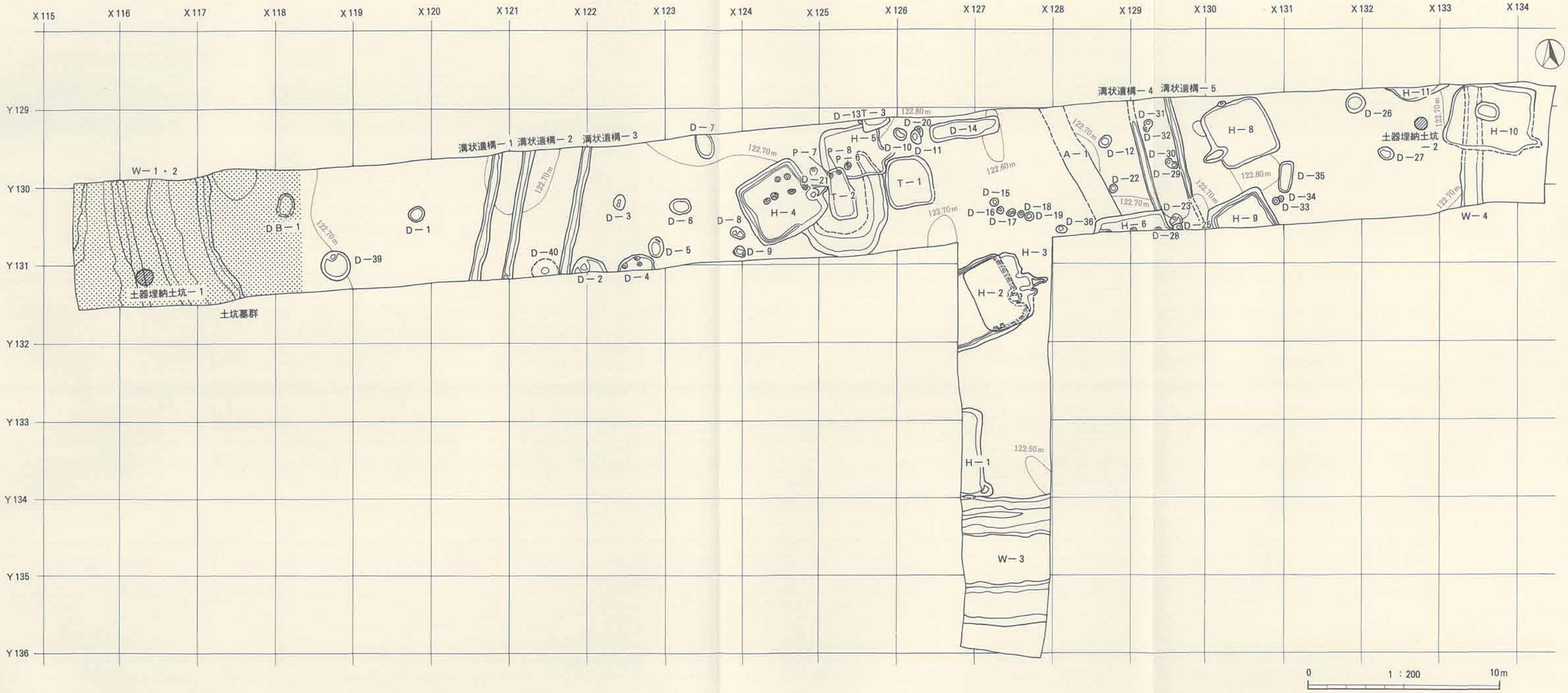

X 115
X 116
X 117
X 118
X 119
X 120
X 121
X 122
X 123
X 124
X 125
X 126
X 127
X 128
X 129
X 130
X 131
X 132
X 133
X 134
Y 129
Y 130
Y 131
Y 132
Y 133
Y 134
Y 135
Y 136
W－1・2
DB－1
土器埋納土坑－1
土坑墓群
D－39
D－1
溝状遺構－1
溝状遺構－2
溝状遺構－3
D－40
D－2
D－4
D－3
D－5
D－6
D－7
D－8
D－9
H－4
P－7
P－8
P－6
D－21
T－2
D－13
T－3
H－5
D－20
D－10
D－11
T－1
D－14
H－2
H－3
D－15
D－16
D－17
D－18
D－19
D－36
A－1
D－12
D－22
溝状遺構－4
溝状遺構－5
D－31
D－32
D－30
D－29
D－23
D－25
D－28
H－6
H－8
H－9
D－35
D－34
D－33
D－26
H－11
土器埋納土坑－2
D－27
H－10
W－4
H－1
W－3
122.70m
122.80m
122.60m
122.50m
0
1 : 200
10m

Fig. 7　A 区 全 体 図

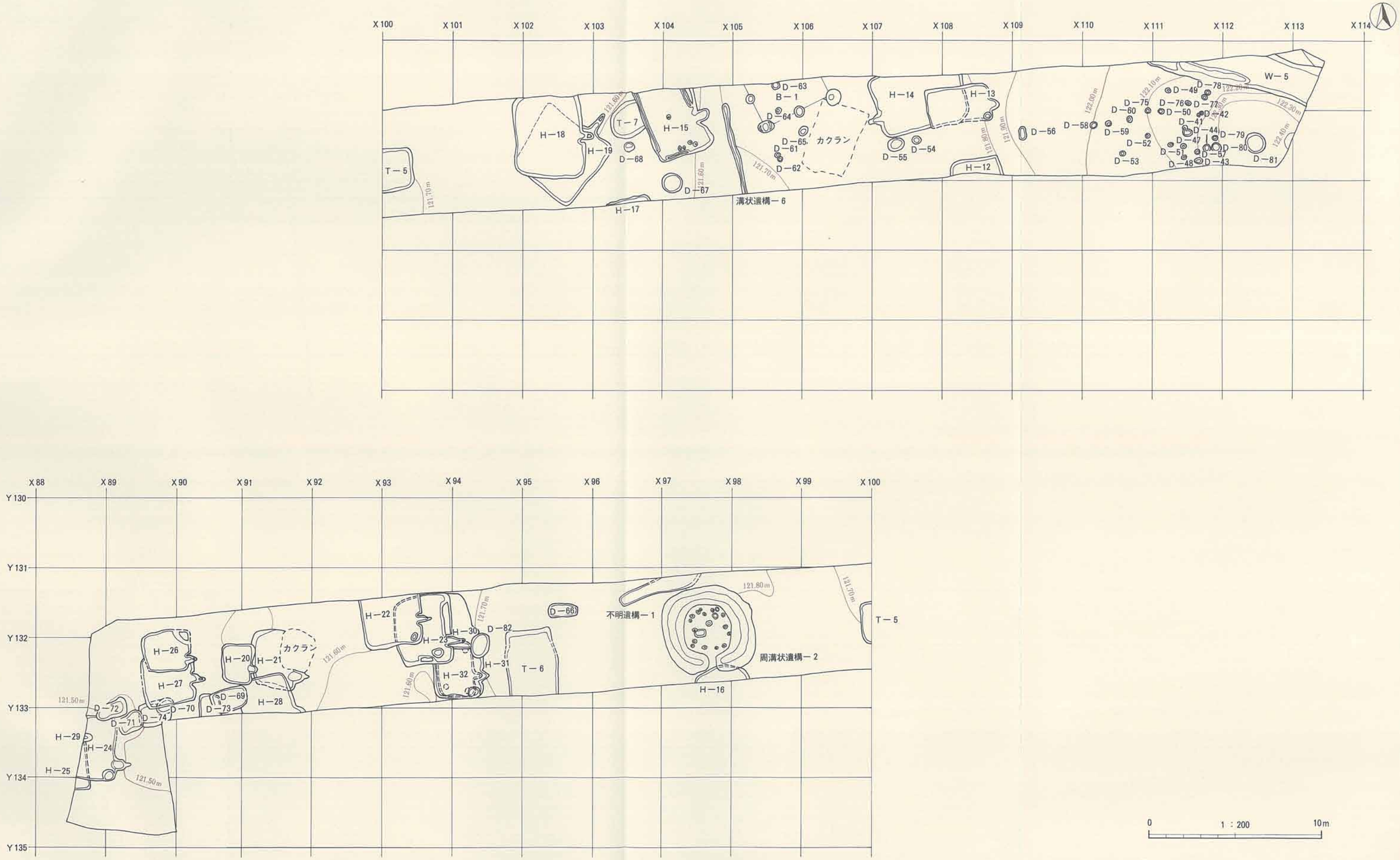

X 100
X 101
X 102
X 103
X 104
X 105
X 106
X 107
X 108
X 109
X 110
X 111
X 112
X 113
X 114
W－5
T－5
T－7
H－18
H－19
H－15
H－17
D－68
D－67
D－63
B－1
D－64
D－65
D－61
D－62
カクラン
溝状遺構－6
H－14
H－13
H－12
D－55
D－54
D－56
D－58
D－59
D－60
D－75
D－52
D－53
D－76
D－49
D－78
D－77
D－50
D－42
D－41
D－44
D－47
D－51
D－57
D－48
D－43
D－79
D－80
D－81
121.60m
121.70m
121.80m
122.00m
122.10m
122.20m
122.30m
122.40m
X 88
X 89
X 90
X 91
X 92
X 93
X 94
X 95
X 96
X 97
X 98
X 99
X 100
Y 130
Y 131
Y 132
Y 133
Y 134
Y 135
H－26
H－27
H－20
H－21
カクラン
H－28
H－22
H－23
H－30
D－82
H－31
H－32
T－6
D－66
不明遺構－1
周溝状遺構－2
H－16
T－5
D－72
D－71
D－74
D－70
D－69
D－73
H－29
H－24
H－25
121.50m
121.60m
121.70m
121.80m
0
1 : 200
10m

Fig. 8　B 区 全 体 図

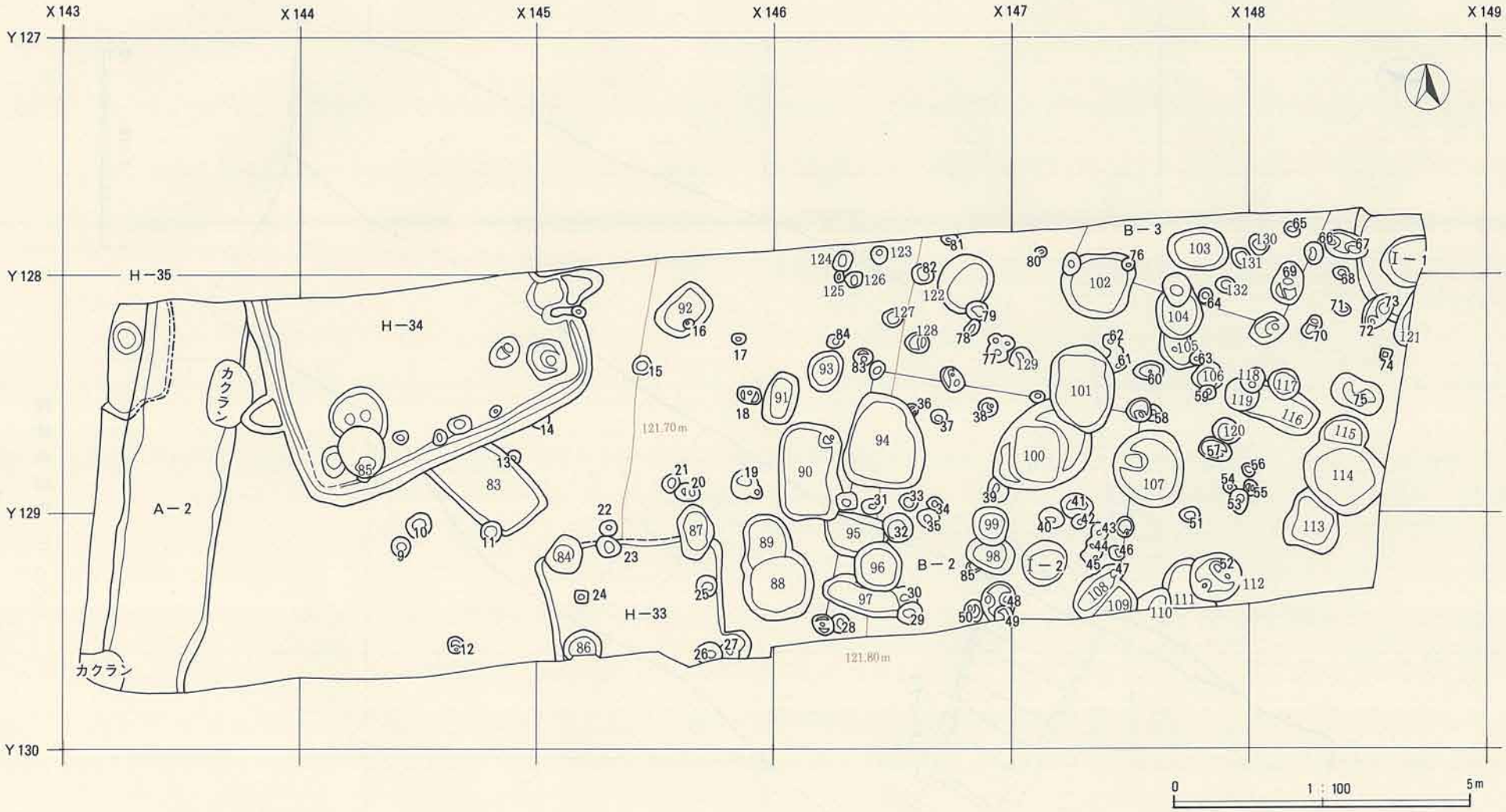


Fig. 9　C 区 全 体 図（土坑のD－とP－は省略。土坑は明朝体、柱穴はゴシック体で表す。）

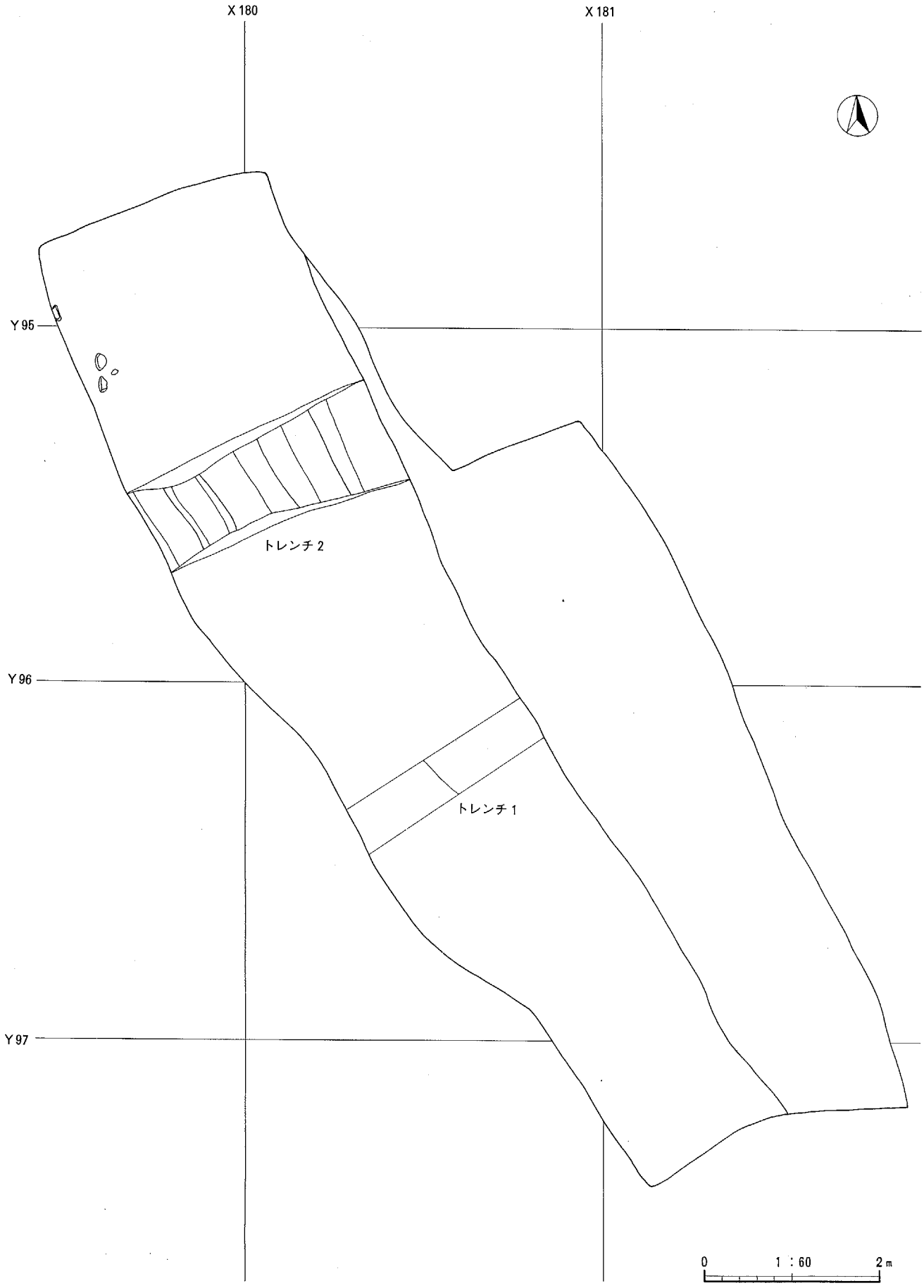


Fig. 10　D 区 全 体 図

V　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

（住居跡の出土遺物の項目については、遺構の重複からどの住居跡の遺物か特定できないものがあるため、所属する住居跡が特定でき本報告書で図示した遺物のみの記述とした。）

Ｈ－１号住居跡（Fig. 13、ＰＬ．１）

位置　Ｘ126・127、Ｙ132～134グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－87°－Ｅ）　**形状等**　（方形）。東西（1.38）ｍ、南北4.50ｍ、壁現高（4.75）㎝を測る。　**面積**　（4.75）㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。　**竈**　東壁南隅より検出され、主軸方向Ｎ－110°－Ｅであり、全長80㎝、最大幅73㎝、焚口部幅37㎝を測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　Ｗ－３と重複し、新旧関係は本遺構→Ｗ－３の順である。　**出土遺物**　図示した遺物なし。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀後半ぐらいと考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig. 13・14、ＰＬ．１・２）

位置　Ｘ126・127、Ｙ130～132グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－63°－Ｅ）　**形状等**　（方形）。東西（4.14）ｍ、南北4.03ｍ、壁現高60㎝を測る。　**面積**　（11.90）㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。周溝有。Ｐ$_6$（長軸×短軸×深さ、形状：21×18.5×22㎝、円形）とＰ$_7$（長軸×短軸×深さ、形状：21×18×28㎝、円形）の２基を検出した。Ｐ$_6$・Ｐ$_7$は南壁側中央に位置し、入口のはしごの柱を埋めた柱穴だと思われる。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向Ｎ－71°－Ｅであり、全長148㎝、最大幅107㎝、焚口部幅45㎝を測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－３と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－３の順である。　**出土遺物**　須恵器蓋１点、土師器坏７点、須恵器坏１点、須恵器摺鉢１点、土師器大甕２点を図示した。　**備考**　埋土の土層にあまり相違が見られず一度に埋められたと思われ、ロームのブロックが全体に含まれる。時期は埋土や出土遺物から７世紀終末から８世紀初頭と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig. 13・14、ＰＬ．２）

位置　Ｘ126・127、Ｙ130・131グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－67°－Ｅ］　**形状等**　［長方形］。東西（4.32）ｍ、南北5.23ｍ、壁現高60㎝を測る。　**面積**　［22.72］㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。　**竈**　東壁中央より検出され、主軸方向Ｎ－72°－Ｅであり、全長232㎝、最大幅149㎝、焚口部幅37㎝を測る。構築材として、灰白色粘土、川原石の両袖石を使用している。　**重複**　Ｈ－２と重複し、新旧関係はＨ－２→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器蓋１点、土師器坏６点、須恵器坏１点、土師器台付甕１点、長胴甕１点、石斧（流れ込み）１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉ぐらいと考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 15、ＰＬ．２）

位置　Ｘ123～125、Ｙ129・130グリッド　**主軸方向**　Ｎ－58°－Ｅ　**形状等**　正方形。東西4.10ｍ、南北3.77ｍ、壁現高49.5㎝を測る。　**面積**　［13.35］㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。周溝有。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向Ｎ－60°－Ｅであり、全長86㎝、最大幅64㎝、焚口部幅44㎝を測る。構築材として、灰白色粘土、凝灰岩截石の両袖石、天井石を使用している。　**重複**　１号周溝状遺構と重複し、新旧関係は本遺構→１号周溝状遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器蓋１点、土師器坏３点、須恵器高台椀１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig. 15、ＰＬ．２）

位置　X125、Y129グリッド　**主軸方向**　［N－80°－E］　**形状等**　［長方形］。東西［3.26］m、南北［2.78］m、壁現高44.5cmを測る。　**面積**　［7.39］㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に堅緻な貼床面。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N－88°－Eであり、全長79cm、最大幅65cm、焚口部幅43cmを測る。構築材として、灰白色粘土、凝灰岩截石を使用している。　**重複**　１号周溝状遺構、Ｔ－２と重複し、新旧関係は本遺構→１号周溝状遺構・Ｔ－２の順である。　**出土遺物**　土師器坏１点、須恵器高台椀１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－6号住居跡（Fig. 16、ＰＬ．２）

位置　X128・129、Y130グリッド　**主軸方向**　（N－83°－E）　**形状等**　（長方形）。東西3.81m、南北（1.06）m、壁現高58cmを測る。　**面積**　（3.24）㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。P_6（長軸×短軸×深さ、形状：34×（27）×30cm、円形）の１基を検出した。　**竈**　（東壁）より検出され、主軸方向（N－83°－E）である。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　D－28と重複し、新旧関係は本遺構→D－28の順である。　**出土遺物**　須恵器蓋１点、土師器坏３点、土師器鉢１点を図示した。**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀前半と考えられる。

H－7号住居跡　　**欠番**

H－8号住居跡（Fig. 16、ＰＬ．３）

位置　X129・130、Y128・129グリッド　**主軸方向**　N－115°－W　**形状等**　正方形。東西3.35m、南北3.38m、壁現高79cmを測る。　**面積**　10.32㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。　**竈**　西壁南寄りより検出され、主軸方向N－83°－Eである。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　D－24と重複し、新旧関係は本遺構→D－24の順である。　**出土遺物**　土師器坏１点、石鏃（流れ込み）１点を図示した。　**備考**　埋土の土層にあまり相違が見られず一度に埋められたと思われ、土層は礫及びロームのブロックが全体に含まれる。遺物はわずかに出土するにとどまり、竈についても焼けた痕跡が少ない。時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉から後半と考えられる。

H－9号住居跡（Fig. 17、ＰＬ．３）

位置　X130、Y130グリッド　**主軸方向**　（N－65°－E）　**形状等**　（方形）。東西3.40m、南北（2.28）m、壁現高78cmを測る。　**面積**　（4.97）㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。周溝有。　**出土遺物**　土師器坏１点を図示した。　**備考**　H－８と同様、土層にあまり相違が見られず一度に埋められたと思われ、礫及びロームのブロックが全体に含まれる。遺物はわずかに出土するにとどまった。時期は埋土や出土遺物から８世紀中葉から後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig. 17、ＰＬ．３）

位置　X133・134、Y128・129グリッド　**主軸方向**　［N－99°－E］　**形状等**　［長方形］。東西［4.46］m、南北［3.59］m、壁現高41.5cmを測る。　**面積**　［14.25］㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。P_6（長軸×短軸×深さ、形状：114×84×10cm、楕円形）の１基を中央部から検出した。P_6の埋土に焼土の固まりや灰が混じっていることから、掘りくぼめて火を焚いていた可能性有。　**竈**　攪乱されていたため推定であるが、［東壁南寄り］より検出され、主軸方向［N－83°－E］であると思われる。構築材として、灰白色粘土、凝灰岩截石を

両袖石と天井石に使用していたと思われる。 **重複** W－4と重複し、新旧関係は本遺構→W－4の順である。 **出土遺物** 灰釉陶器高台皿1点、須恵器高台椀2点、須恵器羽釜4点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－11号住居跡（Fig. 17、PL. 3）

位置 X132・133、Y128グリッド **主軸方向** （N－66°－E） **形状等** （方形）。東西（2.76）m、南北（1.13）m、壁現高44cmを測る。 **面積** （1.13）㎡ **床面** ほぼ平坦で堅緻な貼床面。 **竈** （西壁南寄り）より検出され、主軸方向（N－74°－W）である。構築材として、灰白色粘土を使用している。 **出土遺物** 土師器坏2点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－12号住居跡（Fig. 18、PL. 3）

位置 X108、Y131グリッド **主軸方向** （N－82°－E） **形状等** （方形）。東西2.93m、南北（1.06）m、壁現高42cmを測る。 **面積** （2.42）㎡ **床面** ほぼ平坦で堅緻な貼床面。 **出土遺物** 土師器坏2点、須恵器大甕1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－13号住居跡（Fig. 18、PL. 3）

位置 X107・108、Y130・131グリッド **主軸方向** ［N－83°－E］ **形状等** ［長方形］。東西3.85m、南北［2.22］m、壁現高30cmを測る。 **面積** （7.77）㎡ **床面** 貼床面確認できず。P_6（長軸×短軸×深さ、形状：（80）×70×（60.5）cm、楕円形、貯蔵穴）の1基を検出した。 **竈** 東壁中央南寄りより検出され、主軸方向N－91°－Eであり、全長67cm、最大幅70cm、焚口部幅48cmを測る。 **重複** H－14と重複し、新旧関係はH－14→本遺構の順である。 **出土遺物** 土師器坏1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－14号住居跡（Fig. 18、PL. 4）

位置 X106～108、Y130・131グリッド **主軸方向** （N－104°－E） **形状等** （長方形）。東西5.42m、南北（3.62）m、壁現高41cmを測る。 **面積** （15.73）㎡ **床面** ほぼ平坦な貼床面。貼り床は確認できたが湿った地形のせいかはっきりした張りは確認できず。 **竈** 西壁南寄りより検出され、主軸方向N－111°－Wであり、全長93cm、最大幅76cm、焚口部幅24cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 **重複** H－13と重複し、新旧関係は本遺構→H－13の順である。 **出土遺物** 須恵器蓋1点、土師器坏4点、土師器甕3点、土師器長胴甕2点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－15号住居跡（Fig. 19、PL. 4）

位置 X103・104、Y130・131グリッド **主軸方向** （N－67°－E） **形状等** （長方形）。東西3.50m、南北（4.62）m、壁現高48cmを測る。 **面積** （12.90）㎡ **床面** ほぼ平坦で堅緻な貼床面。周溝有。P_6（長軸×短軸×深さ、形状：29×22×10.5cm、楕円形）、P_7（長軸×短軸×深さ、形状：19×16×13.5cm、円形）、P_8（長軸×短軸×深さ、形状：28×27×8.5cm、円形）、P_9（長軸×短軸×深さ、形状：31×28×17cm、円形）の4基を検出した。P_6とP_7は南壁側中央に位置し、入口のはしごを埋めた柱穴だと思われる。 **竈** （東壁）より検出され、主軸方向N－64°－Eであり、全長96cm、最大幅111cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、灰白色粘土、凝灰岩截石の両袖石を使用している。 **重複** T－7と重複し、新旧関係はT－7→本遺構の順である。 **出土遺物** 土師器坏3点、須恵器高台椀1点を図示した。 **備考** 周溝と住居跡の壁が一致しない箇所

があり、作り替えている可能性有。時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

Ｈ－16号住居跡（Fig. 19、ＰＬ．４）

位置　Ｘ97・98、Ｙ132グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－85°－Ｅ）　**形状等**　（不整形）。東西（3.21）ｍ、南北（9.90）ｍ、壁現高20cmを測る。　**面積**　（2.22）㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**重複**　２号周溝状遺構と重複し、新旧関係は本遺構→２号周溝状遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器坏１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－17号住居跡（Fig. 19、ＰＬ．４）

位置　Ｘ103・104、Ｙ132グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－78°－Ｅ）　**形状等**　（方形）。東西（2.72）ｍ、南北（0.47）ｍ、壁現高35cmを測る。　**面積**　（0.73）㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼床面。　**出土遺物**　須恵器高台椀１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。

Ｈ－18号住居跡（Fig. 20、ＰＬ．４・５）

位置　Ｘ101～103、Ｙ130・131グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－84°－Ｅ）　**形状等**　（方形）。東西4.15ｍ、南北（4.09）ｍ、壁現高48.5cmを測る。　**面積**　（18.03）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に堅緻な貼床面。　**竈**（東壁中央）より検出され、主軸方向Ｎ－99°－Ｅであり、全長89cm、最大幅47cm、焚口部幅32cmを測る。構築材として、灰白色粘土、瓦を使用している。　**重複**　Ｈ－19と重複し、新旧関係はＨ－19→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器水注１点、須恵器蓋１点、須恵器坏１点、須恵器高台椀１点、須恵器鉢１点、須恵器羽釜２点、瓦１点、刀子１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－19号住居跡（Fig. 20、ＰＬ．５）

位置　Ｘ101・102、Ｙ131・132グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－36°－Ｅ］　**形状等**　［正方形］。東西（4.77）ｍ、南北4.47ｍ、壁現高48cmを測る。　**面積**　［19.60］㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　北壁中央東寄りより検出され、主軸方向Ｎ－41°－Ｅであり、全長131cm、最大幅52cm、焚口部幅12cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－18と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－18の順である。　**出土遺物**　須恵器蓋２点、土師器坏２点、須恵器坏１点、須恵器高台椀２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－20号住居跡（Fig. 21、ＰＬ．５）

位置　Ｘ90・91、Ｙ132グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－92°－Ｅ］　**形状等**　［長方形］。東西［1.90］ｍ、南北［2.35］ｍ、壁現高29cmを測る。　**面積**　［3.94］㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向［Ｎ－106°－Ｅ］であり、全長［42］cm、最大幅［47］cm、焚口部幅29cmを測る。構築材として、瓦と石を袖、支脚石に使用している。　**重複**　Ｈ－21・28と重複し、新旧関係はＨ－21→Ｈ－28→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器坏１点、須恵器高台椀１点、須恵器鉢１点、須恵器羽釜１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Fig. 21、ＰＬ．５）

位置　Ｘ91、Ｙ131・132グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－102°－Ｅ］　**形状等**　［長方形］。東西［2.95］ｍ、南北（3.39）ｍ、壁現高48.5cmを測る。　**面積**　（6.47）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に堅緻な貼床面。　**竈**　東

壁南寄りより検出され、主軸方向N－94°－Eであり、全長92cm、最大幅69cm、焚口部幅43cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。 **重複** H－20・28と重複し、新旧関係は本遺構→H－28→H－20の順である。 **出土遺物** 須恵器坏1点、須恵器高台椀1点、須恵器羽釜2点、瓦3点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－22号住居跡（Fig. 22、PL. 5・6）

位置 X92・93、Y131・132グリッド **主軸方向** （N－81°－E） **形状等** （方形）。東西3.57m、南北（3.06）m、壁現高32cmを測る。 **面積** （9.70）m² **床面** ほぼ平坦で、部分的に堅緻な貼床面。P5（長軸×短軸×深さ、形状：44×30×10.5cm、楕円形、貯蔵穴）の1基を検出した。 **竈** （東壁南寄り）より検出され、主軸方向N－88°－Eであり、全長132cm、最大幅88cm、焚口部幅25cmを測る。構築材として、灰白色粘土、川原石の両袖石を使用している。 **重複** H－23と重複し、新旧関係はH－23→本遺構の順である。 **出土遺物** 土師器坏1点、須恵器高台椀1点、須恵器壺1点、須恵器羽釜2点、瓦1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀末から11世紀初頭と考えられる。

H－23号住居跡（Fig. 22、PL. 6・7）

位置 X93・94、Y131・132グリッド **主軸方向** （N－86°－E） **形状等** （長方形）。東西3.40m、南北（4.05）m、壁現高40cmを測る。 **面積** ［12.30］m² 床面 ほぼ平坦な貼床面。竈左脇に地山を利用した物を置くのに使ったと思われる台があり、南壁にも地山を利用した出入口に使ったと思われる台が有。P5（長軸×短軸×深さ、形状：68×57×25.5、楕円形、貯蔵穴）の1基を検出した。 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向N－87°－Eであり、全長132cm、最大幅78cm、焚口部幅43cmを測る。構築材として、灰白色粘土、両袖石、支脚石を使用している。 **重複** H－22・30・31・32と重複し、新旧関係はH－30→本遺構→H－22、H－32→H－31→本遺構の順である。 **出土遺物** 須恵器坏2点、須恵器高台椀1点、須恵器壺1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－24号住居跡（Fig. 23、PL. 6）

位置 X88・89、Y133・134グリッド **主軸方向** （N－91°－E） **形状等** （方形）。東西（2.25）m、南北3.74m、壁現高48cmを測る。 **面積** （6.72）m² **床面** ほぼ平坦な貼床面。P5（長軸×短軸×深さ、形状：75×54×16.5）cm、楕円形、貯蔵穴）1基を検出した。 **竈** 東壁南寄りより検出され、主軸方向N－92°－Eであり、全長97cm、最大幅58cm、焚口部幅42cmを測る。 **重複** H－25・29、D－79と重複し、新旧関係はH－25→本遺構→H－29の順である。 **出土遺物** 灰釉陶器小瓶1点、須恵器坏1点、須恵器高台椀1点、灰釉陶器高台椀1点、灰釉陶器壺1点、須恵器羽釜1点、瓦2点、臼玉1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－25号住居跡（Fig. 23、PL. 6）

位置 X88、Y133・134グリッド **主軸方向** （N－7°－W） **形状等** （方形）。東西（0.98）m、南北（3.11）m、壁現高45.5cmを測る。 **面積** （1.48）m² **床面** ほぼ平坦な貼床面。 **重複** H－24・29と重複し、新旧関係は本遺構→H－24→H－29の順である。 **出土遺物** 須恵器坏2点、須恵器羽釜1点、須恵器大甕1点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－26号住居跡（Fig. 24、ＰＬ．６）

位置　Ｘ89・90、Ｙ131・132グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－88°－Ｅ］　**形状等**　［正方形］。東西［2.84］ｍ、南北［2.49］ｍ、壁現高34cmを測る。　**面積**　［6.04］㎡　**床面**　ほぼ平坦な貼床面。　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向［Ｎ－88°－Ｅ］であり、全長73cm、最大幅［70］cm、焚口部幅［18］cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－27と重複し、新旧関係はＨ－27→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器高台椀１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－27号住居跡（Fig. 24、ＰＬ．６）

位置　Ｘ89・90、Ｙ132・133グリッド　**主軸方向**　［Ｎ－86°－Ｅ］　**形状等**　［正方形］。東西3.10ｍ、南北［3.06］ｍ、壁現高35cmを測る。　**面積**　（5.99）㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　［東壁南寄り］より検出され、主軸方向Ｎ－84°－Ｅであり、全長95cm、最大幅87cm、焚口部幅37cmを測る。構築材として、灰白色粘土、瓦を袖に使用している。　**重複**　Ｈ－26と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－26の順である。　**出土遺物**　灰釉陶器高台皿１点、須恵器高台椀２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－28号住居跡（Fig. 21、ＰＬ．７）

位置　Ｘ90・91、Ｙ132・133グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－75°－Ｅ）　**形状等**　（方形）。東西3.16ｍ、南北［2.50］ｍ、壁現高41.5cmを測る。　**面積**　（6.20）㎡　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　（東壁）より検出され、主軸方向（Ｎ－92°－Ｅ）を測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　Ｈ－20・21と重複し、新旧関係はＨ－21→本遺構→Ｈ－20の順である。　**出土遺物**　須恵器高台椀１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－29号住居跡（Fig. 23、ＰＬ．７）

位置　Ｘ88、Ｙ133グリッド　**面積**（0.18）㎡　**竈**　（東壁）より検出され、主軸方向（Ｎ－99°－Ｅ）であり、全長（56）cmを測る。　**重複**　Ｈ－24・25と重複し、新旧関係はＨ－25→Ｈ－24→本遺構の順である。　**出土遺物**　図示した遺物なし。　**備考**　竈だけの検出。時期は重複関係から10世紀後半以降と考えられる。

Ｈ－30号住居跡（Fig. 25、ＰＬ．７）

位置　Ｘ93・94、Ｙ131・132グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－81°－Ｅ）　**形状等**　（方形）。東西（1.26）ｍ、南北3.37ｍ、壁現高10cmを測る。　**面積**　（3.44）㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。　**竈**　（東壁南寄り）より検出され、主軸方向（Ｎ－83°－Ｅ）であり、全長59cm、焚口部幅（46）cmを測る。　**重複**　Ｈ－23・31・32と重複し、新旧関係はＨ－32→Ｈ－31→本遺構→Ｈ－23の順である。　**出土遺物**　須恵器高台椀１点、須恵器甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－31号住居跡（Fig. 25、ＰＬ．７）

位置　Ｘ93・94、Ｙ132グリッド　**主軸方向**　（Ｎ－93°－Ｅ）　**形状等**　（正方形）。東西2.98ｍ、南北（3.04）ｍ、壁現高32cmを測る。　**面積**　［7.91］㎡　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。Ｐ５（長軸×短軸×深さ、形状：69×67×13cm、円形、貯蔵穴）の１基を検出した。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向Ｎ－95°－Ｅであり、全長58cm、最大幅91cm、焚口部幅43cmを測る。構築材として、灰白色粘土、両袖石を使用している。　**重複**　Ｈ－23・32と重複し、新旧関係はＨ－32→本遺構→Ｈ－23の順である。　**出土遺物**　須恵器高台椀３点、土師器台付甕１点、土師器甕２点、瓦２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀前半と考えら

れる。

H－32号住居跡（Fig. 25、ＰＬ．８）

位置　X93・94、Y132グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　長方形。東西2.17m、南北3.54m、壁現高11.5cmを測る。　**面積**　6.54m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向N－100°－Eであり、全長56cm、最大幅32cm、焚口部幅18cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　H－23・30・31・32と重複し、新旧関係は本遺構→H－31→H－30→H－23の順である。　**出土遺物**　図示した遺物なし。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

H－33号住居跡（Fig. 26、ＰＬ．８）

位置　X144・145、Y129グリッド　**主軸方向**　（N－84°－E）　**形状等**　（方形）。東西3.22m、南北（2.20）m、壁現高15cmを測る。　**面積**　（15.85）m²　**床面**　ほぼ平坦な貼床面。　**竈**　（東壁）より検出され、主軸方向（N－88°－E）であり、全長42cmを測る。構築材として、灰白色粘土、瓦の支脚を使用している。　**重複**　D－84・86・87、P－23～27と重複し、新旧関係は本遺構→D－84・86・87、P－23～27の順である。　**出土遺物**　瓦３点、帯金具１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀後半と推測する。

H－34号住居跡（Fig. 26・27、ＰＬ．８）

位置　X143～145、Y128グリッド　**主軸方向**　（N－71°－E）　**形状等**　（方形）。東西5.48m、南北（3.84）m、壁現高40.5cmを測る。　**面積**　（16.24）m²　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。周溝有。P_2（長軸×短軸×深さ、形状：104×88×60.5cm、円形）、P_2'（長軸×短軸×深さ、形状：104×88×60.5cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：58×48×65cm、円形）、P_3'（長軸×短軸×深さ、形状：58×48×56cm、円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：79×77×40cm、正方形、貯蔵穴）、P_6（長軸×短軸×深さ、形状：48×47×26.5cm、円形）、P_7（長軸×短軸×深さ、形状：22×20×11.5cm、円形）、P_8（長軸×短軸×深さ、形状：26×22×13cm、円形）、P_9（長軸×短軸×深さ、形状：25×22×18.5cm、円形）、P_{10}（長軸×短軸×深さ、形状：38×29×23.5cm、楕円形）、P_{11}（長軸×短軸×深さ、形状：22×17×5.5cm、円形）の11基を検出した。竈の位置からP_2とP_3は東竈の新住居跡に伴う主柱穴、P_2'とP_3'は西竈の旧住居跡に伴う主柱穴と考える。また、P_9・P_{11}は南壁側中央に位置し、入口のはしごの柱を埋めた柱穴だと思われる。　**新竈**　（東壁）より検出され、主軸方向N－72°－Eであり、全長115cm、最大幅（96）cm、焚口部幅40cmを測る。構築材として、灰白色粘土、両袖に長胴甕を使用している。　**旧竈**　（西壁）より検出され、主軸方向（N－108°－W）であり、全長（73）cm、最大幅（66）cm、焚口部幅（50）cmを測る。　**重複**　P－14、D－83と重複し、新旧関係はP－14、D－83→本遺構の順である。　**出土遺物**　土師器坏４点、須恵器坏１点、土師器長胴甕２点、環状鉄製品１点、フック状鉄製品１点を図示した。　**備考**　東竈の前には周溝が巡っていないことと西壁の周溝の埋土に西竈を構築していたと思われる粘土を含む土が崩れてが混入していることから、周溝は東竈の新住居跡に伴うものと考える。時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

H－35号住居跡（Fig. 26）

位置　X143、Y128グリッド　**主軸方向**　（N－5°－E）　**形状等**　（方形）。東西（1.03）m、南北（2.09）m、壁現高20.5cmを測る。　**面積**　（1.86）m²　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な貼床面。P_3（長軸×短軸×深さ、形状：55×51×40cm、円形）の主柱穴１基を検出した。　**重複**　A－２と重複し、新旧関係は本遺構→A－２の順である。　**出土遺物**　土師器坏１点、土師器長胴甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から７世紀

中葉と考えられる。

2　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は３棟検出されているがどれも部分的な検出であり、可能性あるものとしておきたい。

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig. 28、ＰＬ．９）

位置　X105・106、Y130・131グリッド　**主軸方向**　（N－65°－E）　**形状等**　（方形）。東西は２間：4.26mであり、南北は（２間：2.70m）部分的な検出である。　**面積**　(8.29) ㎡　柱穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：58×48×42㎝、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：100×71×43㎝、楕円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：66×65×46㎝、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：92×86×72㎝、円形）の４基を検出した。柱間寸法は東西：P_1－P_2で1.88m、P_2－P_3で2.20mであり、南北：P_3－P_4で2.06mである。　**備考**　時期はH－15と主軸方向が近いことや埋土から、８世紀頃と推測する。

Ｂ－２号掘立柱建物跡（Fig. 28）

位置　X146・147、Y128・129グリッド　**主軸方向**　（N－100°－E）　**形状等**　（方形）。東西は３間：4.50mであり、南北は部分的な検出（３間：4.70m）である。　**面積**　(18.21) ㎡　**柱穴**　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：36×26×47㎝、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：30×26×48.5㎝、不整形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：33×32×23㎝、円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：36×36×43㎝、円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：42×40×46㎝、円形）、P_6（長軸×短軸×深さ、形状：28×23×34㎝、円形）、P_7（長軸×短軸×深さ、形状：50×33×42.5㎝、楕円形）の７基を検出した。柱間寸法は東西：P_5－P_6で1.80m、P_6－P_7で1.44m、P_7－P_1で1.44mであり、南北：P_1－P_2で1.88m、P_2－P_3で2.20m、P_4－P_5で2.00mである。　**備考**　時期は主軸方向がどの住居跡とも合わないことや柱穴は一直線に並ぶが柱間寸法に規則性がないことから、中世以降の新しい建物跡と推測する。

Ｂ－３号掘立柱建物跡（Fig. 28、ＰＬ．９）

位置　X147・148、Y127・128グリッド　**主軸方向**　（N－107°－E）　**形状等**　（方形）。東西、南北ともに部分的な検出である。東西は（２間：2.20m）であり、南北は（３間：5.20m）である。　**面積**　(5.70) ㎡　柱穴　P_1（長軸×短軸×深さ、形状：36×28×50㎝、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：51×44×50.5㎝、楕円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：69×48×46.5㎝、楕円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：40×34×47㎝、楕円形）の４基を検出した。柱間寸法は東西：P_1－P_2で1.82m、P_2－P_3で1.80mであり、南北：P_3－P_4で1.95mである。　**備考**　時期は主軸方向がどの住居跡と合わないことや柱穴は一直線に並ぶが柱間寸法に規則性がないことから、中世以降の新しい建物と推測する。

3　竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig. 29）

位置　X126・127、Y130・131グリッド　**主軸方向**　N－6°－W　**形状等**　正方形。長軸2.55m、2.42m、壁現高41㎝を測る。　**面積**　[5.67] ㎡　**出土遺物**　なし。　備考　時期は不明。

T－2号竪穴状遺構（Fig. 29、PL. 9）

位置　X125、Y129・130グリッド　**主軸方向**　N－12°－W　**形状等**　[長方形]。長軸2.68m、短軸1.20m、壁現高62cmを測る。　**面積**　[2.91] m²　**重複**　H－5と重複し、新旧関係はH－5→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数55点、土師器片1点、須恵器片37点、瓦片1点、鉄製品15点が検出された。そのうち須恵器坏1点、須恵器高台椀7点、飾り金具1点、釘2点を図示した。　**備考**　本遺構を巡るように1号周溝状遺構があり、出土遺物から同時期の遺構であることが判明した。そして、D－21、P－6・7・8が上屋があった場合の柱穴になる可能性がでてきた。いくつかの遺構が重複していることから、それらに対応する南側の柱穴らしき遺構は検出できなかったが、存在した可能性はある。また、本遺構からは、底部に穿孔のある高台椀1点、内面が黒色処理された高台椀5点、足高高台椀1点、坏1点、釘や飾り金具を含む鉄製品が15点検出されており、何かしらの意図ある遺構が存在したと思われる。はっきりと確認できなかったが、北側に渡りが付くものと思われる。時期は埋土や出土遺物から11世紀中葉と考える。

T－3号竪穴状遺構（Fig. 29）

位置　X125、Y129グリッド　**主軸方向**　N－18°－W　**形状等**　(方形)。長軸（1.40）m、短軸（0.59）m、壁現高38cmを測る。　**面積**　(0.72) m²　**重複**　H－5と重複し、新旧関係はH－5→本遺構の順である。　**出土遺物**　なし。　**備考**　床が張っておりわずかな部分の検出だったので断定はできないが、住居跡である可能性が大きい。時期は重複関係から、9世紀代以降と推測する。

T－4号竪穴状遺構　　欠番

T－5号竪穴状遺構（Fig. 30）

位置　X99・100、Y131・132グリッド　**主軸方向**　N－8°－W　**形状等**　正方形。東西2.49m、南北2.39m、壁現高44.5cmを測る。　**面積**　5.46m²　**出土遺物**　総数28点、土師器片12点、須恵器片15点が検出された。
備考　時期は不明。

T－6号竪穴状遺構（Fig. 30）

位置　X94・95、Y131・132グリッド　**主軸方向**　N－4°－W　**形状等**　(長方形)。長軸（3.71）m、南北（3.07）m、壁現高45cmを測る。　**面積**　(10.61) m²　**出土遺物**　総数55点、土師器片33点、須恵器片20点、縄文土器片1点、瓦1点が検出された。　**備考**　時期は不明。

T－7号竪穴状遺構（Fig. 30）

位置　X103、Y130・131グリッド　**主軸方向**　N－66°－E　**形状等**　(楕円形)。東西（1.93）m、南北1.82m、壁現高41.5cmを測る。　**面積**　(2.76) m²　**重複**　H－15と重複しており、新旧関係は本遺構→H－15の順である。　**出土遺物**　総数10点、土師器片7点、須恵器片3点が検出された。　**備考**　時期は重複関係から10世紀後半以前と推測する。

4　溝跡・溝状遺構

W－1号溝跡（Fig. 31、PL. 10）

位置　X116・117、Y129～131グリッド　**主軸方向**　(N－117°－E)　**形状等**　(逆台形)。長さ（6.74）m、

深さ113cm、上幅（460）～（390）cm、下幅298～230cmを測る。　**出土遺物**　当初、W－1とW－2の重複関係が分からずにを同時に掘り下げてしまったので、W－1とW－2合わせた出土遺物になる。総数6点、須恵器片11点、土師器片41点、瓦片10点が検出された。　**備考**　通路を伴う溝跡である。最下面の通路面には小石が敷き詰められており、それに混じって瓦片が検出された。北壁セクションではW－2と切り合いW－2より古いものと考えた。しかし、両溝跡を埋める埋土（最下層にAs-B軽石を多く含む川砂）に大きな違いがみられず、南壁セクションを見ると二股に分かれるような形で同時期に使われていたようにも考えられる。川砂とのろの層が何層も重なり合い、短期間に埋没したというよりは何回かに分かれて埋没したと考えられる。北壁セクションが土坑墓群と重なったため解明をより困難なものとした。時期は土坑墓構築時期（古銭と1号土器埋納土坑の土器から：15世紀頃）以前に埋没したとみられる。

W－2号溝跡（Fig. 31、PL. 10）

位置　X115・116、Y129～131グリッド　**主軸方向**　（N－178°－E）　**形状等**　（逆台形）。長さ（6.55）m、深さ153cm、上幅（460）～（420）cm、下幅238～83cmを測る。　**出土遺物**　当初、W－1とW－2の重複関係が分からずにを同時に掘り下げてしまったので、W－1とW－2合わせた出土遺物になる。総数6点、須恵器片11点、土師器41点、瓦片10点が検出された。そのうち須恵器摺鉢1点を図示した。　**備考**　W－2と重複しており、北壁セクションではW－1より新しい溝跡と考えた。しかし、両溝跡の埋土（最下層にAs-B軽石を多く含む川砂）に大きな違いがみられず、南壁セクションを見ると二股に分かれるような形で同時期に使われていたようにも考えられる。川砂とのろの層が何層も重なり合い、短期間に埋没したというよりは何回かに分けて埋没したと考えられる。北壁セクションが土坑墓群と重なったため解明をより困難なものとした。また、本遺構は彎曲しておりW－3につながる可能性がある。時期は土坑墓構築時期（古銭と1号土器埋納土坑の土器から：15世紀頃）以前に埋没したとみられる。

W－3号溝跡（Fig. 32、PL. 10）

位置　X126～128、Y133～135グリッド　**主軸方向**　（N－89°－E）　**形状等**　両脇に側溝を持つ逆台形。長さ（4.42）m、深さ121cm、上幅664～661cm、下幅353～331cmを測る。　**重複**　H－1と重複し、新旧関係はH－1→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数4点、土師器片1点、須恵器片2点、瓦片1点が検出された。

備考　通路を伴う溝跡である。As-B軽石純層を切る形で構築されている。As-B軽石純度の高いAs-B軽石混土で埋没している。埋没していく過程の中で何度も通路として使用されていたことが分かる。また、W－2が彎曲しており本遺構につながる可能性がある。時期はAs-B軽石純層を掘り込んで構築されており、最下部層が純度の高いAs-B軽石混土が硬化している面となっており、埋土の上部層、中間層、最下部層ともにAs-B軽石が多く混じる層であり違いが見られないことからことから、As-B軽石軽石降下後構築され、構築後短い間で埋没してしまったと考えられる。

W－4号溝跡（Fig. 33）

位置　X133、Y128～130グリッド　**主軸方向**　（N－179°－E）　**形状等**　逆台形。長さ（6.34）m、深さ22～19cm、上幅115～［90］cm、下幅74～［30］cmを測る。　**重複**　H－10と重複し、新旧関係はH－10→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数58点、須恵器片2点、土師器片55点、瓦片1点が検出された。　**備考**　通路を伴う溝跡である。最下部の硬化面が純度の高いAs-B軽石混土である。よって、時期はAs-B軽石降下以前に構築され、As-B軽石降下後間もなく埋没したと考える。

W－5号溝跡（Fig. 33）

位置　X110～113、Y130グリッド　**主軸方向**　（N－110°－E）　**形状等**　逆台形。長さ（240）m、深さ39.5cm、上幅240～200cm、下幅177～146cmを測る。　**出土遺物**　総数11点、須恵器片6点、土師器片11点、灰釉陶器片1点、古銭1点が検出された。そのうち古銭1点を図示した。　**備考**　通路を伴う溝跡である。川砂とのろの層が何層も重なり合い、一度に埋没したというよりは何回かに分かれて埋没したと考えられる。時期はAs-B軽石混土で埋まっていることから、As-B軽石降下以降に埋没したと考えられる。

W－6号溝跡（Fig. 34、PL. 10）

位置　X179～181、Y94～97グリッド　**主軸方向**　N－29°－W　**形状等**　（逆台形）。長さ（12.1）m、深さ139cm、上幅（295）～（164）cm、下幅（125）cmを測る。　**出土遺物**　総数15点、中世陶器片14点、青磁片1点が検出された。　**備考**　通路を伴う溝跡である。北北西へ向かい牛池川に流れ込む東西方向の溝跡と考えられる。調査面積が狭く上幅の確認と2カ所のトレンチ調査となった。東側の上場は確認できたが西側は調査区外にあることが分かった。トレンチ1のセクションを見てみると、溝跡の構築面となっている地山の灰白色土のブロックが下層に多量に埋まっており、構築した後すぐに掘り上げた灰白色土が流れ込んだ様子が分かる。その後、下層に2枚、上層に4枚の硬化面が見られ通路としても使用されながら、最終的に埋没していったと考えられる。溝跡の東側堀り方は40°の角度を持ちほぼ直線的であるが、構築していく段階で上り下りしやすくしたのか、階段となりそうな歩幅にちょうどよい幅の段が2段検出された。また、つい最近まで、この地は化粧薬師が備えられ、お祭りが行われたり、広場は現在の斎場のような役目を果たし、人が亡くなった時に村の人がそこに集まり、儀式を行ったそうである。時期は埋土や出土遺物、古絵図等から蒼海城の各郭を画していた堀跡であると考える。

1号溝状遺構（Fig. 35）

位置　X120、Y129～131グリッド　**主軸方向**　（N－9°－E）　**形状等**　U字形。長さ（6.76）m、深さ28.5～13.5cm、上幅55～37cm、下幅35～21cmを測る。　**出土遺物**　総数8点、土師器片6点、須恵器片2点が検出された。時期は埋土からHr-FP軽石降下以降に構築され、As-B軽石降下以降に埋没したと考えられる。

2号溝状遺構（Fig. 35）

位置　X120・121、Y129～131グリッド　**主軸方向**　（N－10°－E）　**形状等**　U字形。長さ（6.72）m、深さ21～15cm、上幅49～45cm、下幅31～21.5cmを測る。　**出土遺物**　総数1点、須恵器片1点が検出された。時期は埋土からHr-FP軽石降下以降に構築され、As-B軽石降下以降に埋没したと考えられる。

3号溝状遺構（Fig. 35）

位置　X121・122、Y129～131グリッド　**主軸方向**　（N－11°－E）　**形状等**　U字形。長さ（6.66）m、深さ15～10.5cm、上幅65.5～42cm、下幅33～19.5cmを測る。　**出土遺物**　総数17点、土師器片2点、須恵器片15点が検出された。時期は埋土からHr-FP軽石降下以降に構築され、As-B軽石降下以降に埋没したと考えられる。

4号溝状遺構（Fig. 35）

位置　X128・129、Y129・130グリッド　**主軸方向**　（N－15°－W）　**形状等**　U字形。長さ（5.90）m、深さ18.5～7.0cm、上幅38～25cm、下幅23～13cmを測る。　**重複**　H－6と重複し、新旧関係は本遺構→H－6の順である。　**出土遺物**　総数9点、土師器片8点、須恵器片1点が検出された。時期は埋土と重複関係からHr-FP軽石降下以降に構築され、9世紀前半には使用されなくなったと考えられる。

5号溝状遺構（Fig. 35）

位置　X129、Y129～131グリッド　**主軸方向**　N－13°－W　**形状等**　U字形。長さ（7.05）m、深さ11.0～2.5cm、上幅33～15.5cm、下幅17.5～5.0cmを測る。　**出土遺物**　総数8点、土師器片8点が検出された。時期は埋土と重複関係からHr-FP軽石降下以降に構築され、As-B軽石降下以降に埋没したと考えられる。

6号溝状遺構（Fig. 35）

位置　X104・105、Y130～132グリッド　**主軸方向**　（N－14°－W）　**形状等**　U字形。長さ（5.39）m、深さ11.5～3.5cm、上幅33.5～22.0cm、下幅23.5～10.0cmを測る。　**出土遺物**　なし。　**備考**　時期は埋土からAs-B軽石降下以後に埋没したと考えられる。

5　土坑・柱穴・井戸跡

土坑・柱穴・井戸跡については、Tab.3　土坑・柱穴・井戸跡計測表（P.31）を参照のこと。

D－39は平地式住居跡の土間の炉の可能性あり。また、D－40は床面中央が焼けており、ファイヤーピットの可能性あり。なお、D－5の須恵器ミニュチュア土器1点、須恵器坏2点、D－7の須恵器高台椀1点、D－8の土師器坏1点、D－14の須恵器坏1点、D－25の須恵器蓋1点、D－39の土師器坏8点、須恵器大甕1点、D－69の須恵器坏1点、D－88の帯金具1点、D－107の古銭1点、P－45の古銭1点を図示した。

6　道路状遺構

A－1号道路状遺構（Fig. 43）

位置　X127・128、Y129・130グリッド　**主軸方向**　N－152°－E　**形状等**　長さ（6.61）m、幅135.5～110cmを測る。　**重複**　H－6と重複し、新旧関係は本遺構→H－6の順である。　**出土遺物**　総数13点、土師器片11点、須恵器片2点が検出された。　**備考**　全体をセクションと部分的に検出された硬化面から推定した。硬化面の土にHr-FP軽石とAs-B軽石が検出された。硬化面の上にAs-B軽石を多く含む層があり、硬化面にAs-B軽石が混入したものと考えた。時期は埋土や重複関係からHr-FP軽石降下後構築され、9世紀前半以前には使用されなくなったと考える。

A－2号道路状遺構（Fig. 43、PL. 10）

位置　X143、Y128・129グリッド　**主軸方向**　N－172°－W　**形状等**　長さ（6.38）m、上幅184～［165］cm、下幅150～132cmを測る。　**重複**　H－35と重複し、新旧関係はH－35→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数23点、土師器片11点、須恵器片9点、灰釉陶器片1点、瓦片2点が検出された。そのうち瓦1点、砥石1点を図示した。　**備考**　時期は重複関係から10世紀後半以降と考えられる。

7　周溝状遺構

1号周溝状遺構（Fig. 44、PL. 9）

位置　X124・125、Y129・130グリッド　**主軸方向**　N－3°－W　**形状等**　［楕円形］。台部：長軸［3.80］m、短軸［2.90］mを測る。全体：長軸（5.80）m、短軸［4.80］mを測る。北に渡りがあったと推定する。

周溝　緩やかな立ち上がるU字形。上幅［1.18］～［0.75］m、下幅0.74～0.27m、深さ［0.40］～［35.5］m

を測る。　**出土遺物**　総数14点、土師器片５点、須恵器片２点、瓦片６点、鉄製品片１点が検出された。　**備考**　Ｔ－２を巡るように本遺構があり、出土遺物から同時期の遺構であることが判明した。そして、Ｄ－21、Ｐ－６・７・８が上屋があった場合の柱穴になる可能性がある。いくつかの遺構が重複していることから、それらに対応する南側の柱穴らしき遺構は検出できなかったが存在した可能性がある。最後に本遺構の主軸方向が２号周溝状遺構と一致することを付け加えておく。時期は埋土や遺物から11世紀中葉と考える。

２号周溝状遺構（Fig. 44、ＰＬ．10）

位置　X96～98、Y132・133グリッド　**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｗ　**形状等**　円形。台部：長軸2.95m、短軸2.75mを測る。全体：長軸5.20m、短軸5.15mを測る。南に渡りあり。　**柱穴**　台部に、D_1（長軸×短軸×深さ、形状：69×45×12.5cm、長方形）とP_1（長軸×短軸×深さ、形状：25×20×11cm、楕円形）、P_2（長軸×短軸×深さ、形状：15×13×10.5cm、円形）、P_3（長軸×短軸×深さ、形状：24×17×15.5cm、楕円形）、P_4（長軸×短軸×深さ、形状：21×19×15.5cm、円形）、P_5（長軸×短軸×深さ、形状：20×18×18cm、円形）、P_6（長軸×短軸×深さ、形状：23×19×21cm、楕円形）、P_7（長軸×短軸×深さ、形状：17×17×19.5cm、円形）、P_8（長軸×短軸×深さ、形状：22×19×16.5cm、楕円形）、P_9（長軸×短軸×深さ、形状：22×19×29.5cm、楕円形）、P_{10}（長軸×短軸×深さ、形状：23×21×14cm、円形）、P_{11}（長軸×短軸×深さ、形状：23×21×14cm、円形）、P_{12}（長軸×短軸×深さ、形状：21×19×11cm、円形）、P_{13}（長軸×短軸×深さ、形状：18×16×10.5cm、円形）、P_{14}（長軸×短軸×深さ、形状：19×18×7.5cm、円形）、P_{15}（長軸×短軸×深さ、形状：21×16×8.5cm、楕円形）、P_{16}（長軸×短軸×深さ、形状：16×14×10.5cm、円形）、P_{17}（長軸×短軸×深さ、形状：30×19×20cm、楕円形）、P_{18}（長軸×短軸×深さ、形状：29×26×8.5cm、円形）の19基を検出した。　**周溝**　緩やかなＵ字形。上幅1.50～1.05m、下幅0.64～0.29m、深さ0.37～0.17mを測る。　**出土遺物**　総数287点、土師器片205点、須恵器片73点、灰釉陶器片２点、瓦片７点、馬骨が検出された。そのうち須恵器蓋１点、土師器壺１点を図示した。　**備考**　台部に柱穴が18基検出され、掘立柱建物が存在した可能性がある。柱穴の埋土はAs-B軽石混土が堆積していた。また、周溝の中から馬の骨（一体でないことから他のところから持って来て埋めたと思われる。）や底部に穿孔のある短頸壺と思われる壺が検出された。そして、本遺構が検出されたＢ区は地山に白色のシルト層があり水はけが悪いという地形的特徴がある。最後に本遺構の主軸方向が１号周溝状遺構と一致することを付け加えておく。時期は周溝の埋土からAs-Ｂ軽石純層が検出されたことから、As-Ｂ軽石降下以前に構築されAs-Ｂ軽石降下後間もなく埋没したと考える。

8　土坑墓群

土坑墓群は、Ａ区のＤＢ－１号土坑墓以西をその範囲とする。遺構面で確認できたのはＤＢ－１のみである。それ以外はＷ－１・２号溝跡と重複しており、溝跡と土坑墓の埋土に違いが見られず、遺構面での確認ができなかった。Ｗ－１・２を掘り下げていく過程で人骨や古銭を発見し、土坑墓の存在が分かったという状況であった。よって、ＤＢ－１以外の人骨が検出された箇所７カ所をそれぞれＤＢ－２～８号土坑墓と名付け記述したい。（図面には人骨が検出された箇所をドットで落とした。）よって、総数８基の土坑墓が検出されたことになる。

人骨と一緒に検出された古銭から時期を考えると時期差は約300年ある。300年の間、墓地として使用していたのか。しかし、古銭はどれも渡来銭であり、遣隋使、遣唐使などが中国より持ち帰ったのが始まりとされ、その多くは平安末期より鎌倉、室町時代にかけて、幕府や民間貿易により輸入された貨幣である。皇朝銭の鋳造停止以後、1670（寛文10）年の渡来銭使用禁止令までの長い間、わが国の貨幣として広く使用されていた。このことを考えると古銭から時期を判断することは難しくなってくる。

唯一の手がかりは、土坑墓群の中に検出された１号土器埋納土坑である。これについてもＤＢ－２～８と同じくＷ－１・２を精査していく過程で検出された。(範囲は押さえたが、遺構としては確認できなかった。) １号土器埋納土坑は15世紀頃と思われる数多くのカワラケが粉々（総数764片）になった状態で検出された。これは祭祀的な意味合いがあり、埋葬の儀式に使った後、粉々に割って捨てたのではないかと考えた。よって、土坑墓群と１号土器埋納土坑が関連するものと考えると、土坑墓群も15世紀頃の遺構と考えられるのではないだろうか。(ただし、土坑墓ごとの時期についてはそこから出土した埋土、古銭から時期を判定した。)

ＤＢ－１号土坑墓（Fig. 40）

位置　X118、Y130グリッド　**形状等**　楕円形。長軸［114］cm、短軸85cm、深さ21.5cmを測る。　**出土遺物**　総数14点、土師器片６点、古銭８点が検出された。そのうち古銭８点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から15世紀以降と考える。

ＤＢ－２号土坑墓（Fig. 31）

位置　X116、Y130グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　総数４点、鉄製品２点、古銭４点が検出された。そのうち刀子１点、古銭３点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から15世紀以降と考える。

ＤＢ－３号土坑墓（Fig. 31）

位置　X116、Y131グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　なし。　**備考**　時期は不明。

ＤＢ－４号土坑墓（Fig. 31）

位置　X115、Y130グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　なし。　**備考**　時期は不明。

ＤＢ－５号土坑墓（Fig. 31）

位置　X116、Y130グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　総数６点、古銭６点が検出された。そのうち古銭５点を図示した。　**備考**　時期は埋土から12世紀以降と考える。

ＤＢ－６号土坑墓（Fig. 31）

位置　X115、Y130グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　総数４点、古銭４点が検出された。そのうち古銭３点を図示した。　**備考**　時期は埋土から12世紀以降と考える。

ＤＢ－７号土坑墓（Fig. 31）

位置　X115、Y131グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　総数６点、古銭６点が検出された。そのうち古銭６点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から15世紀以降と考える。

ＤＢ－８号土坑墓（Fig. 31）

位置　X115、Y131グリッド　**形状等**　不明。　**出土遺物**　総数５点、古銭５点が検出された。そのうち古銭５点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から15世紀以降と考える。

9　土器埋納土坑

1号土器埋納土坑（Fig. 31）

位置　X116、Y131グリッド　**形状等**　（円形）。長軸（50）cm、短軸（50）cmを測る。　**出土遺物**　総数764点、須恵器片764点が検出された。そのうち須恵器坏17点を図示した。　**備考**　W－1・2と重複しており、W－1・2と1号土器溜まり共にあまり相違ないAs-B軽石混土を埋土としていたと考える。よって、平面的に確認できず、W－1・2を精査していく過程での検出となり、範囲を押さえることしかできなかった。そして、カワラケが割れた状態で一カ所に重なり合うように多量に検出されたが、1点も完形の状態で検出されなかった。よって、土坑墓群の中に位置することから祭祀的な意味合いを持つ遺構であり、埋葬の儀式に使用した土器を一カ所に割って捨てたのではないかと考えた。時代は出土遺物から15世紀頃と考える。

2号土器埋納土坑（Fig. 7）

位置　X132、Y129グリッド　**形状等**　（不整形）。長軸（30）cm、短軸（20）cmを測る。　**出土遺物**　総数4点、須恵器4点が検出された。そのうち須恵器坏4点を図示した。　**備考**　ほぼ完形のカワラケ4点並んで検出された。そのうちの一つは裏返しの状態であった。時代は出土遺物から中世と考え、1号土器溜まりより新しいものと思われる。

10　不明遺構

1号不明遺構（Fig. 44、PL. 10）

位置　X96・97、Y131グリッド　**主軸方向**　（N－109°－W）　**形状等**　平面が溝状で、断面が緩やかなU字形。長さ（4.86）m、深さ10～4cm、上幅76～62.5cm、下幅61.5～48.5cmを測る。　**出土遺物**　総数54点、土師器片23点、須恵器片31点が検出された。そのうち須恵器蓋1点、須恵器坏1点を図示した。　**備考**　時期は埋土と出土遺物から8世紀前半と考える。

11　グリッド等出土遺物

調査区全体で、総数2,113点、土師器片1,556点、須恵器片423点、灰釉陶器片32点、青磁片1点、中世陶器片6点、縄文土器片1点、瓦片69点、石製品3点が検出された。そのうち須恵器蓋1点、土師器坏1点、須恵器坏1点、青磁高台椀1点、石剣1点、砥石1点を図示した。

Tab. 2　住居跡一覧表

遺構名	位置	規模(m) 東西×南北	面積 (m²)	壁現高 (cm)	主軸方向	竈 位置	竈 構築材	周溝	主な出土遺物 土師器	須恵器	その他
H－1	X126·127、Y132~134	(1.38)×(4.50)	(4.75)	44	(N－ 87°－E)	東壁南隅	粘　土	×			
H－2	X126·127、Y130~132	(4.14)× 4.03	(11.90)	60	(N－ 63°－E)	東壁中央南	粘　土	×	坏·大甕	蓋・坏	
H－3	X126·127、Y130·131	(4.32)× 5.23	[22.72]	60	[N－ 67°－E]	東壁中央	粘土·石	×	坏·甕·台付甕	蓋・坏	
H－4	X123~125、Y129·130	4.10 × 3.77	[13.35]	49.5	[N－ 58°－E]	東壁中央南	粘土·凝灰岩礫石	○	坏	蓋・高台椀	
H－5	X125、Y129	[3.26]×[2.78]	[7.39]	44.5	[N－ 80°－E]	東壁中央南	粘土·凝灰石	×	坏	高台椀	
H－6	X128·129、Y130	3.81 ×(1.06)	(3.24)	58	(N－ 83°－E)	(東壁)	粘　土	×	坏・鉢	蓋	
H－7	欠番										
H－8	X129·130、Y128·129	3.35 × 3.38	10.32	79	N－115°－W	西壁南	粘　土	×	坏		
H－9	X130、Y130	3.40 ×(2.28)	(2.28)	78	(N－ 65°－E)	－		○	坏		
H－10	X133·134、Y128·129	[4.46]×[3.59]	[14.25]	41.5	[N－ 99°－E]	[東壁南]	粘土·凝灰岩礫石	×		高台椀・羽釜	高台Ⅲ(灰)
H－11	X132·133、Y128	(2.76)×(1.13)	(1.34)	44	(N－ 66°－E)	(西壁南)	粘　土	×	坏		
H－12	X108、Y131	2.93 ×(1.06)	(2.42)	42	(N－ 82°－E)	－		×	坏	大甕	
H－13	X107·108、Y130·131	3.85 ×[2.22]	[7.77]	30	[N－ 83°－E]	東壁中央南		×	坏		
H－14	X106~108、Y130·131	5.42 ×(3.62)	(15.73)	41	(N－104°－W)	西壁南	粘　土	×	坏・甕		
H－15	X103·104、Y130·131	3.50 ×(4.62)	(12.90)	48	(N－ 67°－E)	(東壁)	粘土·凝灰石	○	坏	蓋	
H－16	X97・98、Y132	(3.21)×(9.90)	(2.22)	20	(N－ 85°－E)	－		×		高台椀	
H－17	X103·104、Y132	(2.72)×(4.70)	(0.73)	35	(N－ 78°－E)	－		×		坏	
H－18	X101~103、Y130·131	4.15 ×(4.90)	(18.03)	48.5	(N－ 84°－E)	(東壁中央)	粘土·瓦	×	坏	高台椀	
H－19	X101·102、Y131·132	(4.77)× 4.47	[19.60]	48	[N－ 36°－E]	東壁南	粘　土	×	坏	水注·蓋·坏·高台椀·鉢·羽釜	刀子
H－20	X90・91、Y132	[1.90]×[2.35]	[3.94]	29	[N－ 92°－E]	東壁南	石・瓦	×		蓋・坏・高台椀	
H－21	X91、Y131·132	[2.95]×(3.39)	(6.47)	48.5	[N－102°－E]	東壁南	粘　土	×		坏·鉢·高台椀·羽釜	
H－22	X92·93、Y131·132	3.57 ×(3.06)	(9.70)	32	(N－ 81°－E)	(東壁南)	粘土·石	×	坏	高台椀·壺·羽釜	
H－23	X93·94、Y131·132	3.40 ×(4.05)	[12.30]	40	(N－ 86°－E)	東壁南	粘土·石	×		坏・高台椀・壺	
H－24	X88·89、Y133·134	(2.25)× 3.74	(6.72)	48	(N－ 91°－E)	東壁南		×		坏·高台椀·羽釜	高台椀(灰)
H－25	X88、Y133·134	(0.98)×(3.11)	(1.48)	45.5	(N－ 7°－E)	－		×		坏・羽釜・大甕	
H－26	X89·90、Y131·132	[2.84]×[2.49]	[6.04]	34	[N－ 88°－E]	東壁南	粘　土	×		高台椀	
H－27	X89·90、Y132·133	3.10 ×[3.06]	(5.99)	35	[N－ 86°－E]	[東壁南]	粘土·瓦	×		高台椀	高台Ⅲ(灰)
H－28	X90·91、Y132·133	3.16 ×(2.50)	(6.30)	41.5	(N－ 75°－E)	(東壁)	粘　土	×		高台椀	
H－29	X88、Y133	－	(0.18)	－	－	(東壁)		×			
H－30	X93·94、Y131·132	(1.26)×(3.37)	(3.44)	10	(N－ 81°－E)	(東壁南)		×		高台椀・甕	
H－31	X93・94、Y132	2.98 ×[3.04]	[7.91]	32	[N－ 93°－E]	(東壁中央)	粘土·石	×	甕·台付甕	高台椀	
H－32	X93・94、Y132	[2.17]×[3.54]	[6.54]	11.5	N－ 85°－E	東壁南	粘　土	×			
H－33	X144·145、Y129	3.22 ×(2.20)	(15.85)	15	(N－ 84°－E)	(東壁)	粘土·瓦	×			帯金具
H－34	X143~145、Y128	5.48 ×(3.83)	(16.20)	40.5	(N－ 71°－E)	新 (東壁) 旧 (西壁)	粘土·甕 粘　土	×	坏·長胴甕	坏	鉄製品
H－35	X143、Y128	(1.03)×(2.09)	(1.86)	20.5	(N－ 5°－E)	－		×	坏·長胴甕		

注)(灰)は灰釉陶器のこと。

Tab. 3　土坑・柱穴・井戸跡計測表

遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数	遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数
		(cm)	(cm)	(cm)					(cm)	(cm)	(cm)		
D－1	X119、Y130	85	78	8.5	円　形	土2/須1	D－29	X129、Y129	[36]	32	10	円　形	な　し
D－2	X121·122、Y130·131	(186)	(80)	55	円　形	須　1	D－30	X129、Y129	39	[38]	43	円　形	な　し
D－3	X122、Y130	68	58	39.5	円　形	須　1	D－31	X129、Y129	46	[37]	47.5	円　形	な　し
D－4	X122、Y130·131	(190)	(78)	58	円　形	土21/須1	D－32	X129、Y129	[31]	29	16.5	円　形	な　し
D－5	X122、Y130	104	77	46.5	楕円形	須　32	D－33	X130、Y130	162	69	16.5	楕円形	な　し
D－6	X123、Y130	105	74	22.5	楕円形	須　4	D－34	X130、Y130	31	29	20.5	円　形	な　し
D－7	X123、Y129	(121)	81	28.5	楕円形	土13/須1	D－35	X130·131、Y129·130	36	30	30	円　形	な　し
D－8	X123·124、Y130	80	48	44	円　形	土　2	D－36	X128、Y130	45	36	17	円　形	な　し
D－9	X123·124、Y130	63	50	36	円　形	な　し	D－37	X133、Y129·130	93	84	23	円　形	な　し
D－10	X125·126、Y130	70	50	28.5	円　形	な　し	D－38	X132、Y129·130	50	43	37.5	円　形	な　し
D－11	X126、Y129	75	47	58	円　形	土9/須1	D－39	X117、Y131	155	147	36.5	円　形	な　し
D－12	X128、Y129	66	59	48	円　形	な　し	D－40	X120、Y131	[136]	(95)	42.5	円　形	な　し
D－13	X125、Y129	(27)	(23)	20.5	円　形	な　し	D－41	X111、Y130	20	17	17.5	円　形	な　し
D－14	X126·127、Y129	351	103	37	楕円形	な　し	D－42	X111、Y130	23	22	16	円　形	な　し
D－15	X127、Y130	46	41	63	円　形	土　3	D－43	X111、Y131	40	30	12	円　形	な　し
D－16	X127、Y130	37	35	46	円　形	な　し	D－44	X111、Y131	22	22	8	円　形	な　し
D－17	X127、Y130	45	40	53.5	円　形	土　3	D－45	X111、Y131	[33]	28	25	円　形	な　し
D－18	X127、Y130	36	33	37.5	円　形	な　し	D－46	X111、Y131	55	39	26	円　形	な　し
D－19	X127、Y130	45	44	39.5	円　形	な　し	D－47	X111、Y131	29	29	26.5	円　形	な　し
D－20	X126、Y129	(58)	(40)	47	円　形	な　し	D－48	X111、Y131	25	20	9	円　形	な　し
D－21	X124、Y129	39	33	53.5	円　形	な　し	D－49	X111、Y130	30	28	13	円　形	須　1
D－22	X128、Y130	40	38	42.5	円　形	な　し	D－50	X111、Y130·131	32	32	9	円　形	な　し
D－23	X129、Y130	(68)	(50)	69	円　形	な　し	D－51	X111、Y131	30	20	12.5	円　形	な　し
D－24	X130、Y128·129	43	28	38.5	円　形	な　し	D－52	X110·111、Y131	26	23	9.5	円　形	な　し
D－25	X129、Y130	(45)	(27)	58	円　形	土6/須3	D－53	X110、Y131	28	27	11	円　形	な　し
D－26	X131·132、Y128·129	96	91	36	円　形	土　2	D－54	X107、Y131	45	43	19	円　形	な　し
D－27	X132、Y129	74	58	24.5	楕円形	石　1	D－55	X107、Y131	92	73	25	円　形	な　し
D－28	X129、Y130	(32)	(19)	37	円　形	な　し	D－56	X104、Y131	75	30	20	楕円形	な　し

遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数	遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数
		(cm)	(cm)	(cm)					(cm)	(cm)	(cm)		
D−57	X111、Y131	46	44	9.5	円　形	な　し	D−85	X144、Y128	108	72	68.5	楕円形	土 11
D−58	X110、Y131	36	33	15.5	円　形	な　し	D−86	X145、Y129	(60)	(45)	36	円　形	な　し
D−59	X110、Y131	32	30	18.5	円　形	な　し	D−87	X145、Y128·129	94	60	33.5	楕円形	な　し
D−60	X110、Y131	36	30	19	円　形	土5/須1	D−88	X145·146、Y129	(70)	84	41	円　形	須2/土5
D−61	X105、Y131	34	30	20	円　形	な　し	D−89	X145·146、Y129	21	[120]	35	円　形	な　し
D−62	X105、Y131	31	27	19	円　形	な　し	D−90	X146、Y128·129	160	98	62	長方形	土1/瓦1
D−63	X105、Y131	43	(37)	14.5	円　形	な　し	D−91	X145·146、Y128	88	54	37	長方形	な　し
D−64	X105、Y130·131	32	30	16	円　形	な　し	D−92	X145、Y128	104	70	27	長方形	な　し
D−65	X105·106、Y131	54	47	18	円　形	な　し	D−93	X146、Y128	70	60	33.5	円　形	な　し
D−66	X95、Y131	165	73	17.5	楕円形	土3/須2	D−94	X146、Y128	168	125	47	楕円形	土 8
D−67	X104、Y131	110	111	20.5	円　形	な　し	D−95	X146、Y129	[110]	[71]	27	[円形]	土 2
D−68	X103、Y131	65	57	39.5	円　形	土 2	D−96	X146、Y129	93	90	25	円　形	な　し
D−69	X90、Y132・133	206	132	55.5	円　形	な　し	D−97	X146、Y129	[132]	[57]	38.5	楕円形	な　し
D−70	X89、Y132・133	106	79	30	楕円形	な　し	D−98	X146·147、Y129	85	[61]	32	円　形	な　し
D−71	X89、Y133	141	92	30	楕円形	な　し	D−99	X146、Y129	65	58	53.5	円　形	な　し
D−72	X88·89、Y132·133	182	81	62	円　形	な　し	D−100	X146·147、Y128	175	138	54	楕円形	土2/須12他
D−73	X90、Y132・133	(118)	131	50	円　形	須6/土15/瓦2	D−101	X147、Y128	144	113	43.5	円　形	な　し
D−74	X89、Y132・133	[189]	135	63	円　形	須1/土1	D−102	X147、Y127·128	122	122	40	円　形	土 5
D−75	X110·111、Y130·131	32	30	23	円　形	な　し	D−103	X147、Y127·128	101	76	27.5	楕円形	な　し
D−76	X111、Y130	30	26	15	円　形	な　し	D−104	X147、Y128	[102]	66	24.5	[円形]	な　し
D−77	X111、Y130	32	27	19.5	円　形	な　し	D−105	X147、Y128	(45)	52	32	円　形	須 1
D−78	X111、Y130	30	25	15	円　形	な　し	D−106	X147、Y128	50	[47]	30	円　形	な　し
D−79	X112、Y131	31	30	16	円　形	な　し	D−107	X147、Y128·129	134	122	62	円　形	な　し
D−80	X111·112、Y131	61	54	15.5	円　形	な　し	D−108	X147、Y129	[100]	52	52.5	楕円形	な　し
D−81	X112、Y131	115	110	26	円　形	な　し	D−109	X147、Y129	−	−	−	円　形	な　し
D−82	X94、Y132・133	134	100	12.5	円　形	な　し	D−110	X147、Y129	(40)	(48)	29.5	円　形	な　し
D−83	X144、Y128·129	[163]	117	19.5	円　形	な　し	D−111	X147、Y129	(76)	(44)	19	円　形	な　し
D−84	X145、Y129	66	59	34.5	円　形	な　し	D−112	X147、Y129	94	83	69.5	円　形	土9/瓦1

遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数	遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数
		(cm)	(cm)	(cm)					(cm)	(cm)	(cm)		
D−113	X148、Y128·129	113	100	60	円　形	±5/頁3	D−123	X146、Y127	33	25	13.5	円　形	な　し
D−114	X148、Y128·129	135	116	60.5	円　形	±1/頁3	D−124	X146、Y127·128	36	31	16	円　形	な　し
D−115	X148、Y128	78	(48)	27	円　形	な　し	D−125	X146、Y128	24	20	11.5	円　形	な　し
D−116	X147·148、Y128	149	68	38	楕円形	な　し	D−126	X146、Y128	33	29	13.5	円　形	な　し
D−117	X148、Y128	55	54	27	円　形	な　し	D−127	X146、Y128	36	35	23.5	円　形	な　し
D−118	X147·148、Y128	50	34	56.5	円　形	な　し	D−128	X146、Y128	36	34	35.5	円　形	な　し
D−119	X147·148、Y128	63	54	26	円　形	な　し	D−129	X147、Y128	37	34	36.5	円　形	な　し
D−120	X147、Y128	50	45	15.5	円　形	な　し	D−130	X148、Y127	38	30	26.5	円　形	な　し
D−121	X148、Y128	(90)	(18)	46.5	円　形	な　し	D−131	X147·148、Y127·128	32	32	13.5	円　形	な　し
D−122	X146、Y127·128	96	88	38	円　形	な　し	D−132	X147、Y128	29	24	12.5	円　形	な　し
P−1	X124、Y129	32	31	12	円　形	な　し	P−19	X145、Y128	55	46	60	円　形	な　し
P−2	X124、Y130	38	30	24.5	円　形	な　し	P−20	X145、Y128	44	40	19	円　形	な　し
P−3	X124、Y130	38	35	24	円　形	な　し	P−21	X145、Y128	31	28	13	円　形	な　し
P−4	X124、Y130	37	26	32	楕円形	な　し	P−22	X145、Y129	28	25	11.5	円　形	な　し
P−5	X124、Y129	34	29	13.5	円　形	な　し	P−23	X145、Y129	40	34	6.5	円　形	な　し
P−6	X125、Y129	38	31	28	円　形	な　し	P−24	X145、Y129	26	19	20.5	正方形	な　し
P−7	X125、Y129	22	19	17	円　形	な　し	P−25	X145、Y129	34	31	16.5	円　形	な　し
P−8	X125、Y129	24	24	29.5	円　形	な　し	P−26	X145、Y129	(38)	(26)	40	円　形	な　し
P−9	X144、Y129	33	30	14.5	円　形	な　し	P−27	X145、Y129	(34)	(19)	34	円　形	な　し
P−10	X144、Y129	45	38	24.5	円　形	な　し	P−28	X146、Y129	[32]	32	34.5	円　形	な　し
P−11	X144、Y129	41	37	23.5	円　形	な　し	P−29	X146、Y129	43	38	29	円　形	な　し
P−12	X144、Y129	25	24	22.5	円　形	な　し	P−30	X146、Y129	[30]	[26]	29	円　形	な　し
P−13	X144、Y128	28	(20)	26	円　形	な　し	P−31	X146、Y128·129	34	30	51	円　形	な　し
P−14	X144·145、Y128	28	14	33.5	円　形	な　し	P−32	X146、Y129	52	47	27.5	円　形	な　し
P−15	X145、Y128	34	32	18	円　形	な　し	P−33	X146、Y128·129	34	30	14.5	円　形	な　し
P−16	X145、Y128	15	15	30	円　形	な　し	P−34	X146、Y128·129	28	24	52	円　形	な　し
P−17	X145、Y128	22	19	25.5	円　形	な　し	P−35	X146、Y129	34	32	38	円　形	な　し
P−18	X145、Y128	38	32	23	円　形	な　し	P−36	X146、Y128	24	(10)	23.5	円　形	な　し

遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数	遺構名	位　　置	長軸	短軸	深さ	形　状	遺物総数
		(cm)	(cm)	(cm)					(cm)	(cm)	(cm)		
P−37	X146、Y128	26	24	35	円　形	な　し	P−63	X147、Y128	22	20	24	円　形	な　し
P−38	X146、Y128	32	31	37	円　形	な　し	P−64	X147、Y128	29	27	36	円　形	な　し
P−39	X146·147、Y128	45	36	44.5	円　形	な　し	P−65	X148、Y127	29	25	63	円　形	な　し
P−40	X147、Y129	45	40	19	円　形	な　し	P−66	X148、Y127	(27)	(14)	51	円　形	な　し
P−41	X147、Y128·129	52	[41]	38	円　形	な　し	P−67	X148、Y127	27	(22)	25.5	円　形	な　し
P−42	X147、Y129	27	[25]	26	円　形	な　し	P−68	X148、Y127	30	26	44.5	円　形	な　し
P−43	X147、Y129	[32]	[28]	34.5	円　形	な　し	P−69	X148、Y128	70	50	54.5	円　形	な　し
P−44	X147、Y129	−	−	−	不　明	な　し	P−70	X148、Y128	42	24	42	円　形	な　し
P−45	X147、Y129	[28]	[21]	48	円　形	な　し	P−71	X148、Y128	21	18	32.5	円　形	な　し
P−46	X147、Y129	30	28	43.5	円　形	な　し	P−72	X148、Y128	(22)	(16)	34.5	円　形	な　し
P−47	X147、Y129	[30]	[23]	48	円　形	な　し	P−73	X148、Y128	(42)	(25)	45	円　形	な　し
P−48	X146·147、Y129	(61)	57	28	円　形	な　し	P−74	X148、Y128	19	19	36	正方形	土9/須
P−49	X146·147、Y129	(32)	33	32.5	円　形	須　1	P−75	X148、Y128	83	54	62.5	円　形	な　し
P−50	X146、Y129	40	34	35.5	円　形	須　1	P−76	X147、Y127·128	27	17	39.5	円　形	土2/須
P−51	X147、Y129	30	27	37	円　形	な　し	P−77	X146·147、Y128	54	40	39.5	円　形	な　し
P−52	X147、Y129	29	22	68	円　形	な　し	P−78	X146、Y128	34	23	29	円　形	
P−53	X147·148、Y128·129	46	30	26	円　形	土3/須1	P−79	X146、Y128	32	30	36.5	円　形	な　し
P−54	X147、Y128	23	20	23	円　形	な　し	P−80	X147、Y127	22	19	43	円　形	な　し
P−55	X148、Y128	27	23	25	円　形	な　し	P−81	X146、Y127	28	[22]	27.5	円　形	な　し
P−56	X147·148、Y128	26	22	29.5	円　形	な　し	P−82	X146、Y127·128	39	32	24	円　形	土1/須
P−57	X147、Y128	56	42	27	円　形	な　し	P−83	X146、Y128	33	30	36.5	円　形	な　し
P−58	X147、Y128	30	[23]	29.5	円　形	な　し	P−84	X146、Y128	30	28	16	円　形	な　し
P−59	X147、Y128	27	23	45.5	円　形	な　し	P−85	X146、Y129	28	26	22	円　形	な　し
P−60	X147、Y128	50	33	45	円　形	な　し	I−1	X148、Y127·128	90	(67)	115	[円形]	土14/須
P−61	X147、Y128	[50]	32	54	円　形	な　し	I−2	X147、Y129	80	7	114	円　形	土16/須
P−62	X147、Y128	[24]	22	36.5	円　形	な　し							

注）遺物総数の土は土師器片、須は須恵器片、瓦は瓦片のこと。

Ⅵ 考　　察

ここで使われる時期区分は、元総社蒼海遺跡群での従来の様式に従い、Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半から10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半から：律令期以後）の３期に区分した。また、幅８ｍ（緩衝帯を含む。）の調査であるため、限られた範囲の考察になることを付け加えておきたい。

1　本遺跡の遺構について

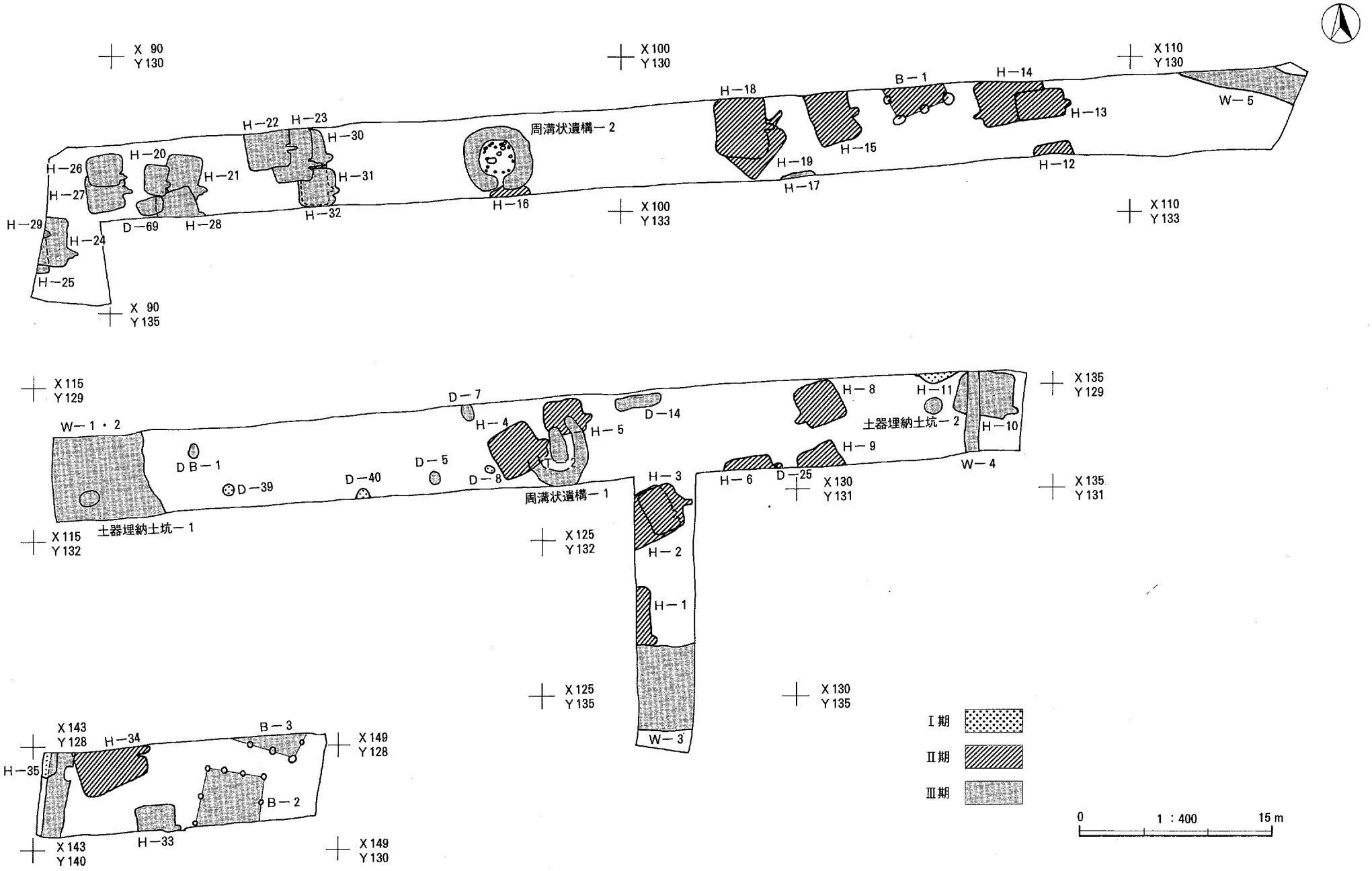
本調査区は、Ｄ区がＣ区より北東方向に約200m程離れるが、Ａ区、Ｂ区、Ｃ区は隣接しており、西からＢ区、Ａ区、Ｃ区の順で位置する。Ｃ区が最も国府推定域の中心部に近いこととなる。従来、国府推定域には諸説あるが、本調査区はいずれの説によっても推定域の北西外となる。

本調査区で、時期の限定できる遺構について下の表にまとめてみた。Ｄ区については、蒼海城の掘り割り跡と考えられるＷ－６号溝跡のみの検出であったので表からは省略した。

Tab. 4　時期別の遺構数

<table>
<tr><td colspan="3">調　査　区</td><td colspan="2">Ｂ区：約635.3㎡</td><td colspan="3">Ａ区：約594.0㎡</td><td colspan="3">Ｃ区：約145.8㎡</td><td colspan="2">時期別合計</td></tr>
<tr><td colspan="3">確認面の標高</td><td colspan="2">121.40～122.50m</td><td colspan="3">122.70～122.80m</td><td colspan="3">121.80m前後</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="3">時　　期</td><td>住居跡</td><td>その他</td><td>住居跡</td><td colspan="2">その他</td><td>住居跡</td><td colspan="2">その他</td><td>住居跡</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>Ⅰ期</td><td colspan="2">７世紀中葉以前</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">縄文：Ｄ－40</td><td>７Ｃ中：１</td><td colspan="2"></td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="9">Ⅱ期</td><td>７世紀</td><td>後半</td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td>Ｄ－８・39</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="9">14</td><td rowspan="9">4</td></tr>
<tr><td rowspan="3">８世紀</td><td>前半</td><td>2</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">Ｂ－１</td><td>2</td><td></td><td rowspan="3">Ｄ－25</td><td>1</td><td rowspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td>中葉</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>後半</td><td>2</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">９世紀</td><td>前半</td><td>1</td><td rowspan="3">1</td><td></td><td>1</td><td rowspan="3"></td><td></td><td></td><td rowspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td>中葉</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>後半</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="9">Ⅲ期</td><td rowspan="3">10世紀</td><td>前半</td><td>5</td><td rowspan="3">1</td><td></td><td>1</td><td rowspan="3">1</td><td>Ｄ－14</td><td></td><td rowspan="3"></td><td></td><td rowspan="9">19</td><td rowspan="9">29</td></tr>
<tr><td>中葉</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>後半</td><td>7</td><td></td><td></td><td></td><td>Ｄ－７</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">11世紀</td><td>前半</td><td>1</td><td rowspan="3"></td><td>Ｄ－69</td><td></td><td rowspan="3"></td><td></td><td></td><td rowspan="3"></td><td></td></tr>
<tr><td>中葉</td><td></td><td></td><td></td><td>T-2、周溝-1、D-21、P-6~8</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>後半</td><td></td><td>周溝－１</td><td></td><td>Ｄ－５</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>12世紀</td><td>前半</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">12世紀中葉以降</td><td>12Ｃ後半以降：１</td><td>中世：Ｗ－５</td><td colspan="2"></td><td colspan="2">12～15Ｃ：Ｗ－１～４、埋納－１、15Ｃ頃：土坑墓群・埋納－２</td><td colspan="2"></td><td>中世：Ｂ－２・３、Ａ－２</td></tr>
<tr><td colspan="3">合　　計</td><td>21</td><td>4</td><td>10</td><td colspan="2">27</td><td>3</td><td colspan="2">3</td><td>34</td><td>34</td></tr>
</table>

※周溝…周溝状遺構、埋納…土器埋納土坑


X 90
Y 130
X 100
Y 130
X 110
Y 130
H－18
B－1
H－14
H－13
W－5
H－22
H－23
H－30
周溝状遺構－2
H－20
H－26
H－21
H－31
H－15
H－19
H－12
H－27
H－17
H－16
H－32
X 100
Y 133
X 110
Y 133
H－29
D－69
H－28
H－24
H－25
X 90
Y 135
X 115
Y 129
D－7
H－8
H－11
X 135
Y 129
W－1・2
H－4
D－14
H－5
土器埋納土坑－2
H－10
H－9
DB－1
D－5
D－8
T－2
W－4
D－39
D－40
H－3
H－6
D－25
X 130
Y 131
X 135
Y 131
周溝状遺構－1
X 115
Y 132
土器埋納土坑－1
X 125
Y 132
H－2
H－1
X 125
Y 135
X 130
Y 135
W－3
Ⅰ期
Ⅱ期
Ⅲ期
X 143
Y 128
H－34
B－3
X 149
Y 128
H－35
B－2
H－33
X 143
Y 140
X 149
Y 130
0
1：400
15 m

まず、確認面（As-C軽石・Hr-FP軽石を含む黒色土）の標高から旧地形を考えてみると、西からB区西端が121.40m、B区東端が122.50m、A区西端が122.70m、A区東端が122.80m、C区121.80m前後である。B区西から徐々に標高が上がっていき、A区西で上がりきり、A区は平坦な高台であり、C区はわずかに標高が下がる。ただし、C区はAs-B軽石混土層のすぐ下がローム層である箇所があったりH－33の遺存が悪いことから、後世に遺構面が削られている可能性がある。そのように考えると、B区はともかくとして、A・C区は平坦な高台であると想像できる。また、B区は灰褐色シルト層が地山になっており、それに対してA・C区はローム層が地山になっている。調査をしていく中で体感したことでもあるが、A・C区は水はけが良い。よって、A・C区は平坦な高台であり水はけも良く、生活しやすい場所と考えられる。

しかし、元総社蒼海遺跡群の範囲に含まれる過年度の集落跡調査と比較すると、本遺跡で検出された住居跡軒数が少ないことが分かる。100㎡あたりの住居跡軒数を比較してみると、本遺跡は2.5軒の検出であるのに対して、H12年調査の元総社小見遺跡では4.3軒、H13年調査の総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西・Ⅱ遺跡では4.5軒、元総社小見内Ⅲ遺跡では4.6軒を検出した。他の遺跡が如何に遺構の濃い調査であるかが分かり、それに比べると本遺跡が住居跡の検出量が少なかったかが分かる。また、Ⅱ期に入るまで7世紀中葉の住居跡1軒のみの検出であった。7世紀後半の国府形成期になるまで遺構の数が極端に少ないことが分かる。

2　集落の変遷について

本遺跡は竪穴住居跡の視点から考えると、調査区を2つに分けることができる。B区西半分（X5から西：以下、「小見内Ⅳ西部」と記す。）と、B区東半分・A区・C区（X95からX149：以下、「小見内Ⅳ東部」と記す。）の2地区である。次頁の表（Tab.5）で、両者と約90m北に行ったところに位置する元総社小見内Ⅲ遺跡（1・2・3・13・14・15・18・19・20区：以下「小見内Ⅲ西部」と記す。）を比較してみたいと思う。小見内Ⅲ西部は小見内Ⅳ東部の基準となる南北グリッド線X95とX149の間にほぼ入ってくる。ただし、小見内Ⅲ西部には、重複が激しく、時期を確定できなかった住居跡が44軒あったことを付け加えておく。

時期ごとに3地区の住居跡の軒数を比較してみたいと思う。住居跡だけを見ると、Ⅰ期では、小見内Ⅳ東部で7世紀中葉になり1軒検出されるのみで、小見内Ⅳ西部では検出されていない。それ以前の遺構となると縄文時代のファイヤーピットの可能性のあるD－40が1基検出されただけであり、その他の遺構は検出されていない。狭い範囲のことであるが、国府が設営されるまではこの地区はあまり人々が生活していなかった傾向にあることが分かる。住居跡だけを見て、元総社小見内Ⅳ遺跡と小見内Ⅲ西部を比較してみると、6世紀以降のⅠ期では小見内Ⅳ西部と小見内Ⅳ東部を合わせても100㎡あたり0.07軒で、7世紀中葉になるまで住居跡が出現してこない。これに対し、小見内Ⅲ西部では、100㎡あたり0.67軒の割合で、6世紀11軒、7世紀10軒の住居跡が検出された。律令期以前のため、この住居跡の差は小見内Ⅳ西部・東部の地区にはただ単に人々が暮らしていなかったのかと思われる。

Ⅱ期を比較してみると、小見内Ⅳ西部は100㎡あたり0.54軒で、9世紀代と思われる住居跡が1軒だけの検出である。小見内Ⅳ東部は100㎡あたり1.13軒で、それまで人々の生活痕の少なかった地区に8世紀の11軒を筆頭に集落が形成されてくる。しかし、集落といっても小見内Ⅲ西部（100㎡あたり1.95軒）との比較でも分かるように、過年度調査した周辺の遺跡に比べると住居跡の軒数は少ない。国府成立時期と合うことから、小見内Ⅳ東部は国府成立に伴い人々が生活し始めるが、国府周辺への規制で他の遺跡のような人口の増加は見られないのではないかとも推測される。また、小見内Ⅳ西部は、現在も遺構確認面は湿地であり、旧地形では低い場所に位置する。低地で湿地であり不安定な土地であるために人々が生活できなかったと推測した。

Ⅲ期を比較してみると、小見内Ⅳ西部は100㎡あたり6.53軒で、10世紀後半の７軒を筆頭に集落が形成されてくる。小見内Ⅲ東部は100㎡あたり0.48軒で、10世紀の６軒が検出されているものの、11世紀以降の住居跡は検出されなかった。小見内Ⅳ西部は10世紀になって地形が安定したこと、政治的な可耕地の拡大、集落の計画的配置等の条件が重なり、人口が増加したものと考えられる。小見内Ⅳ東部は10世紀を最後に住居跡は消滅し、11世紀中葉の祭祀的遺構と考える１号周溝状遺構とＴ－２号竪穴状遺構（後で記述）、11世紀後半の祭祀遺構の可能性がある２号周溝状遺構、12世紀から15世紀頃の土坑墓群、１号土器埋納土坑、２号土器埋納土坑がある。よって、小見内Ⅳ東部は11世紀頃から祭祀的な地域になったかと想像される。

Tab. 5　小見内Ⅳ西部、小見内Ⅳ東部、小見内Ⅲ西部の比較

地区				小見内Ⅳ西部			小見内Ⅳ東部			小見内Ⅲ西部	
面積				183.7㎡			1,191.4㎡			3,125㎡	
標高				121.50～121.70m			121.70～122.80m			120.54～123.70m	
時期別の遺構数	時期			住居跡軒数		その他	住居跡軒数		その他	住居跡軒数	
	Ⅰ期	7世紀中葉以前					7C中：1		縄文：D－40	弥生：2、6C：11 7C前中：5、7C：5	
	Ⅱ期	7世紀	後半				1		D－8・39	3	
		8世紀	前半				5		B－1、D－25	10	23
			中葉				1	2			
			後半				3			1	
		9世紀	前半		1		1			4	12
			中葉								
			後半							8	
	Ⅲ期	10世紀	前半	3	1		3	2	D－14	3	8
			中葉								
			後半	7			1		D－7	1	
		11世紀	前半	1		D－69					4
			中葉						T-2、周溝-1、D-21、P-6~8		
			後半						D－5、周溝－1		
		12世紀	前半								
		12世紀中葉以降		12C後半以降：1		中世：W－5			12~15C：W－1～4、埋納－1、15C頃：土坑墓群・埋納－2、中世以降：B－2・3、A－2	不明：44	
住居軒数／100㎡	Ⅰ期			0			0.08			0.74（不明44軒除）	
	Ⅱ期			0.54			1.13			1.95（不明44軒除）	
	Ⅲ期			6.53			0.48			0.51（不明44軒除）	
	合計			7.08			1.68			4.61	

3　溝跡について

（1）W－1・2号溝跡

本遺構は通路を伴う溝跡である。最下面の通路面には小石が敷き詰められており、それに混じって瓦片を検出した。北壁セクションでは2つの溝跡が切り合い、W－1はW－2より古いものと考えた。しかし、両溝跡を埋める埋土（最下層にAs-B軽石を多く含む川砂）に大きな違いがみられず、南壁セクションを見ると二股に分かれるような形で同時期に使われていたようにも考えられる。川砂とのろの層が何層も重なり合い、短期間に埋没したというよりは何回かに分かれて埋没したと考えられる。北壁セクションが土坑墓群と重なったため解明をより困難なものとした。時期は埋土からAs-B軽石軽石降下以降に埋没したと考えられる。

本遺構と関連があると考えられる過年度調査の遺構としては、元総社小見内Ⅲ遺跡の15区のW－2号溝跡とW－4号溝跡がある。W－2は、平成11・12年度に調査した上野国分尼寺寺域確認調査・Ⅱによって明らかになった尼寺南辺築垣に並行して走り、築垣東南部でN－132°－Eの方向に折れ曲がる溝跡であり、本遺跡のW－1・2に向かってくる。W－4は、主軸方向がN－3°－Eであり、南に延長してくると考えると、本遺跡のW－2とつながる可能性がある。どの溝跡もAs-B軽石混土層を埋土に含んでおり、埋没した時期はある程度整合する。

本遺跡のW－2は元総社小見内Ⅲ遺跡の15区のW－4とつながると仮定すると、主軸方向もほぼ南北になることが分かる。日高道と言われているE50の南北線から西へちょうど4町（1町を約109mと考えた場合）離れた南北線上になる。このように考えると、W－2は条里に伴う溝跡と考えることもできる。W－1は彎曲しており、W－3につながり、時期は合わないが国府域の中心へ向かう溝跡と考える。今後の調査が待たれるところである。

（2）W－3号溝跡

本遺構は閑泉樋遺跡で検出された条里の東西線に乗り国府に関連するとされるW－1号溝跡と主軸方向を同じくし、北に約半町ずれたところに位置する。最下面の両側に浅い側溝を持つ通路を伴う溝跡として構築され、9枚の硬化面があることから埋没していく過程の中で何度も通路として使用されていたことが分かる。また、W－1が彎曲しており本遺構につながる可能性がある。時期はAs-B軽石純層を掘り込んで構築されており、最下部層が純度の高いAs-B軽石混土が硬化している面となっており、埋土の上部層、中間層、最下部層ともにAs-B軽石が多く混じる層であり違いが見られないことからことから、As-B軽石軽石降下後構築され、構築後短い間で埋没してしまったと考えられる。

As-B軽石降下以降に構築されたこれほどに大規模な溝跡は何かと考えると、蒼海城の堀跡の可能性がある。現形図と古絵図とを合わせた図（元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ Fig. 5、上野国分寺・尼寺中間地域（3）付図11）では、A区東部に蒼海城の堀跡が検出されるはずであったが、堀跡は検出されずH－10（10世紀後半）が確認された。東部にあったはずの堀跡がずれて西で検出されたという可能性はないのだろうか。もしなるとすれば、元々は国府に関連する溝跡であり、蒼海城の城郭形成に再度利用され、変遷を遂げてきた可能性があると考える。

（3）W－6号溝跡

通路を伴う溝跡である。北北西へ向かい牛池川に流れ込む南北方向の溝跡である。古絵図から蒼海城の各郭を画していた堀跡であると考える。元総社小見内Ⅲ遺跡6区のW－1が本遺構とつながると思われる。

4　Ｔ－２号竪穴状遺構について

本遺構は、１号周溝状遺構が巡るように配置され、出土遺物から２つの遺構は同時期の遺構であることが判明した。周溝を伴う竪穴状遺構（または土坑）の事例を見つけることはできなかったが、同時期の土坑、土坑墓、墓坑についての事例と比較しながら、本遺構とこれに伴うと思われる１号周溝状遺構の性格を考えてみたい。

Tab. 6　Ｔ－２号竪穴状遺構と周辺遺跡の遺構との比較

遺　跡　名 遺　構　名	長軸×短軸×深さ(m) 形状・主軸方向	主な出土遺物	備　　考	時期
元総社小見内Ⅳ遺跡 Ｔ－２号竪穴状遺構	2.68×1.20×0.62 隅丸長方形・N-12°-W	内黒土器、飾り金具、釘(多数)	周溝が巡っており、北に渡りがあったと推定する。	11Ｃ 中葉
上野国分僧寺・尼寺 中間地域 Ｃ区３号土坑墓	1.01×0.67×0.15 隅丸長方形・N-1°-E	鉄鏃、天禧通宝	鉄鏃は被葬者の脊椎骨を背後から貫く状態で出土。銅銭の初鋳は、1018年としている。	
下東西遺跡 ＳＺ16土坑墓	1.58×0.67×0.39 長方形・ほぼ南北	須恵器長頸壺・椀・皿、釘(多数)	釘の位置より木棺の規模を推定し、埋葬されたのは幼児であったと推定する。	９Ｃ 後半
清里・長久保遺跡 13区１号墓坑	外:3.15×2.05×0.85 内：2.3×0.9×0.56 隅丸長方形・ほぼ南北	緑釉輪花椀・皿 内黒土器、灰釉耳皿、釘	二段掘り。13区２号墓坑からも釘が検出され、同じ性格の遺構と考えている。	10Ｃ 中葉～ 後半
日高遺跡 51号土坑	1.82×0.73×0.22 隅丸長方形・ほぼ南北	灰釉椀	木材が出土したが、木棺ではなく、被葬者を載せる材であったと考えられている。	９Ｃ後半～10Ｃ初頭
下佐野遺跡 ７区113号土坑	2.58×0.9×0.94 長方形・N-1°-W	灰釉椀、須恵器椀、墨書、釘？	墳丘上に位置する。川原石を敷く。同質の遺構として、７区59号土坑有。	10Ｃ 後半

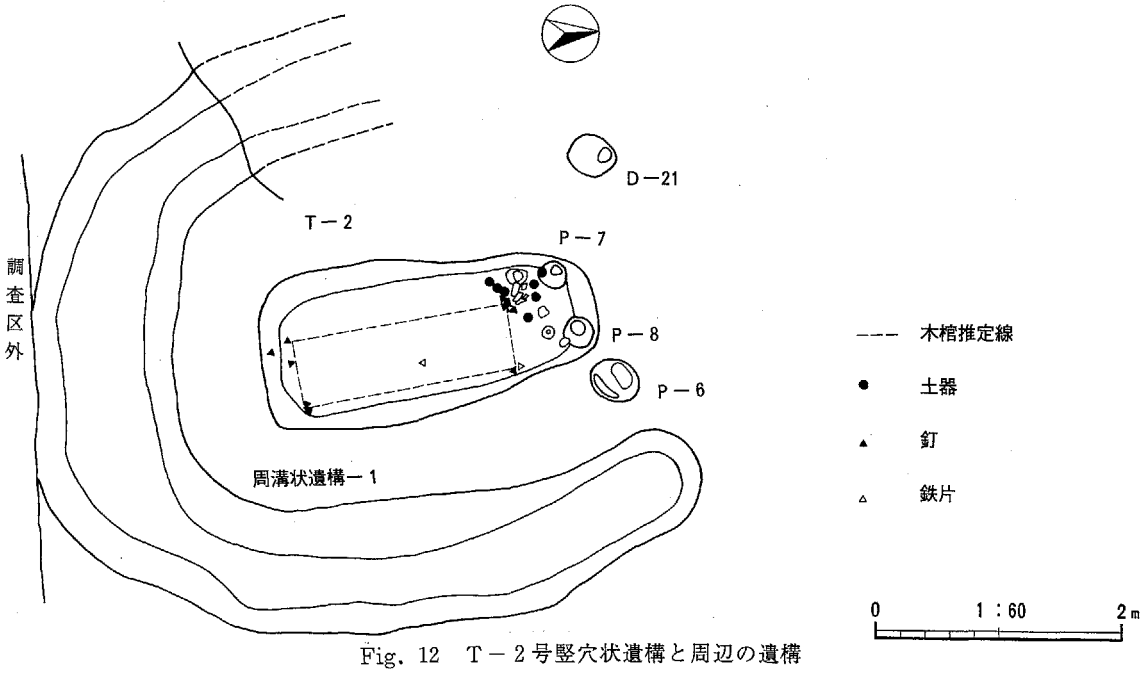


Fig. 12　Ｔ－２号竪穴状遺構と周辺の遺構

T－2は、底に穿孔がある酸化焔焼成の高台椀（土器は明らかに焼成後に穿孔されたもので儀器としての埋納を意識したものと見られる。）、酸化焔焼成の足高高台椀、磨きがかかる内黒土器（うち1点の土器の口唇部外面に油煙が付着しており、灯明皿としての使用か）、飾り金具、多数の鉄製品の破片が出土し、当初から祭祀的な意図のある遺構ではないかと考えていた。また、北に渡りがあると想定される1号周溝状遺構が巡っており、上屋の柱穴になると推測するD－21、P－6～8も含めて、そのように考えていた。同様な形状であり、出土遺物を検出している周辺遺跡の遺構を前頁の表（Tab.6）にまとめてみた。各遺跡において遺構の名称は様々であるが、どれも土坑墓として考えられている。本遺構についても他の遺跡の遺構と同様に土坑墓になる可能性が高いと思われる。

そこで、本遺構で出土した鉄製品（釘）の位置を確認し、木棺が想定できるか考えてみたのが前頁の図（Fig.12）である。当初、釘を含む鉄製品に関しては、上屋の建物を構築するのに使用されていた釘が落ちたものと考えていた。しかし、鉄製品の位置を平面図に落としてみると、ほぼ四隅に釘が位置し、主軸方向をほぼ南北方向においた長軸171cm、短軸51cmの木棺が想定できる。また、先述した遺物が想定した木棺の北から集中して出土しており、副葬品と考えられる。木棺や人骨は、本遺構が乾燥した地域に位置するために、朽ちたものと考える。よって、本遺構は土坑墓と考えても良いのではないか。しかし、1号周溝状遺構が本遺跡に伴うものであることは出土遺物が同時期であるから可能性はあるが、D－21やP－6～7が本遺構に伴う建物遺構の柱穴になるかは結論づけることはできなかった。

5　土坑墓群について

土坑墓群は、土坑墓8基と土器埋納土坑1基から構成される。DB－1以外はW－1・2号溝跡と重複しており、溝跡と土坑墓の埋土にはっきりした違いがなく、溝跡を精査中に人骨や土器の破片、古銭を検出することでDB－2～8と1号土器埋納土坑があったのだろうと想定したので、DB－1以外の遺構の形状は確認はできなかった。唯一確認できたDB－1の形状は楕円形、規模は長軸114×短軸85×深さ21.5cm、主軸方向はN-8°-Eである。出土遺物には土師器片6点、永楽通宝7枚・祥符元宝1枚がある。その他の土坑墓も人骨に伴い古銭が検出された。（Tab.9）本遺跡から西に約400mのところに位置する上野国分僧寺・尼寺中間地域の土坑墓を参考にして、本土坑墓群をもう少し明確にしたい。

Tab.7　上野国分寺・尼寺中間地域の土坑墓

遺構名		C区3号	C区6号	C区11号	C区12号	C区34号	G区3号
主軸方向		N-1°-E	N-0°-E	N-4°-E	N-1°-E	N-10°-E	N-0°-E
規模（cm）	長軸	101	121	116	130	116	133
	短軸	67	96	112	82	100	91
	深さ	15	51	85	51	19	22
平面形状		隅丸長方形	隅丸長方形	隅丸長方形	長方形	梯形	長方形
出土遺物		鉄鏃1、渡来銭1	土師質土器皿6、渡来銭6	土師質土器皿5、渡来銭8	鉄鏃1、渡来銭1	土師質土器皿4、渡来銭3	土師質土器皿3、渡来銭10等
埋葬の仕方		横向きで屈葬	横向きで屈葬	横向きで屈葬	俯臥位	横向きで屈葬	横向きで屈葬
備考		被葬者の背後から貫く状態で鉄鏃を検出			頸部から鉄鏃が出土		※遺物の後の数字は個数

ＤＢ－２で、中間地域Ｃ区の第３号土坑墓のように被葬者と鉄器との直接の関わり合いは確認できなかったが、被葬者の胸のあたりから刀子１点（鉄９、Fig. 64、ＰＬ．17）が出土した。また、土坑墓と関連すると考える１号土器埋納土坑は、カワラケを意図的に割られたと思われる土器片が総数764点出土した。（遺物番号157～172の土器、Fig. 57・58、ＰＬ．16）中間地域でも同時期の土師質土器皿（本報告書では、須恵器坏・カワラケと表記している。）を伴う土坑墓が多数検出されている。その他、本土坑墓群も中間地域の土坑墓もほとんどが直葬墓である可能性が高いことや渡来銭が出土すること等類似点があり、本土坑墓群の各遺構の形状や時期等を推定できると考える。

6　２号周溝状遺構について

本遺構の検出状況は、主軸方向をほぼ南北にとり、南に渡りを有し、台部に柱穴18基を検出した。柱穴の埋土はAs-B軽石混土が堆積していた。また、周溝の中から馬の骨（一体でないことから他のところから持って来て埋めたと思われる。）や底部に穿孔のある短頸壺と思われる壺が検出された。また、本遺構が検出されたＢ区は、Ａ区と比較すると低地であり、地山が白色シルト層であり、水はけが悪いという地形的特徴がある。そして、本遺構の主軸方向がＴ－２号竪穴状遺構を含む１号周溝状遺構と一致することが分かった。時期は周溝の埋土からAs-B軽石純層が検出されたことから、11世紀後半と考えた。以上のようなことから、多くの祭祀的な遺構や祭祀の対象として発見されることの多い馬骨や明らかに焼成後に穿孔された儀器として埋納を意識したものとみられる穿孔のある壺が検出されたことから、本遺構は信仰の対象とされるような施設が台部にあり、その廃絶に当たって意識的に馬骨や土器を埋納したものである可能性があると考える。

参考文献

前橋市史　第１巻	1971	前橋市史編さん委員会
群馬県史　通史２　原始古代	1991	群馬県史編さん委員会
閑泉樋遺跡「文化財調査報告書第13集」	1982	前橋市教育委員会
元総社明神Ⅰ～ⅩⅢ遺跡	1982 ～ 1997	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
日高遺跡	1982	群馬県埋蔵文化財調査事業団
上野国分僧寺・尼寺中間地域　～（８）	1986 ～	群馬県埋蔵文化財調査事業団
清里・長久保遺跡	1986	群馬県埋蔵文化財調査事業団
下佐野遺跡Ⅱ地区	1986	群馬県埋蔵文化財調査事業団
下東西遺跡	1987	群馬県埋蔵文化財調査事業団
元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ	1993 ～ 1996	群馬県埋蔵文化財調査事業団
総社閑泉明神北遺跡	1999	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
元総社蒼海遺跡群　元総社小見遺跡	2000	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
総社閑泉明神北Ⅱ遺跡		
総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡		
元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	前橋市埋蔵文化財発掘調査団

Tab. 8　土器観察表

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－2 床直	蓋 須恵器	①　10.8 ②　　3.2	①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。口縁部：外傾、内・外面轆轤撫で。返り無。天井部：内面轆轤撫で。外面篦起こし後篦削り。摘みなし。	酸化焔焼成
2	H－2 床直	坏 土師器	①　　9.8 ②　　2.9	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く、内傾気味から直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
3	H－2 床直	坏 土師器	①［11.1］ ②　　3.1	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
4	H－2 床直	坏 土師器	①　10.8 ②　　3.7	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く外傾気味に直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
5	H－2 埋土	坏 土師器	①［13.6］ ②（　3.4）	①細粒②良好 ③橙色④1/5	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。底部：平底から外傾の体部、内面撫で、放射線状の暗文有。外面篦削り。	
6	H－2 竈、埋土	坏 土師器	①［13.3］ ②（　3.1）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	口縁部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底から外傾の体部、内面撫で。外面篦削りから口縁部に近いところで撫で。	
7	H－2 埋土	坏 土師器	①［13.4］ ②（　3.2）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④－	口縁部：外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
8	H－2 床直	坏 土師器	①　15.5 ②　　4.7	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：内傾、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	篦書き有
9	H－2 床直	坏 須恵器	①［11.0］ ②［　3.4］	①細粒②良好 ③灰色④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転篦切り。	還元焔焼成
10	H－2 床直	摺　鉢 須恵器	①　　－ ②（　4.3）	①細粒②良好 ③灰白色④底部のみ	轆轤整形。口縁・体部：ほぼ欠損、内・外面轆轤撫で。台部：平底、内面轆轤撫で。外面撫で。	還元焔焼成
11	H－2 床直	大　甕 土師器	①　23.4 ②（　9.2）	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：外傾、内・外面横撫で。肥薄な先端部に一筋の調整痕が残る。胴部：上半部内面撫で、外面篦削り。中央部・下半部欠損。	同一の個体となる可能性有
12	H－2 床直	大　甕 土師器	①　　－ ②（14.3）	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：欠損。胴部：上半部・中央部欠損。下半部内面撫で。外面斜め篦削り。底部：突出底。	
13	H－3 床直	蓋 須恵器	①［15.0］ ②（　2.2）	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤整形。口縁部：外傾、内・外面轆轤撫で。弱い返り有。天井部：内・外面轆轤撫で。摘み欠損。	還元焔焼成
14	H－3 床直	坏 土師器	①［11.8］ ②　　3.6	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
15	H－3 床直	坏 土師器	①　11.6 ②　　3.9	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
16	H－3 竈、埋土	坏 土師器	①　11.8 ②　　3.9	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
17	H－3 床直	坏 土師器	①［14.0］ ②　　4.1	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
18	H－3 埋土	坏 土師器	①［14.1］ ②（　2.6）	①細粒②良好 ③橙色④1/5	口縁部：短く外反、内・外面横撫で。底部：ほぼ欠損。平底から緩やかに立ち上がり口縁部に至ると推定。内面撫で、外面篦削り。	
19	H－3 埋土	坏 土師器	①［13.6］ ②［　4.1］	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁・体部：外傾した体部から短く外反する肥薄な口縁部、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で。外面篦削り。	
20	H－3 床直	坏 須恵器	①　13.0 ②　　4.0	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面篦起こし後、篦削り。	還元焔焼成
21	H－3 床直	台付甕 土師器	①［13.6］ ②（11.0）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。体部：上半部器最大径、内面撫で。外面篦削り。中央部・下半部欠損。台部：欠損。	
22	H－3 竈、床直	長胴甕 土師器	①［22.7］ ②［　9.8］	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	口縁部：器最大径、やや外反気味、内・外面横撫で。胴部：上半部内面撫で。外面篦削り。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	
23	H－4 埋土	蓋 須恵器	①［　9.5］ ②　　2.7	①細粒②極良 ③灰白色④2/3	轆轤整形。口縁部：外傾、内・外面轆轤撫で。返りなし。天井部：内面轆轤撫で。外面篦起こし後、篦削り。	還元焔焼成
24	H－4 床直	坏 土師器	①［10.6］ ②（　3.1）	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
25	H－4 床直	坏 土師器	①［13.6］ ②　　4.3	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：短くやや内傾気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
26	H－4 埋土	坏 土師器	①［14.0］ ②（　3.8）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
27	H－4 竈、埋土	高台椀 須恵器	①　　－ ②（　3.4）	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：ほぼ欠損。内・外面轆轤撫で。底部：回転糸切り付け高台。高台部：短くやや外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
28	H－5 埋土	坏 土師器	①［12.3］ ②［　3.5］	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型 弱い稜有
29	H－5 埋土	高台椀 須恵器	①　　－ ②（　3.5）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部：ほぼ欠損。内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。高台部：短く外傾。削りだし高台。	還元焔焼成
30	H－6 床直	蓋 須恵器	①［15.4］ ②（　2.6）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁部：緩やかな彎曲から垂直気味に折れて返りなし。内・外面轆轤撫で。天井部：ほぼ欠損。内面轆轤撫で。外面回転篦切り。	還元焔焼成
31	H－6 埋土	坏 土師器	①［11.6］ ②［　3.5］	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	口縁部：外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
32	H－6 埋土	坏 土師器	① [15.2] ② (3.7)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/4	口縁部：外傾、横撫で。底部：浅い平底気味の丸底、内面撫で。外面篦削り。	
33	H－6 床直	坏 土師器	① [18.4] ② (7.0)	①細粒②良好 ③橙色④3/5	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：深い丸底、内面撫で。外面篦削り。	大型
34	H－6 埋土	鉢 土師器	① [20.4] ② (6.8)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：短くやや外反、内・外面横撫で。体部：外傾、内面撫で。外面縦篦削り。底部：欠損。	
35	H－8 埋土	坏 土師器	① [11.4] ② (3.2)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
36	H－9 埋土	坏 土師器	① [9.8] ② (2.3)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、中央部平底気味、内面撫で。外面篦削り。	小型
37	H－10 竈、埋土	高台皿 灰　釉	① [12.6] ② (2.4)	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：短くやや外傾、内・外面轆轤撫で。	漬けがけ
38	H－10 床直	高台椀 須恵器	① [12.6] ② (4.5)	①細粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く直立、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
39	H－10 竈、埋土	高台椀 須恵器	① 12.6 ② 3.8	①中粒②良好 ③灰白色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：肥薄で外傾した体部から肥厚で外反した口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：肥厚で外反、内・外面轆轤撫で。足高高台椀への移行期。	酸化焔焼成
40	H－10 床直	羽　釜 須恵器	① [21.4] ② (9.9)	①細粒②良好 ③橙色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面弱い三角形、上向きに付く。器最大径。横撫で。胴部：上半部やや張りがあり、内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
41	H－10 竈、床直	羽　釜 須恵器	① [24.2] ② (5.9)	①細粒②良好 ③黒色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面弱い三角形、上向きに付く。器最大径。横撫で。胴部：上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
42	H－10 竈、床直	羽　釜 須恵器	① [21.4] ② (24.0)	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。口縁部：直立、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面弱い三角形、上向きに付く。貼り付けが雑。器最大径。横撫で。胴部：上半部やや張りがあり内・外面轆轤撫で。中央部・下半部内面轆轤撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	還元焔焼成、外面煤付着
43	H－10 竈、床直	羽　釜 須恵器	① [18.0] ② (11.4)	①細粒②良好 ③浅黄橙色④破片	轆轤整形。口縁部：直立、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面弱い三角形、上向きに付く。器最大径。横撫で。胴部：上半部内面轆轤撫で、縦方向篦削り。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
44	H－11 床直	坏 土師器	① [10.8] ② 3.3	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	口縁部：短く内傾、内外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
45	H－11 埋土	坏 土師器	① [11.0] ② (3.3)	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：短く内彎気味、内外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
46	H－12 埋土	坏 土師器	① [15.8] ② (4.1)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
47	H－12 床直	坏 土師器	① 13.8 ② 4.5	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾で先端部肥薄、内・外面横撫で。体部：外傾、内面横撫で。外面篦削り。底部：平底、内面撫で。外面篦削り。	
48	H－12 埋土	大　甕 須恵器	① [25.8] ② (4.2)	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部：外傾から先端部外反気味、稜有。内・外面轆轤撫で。二筋の沈線と波状紋が巡る。胴・底部：欠損。	還元焔焼成
49	H－13 床直	坏 土師器	① [13.2] ② (3.5)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短くやや内彎気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
50	H－14 埋土	蓋 須恵器	① [25.0] ② (4.1)	①細粒②良好 ③灰色④1/6	轆轤整形。口縁部：短く直立、内・外面轆轤撫で。返り有。天井部：水平、内面轆轤撫で。外面篦削り。	還元焔焼成
51	H－14 床直	坏 土師器	① [10.8] ② (3.1)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
52	H－14 床直	坏 土師器	① 12.4 ② 3.7	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	底部内面に窯印有
53	H－14 埋土	坏 土師器	① [13.9] ② [3.5]	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
54	H－14 床直	坏 土師器	① [15.4] ② 3.9	①細粒②極良 ③橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
55	H－14 床直	甕 土師器	① [15.8] ② (3.9)	①細粒②良好 ③灰黄褐色④破片	口縁部：短く外傾、先端部沈線巡る。内・外面横撫で。胴部：上半部内面撫で、外面横篦削り。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	
56	H－14 床直	甕 土師器	① [17.4] ② (6.1)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く直立した頸部から短い外傾の口縁部、内・外面横撫で。胴部：上半部内面撫で、外面篦削り。中央部・下半部：欠損。底部：欠損。	
57	H－14 竈、床直	甕 土師器	① [17.8] ② (8.8)	①細粒②良好③にぶい黄橙色④破片	口縁部：短く直立した頸部から短い外傾の口縁部、内・外面横撫で。胴部：上半部内面撫で、外面篦削り。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	
58	H－14 床直	長胴甕 土師器	① [23.6] ② (8.6)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：外反、内・外面横撫で。器最大径になると推定。胴部：上半部内面撫で、外面篦削り。中央部・下半部：欠損。底部：欠損。	
59	H－14 床直	長胴甕 土師器	① [10.8] ② (9.6)	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：外反気味、内・外面横撫で。器最大径になると推定。胴部：上半部内面撫で、外面篦削り。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	
60	H－15 床直	坏 土師器	① [13.1] ② 3.2	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
61	H－15 床直	坏 土師器	① [12.3] ②　3.1	①細粒②良好 ③橙色④3/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
62	H－15 床直	坏 土師器	①　14.0 ②　4.2	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
63	H－15 床直	高台椀 須恵器	① [14.4] ②　3.8	①細粒②良好 ③灰色④1/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面篦削り。高台部：短く外傾、削り出し高台。	還元焔焼成
64	H－16 床直	坏 須恵器	① [13.0] ②　3.5	①細粒②良好 ③灰白色④3/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾の体部から先端部が細くなる口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	還元焔焼成
65	H－17 埋土	高台椀 須恵器	① [16.0] ②（ 5.6）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾の肥薄な体部からやや外反した口縁部、内・外面轆轤撫で。底部・高台部：欠損。	
66	H－18 埋土	水　注 須恵器	① [9.4] ②（ 4.5）	①細粒②良好 ③灰白色④1/8	轆轤整形。天井部：内面轆轤撫で。外面撫で。体部：中央部が器最大径、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面撫で。	還元焔焼成
67	H－18 埋土	蓋 須恵器	① [20.0] ②（ 3.0）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。返り有。天井部：水平から緩やかに屈曲、内・外面轆轤撫で。摘み：欠損。	還元焔焼成
68	H－18 床直	坏 須恵器	① [12.4] ②［ 4.7］	①細粒②良好 ③灰白色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：直立気味の外傾の体部から外傾の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面篦切り。	還元焔焼成
69	H－18 床直	高台椀 須恵器	① [12.5] ②　5.7	①細粒②良好③にぶい黄橙色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から短く外反する口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
70	H－18 竈、埋土	鉢 須恵器	① [21.2] ②（10.5）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。口縁部：直立、内・外面轆轤撫で。体部：外傾から彎曲、内面轆轤撫で。外面上半部轆轤撫で、中央・下半部篦削り。底部：欠損。	片口有
71	H－18 床直	羽　釜 須恵器	① [28.0] ②（12.5）	①細粒②良好 ③灰黄褐色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、肥厚な先端部、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、上向きに付く。器最大径。横撫で。胴部：上半部に胴部最大径があり下半部にいくにしたがって細くなると推定。上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成 内面黒色
72	H－18 床直	羽　釜 須恵器	① [20.0] ②（14.6）	①細粒②良好 ③にぶい褐色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、上向きに付く。器最大径。横撫で。胴部：上半部に胴部最大径があり下半部にいくにしたがって細くなると推定。上半部内・外面轆轤撫で。中央部内面轆轤撫で、外面篦削り。下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
73	H－19 埋土	蓋 須恵器	① [11.0] ②（ 2.3）	①細粒②良好 ③暗灰色④1/3	轆轤整形。口縁部：内彎、内・外面轆轤撫で。返り有。天井部：水平から外傾、内・外面轆轤撫で。摘み：欠損。	還元焔焼成　小型
74	H－19 床直	蓋 須恵器	① [13.9] ②（ 2.0）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部：外傾、内・外面轆轤撫で。返り有。天井部：水平から外傾、内・外面轆轤撫で。摘み：欠損。	還元焔焼成
75	H－19 埋土	坏 土師器	①　10.2 ②　3.0	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短く内彎、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
76	H－19 埋土	坏 土師器	①　11.8 ②　3.5	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く内彎、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
77	H－19 床直	坏 須恵器	① [9.8] ②　3.7	①細粒②良好 ③黄灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾の体部から短くやや外反気味の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転篦切り。	還元焔焼成
78	H－19 竈、床直	高台椀 須恵器	① [15.4] ②　(4.6)	①細粒②良好③にぶい黄橙色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。	酸化焔焼成　内黒 土器　篦磨き有
79	H－19 床直	高台椀 須恵器	① [17.2] ②　7.7	①細粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲から直立気味、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	還元焔焼成 外面全体に自然釉有　肥厚
80	H－20 床直	坏 須恵器	① [12.6] ②　3.1	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾の体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面中央部が出っ張った平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成　雑
81	H－20 床直	高台椀 須恵器	① [10.5] ②　4.6	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲から外傾の体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：外反、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
82	H－20 竈、埋土	鉢 須恵器	① [27.5] ②　16.3	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面撫で。	酸化焔焼成
83	H－20 竈、埋土	羽　釜 須恵器	① [21.4] ②（24.0）	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/5	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、上向きに付く。器最大径。横撫で。胴部：上半部に胴部最大径があり下半部にいくにしたがって細くなる。上半部・中央部内・外面轆轤撫で。下半部外面篦削り、内面轆轤撫で。底部：欠損。	酸化焔焼成 輪積み痕有
84	H－21 埋土	坏 須恵器	①　－ ②（ 1.9）	①細粒②良好③浅黄橙色④底部のみ	轆轤整形。口縁・体部：ほぼ欠損。底部：内面中央部がやや出っ張った平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成　雑
85	H－21 埋土	高台椀 須恵器	① [11.0] ②［ 5.0］	①細粒②良好 ③橙色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から外傾の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
86	H－21 竈、床直	羽　釜 須恵器	① [20.0] ②（ 6.9）	①細粒②良好 ③橙色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、上向きに付く。横撫で。胴部：上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
87	H－21 竈、床直	羽　釜 須恵器	①　－ ②（12.3）	①細粒②良好 ③灰褐色④破片	轆轤整形。口縁部・鍔部：欠損。胴部：上半部・中央部ほぼ欠損。下半部外面篦削り、内面轆轤撫で。	酸化焔焼成
88	H－22 床直	坏 土師器	① [14.2] ②（ 3.2）	①細粒②良好 ③橙色④1/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
89	H－22 床直	高台椀 須恵器	①　－ ②（ 4.4）	①細粒②良好 ③橙色④1／4	轆轤整形。口縁・体部：ほぼ欠損。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成 足高高台椀
90	H－22 埋土	壺 須恵器	①［20.0］ ②（ 6.6）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。口縁部：外反、先端部に一筋の調整痕が巡る。内・外面轆轤撫で。胴部：内・外面轆轤撫で。底部：欠損。	酸化焔焼成
91	H－22 竈、床直	羽　釜 須恵器	①［26.6］ ②（14.9）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。口縁部：やや内傾から先端部直立、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、上向きに付く。横撫で。胴部：上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
92	H－22 竈、床直	羽　釜 須恵器	①［22.6］ ②（12.2）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁部：やや内傾から先端部外傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、やや上向きに付く。横撫で。胴部：上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	胴部外面煤付着
93	H－23 床直	坏 須恵器	①　10.4 ②　 3.1	①細粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	轆轤整形。体部・口縁部：彎曲した体部から短く外傾する口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成　小型
94	H－23 床直	坏 須恵器	①［10.2］ ②　 3.2	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1／2	轆轤整形。体部・口縁部：外傾した体部から短く外反する口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成　小型
95	H－23 埋土	高台椀 須恵器	①［11.6］ ②　 3.6	①細粒②良好③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。体部・口縁部：外傾した体部から外反する口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成 黒色処理 小型
96	H－23 埋土	壺 須恵器	①　－ ②（ 7.9）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：上半部・中央部ほぼ欠損。下半部：内・外面轆轤で。底部：内面轆轤撫で、外面回転篦削り。高台部：削り出し高台。	還元焔焼成
97	H－24 埋土	小　瓶 灰　釉	①　－ ②（ 2.3）	①細粒②良好 ③灰オリーブ④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：ほぼ欠損。一部に施釉。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	
98	H－24 床直	坏 須恵器	①　11.4 ②（ 3.8）	①細粒②良好 ③浅黄橙色④完形	轆轤整形。体部・口縁部：彎曲から外傾する体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
99	H－24 竈、床直	高台椀 須恵器	①［11.9］ ②　 4.9	①細粒②良好 ③橙色④1／2	轆轤整形。体部・口縁部：外傾した体部からやや外反気味の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：外反気味で先細、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
100	H－24 床直	高台椀 灰　釉	①　－ ②（ 2.0）	①細粒②良好③明褐灰色④底部のみ	轆轤整形。体部・口縁部：欠損。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：外傾気味、内・外面轆轤撫で。	面底部外墨書有『院』か？
101	H－24 床直	壺 灰　釉	①　－ ②（12.6）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：外面中央部に施釉。上半部欠損。中央部・下半部内・外面轆轤撫で。底部：短く外傾、内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：内・外面轆轤撫で。	
102	H－24 竈、床直	羽　釜 須恵器	①［20.0］ ②［25.0］	①細粒②良好 ③橙色④2／5	轆轤整形。口縁部：内傾から先端部直立、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形、上向きに付く。横撫で。器最大径。胴部：上半部器最大径。上半部・中央部内・外面轆轤撫で。下半部内面轆轤撫で、外面篦削り。底部：内面轆轤撫で、外面篦削り。	酸化焔焼成
103	H－25 埋土	坏 須恵器	①［ 8.2］ ②　 2.6	①細粒②良好 ③橙色④1／2	轆轤整形。体部・口縁部：外傾する体部からやや外反気味の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
104	H－25 床直	坏 須恵器	①［11.0］ ②（ 3.1）	①細粒②良好 ③浅黄色④破片	轆轤整形。体部・口縁部：外傾する体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：欠損。	酸化焔焼成
105	H－25 床直	羽　釜 須恵器	①［18.4］ ②（ 6.9）	①細粒②良好 ③にぶい褐色④破片	轆轤整形。口縁部：やや内傾、内・外面轆轤撫で。鍔部：断面台形、横撫で。胴部：上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	酸化焔焼成
106	H－25 床直	大　甕 須恵器	①［21.0］ ②（ 9.1）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁部：外反、内・外面轆轤撫で。先端部沈線巡る。胴部：上半部内・外面轆轤撫で。中央部・下半部欠損。底部：欠損。	還元焔焼成
107	H－26 床直	高台椀 須恵器	①［12.6］ ②　 6.2	①細粒②良好 ③橙色④1／2	轆轤整形。体部・口縁部：彎曲から外傾した体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：外反、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
108	H－27 竈、床直	高台皿 灰　釉	①［11.6］ ②　 3.7	①細粒②良好③灰オリーブ色④1／2	轆轤整形。体部・口縁部：外傾の体部から細くなる口縁部。内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く直立、内・外面轆轤撫で。	刷毛塗り
109	H－27 床直	高台椀 須恵器	①　－ ②（ 4.5）	①細粒②良好③にぶい橙色④1／3	轆轤整形。体部・口縁部：ほぼ欠損。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾から先端部外反気味、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
110	H－27 床直	高台椀 須恵器	①　－ ②　 3.1	①細粒②良好③灰白色④高台部のみ	轆轤整形。体部・口縁部：ほぼ欠損。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
111	H－28 床直	高台椀 須恵器	①［13.0］ ②［ 4.4］	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1／3	轆轤整形。体部・口縁部：彎曲する体部から外反気味の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：欠損。	酸化焔焼成
112	H－30 埋土	高台椀 須恵器	①［12.5］ ②　 4.2	①細粒②良好 ③橙色④1／2	轆轤整形。体部・口縁部：外傾する体部から外反気味に開く口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
113	H－30 竈、床直	甕 須恵器	①［18.5］ ②（10.9）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	轆轤整形。口縁部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。胴部：上半部器最大径、内・外面轆轤撫で。底部：欠損。	酸化焔焼成
114	H－31 竈、床直	高台椀 須恵器	①［13.6］ ②　 6.0	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。体部・口縁部：外傾する体部から口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	還元焔焼成 雑
115	H－31 床直	高台椀 須恵器	①［14.2］ ②　 4.6	①細粒②良好 ③灰白色④2／3	轆轤整形。体部・口縁部：外傾する肥薄な体部から外反気味の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	還元焔焼成

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
116	H－31 埋土	高台椀 須恵器	①　－ ②（4.3）	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。体部・口縁部：彎曲して立ち上がった体部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	還元焔焼成
117	H－31 床直	台付甕 土師器	①［13.2］ ②［17.3］	①細粒②良好③にぶい橙色④2/3	口縁部：短く外傾、内面・外面横撫で。胴部：上半部器最大径、内面篦撫で、外面篦削り。中央部・下半部ほぼ欠損。台部：外傾から外反、内・外面撫で。	
118	H－31 竈、床直	甕 土師器	①［22.4］ ②（17.5）	①細粒②良好③にぶい赤褐色④破片	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。頸部：直立気味、内・外面横撫で。胴部：上半部器最大径。上半部・中央部内面横篦撫で、外面篦削り。下半部欠損。	
119	H－31 床直	甕 土師器	①［19.8］ ②（10.0）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。頸部：直立気味、内・外面横撫で。胴部：上半部器最大径。上半部内面横篦撫で、外面篦削り。中央・下半部欠損。	
120	H－34 床直	坏 土師器	①　9.4 ②　3.1	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
121	H－34 床直	坏 土師器	①［10.8］ ②　3.2	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
122	H－34 床直	坏 土師器	①［10.4］ ②　3.6	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	口縁部：短くやや外傾気味、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型
123	H－34 床直	坏 土師器	①［14.6］ ②　5.0	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短く内傾、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	大型
124	H－34 埋土	坏 須恵器	①［12.0］ ②（3.4）	①細粒②良好 ③暗灰色④破片	口縁部：短く直立、内・外面轆轤撫で。底部との接合部にしっかりした三角形の稜が水平に付く。底部：丸底、内・外面轆轤撫で。	
125	H－34 竈、床直	長胴甕 土師器	①［20.6］ ②（34.8）	①細粒②良好 ③橙色④4/5	口縁部：先細になる外反気味、内・外面横撫で。器最大径。胴部：上半部胴部最大径。内面横篦撫で。外面斜め篦削り。	竈の袖に使用
126	H－34 竈、床直	長胴甕 土師器	①［21.4］ ②（17.2）	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：先細になる外反気味、内・外面横撫で。器最大径。胴部：上半部胴部最大径、内面横篦撫で。外面斜め篦削り。中央部・下半部欠損。	竈の袖に使用
127	H－35 埋土	坏 土師器	①［12.2］ ②（2.9）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：短く外傾気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
128	H－35 床直	長胴甕 土師器	①［21.4］ ②（5.7）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	口縁部：外反気味、内・外面横撫で。器最大径。胴部：上半部内面篦撫で、外面斜め篦削り。中央部・下半部欠損。	
129	T－2 床直	坏 須恵器	①　10.2 ②　3.3	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：内彎気味の体部からやや直立した口縁部に至る。内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面中央部がやや突出、轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
130	T－2 床直	高台椀 須恵器	①　9.7 ②　3.5	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲、内面轆轤撫で後篦磨き。外面轆轤撫で、先端部のみ篦磨き。底部：内面轆轤撫で後篦磨き。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成 内黒土器
131	T－2 床直	高台椀 須恵器	①　9.8 ②　4.4	①細粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：彎曲から外傾の体部から口縁部、内面轆轤撫で後篦磨き。外面轆轤撫で、先端部のみ篦磨き。底部：内面轆轤撫で後篦磨き。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成 内黒土器
132	T－2 床直	高台椀 須恵器	①　10.2 ②　3.9	①細粒②良好③明黄褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から外傾の口縁部、内面轆轤撫で後篦磨き。外面轆轤撫で、先端部のみ篦磨き。底部：内面轆轤撫で後篦磨き。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成 内黒土器
133	T－2 床直	高台椀 須恵器	①［9.2］ ②　4.0	①細粒②良好 ③橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲から外傾の体部から口縁部、内面轆轤撫で後篦磨き。外面轆轤撫で、先端部のみ篦磨き。底部：内面轆轤撫で後篦磨き。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成 内黒土器
134	T－2 床直	高台椀 須恵器	①　10.0 ②　3.9	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から短く外反した口縁部、内面轆轤撫で後篦磨き。外面轆轤撫で、外面先端部に油の燃え滓が付着。底部：内面轆轤撫で後篦磨き。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外傾から外反、内・外面轆轤撫で。	還元焔焼成 内黒土器
135	T－2 床直	高台椀 須恵器	①　16.1 ②　6.5	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾の体部からやや外反した口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：ほぼ中央部に焼成後空いたと思われる穿孔有。内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
136	T－2 床直	高台椀 須恵器	①　14.2 ②　7.5	①細粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：内彎気味の体部からやや外反した口縁部に至る。内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：長く外傾、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成　足高高台椀
137	W－2 埋土	摺鉢 須恵器	①　－ ②（1.2）	①細粒②良好③にぶい黄橙色④破片	轆轤整形。体部：欠損。底部：内面轆轤撫で。ミゾ有。外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
138	D－5 埋土	ﾐﾆｭﾁｭｱ 須恵器	①　3.5 ②　2.1	①細粒②良好 ③黒橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：直立、内・外面轆轤撫で後篦磨き。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り周辺部調整。	黒色土器
139	D－5 埋土	坏 須恵器	①［9.6］ ②　1.8	①細粒②良好 ③橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
140	D－5 床直	坏 須恵器	①　10.4 ②　1.9	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾する体部から外反の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内側に突出気味。内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
141	D－7 埋土	高台椀 須恵器	①　10.9 ②　5.0	①細粒②良好 ③淡黄色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲する体部から外傾の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で。外面回転糸切り付け高台。高台部：短く外反気味、内・外面轆轤撫で。	酸化焔焼成
142	D－8 埋土	坏 土師器	①［11.0］ ②（2.9）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	小型

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
143	D－14 埋土	坏 須恵器	①［12.8］ ②　3.8	①細粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾する体部から外反の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	還元焔焼成
144	D－25 埋土	蓋 須恵器	①［16.4］ ②（2.3）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁部：緩やかに彎曲、内・外面轆轤撫で。わずかな返り有。天井部：欠損。	還元焔焼成
145	D－39 床直	坏 土師器	①［11.6］ ②（3.7）	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
146	D－39 床直	坏 土師器	①［13.1］ ②（3.7）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④3/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
147	D－39 埋土	坏 土師器	①［12.4］ ②　3.6	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
148	D－39 床直	坏 土師器	①［12.8］ ②　3.6	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
149	D－39 床直	坏 土師器	①［13.0］ ②（2.9）	①細粒②良好 ③橙色④1/6	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
150	D－39 床直	坏 土師器	①［15.0］ ②（4.9）	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で。外面篦削り。	
151	D－39 床直	坏 土師器	①［17.6］ ②（5.9）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	放射線状の暗文有　漆付着
152	D－39 埋土	坏 土師器	①　－ ②（1.7）	①細粒②良好 ③明赤褐色④破片	口縁部：わずかに残存。底部：欠損。	内面に篦記号有
153	D－39 床直	大　甕 須恵器	①　－ ②　－	①細粒②良好 ③浅黄橙色④破片	口縁部：外傾、先端部外反気味、内・外面轆轤撫で。胴部・底部：欠損。	酸化焔焼成
154	D－69 床直	坏 須恵器	①［11.1］ ②　3.5	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：彎曲する体部から短く外反気味の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
155	周溝状遺構－2　床直	蓋 須恵器	①［20.6］ ②（3.7）	①細粒②良好 ③灰色③破片	轆轤整形。口縁部：緩やかに彎曲、内・外面轆轤撫で。わずかな返り有。天井部：内面轆轤撫で。外面回転篦切り後轆轤撫で。	還元焔焼成
156	周溝状遺構－2　床直	壺 土師器	①　－ ②（12.3）	①細粒②良好 ④頸部より上部欠損	口縁・頸部：欠損。体部：上半部器最大径、内面撫で（？）。外面篦削り。底部：中央部に直径5㎜の穿孔有。内・外面撫で。台部：短く外傾、内・外面撫で。	
157	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①　8.6 ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
158	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①　8.6 ②　2.3	①細粒②良好 ③浅橙橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
159	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①　8.0 ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
160	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.2］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面中央部が高くなる平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
161	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.6］ ②　2.2	①細粒②良好③浅橙橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面板目有。	カワラケ
162	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.5］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
163	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.0］ ②　2.3	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
164	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.0］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面板目有。	カワラケ
165	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［7.8］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面切り離し不明。	カワラケ
166	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.2］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面板目有。	カワラケ
167	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［7.6］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、両者の境に一筋の沈線が巡る。内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
168	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［7.9］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい橙色④破片	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、体部に横篦磨き有。内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面板目有。	カワラケ
169	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.0］ ②　2.1	①細粒②良好 ③橙色④破片	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面切り離しは不明。	カワラケ
170	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.4］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
171	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［9.2］ ②　2.1	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ
172	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①［8.2］ ②　1.9	①細粒②良好 ③橙色④破片	轆轤整形。口縁・体部：二段気味の外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面切り離しは不明。	カワラケ
173	土器埋納土坑－1　床直	坏 須恵器	①　8.0 ②　1.9	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、両者の境に一筋の沈線が巡る。内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り未調整。	カワラケ 全面に煤付着

番号	遺構層位	器　種	①口径 ②器高	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
174	土器埋納土坑 －2　床直	坏 須恵器	①　8.8 ②　2.0	①細粒②良好 ③浅黄色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り周辺部調整。	カワラケ
175	土器埋納土坑 －2　床直	坏 須恵器	①　8.7 ②　2.9	①細粒②良好③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾する体部から外反の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り周辺部調整。	カワラケ
176	土器埋納土坑 －2　床直	坏 須恵器	①　8.7 ②　2.3	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾する体部から外反の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り周辺部調整。	カワラケ
177	土器埋納土坑 －2　床直	坏 須恵器	①　8.0 ②　1.9	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾する体部から外反の口縁部、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り周辺部調整。	カワラケ
178	不明遺構－1 埋土	蓋 須恵器	①　15.4 ②　3.0	①細粒②良好③オリーブ灰色④完形	轆轤整形。口縁部：緩やかに彎曲、内・外面轆轤撫で。返り有。天井部：内面轆轤撫で。外面回転篦切り後轆轤撫で。環状摘み有。	還元焔焼成
179	不明遺構－1 埋土	坏 須恵器	①［10.6］ ②　3.4	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：平底、内面轆轤撫で。外面回転糸切り後調整。	酸化焔焼成
180	X90、Y131 埋土	蓋 須恵器	①　13.0 ②　2.1	①細粒②良好 ③灰色④完形	轆轤整形。口縁部：緩やかに彎曲、内・外面轆轤撫で。返り有。天井部：内面轆轤撫で。外面回転篦切り後轆轤撫で。環状摘み有。	還元焔焼成
181	X108、Y131 埋土	坏 須恵器	①［10.8］ ②　2.2	①細粒②良好 ③黄灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部：短く外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面轆轤撫で、外面篦削り。	小型
182	X119、Y131 埋土	坏 土師器	①［13.0］ ②（3.6）	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で。外面篦削り。	
183	C区 表彩	高台椀 青　磁	①　－ ②　－	①細粒②良好③オリーブ灰色④破片	口縁・体部のわずかな破片のみ。	蓮弁文

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より10cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②大きさの単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 9　出土古銭一覧表

No	遺構･出土位置	名　　称	材	年　　代	西暦	種　類	17	DB－6・埋土	淳化元宝（真）	銅	北宋 淳化元年	990	渡来銭
1	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	18	DB－6・埋土	元祐通宝（篆）	銅	北宋 元祐元年	1086	渡来銭
2	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	19	DB－6・埋土	明道元宝（真）	銅	北宋 明道元年	1032	渡来銭
3	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	20	DB－7・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
4	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	21	DB－7・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
5	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	22	DB－7・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
6	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	23	DB－7・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
7	DB－1・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	24	DB－7・埋土	元豊通宝（真）	銅	北宋 元豊元年	1078	渡来銭
8	DB－1・埋土	祥符元宝	銅	北宋 大中祥符元年	1008	渡来銭	25	DB－7・埋土	元□□宝	銅			渡来銭
9	DB－2・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭	26	DB－8・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
10	DB－2・埋土	景徳元宝	銅	北宋 景徳元年	1004	渡来銭	27	DB－8・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
11	DB－2・埋土	景徳元宝	銅	北宋 景徳元年	1004	渡来銭	28	DB－8・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
12	DB－5・埋土	元祐通宝（篆）	銅	北宋 元祐元年	1086	渡来銭	29	DB－8・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
13	DB－5・埋土	元祐通宝（篆）	銅	北宋 元祐元年	1086	渡来銭	30	DB－8・埋土	永楽通宝	銅	明　永楽６年	1408	渡来銭
14	DB－5・埋土	開元通宝	銅	唐　武徳４年	621	渡来銭	31	W－５・床直	祥符通宝	銅	北宋 大中祥符２年	1009	渡来銭
15	DB－5・埋土	祥符元宝	銅	北宋 大中祥符元年	1008	渡来銭	32	D－107・埋土	開元通宝	銅	唐　武徳４年	621	渡来銭
16	DB－5・埋土	元符通宝（真）	銅	北宋 元符元年	1098	渡来銭	33	P－45・埋土	開元通宝	銅	唐　武徳4年	621	渡来銭

Tab.10　瓦観察表

No	遺構層位	器　種	①長さ ②厚さ	①胎土　②焼成 ③色調　④依存度	器形・技術等の特徴	備　考
1	H－18 埋土	鎧　瓦	①（ 5.9） ②　　－	①細粒②良好 ③灰色④瓦当のみ	瓦当部＋男瓦部。瓦当部：単弁８葉蓮華文。中房に１＋４の子葉、二重の界線文を配す。裏面男瓦との接合痕有。男瓦部：ほぼ欠損。	還元焔焼成 煤付着
2	H－21 埋土	鎧　瓦	①（ 5.9） ②　　－	①細粒②良好 ③灰色④瓦当のみ	瓦当部＋男瓦部。瓦当部：複弁７葉蓮華文の抽象化。中心に殊点中房、弁間に殊文を配す。裏面撫で。男瓦部：ほぼ欠損。放光寺跡創建意匠群中の複弁７葉蓮華文に祖形がある。	還元焔焼成
3	H－21 床直	女　瓦	①（ 5.8） ②　 1.7	①細粒②良好 ③灰色④破片	凹面：布目・糸切条痕有。凸面：撫で後、正格子叩き。側部欠損。	還元焔焼成
4	H－21 埋土	女　瓦	①（25.8） ②　 1.8	①細粒②良好 ③灰色④1/3	桶巻き作り（寄木痕有）。凹面：布目有。糸切条痕有。凸面：轆轤撫で。側部：面取り２回。	還元焔焼成
5	H－22 床直	男　瓦	①（16.9） ②　 1.8	①細粒②良好 ③灰色④破片	桶巻き作り（寄木痕有）。凹面：布目有。凸面：糸切り条痕有。擦り消し。側部：面取り２回。	還元焔焼成
6	H－24 埋土	宇　瓦	①（ 7.6） ②　 2.9	①細粒②良好 ③灰色④破片	瓦当部：右偏行唐草文。外区に殊文を配す。顎部：赤色塗彩有。女瓦部・側部：ほぼ欠損。凹・凸面撫で。国分寺創建統一意匠。	還元焔焼成
7	H－24 竈、埋土	男　瓦	①（22.8） ②　 1.5	①細粒②良好 ③灰色④破片	桶巻き造り。凹面：布目有。凸面：縄叩き後、轆轤撫で。削り痕有。側部：面取り２回。	還元焔焼成
8	H－31 埋土	女　瓦	①（18.8） ②　 2.1	①細粒②良好 ③褐灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：縄叩き後、縦方向箆削り。側部：面取り２回。粘土合わせ目有。	還元焔焼成
9	H－31 埋土	女　瓦	①（15.4） ②　 2.7	①細粒②良好 ③青灰色④破片	一枚作り。凹面：撫で、布目残る。糸切条痕有。凸面：縦方向撫で。文字『鄙』有。側部：面取り２回。	還元焔焼成
10	H－33 竈、埋土	男　瓦	①（29.8） ②　 1.9	①細粒②良好③にぶい褐色④破片	桶巻き作り。凹面：布目有。布の継ぎ目有。凸面：縄叩き後、轆轤撫で。指圧痕有。側部：面取り２回。	酸化焔焼成
11	H－33 竈、埋土	女　瓦	①（22.1） ②　 2.6	①細粒②良好③にぶい褐色④破片	一枚作り。凹面：布目有。糸切条痕有。凸面：縄叩き痕有。側面部：面取り２回。	還元焔焼成
12	H－33 竈、埋土	女　瓦	①（23.5） ②　 1.4	①細粒②良好 ③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。糸切条痕有。文字『七』有。凸面：縄叩き後、撫で。側部：面取り１回。支脚として使用されていた。	酸化焔焼成
13	A－2 床直	女　瓦	①（ 9.2） ②　 2.1	①細粒②良好 ③灰色④破片	桶巻き作り（樽寄木痕有）。凹面：布目有。糸切条痕有。凸面：轆轤撫で後、正格子叩き。粘土板の合わせ目の可能性有。	還元焔焼成

注）各項目について、土器観察表の注釈に従い記述した。

Tab.11　鉄器・鉄製品観察表

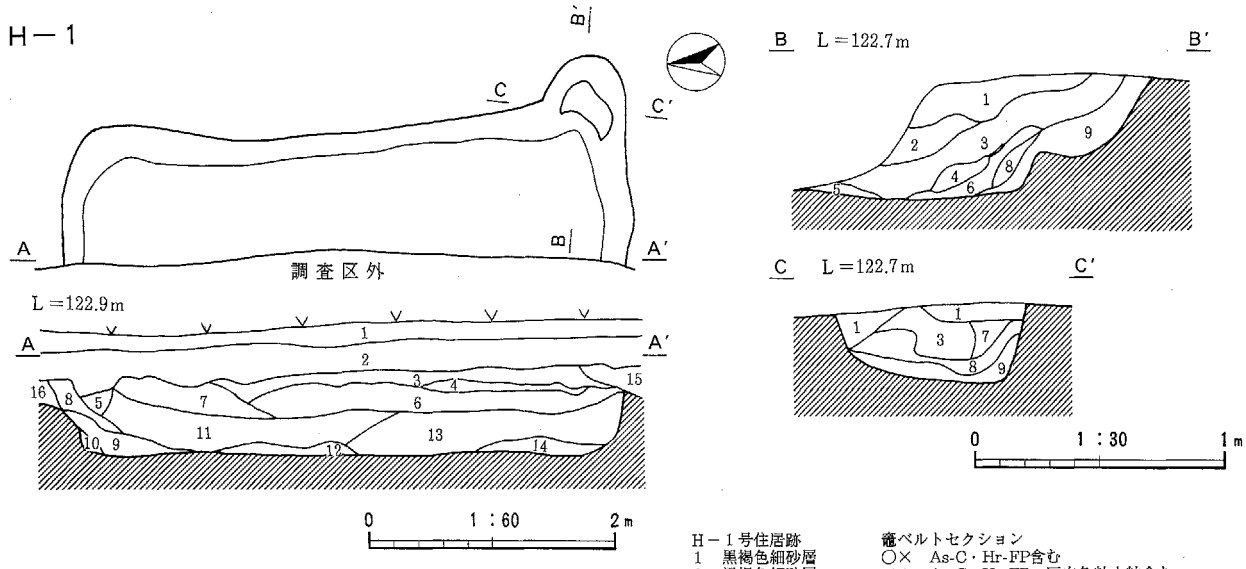
No	遺　構・層　位	器　　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	備　　考
1	H－18・床直	刀　　子	13.4	1.3	0.3	35.0	完　形	特記事項なし
2	H－34・埋土	環状鉄製品	3.1	0.3	0.3	7.9	1／3	特記事項なし
3	H－34・埋土	ﾌｯｸ状鉄製品	2.7	0.9	0.8	23.6	1／2	特記事項なし
4	T－2・埋土	飾り金具	6.9	3.0	0.6	17.6	完　形	特記事項なし
5	T－2・埋土	釘	8.1	0.7	0.7	7.6	完　形	特記事項なし
6	T－2・床直	釘	10.0	0.7	0.8	14.4	完　形	特記事項なし
7	D－88・埋土	帯金具	3.0	0.5	0.2	1.9	1／2	特記事項なし
8	D－128・埋土	帯金具	3.1	0.3	0.3	0.6	1／3	特記事項なし
9	DB－2・床直	刀　　子	19.5	1.4	0.4	22.4	ほぼ完形	特記事項なし

注）各項目について、土器観察表の注釈に従い記述した。

Tab.12　石器・石製品観察表

No	遺　構・層　位	器　　種	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	備　　考
1	H－3・埋土	石　　斧	13.4	9.4	2.6	395.0	黒色頁岩	完　形	特記事項なし
2	H－8・埋土	石　　鏃	1.4	2.1	0.3	0.9	黒　曜　石	完　形	特記事項なし
3	H－24・埋土	臼　　玉	1.3	1.2	1.2	4.0	滑　　石	完　形	特記事項なし
4	A－2・床直	砥　　石	4.6	4.0	3.4	90.5	流　紋　岩	破　片	4面使用痕有
5	X131、Y129	石　　剣	11.4	2.4	1.5	65.0	輝　流　岩	破　片	特記事項なし
6	B区・表採	砥　　石	5.2	2.0	1.5	25.0	流　紋　岩	破　片	4面使用痕有

注）各項目について、土器観察表の注釈に従い記述した。

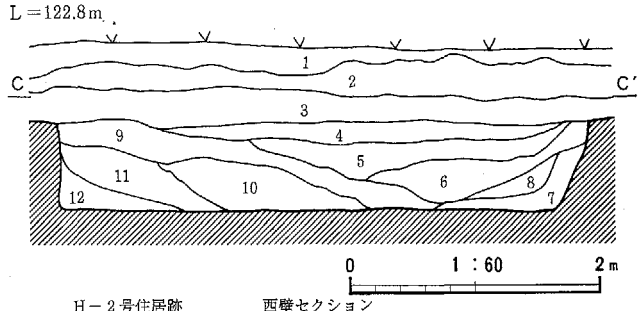


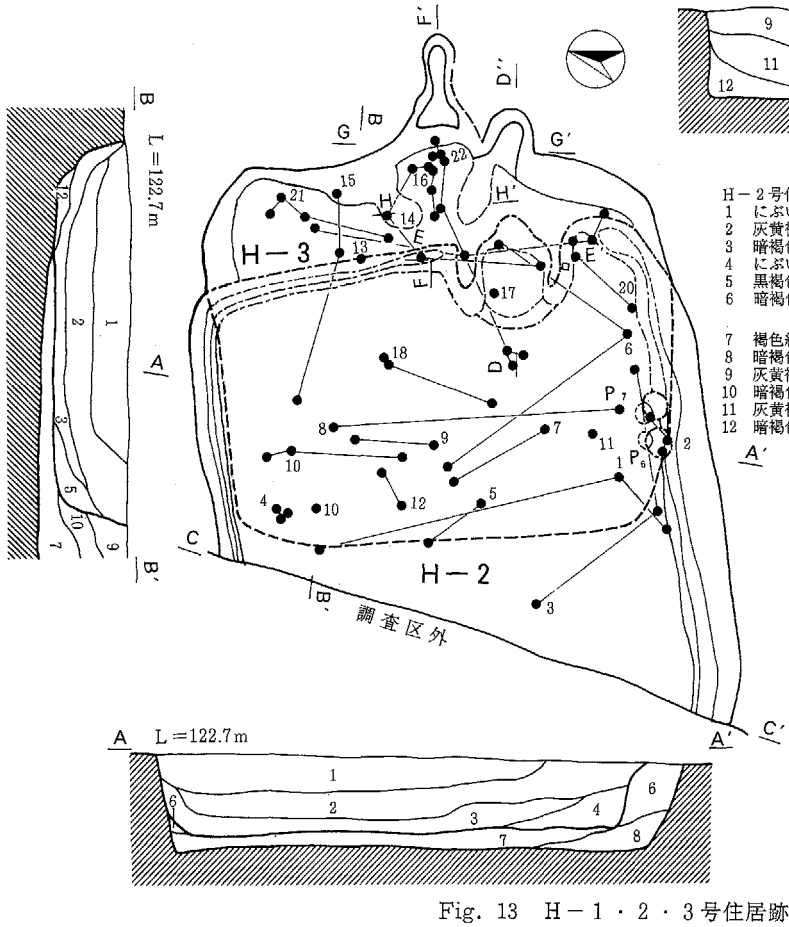
H－1号住居跡　西壁セクション

1	黒褐色粗砂層	○×	現耕作土　As-B混じる
2	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
3	黒褐色粗砂層	○×	As-Bブロックを含むAs-B混層
4	黒褐色粗砂層	○×	As-B純層（As-B灰を含む）
5	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、2層よりAs-Bが少なく黒色土を含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
7	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
9	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
10	黒褐色細砂層	△○	9層より軽石を少なく含む
11	暗褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP含む
12	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
13	暗褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
14	黒色細砂層	○○	下部に灰層が広がり、竈の崩れた粘土が全体に入る
15	暗褐色粗砂層	○×	As-B混じる（W－3号溝跡埋土）
16	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・ローム粒含む

H－1号住居跡　竈ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	×△	As-C・Hr-FP・灰白色粘土粒含む
3	黒褐色細砂層	○○	灰白色粘土ブロックが多量に混入する
4	暗褐色細砂層	×○	灰白色粘土粒含む
5	暗灰色細砂層	×○	灰層
6	黒色細砂層	×○	灰白色粒ブロックを含む
7	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
8	黒褐色細砂層	×○	As-C・Hr-FP含む
9	黒色細砂層	×○	As-C・Hr-FP含む





H－2号住居跡　西壁セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○×	現耕作土
2	灰黄褐色細砂層	○×	Hr-FP含む
3	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
4	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土小塊含む
5	黒褐色細砂層	△△	Hr-FP・黄橙色土ブロック含む
6	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土小塊含む、炭化物わずかに含む
7	褐色細砂層	△△	As-Cわずかに含む、黄橙色土小塊混じる
8	暗褐色細砂層	△△	As-C含む
9	灰黄褐色細砂層	△△	Hr-FP含む、黄橙色土小塊・ブロック混じる
10	暗褐色細砂層	○△	黄橙色土ブロック多量に混じる
11	灰黄褐色細砂層	△△	Hr-FPわずかに含む、黄橙色土ブロック混じる
12	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土ブロック混じる

H－2号住居跡柱穴等計測表

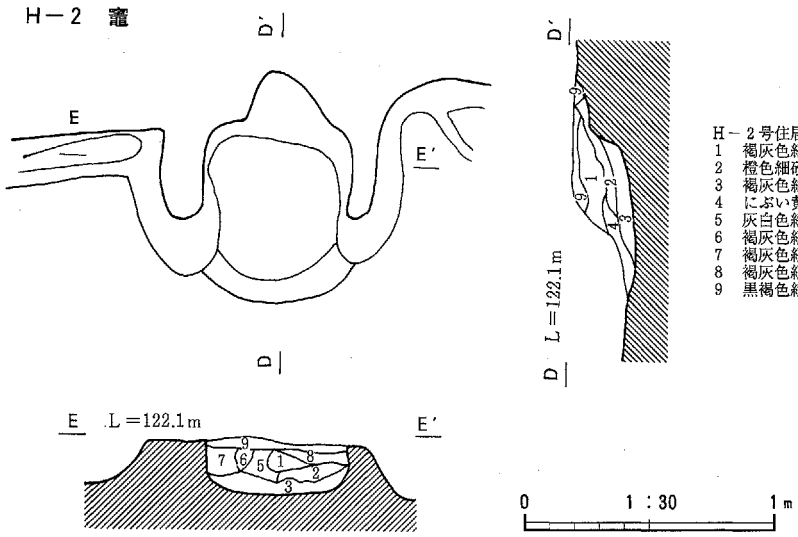
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_6	円　形	21	18.5	22	
P_7	円　形	21	18	28	

H－3号住居跡　ベルトセクション

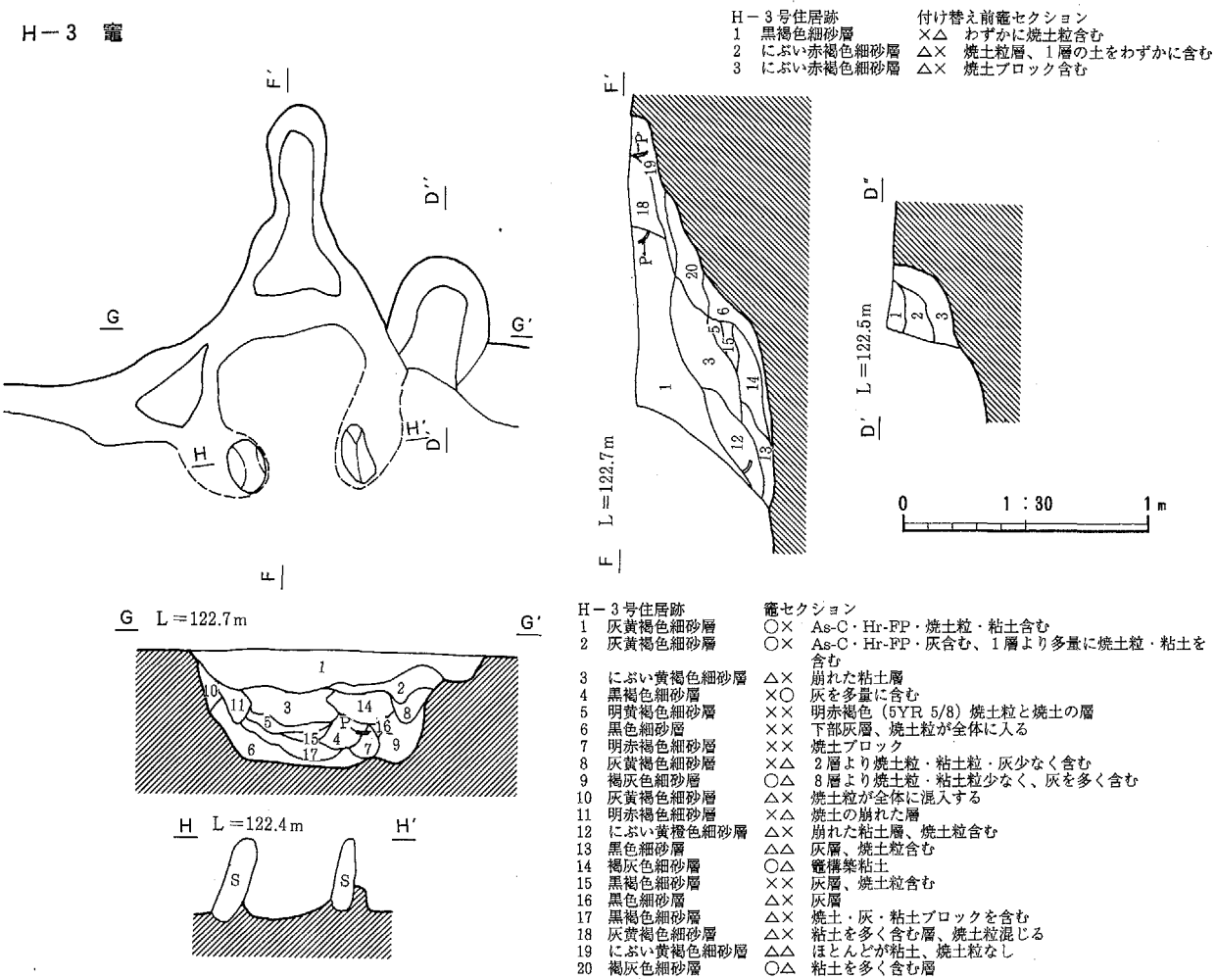
1	暗褐色細砂層	△△	As-C含む、Hr-FP混じる
2	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
3	黒褐色細砂層	△△	Hr-FP・黄橙色土小塊含む
4	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土ブロック混じる
5	黒褐色細砂層	△△	As-C粒わずかに含む、黄橙色土小塊含む
6	黒褐色細砂層	○△	As-C含む、Hr-FP混じる、黄橙色土小塊わずかに含む
7	暗褐色細砂層	△△	As-C含む、Hr-FP混じる、黄橙色土小塊含む
8	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
9	灰黄褐色細砂層	△△	Hr-FP・黄橙色土小塊含む
10	灰黄褐色細砂層	△△	Hr-FPわずかに含む、黄橙色土ブロック混じる
11	暗褐色細砂層	×△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色小塊わずかに含む
12	黒褐色細砂層	△△	As-C・焼土・炭化物わずかに含む、灰を含む

0　1：60　2m

Fig. 13　H－1・2・3号住居跡



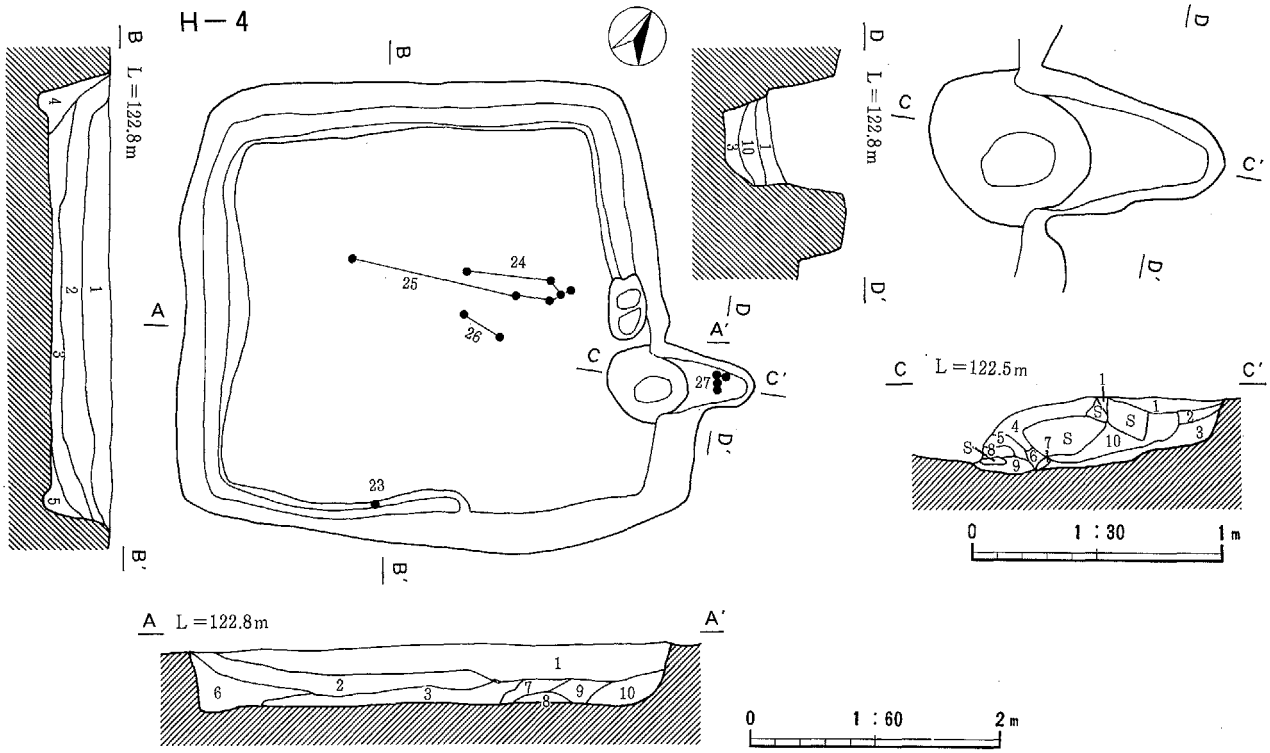
H－2号住居跡		竈ベルトセクション	
1	褐灰色細砂層	△△	灰白色粘土粒含む
2	橙色細砂層	××	天井の粘土が崩れた焼土ブロック含む層
3	褐灰色細砂層	×△	灰層
4	にぶい黄橙色細砂層	△△	崩れた焼土を中心とする層
5	灰白色細砂層	××	灰白色粘土に焼土粒をわずかに含む
6	褐灰色細砂層	×○	橙色焼土ブロック含む
7	褐灰色細砂層	△○	灰白色粘土と焼土の粒を含む
8	褐灰色細砂層	△×	1層より粘土の含みが少ない
9	黒褐色細砂層	○×	Hr-FP含む、(H－3号住居跡の貼床)



H－3号住居跡		付け替え前竈セクション	
1	黒褐色細砂層	×△	わずかに焼土粒含む
2	にぶい赤褐色細砂層	△×	焼土粒層、1層の土をわずかに含む
3	にぶい赤褐色細砂層	△×	焼土ブロック含む

H－3号住居跡		竈セクション	
1	灰黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP・焼土粒・粘土含む
2	灰黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP・灰含む、1層より多量に焼土粒・粘土を含む
3	にぶい黄褐色細砂層	△×	崩れた粘土層
4	黒褐色細砂層	×○	灰を多量に含む
5	明黄褐色細砂層	××	明赤褐色（5YR 5/8）焼土粒と焼土の層
6	黒色細砂層	××	下部灰層、焼土粒が全体に入る
7	明赤褐色細砂層	××	焼土ブロック
8	灰黄褐色細砂層	×△	2層より焼土粒・粘土粒・灰少なく含む
9	褐灰色細砂層	○△	8層より焼土粒・粘土粒少なく、灰を多く含む
10	灰黄褐色細砂層	△×	焼土粒が全体に混入する
11	明赤褐色細砂層	×△	焼土の崩れた層
12	にぶい黄橙色細砂層	△×	崩れた粘土層、焼土粒含む
13	黒色細砂層	△△	灰層、焼土粒含む
14	褐灰色細砂層	○△	竈構築粘土
15	黒褐色細砂層	××	灰層、焼土粒含む
16	黒色細砂層	△×	灰層
17	黒褐色細砂層	△×	焼土・灰・粘土ブロックを含む
18	灰黄褐色細砂層	△×	粘土を多く含む層、焼土粒混じる
19	にぶい黄褐色細砂層	△△	ほとんどが粘土、焼土粒なし
20	褐灰色細砂層	○△	粘土を多く含む層

Fig. 14　H－2・3号住居跡　竈

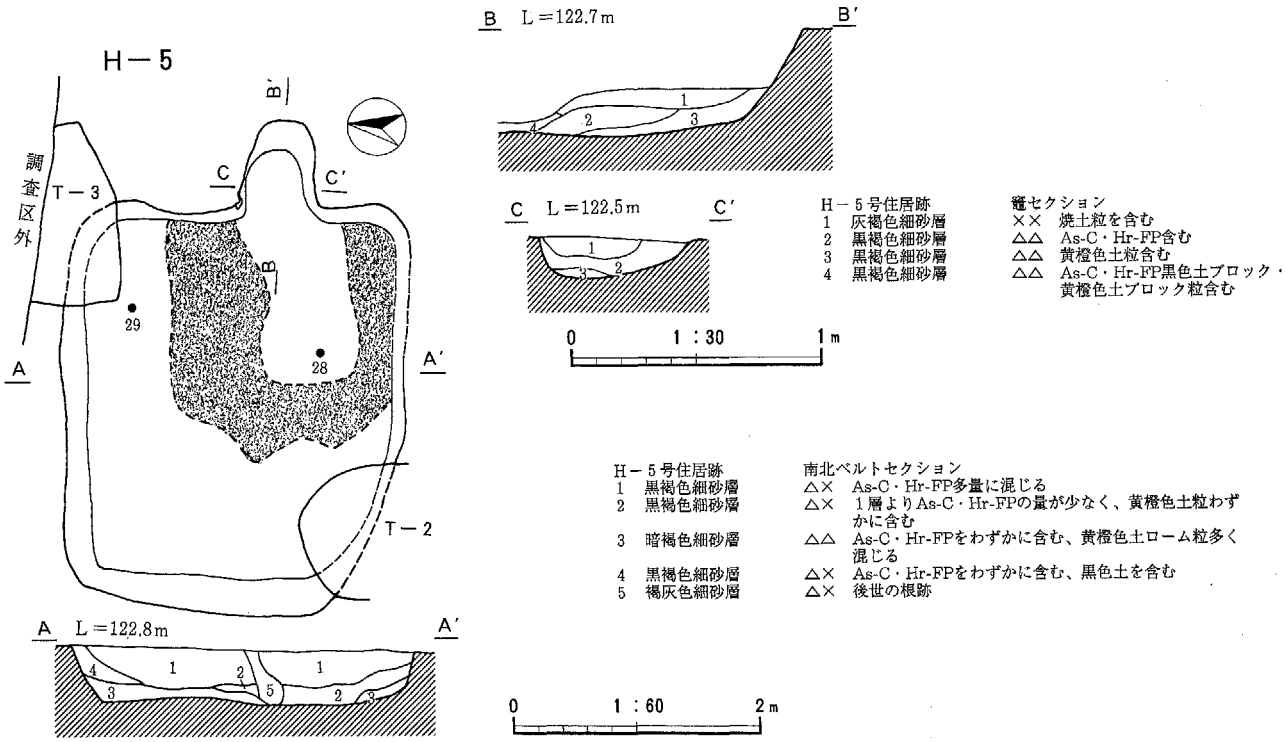


H－4号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土ローム粒わずかに含む
3	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土ローム粒を2層より大きく、多く含む
4	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP・黄橙色土ローム粒わずかに含む、地山のロームの崩れたもの（3層）と黄橙色土ロームとの混じり
5	にぶい黄褐色細砂層	△△	地山のロームの崩れたものと埋土（3層）との混じり 4層より地山の割合が高い
6	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒含む
7	にぶい黄褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、3層より小さい黄橙ローム粒少量含む
8	にぶい黄褐色細砂層	○×	黄橙色土ローム粒・灰黄褐色土粒含む、竈の粘土の崩れたもの
9	にぶい黄褐色細砂層	△△	にぶい黄橙色粘土粒・As-C・Hr-FP含む
10	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む

H－4号住居跡　竈セクション

1	灰黄褐色微砂層	△△	焼土粒含む
2	黒褐色微砂層	△△	焼土ブロック含む
3	暗褐色微砂層	××	灰が多く混じる
4	灰黄褐色微砂層	△△	明黄褐色粘土粒含む
5	褐灰色細砂層	△△	灰黄褐色粘土粒含む
6	褐灰色微砂層	△○	灰・焼土粒含む
7	灰黄褐色微砂層	××	灰が多く混じる
8	灰黄褐色微砂層	△△	明黄褐色粘土粒含む
9	黒褐色微砂層	△△	炭化物含む
10	灰黄褐色細砂層	△△	橙色焼土粒がうすく入る



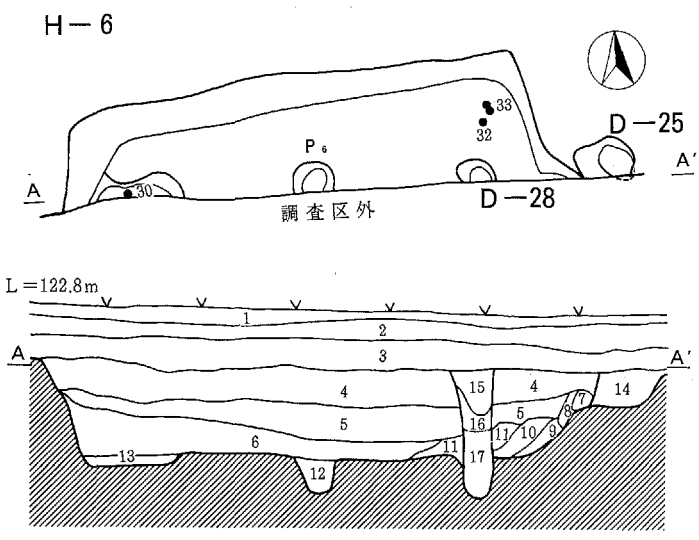
H－5号住居跡　竈セクション

1	灰褐色細砂層	××	焼土粒を含む
2	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
3	黒褐色細砂層	△△	黄橙色土粒含む
4	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP黒色土ブロック・黄橙色土ブロック粒含む

H－5号住居跡　南北ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP多量に混じる
2	黒褐色細砂層	△×	1層よりAs-C・Hr-FPの量が少なく、黄橙色土粒わずかに含む
3	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FPをわずかに含む、黄橙色土ローム粒多く混じる
4	黒褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FPをわずかに含む、黒色土を含む
5	褐灰色細砂層	△×	後世の根跡

Fig. 15　H－4・5号住居跡



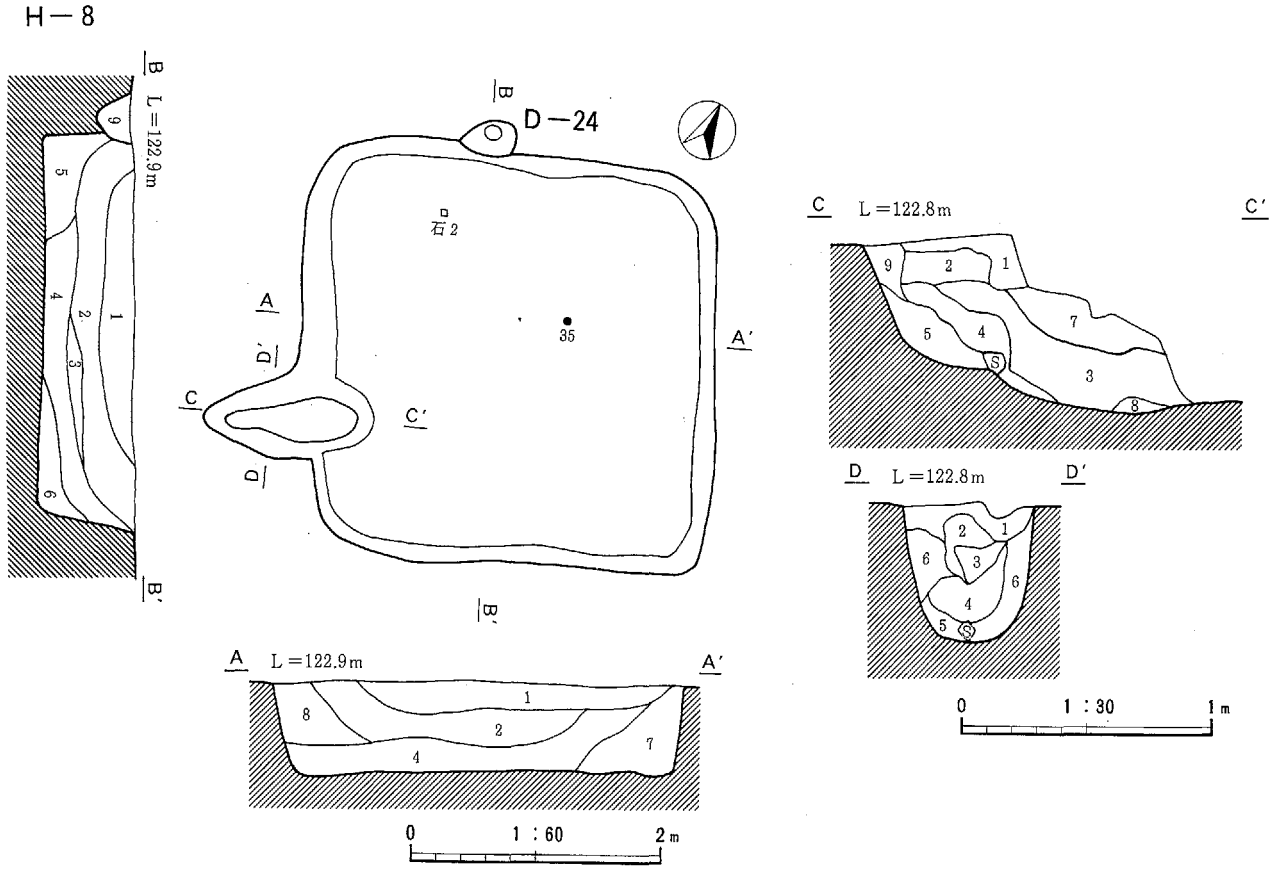
H－6号住居跡、D－25・28号土坑　南壁セクション

1	褐灰色粗砂層	××	現耕作土
2	褐灰色粗砂層	△×	現耕作土
3	灰黄褐色粗砂層	△×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
4	暗褐色細砂層	××	As-C・Hr-FP含む
5	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP多量に含む
6	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP含む
7	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
8	にぶい黄褐色細砂層	○○	粘土・黒色土とロームの混じり、焼土粒あり
9	黒褐色細砂層	×○	黒色土に粘土が混じる
10	黒褐色細砂層	×○	9層より黒色土を多く含む
11	灰黄褐色細砂層	○○	焼土含む、粘土層
12	褐灰色細砂層	△×	焼土粒が多く混じる
13	黒褐色細砂層	×○	As-C・Hr-FPわずかに含む
14	黒褐色細砂層	×△	As-C・Hr-FPわずかに含む（D－25号土坑埋土）
15	黒褐色粗砂層	△△	As-C・Hr-FP含む（D－28号土坑埋土）
16	黒色粗砂層	△×	As-C・Hr-FP含む（D－28号土坑埋土）
17	黒色粗砂層	△×	16層より軽石の粒が大きい（D－28号土坑埋土）

H－6号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P6	楕円形	33	24	19.5	

0　1：60　2m



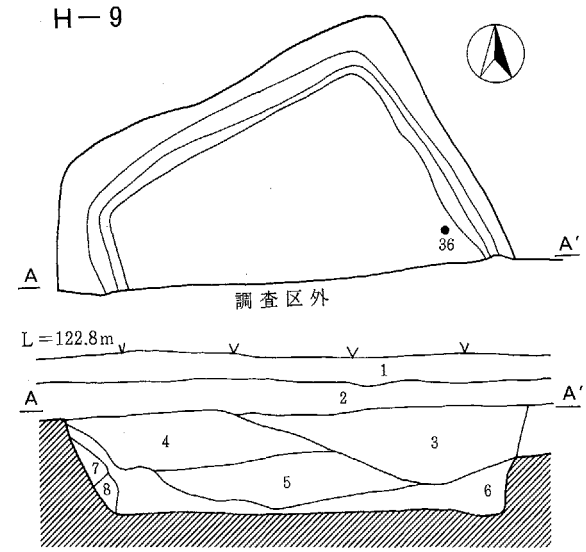
H－8号住居跡、D－24号土坑　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒・ブロック含む
2	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP含む、1層よ黄橙色土ブロック多く混じる
3	暗褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP・黄橙色土ブロック含む
4	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土粒・ブロック多く混じる
5	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒含む
6	褐灰色細砂層	×△	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒・ブロック含む
7	黒褐色細砂層	××	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒・ブロック含む
8	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒・ブロック含む
9	褐灰色粗砂層	××	As-B混じる（D－24号土坑埋土）

H－8号住居跡　竈セクション

1	褐灰色細砂層	△×	白色粘土と暗褐色土が混じる
2	にぶい黄橙色細砂層	○○	白色粘土層、9層との境が焼けて焼土化している
3	灰黄褐色細砂層	×△	白色粘土にやや暗褐色土・焼土粒が混じっている
4	褐灰色細砂層	××	白色粘土に焼土ブロックと灰が混じる、9層との境が焼けて焼土化している
5	黒褐色細砂層	××	わずかに焼土粒あり、灰が多く混じる
6	暗褐色細砂層	××	
7	灰黄褐色細砂層	○○	3層と比べ、暗褐色土の混じりが少ない
8	橙色細砂層	△△	焼土ブロックと灰の層
9	灰黄褐色細砂層	○△	焼土粒含む、白色粘土と暗褐色土の混じり（煙突か）

Fig. 16　H－6・8号住居跡、D－25・28号土坑

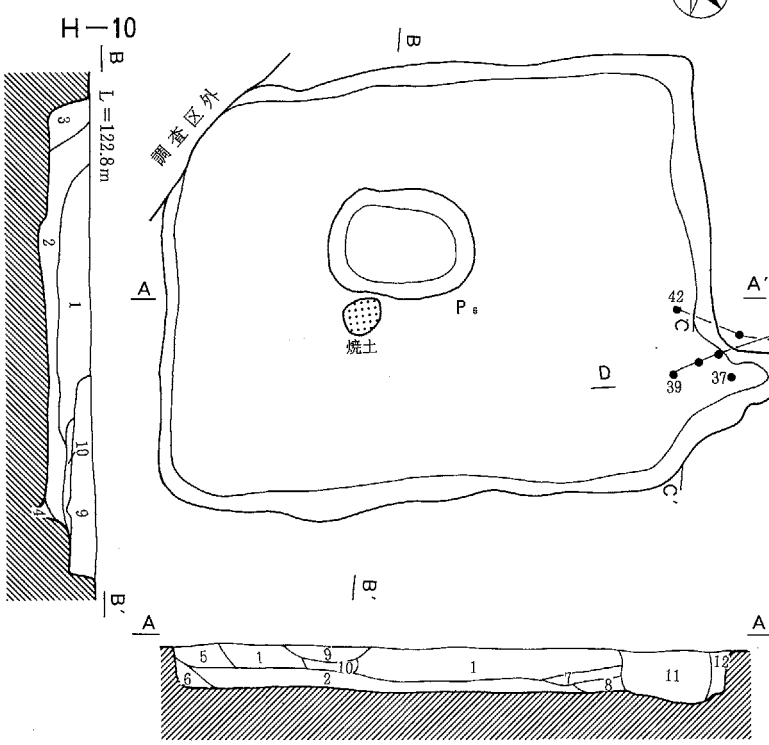


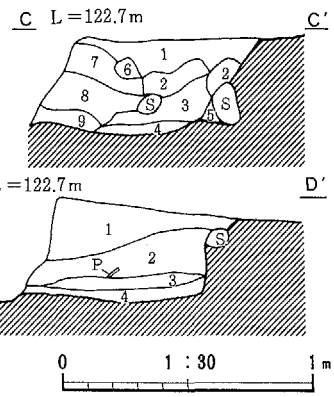
H－9号住居跡　南壁セクション

1	黒褐色粗砂層	××	現耕作土
2	褐灰色粗砂層	××	As-C・Hr-FP、As-B混じる
3	黒褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP・黄橙色土ロームブロック混じる
4	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土ロームブロック混じる
5	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土ロームブロック混じる
6	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土ロームブロック混じる 黒色土含む
7	にぶい黄褐色細砂層	○△	ロームの崩れたもの
8	褐灰色細砂層	△○	軽石層わずかに含む

H－10号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	×△	As-C・Hr-FP含む
2	灰白色細砂層	△△	粘土層の固まり
3	褐灰色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・白色粘土粒含む
4	灰黄褐色細砂層	△×	焼土ブロック・白色粘土粒・灰含む
5	黒褐色細砂層	×△	灰含む
6	褐灰色細砂層	△△	
7	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒含む
8	灰黄褐色細砂層	××	As-C・Hr-FP・焼土粒・灰白色粘土粒含む
9	褐灰色細砂層	×△	灰含む



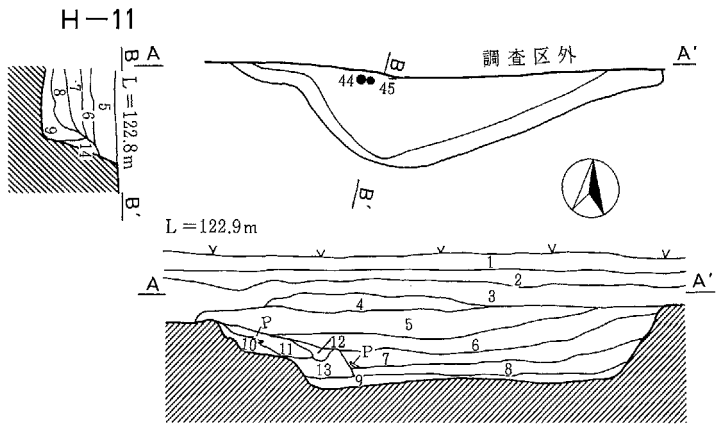


H－10号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P6	楕円形	115	87	7

H－10号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	×△	As-C・Hr-FP含む
2	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒含む
3	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土粒2層より少なく含む
4	にぶい黄褐色細砂層	△△	周溝の埋土
5	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、1層より軽石が多い
6	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・黄橙色土粒含むが、混じりが1層より少ない
7	黒褐色細砂層	×○	1層と粘土の混じる
8	黒褐色細砂層	×○	にぶい黄橙色粘土ブロック含む、7層より粘土の混じりが多い
9	黒褐色粗砂層	××	As-B混じる
10	黒褐色細砂層	×△	As-C・Hr-FP含む、道路として使用され硬化したもの
11	黒褐色細砂層	△△	攪乱
12	にぶい黄褐色細砂層	×△	攪乱



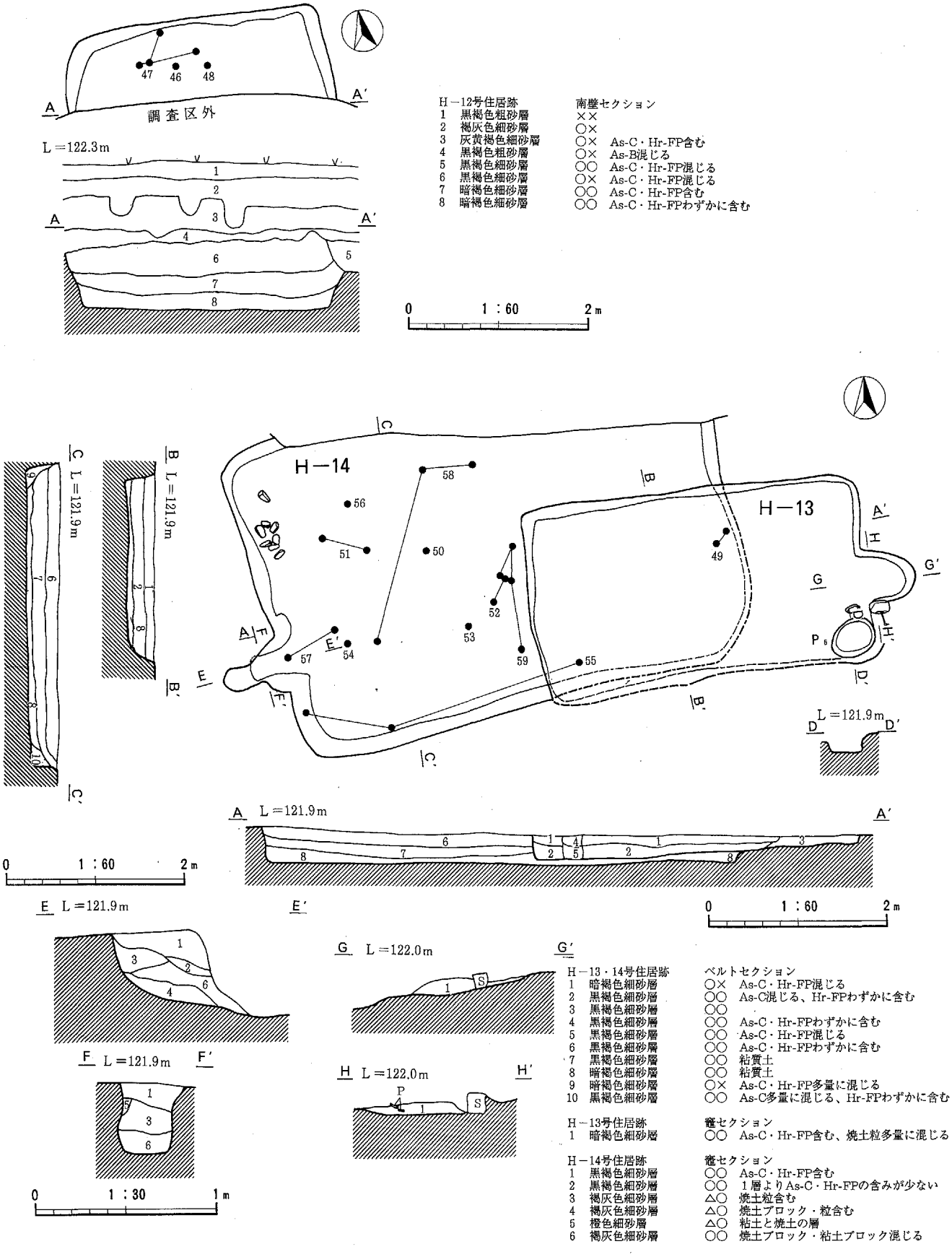
H－11号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐色細砂層	△△	現耕作土
2	暗褐色細砂層	△△	Hr-FP含む、現耕作土
3	灰黄褐色細砂層	△△	Hr-FP含む
4	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
5	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
6	暗褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
7	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む、黄橙色土ロームわずかに含む
8	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP含む
9	暗褐色細砂層	○△	粘土混じる
10	にぶい黄褐色細砂層	△△	灰含む
11	にぶい赤褐色細砂層	○△	As-C含む粘土層
12	にぶい黄褐色細砂層	×△	
13	にぶい赤褐色細砂層	×△	焼土含む
14	黒褐色細砂層	△△	Hr-FP多く含む

0　1：60　2m

Fig. 17　H－9・10・11号住居跡

H－12



H－12号住居跡	南壁セクション
1 黒褐色粗砂層	××
2 褐灰色細砂層	○×
3 灰黄褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む
4 黒褐色粗砂層	○× As-B混じる
5 黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP混じる
6 黒褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP混じる
7 暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
8 暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む

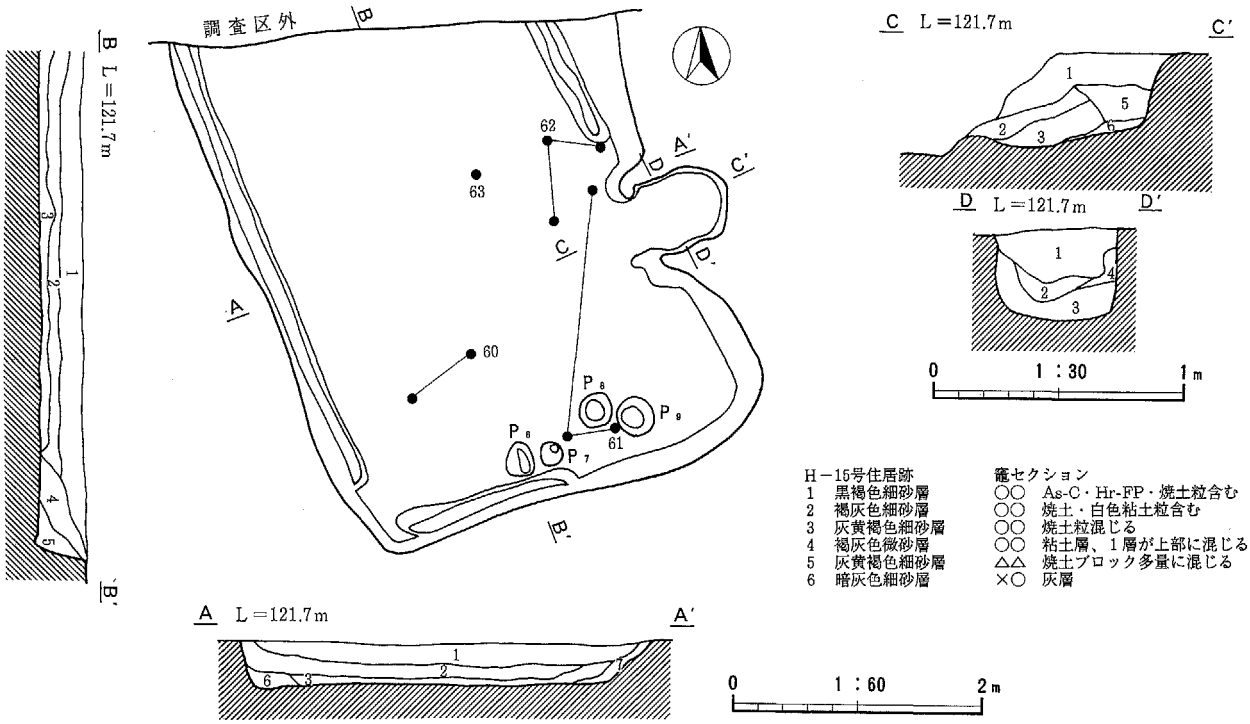
H－13・14号住居跡	ベルトセクション
1 暗褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP混じる
2 黒褐色細砂層	○○ As-C混じる、Hr-FPわずかに含む
3 黒褐色細砂層	○○
4 黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む
5 黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP混じる
6 黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FPわずかに含む
7 黒褐色細砂層	○○ 粘質土
8 暗褐色細砂層	○○ 粘質土
9 暗褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP多量に混じる
10 黒褐色細砂層	○○ As-C多量に混じる、Hr-FPわずかに含む

H－13号住居跡	竈セクション
1 暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、焼土粒多量に混じる

H－14号住居跡	竈セクション
1 黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
2 黒褐色細砂層	○○ 1層よりAs-C・Hr-FPの含みが少ない
3 褐灰色細砂層	△○ 焼土粒含む
4 褐灰色細砂層	△○ 焼土ブロック・粒含む
5 橙色細砂層	△○ 粘土と焼土の層
6 褐灰色細砂層	○○ 焼土ブロック・粘土ブロック混じる

Fig. 18　H－12・13・14号住居跡

H－15



H－15号住居跡

1	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・焼土粒含む
2	褐灰色細砂層	○○	焼土・白色粘土粒含む
3	灰黄褐色細砂層	○○	焼土粒混じる
4	褐灰色微砂層	○○	粘土層、1層が上部に混じる
5	灰黄褐色細砂層	△△	焼土ブロック多量に混じる
6	暗灰色細砂層	×○	灰層

竈セクション

H－15号住居跡

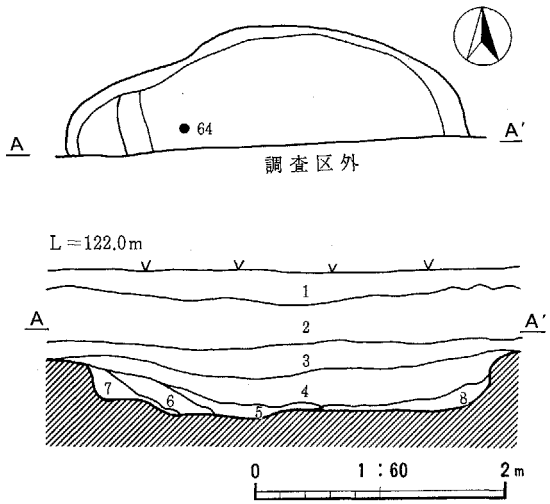
1	黒褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP・焼土粒混じる
2	黒褐色細砂層	○○	1層より軽石の量が少ない
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・灰白色粘土粒を含む
4	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む
5	黒褐色細砂層	○○	灰白色粘土ブロック含む
6	黒褐色細砂層	○○	2層と比べ、粘土ブロックの含みが少ない
7	黒褐色細砂層	○○	

ベルトセクション

H－15号住居跡柱穴等計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P6	楕円形	29	22	10.5	
P7	円形	19	16	13.5	
P8	円形	28	27	8.5	
P9	円形	31	28	17	

H－16

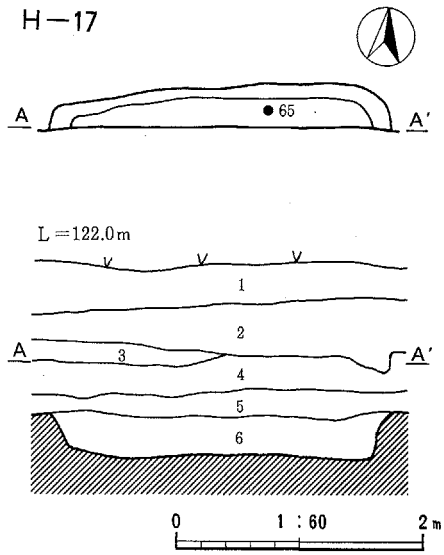


H－16号住居跡

1	灰黄褐色細砂層	△×	As-C・Hr-FP含む、現耕作土
2	暗褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP多く混じる、As-B含む
3	黒褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
4	黒褐色細砂層	○○	As-C多く混じる、炭化物わずかに含む
5	黒褐色細砂層	○○	粘性強い
6	黒褐色細砂層	○○	As-C粒含む
7	黒褐色細砂層	○△	As-C粒多く混じる
8	黒褐色細砂層	○○	粘質土多く混じる、焼土わずかに含む

南壁セクション

H－17

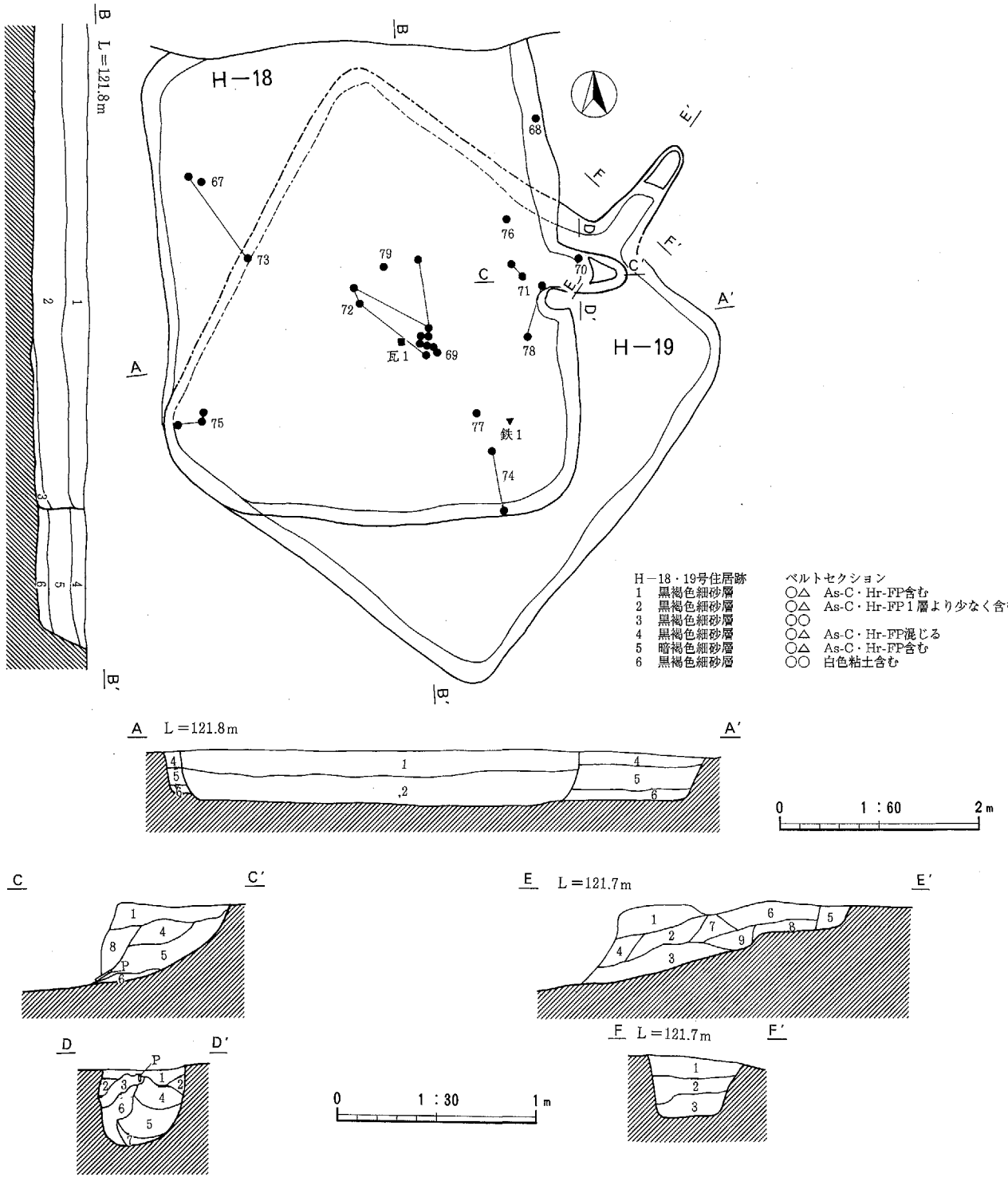


H－17号住居跡

1	灰黄褐色粗砂層	○×	現耕作土
2	灰黄褐色粗砂層	○×	1層よりAs-Bを多く含む
3	灰黄褐色粗砂層	○×	2層よりAs-Bが多く、白色軽石を含む
4	褐灰色粗砂層	○×	As-B混じる
5	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、灰白色粘土ブロック多量に混じる

南壁セクション

Fig. 19　H－15・16・17号住居跡



H－18・19号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP 1 層より少なく含む
3	黒褐色細砂層	○○	
4	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP混じる
5	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	○○	白色粘土含む

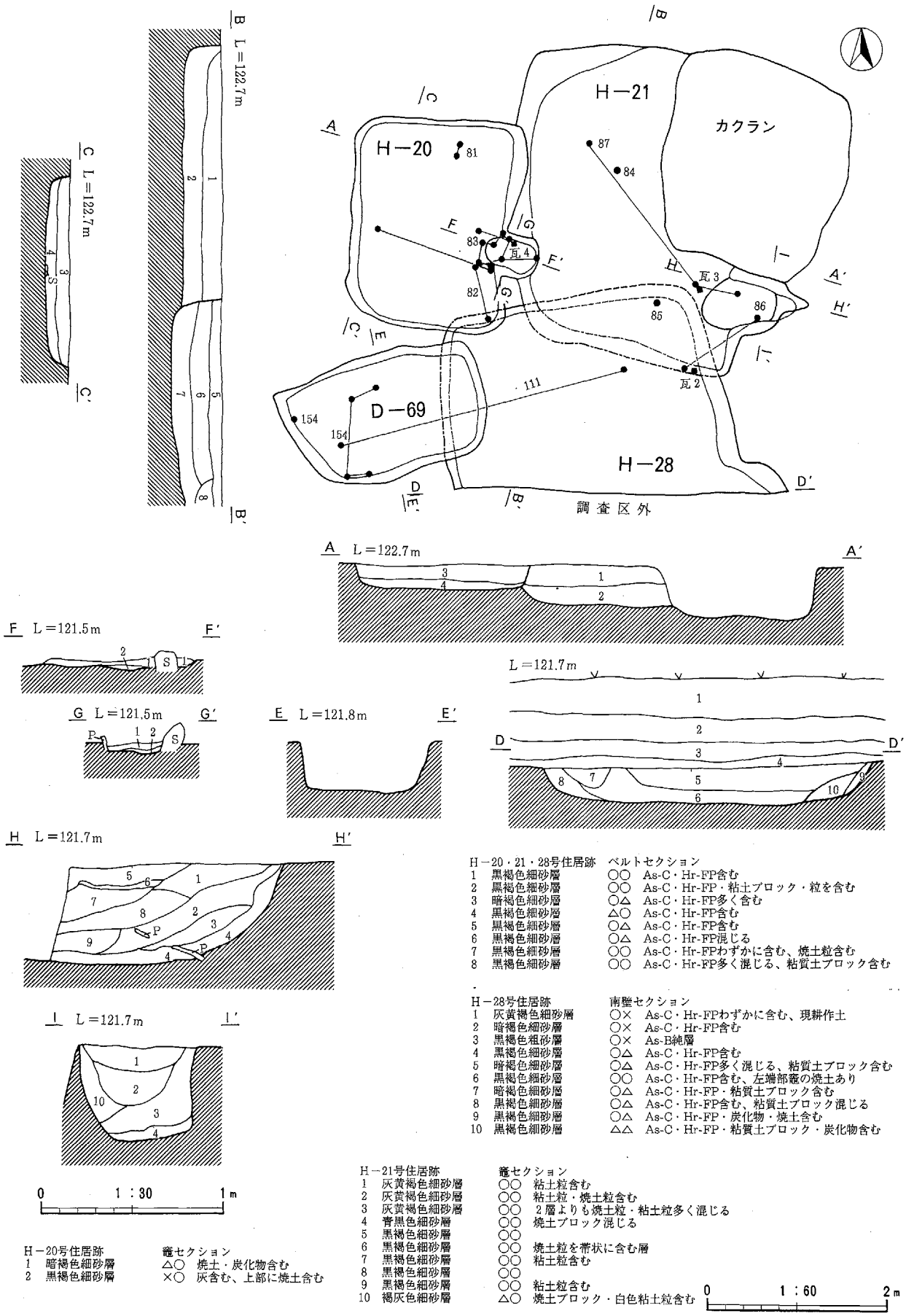
H－18号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	○○	
3	褐灰色細砂層	○○	粘土質、赤褐色（5YR 4/6）焼土粒含む
4	褐灰色細砂層	○○	粘土質、灰白色粘土粒含む
5	灰黄褐色細砂層	△○	焼土粒わずかに含む
6	灰黄褐色細砂層	△○	灰白色粘土粒を含む
7	灰黄褐色細砂層	○○	灰層を含む
8	褐灰色細砂層	○○	

H－19号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	○○	炭化物・焼土含む
3	灰黄褐色細砂層	×○	粘土ブロック含む
4	灰黄褐色細砂層	×○	粘土ブロック多量に混じる
5	黒褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、焼土ブロック混じる
6	黒褐色細砂層	○○	焼土粒含む、As-C・Hr-FP混じる
7	黒褐色細砂層	○○	焼土粒含む、As-C・Hr-FP混じる
8	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・粘土粒含む
9	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・粘土粒含む

Fig. 20　H－18・19号住居跡



H－20・21・28号住居跡　ベルトセクション

1	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・粘土ブロック・粒を含む
3	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP多く含む
4	黒褐色細砂層	△○	As-C・Hr-FP含む
5	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP混じる
7	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FPわずかに含む、焼土粒含む
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く混じる、粘質土ブロック含む

H－28号住居跡　南壁セクション

1	灰黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FPわずかに含む、現耕作土
2	暗褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FP含む
3	黒褐色粗砂層	○×	As-B純層
4	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む
5	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP多く混じる、粘質土ブロック含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、左端部竈の焼土あり
7	暗褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・粘質土ブロック含む
8	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP含む、粘質土ブロック混じる
9	黒褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FP・炭化物・焼土含む
10	黒褐色細砂層	△△	As-C・Hr-FP・粘質土ブロック・炭化物含む

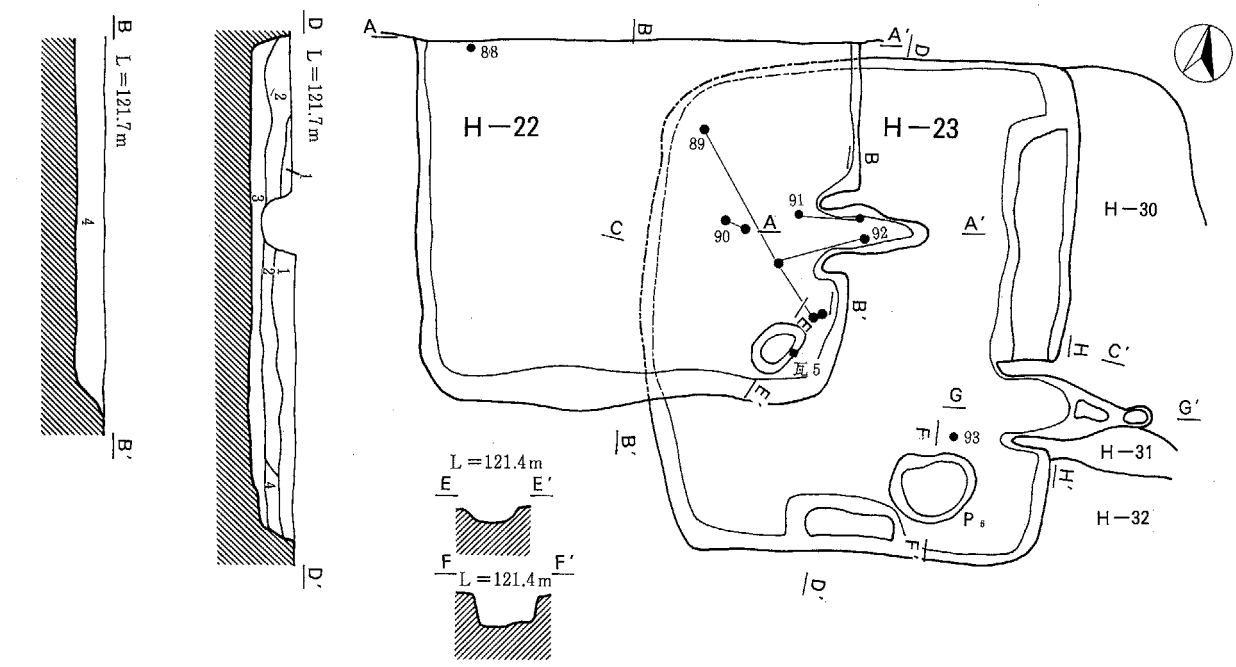
H－21号住居跡　竈セクション

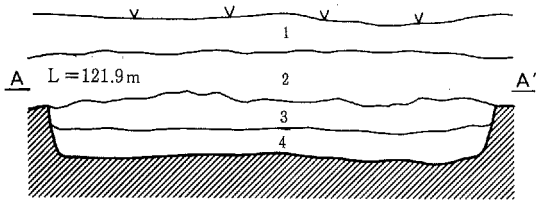
1	灰黄褐色細砂層	○○	粘土粒含む
2	灰黄褐色細砂層	○○	粘土粒・焼土粒含む
3	灰黄褐色細砂層	○○	2層よりも焼土粒・粘土粒多く混じる
4	青黒色細砂層	○○	焼土ブロック混じる
5	黒褐色細砂層	○○	
6	黒褐色細砂層	○○	焼土粒を帯状に含む層
7	黒褐色細砂層	○○	粘土粒含む
8	黒褐色細砂層	○○	
9	黒褐色細砂層	○○	粘土粒含む
10	褐灰色細砂層	△○	焼土ブロック・白色粘土粒含む

H－20号住居跡　竈セクション

1	暗褐色細砂層	△○	焼土・炭化物含む
2	黒褐色細砂層	×○	灰含む、上部に焼土含む

Fig. 21　H－20・21・28号住居跡、D－69号土坑





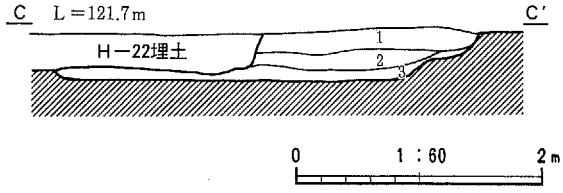
H－22号住居跡

1	灰黄褐色粗砂層	○× 現耕作土
2	黒褐色粗砂層	○× As-B混じる
3	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む
4	暗褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・焼土粒・炭化物含む

ベルトセクション

H－22号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	44	30	10.5	貯蔵穴



H－23号住居跡

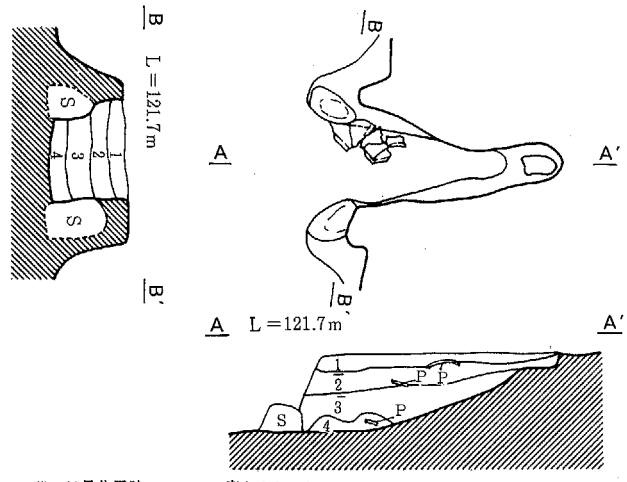
1	黒褐色細砂層	○△ As-C・Hr-FP多く混じる
2	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む、粘土ブロック混じる
3	黒褐色細砂層	△○ 粘質土、粘土ブロックわずかに含む

ベルトセクション

H－23号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	楕円形	68	57	25.5	貯蔵穴

H－22　竈

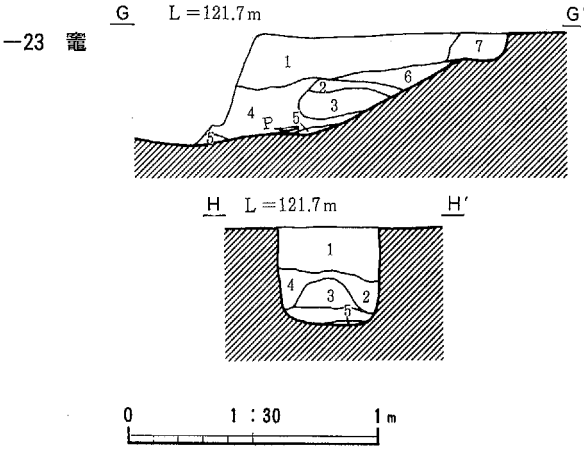


H－22号住居跡

1	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・焼土粒含む
2	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・焼土粒1層より少なく含む、焼土ブロック含む
3	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP・焼土粒2層より少なく含む
4	黒褐色細砂層	△× 焼土ブロック多く含む、下部に灰層

竈セクション

H－23　竈

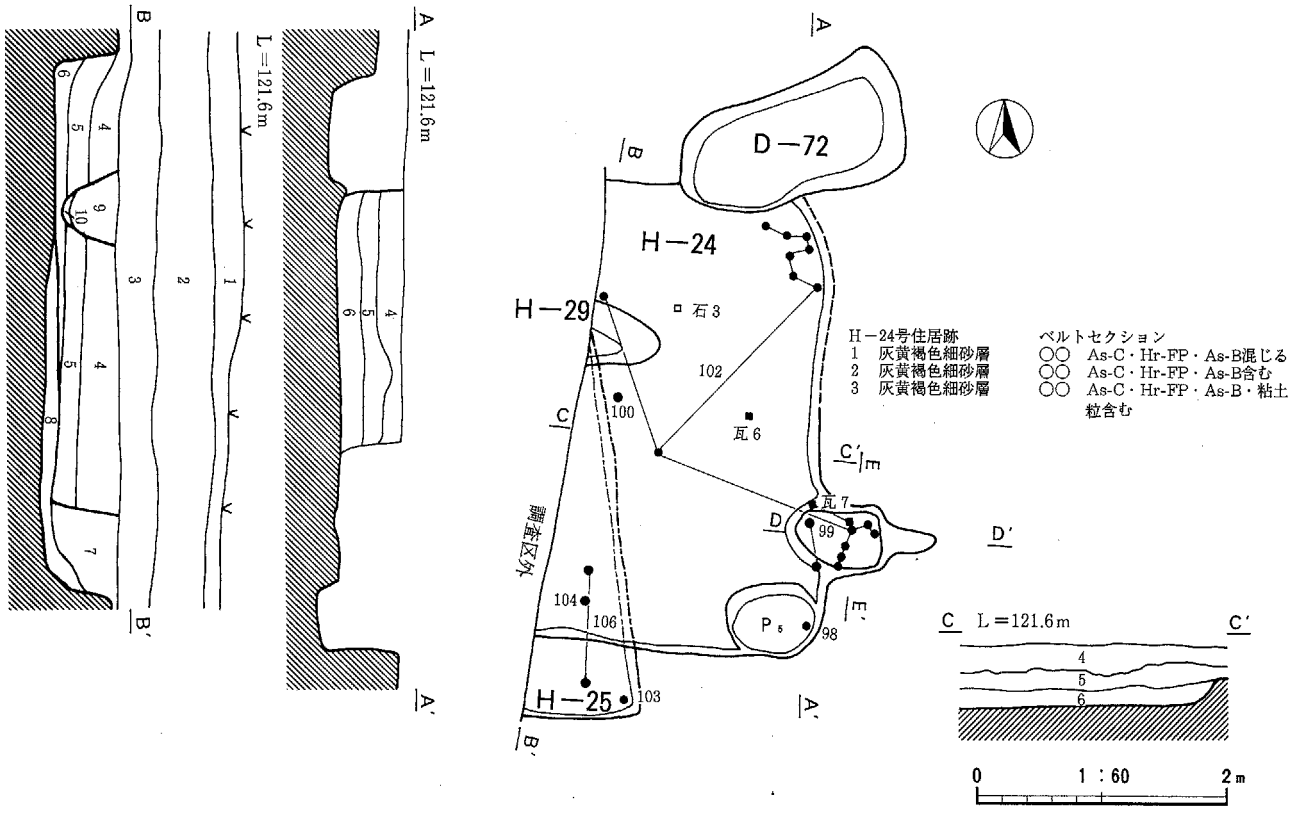


H－23号住居跡

1	黒褐色細砂層	○○ As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
2	橙色細砂層	○○ 焼土・粘土の層、天井の崩れた層
3	褐灰色細砂層	○○
4	黒褐色細砂層	○○
5	青黒色細砂層	×○ 灰層
6	黒褐色細砂層	○○ 軽石の含みが少ない、粘質土
7	黒褐色細砂層	○△ 軽石の含みが少なく6層より粘性が強い

竈セクション

Fig. 22　H－22・23号住居跡



H－24号住居跡
1 灰黄褐色細砂層
2 灰黄褐色細砂層
3 灰黄褐色細砂層

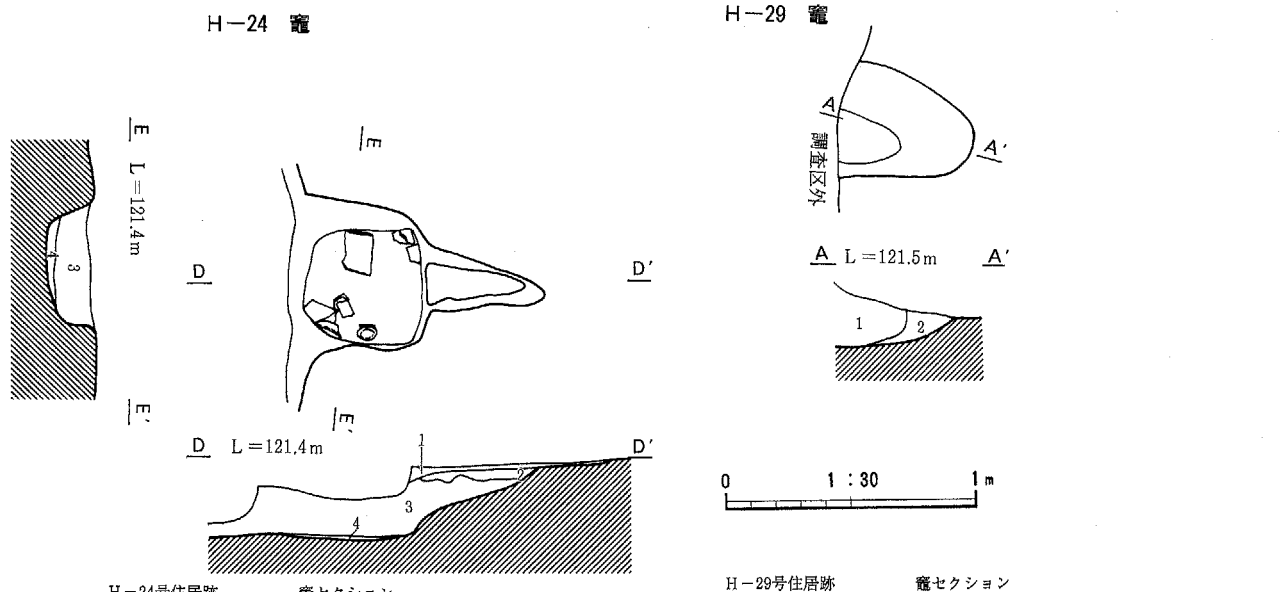
ベルトセクション
○○ As-C・Hr-FP・As-B混じる
○○ As-C・Hr-FP・As-B含む
○○ As-C・Hr-FP・As-B・粘土粒含む

H－25・29号住居跡
1 暗褐色細砂層
2 暗褐色細砂層
3 黒褐色細砂層
4 黒褐色細砂層
5 黒褐色細砂層
6 暗褐色細砂層
7 黒褐色細砂層
8 黒褐色細砂層
9 黒褐色細砂層
10 暗褐色細砂層

西壁セクション
○× Hr-FP含む、現耕作土
○× As-C・Hr-FP多く混じる
△× As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる
○△ As-C・Hr-FP含む、焼土・炭化物わずかに含む
△○ As-C含む
△○ 粘質土、焼土わずかに含む
○○ As-C・Hr-FP含む
○△ 焼土粒・灰含む
○× 焼土含む、灰多く混じる （H－29埋土）
○△ As-C・粘質土ブロック含む（H－29埋土）

H－24号住居跡柱穴等計測表

No.	形 状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備 考
P_5	楕円形	75	54	16.5	貯蔵穴



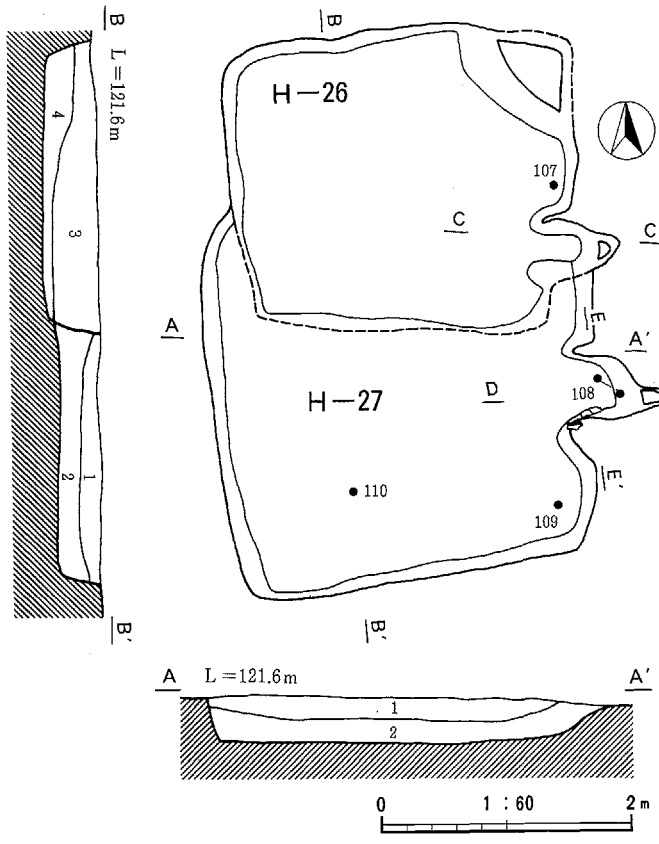
H－24号住居跡
1 黒褐色細砂層
2 明赤褐色細砂層
3 暗褐色細砂層
4 黒色微砂層

竈セクション
△○ 粘質土、As-C・Hr-FP含む
○○ 焼土ブロック
○○ As-C・Hr-FP含む
△○ 灰層

H－29号住居跡
1 黒褐色細砂層
2 黒褐色細砂層

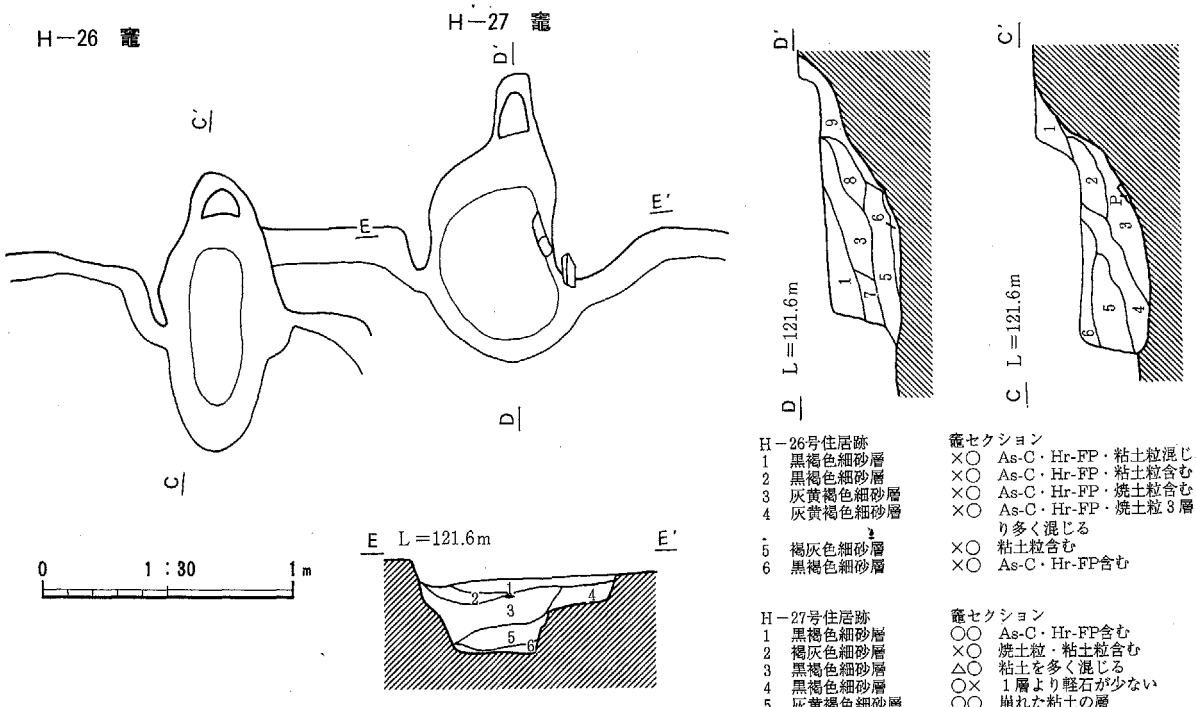
竈セクション
×○ 焼土含む、灰多く混じる
△○ As-C含む

Fig. 23 H－24・25・29号住居跡、D－72号土坑



H－26・27住居跡
1　暗褐色細砂層
2　黒褐色細砂層
3　黒褐色細砂層
4　暗褐色細砂層

ベルトセクション
○△　As-C・Hr-FP混じる
○△　As-C・Hr-FPわずかに含む、粘土ブロック含む
○○　1層よりAs-C・Hr-FPの混入が少ない、粘土ブロック・粘土粒含む
△○　As-C・Hr-FP含む、1・2層より多量に粘土ブロック含む



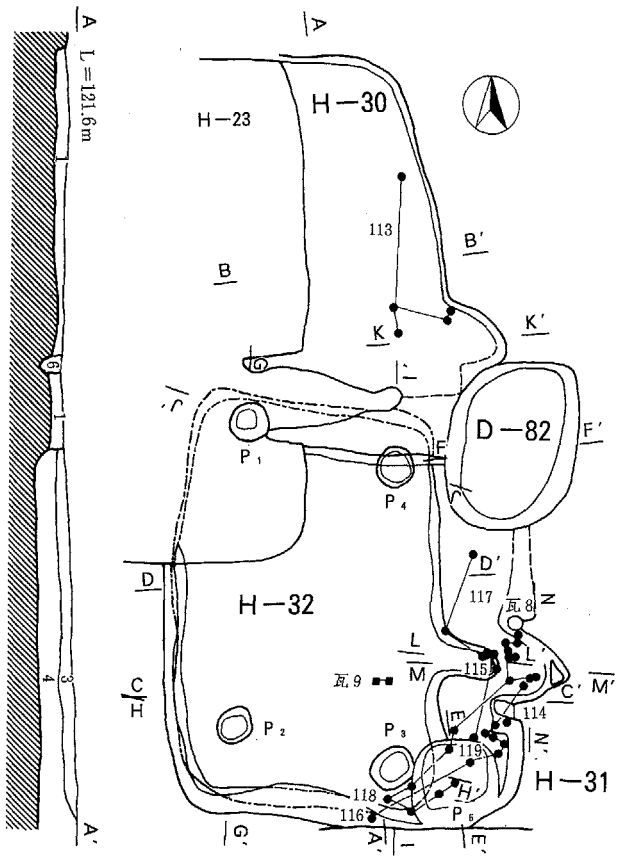
H－26号住居跡
1　黒褐色細砂層
2　黒褐色細砂層
3　灰黄褐色細砂層
4　灰黄褐色細砂層
5　褐灰色細砂層
6　黒褐色細砂層

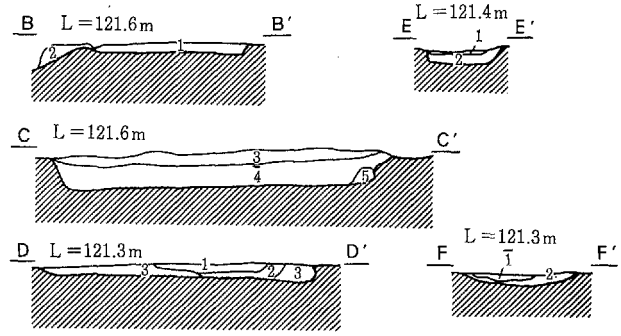
竈セクション
×○　As-C・Hr-FP・粘土粒混じる
×○　As-C・Hr-FP・粘土粒含む
×○　As-C・Hr-FP・焼土粒含む
×○　As-C・Hr-FP・焼土粒3層より多く混じる
×○　粘土粒含む
×○　As-C・Hr-FP含む

H－27号住居跡
1　黒褐色細砂層
2　褐灰色細砂層
3　黒褐色細砂層
4　黒褐色細砂層
5　灰黄褐色細砂層
6　暗青灰色細砂層
7　黒褐色細砂層
8　黒褐色細砂層
9　黒褐色細砂層

竈セクション
○○　As-C・Hr-FP含む
×○　焼土粒・粘土粒含む
△○　粘土を多く混じる
○×　1層より軽石が少ない
○○　崩れた粘土の層
×○　灰層
○○　粘土が多く混じる層
○○　粘土ブロックを含む
○○　焼土粒含む

Fig. 24　H－26・27号住居跡





H－30・31号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
2　H－23号住居跡埋土
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPを3層より少なく含む
5　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPをわずかに含む、灰含む
6　H－23号住居跡竈煙道

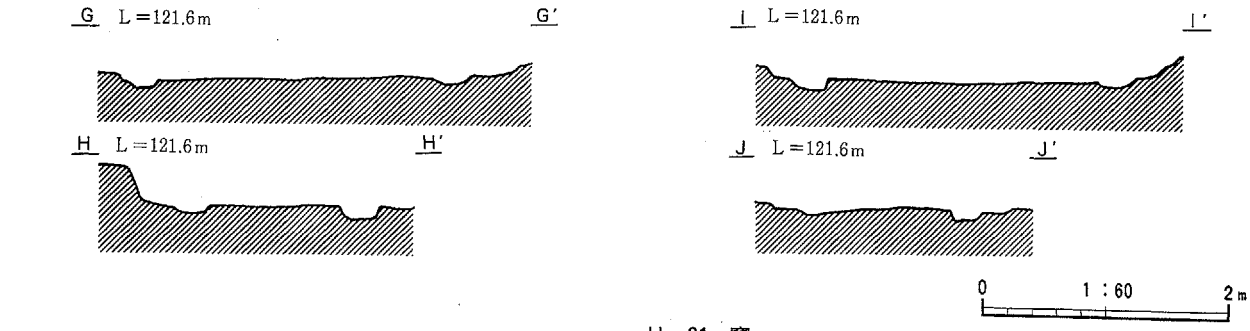
H－31号住居跡　P5号柱穴セクション
1　灰黄褐色細砂層　△○　粘質土、帯状に灰を含む
2　灰黄褐色細砂層　○○　粘質土

H－32号住居跡　ベルトセクション
1　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む、灰白色粘土ブロック含む
2　黒褐色細砂層　○○　粘質土、軽石少々含む
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP混じる

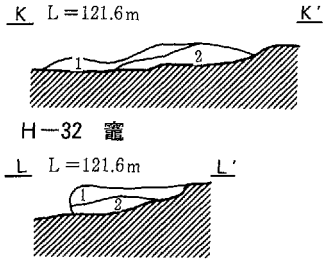
D－82号土坑セクション
1　灰黄褐色微砂層　○○　焼土・炭化物多量に含む
2　灰黄褐色微砂層　○○　粘質土

H－31号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_5	円　形	69	67	13	貯蔵穴

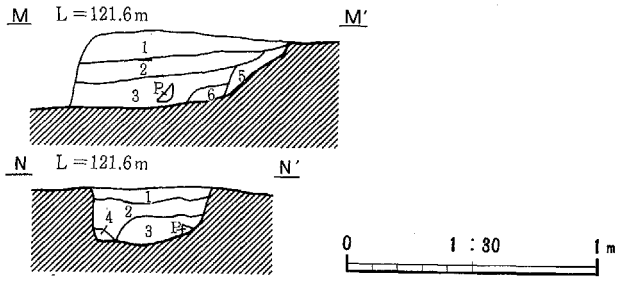


H－30　竈



H－32　竈

H－31　竈

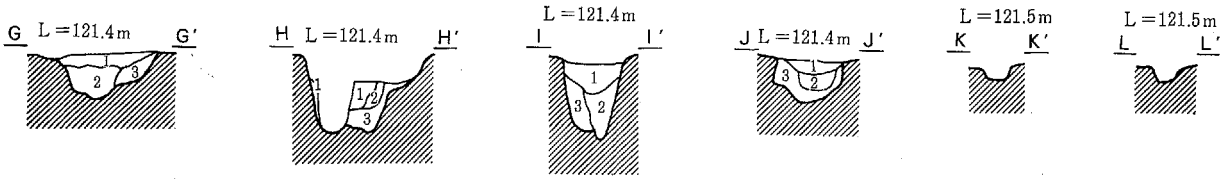


H－30号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　部分的に下部に焼土の層が入る
2　灰黄褐色細砂層　○×　焼土粒含む

H－32号住居跡　竈ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　上の住居の炭化物含む
2　灰黄褐色細砂層　○○　下部に炭化物層、焼土粒が含まれる

H－31号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・焼土粒含む
2　黒褐色細砂層　○○　細かい白色軽石わずかに含む
3　黒褐色細砂層　×○　As-C・Hr-FP・焼土粒含む
4　赤褐色細砂層　○×　焼土ブロック
5　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック含む
6　黒褐色細砂層　×○　焼土粒含む、灰が多く混じる

Fig. 25　H－30・31・32号住居跡、D－82号土坑



H－34号住居跡
1　暗褐色細砂層　△×　黄橙色土粒含む
2　黒褐色細砂層　××　As-B混じる
3　黒褐色細砂層　××　黄橙色土粒多く混じる

P 2号柱穴セクション

H－34号住居跡
1　暗褐色細砂層　△△　粘質土ブロック・黄橙色土粒含む
2　暗褐色細砂層　××　黄橙色土粒混じる
3　黒褐色細砂層　××　黄橙色土ブロック含む

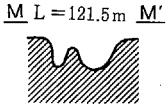
P 3号柱穴セクション

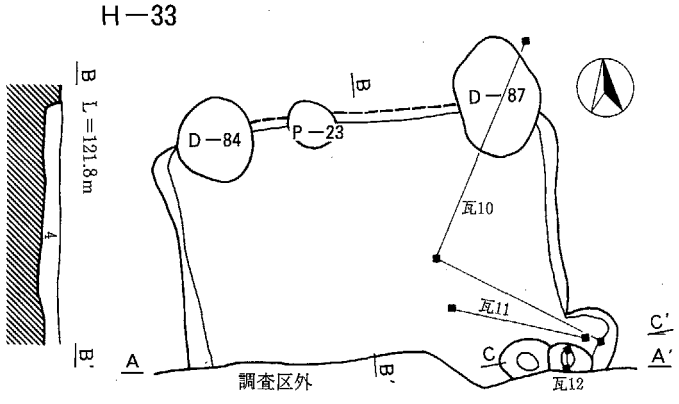
H－34号住居跡
1　黒褐色細砂層　××
2　褐灰色細砂層　××　黄橙色土ブロック・黄橙色土粒混じる
3　褐灰色細砂層　××　黄橙色土粒含む

P 5号柱穴セクション

H－34号住居跡
1　暗褐色細砂層　△×　黄橙色土ブロック含む、As-B混じる
2　黒褐色細砂層　○×　粘質土ブロック・黄橙色土ブロック含む、サラサラの土
3　にぶい黄褐色細砂層　○△　粘質土ブロック・黄橙色土ブロックを多く含む、右上部焼土ブロック含む

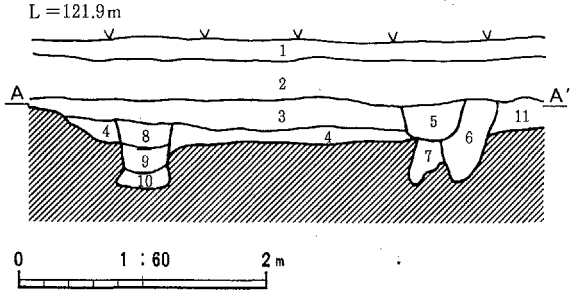
P 1号柱穴セクション

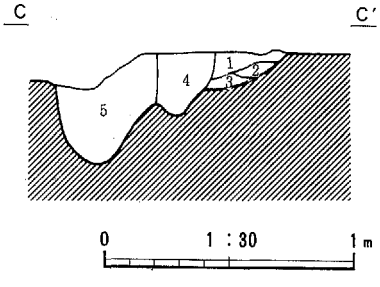




H－34号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_2	円　形	104	88	60.5	
P_2'	円　形	104	88	63	
P_3	円　形	58	48	65	
P_3'	円　形	58	48	56	
P_5	円　形	79	77	40	貯蔵穴
P_6	円　形	48	47	26.5	
P_7	円　形	22	20	11.5	
P_8	円　形	26	22	13	
P_9	円　形	25	22	18.5	
P_{10}	楕円形	38	29	23.5	
P_{11}	円　形	22	17	5.5	





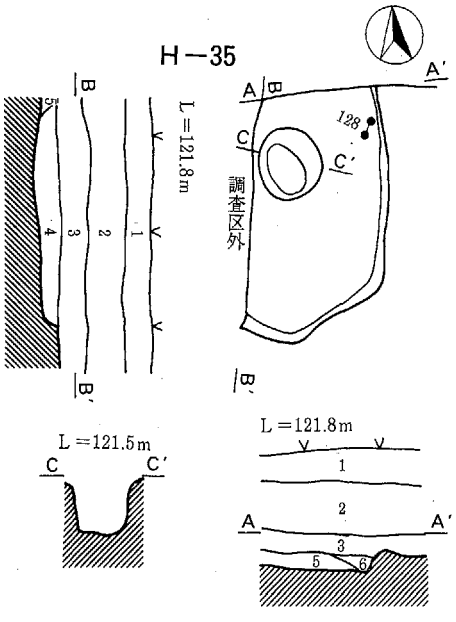
H－33号住居跡、D－86号土坑、P－26・27号柱穴　セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、現耕作土
2　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
3　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP多く混じる、ロームブロックわずかに含む
4　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
5　黒褐色細砂層　×△　ローム粒含む、As-Bわずかに含む
6　黒褐色粗砂層　○×　ローム粒含む、As-Bを5層より多く混じる（D－27号柱穴埋土）
7　黒褐色細砂層　○○　ローム粒・As-Bを含まない　（D－26埋土）
8　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP・黒色土ブロック含む（D－86埋土）
9　黒褐色細砂層　×△　As-C・Hr-FPわずかに含む　（D－86埋土）
10　黒褐色細砂層　×○　As-C・Hr-FPわずかに含む　（D－86号土坑埋土）
11　黒褐色細砂層　×△　As-Bを多く含む、Hr-FPわずかに含む

H－33号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐色細砂層　××　焼土ブロック・粒、灰含む
2　褐灰色細砂層　××　灰層、下部に炭化物含む
3　褐灰色細砂層　××　灰層、炭化物の粒含む
4　褐灰色細砂層　××　As-B混じる
5　褐灰色細砂層　××　ローム粒・As-B含まない

H－35号住居跡　西壁セクション
1　黒褐色粗砂層　××　現耕作土
2　褐灰色粗砂層　○×　As-B混じる
3　褐灰色粗砂層　○×　白色軽石・As-B含む、道路状遺構
4　黒褐色細砂層　○×　貼床、ローム粒含む
5　灰黄褐色細砂層　○×　崩れた粘土を含む
6　褐灰色細砂層　○×　張っている層

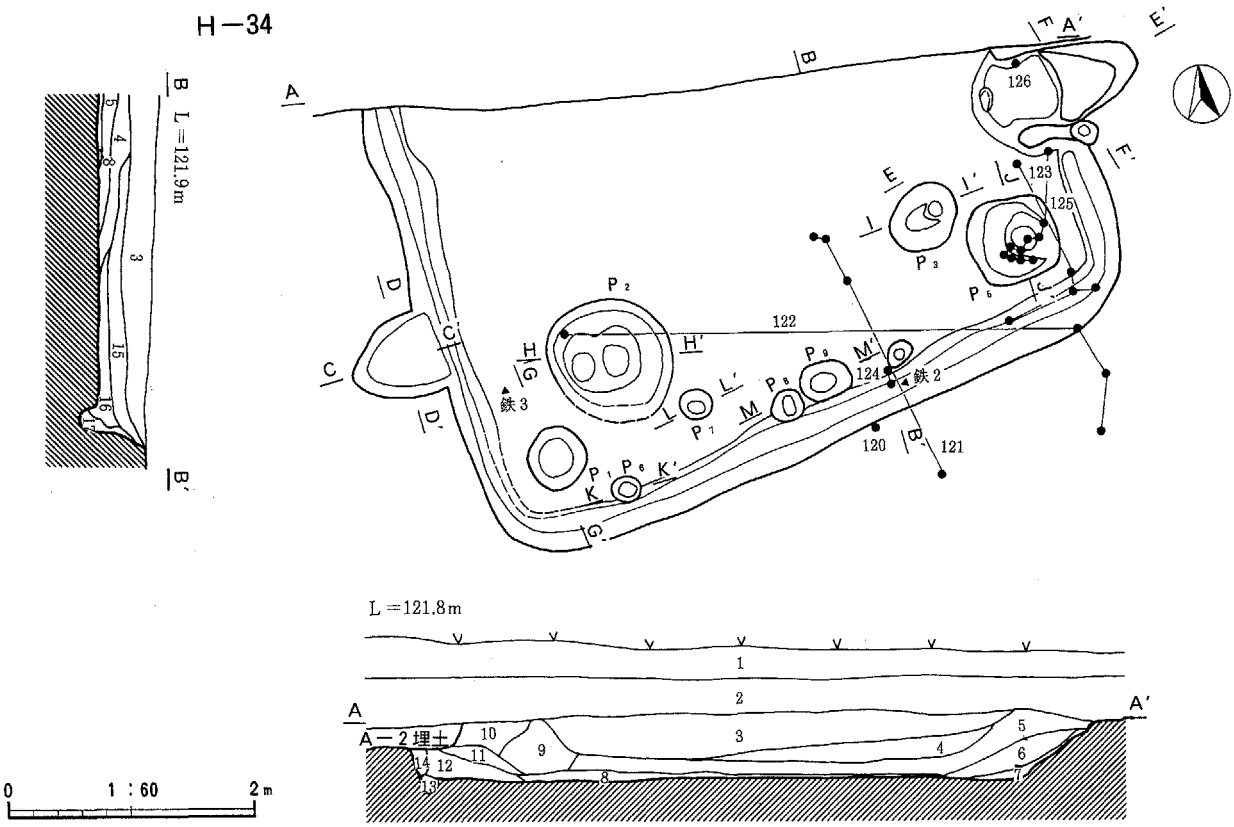
H－35号住居跡柱穴等計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	円　形	55	51	40	



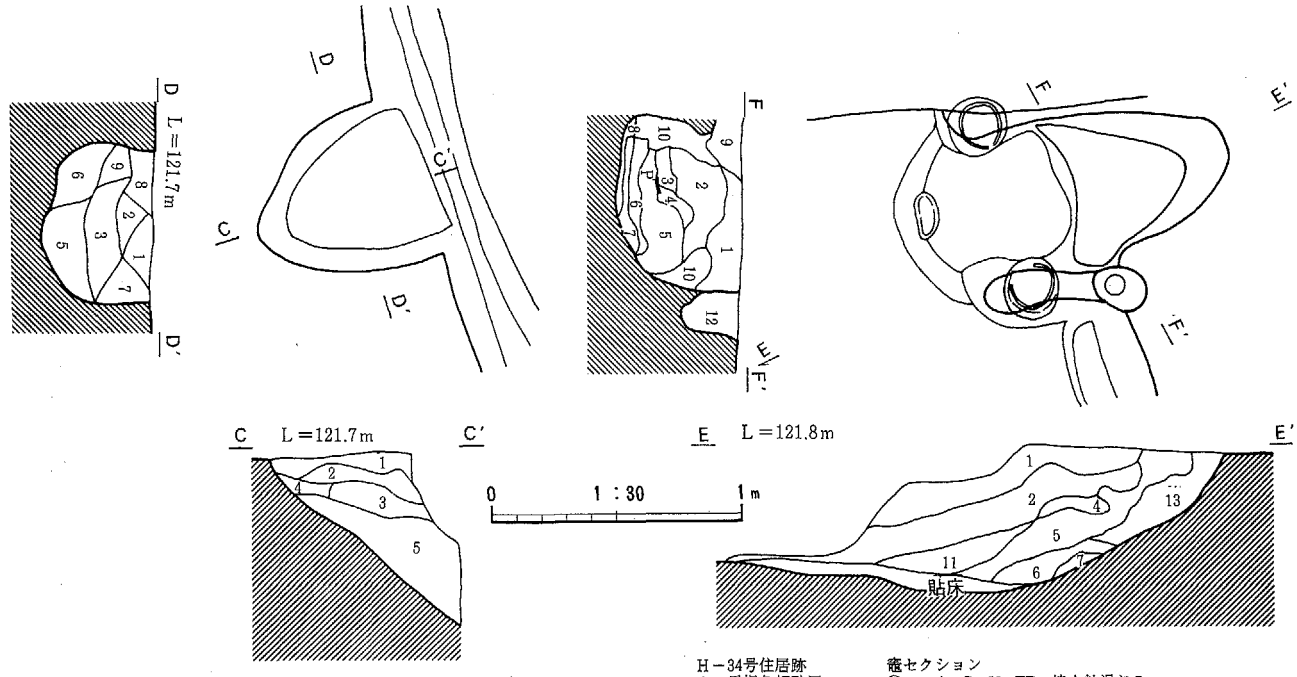
0　1：60　2m

Fig. 26　H－33・35号住居跡



H－34号住居跡　北壁・西壁セクション

1	黒褐色粗砂層	×× 現耕作土
2	褐灰色粗砂層	○× As-B混じる
3	灰黄褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む
4	灰黄褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP・ローム粒含む
5	黒褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP・ロームブロック・小石を含む白色粘土粒わずかに含む
6	黒褐色細砂層	△△ As-C・Hr-FP含む、5層より多くの白色粘土粒含む
7	灰黄褐色細砂層	△○ 竈の粘土が崩れた層
8	にぶい黄褐色細砂層	×△ ロームブロック多量に混じる
9	にぶい黄褐色細砂層	△△ As-C・Hr-FP・小石・焼土粒・ローム粒含む
10	褐灰色粗砂層	△× As-C・Hr-FP　わずかに含む、As-B含む
11	褐灰色粗砂層	△× As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む
12	黒褐色細砂層	△○ As-C・Hr-FP含む
13	灰黄褐色細砂層	△× 周溝埋土
14	褐灰色粗砂層	×△ 柱穴痕か
15	黒褐色細砂層	△× Hr-FP混じる、As-C含む
16	黒褐色細砂層	○× As-C含む
17	暗褐色細砂層	×△ 非常にもろい



H－34号住居跡　付け替え前西側竈セクション

1	灰黄褐色細砂層	△× As-B含む
2	にぶい黄褐色細砂層	△× 粘土含む
3	灰黄褐色細砂層	×× もろい粘土層、灰を多く含み、焼土粒含む
4	褐灰色細砂層	○× 焼土粒わずかに含む
5	黒褐色細砂層	×× 灰を多く含む層
6	黒褐色細砂層	×× 焼土粒・白色粘土粒含む層
7	にぶい黄橙色細砂層	△△ 粘土を含むが粘性がない
8	灰黄褐色細砂層	△× As-B含む、焼土粒わずかに含む
9	黒褐色細砂層	△× 下部にパサパサの焼土を多く含む、焼土粒わずかに含む

H－34号住居跡　竈セクション

1	黒褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP・焼土粒混じる
2	にぶい黄褐色細砂層	○○ 焼土粒・灰白色粘土粒混じる（崩れた粘土層）
3	にぶい橙色細砂層	△○ 崩れた、やや焼けた粘土層
4	灰黄褐色細砂層	△○ 崩れた粘土層、白色軽石含む
5	灰黄褐色細砂層	×○ 焼土ブロックを多く含む崩れた粘土層
6	褐灰色細砂層	×× 灰層
7	にぶい橙色細砂層	△× 下部は竈の下面、灰層
9	褐灰色細砂層	△× As-C・Hr-FP含む
10	橙色細砂層	○× 崩れた焼土ブロック層（灰含む）
11	にぶい黄褐色細砂層	○○ 焼土粒・灰白色粘土粒含む
12	灰黄褐色粗砂層	○× As-B混じる（柱穴痕か）
13	灰黄褐色細砂層	×△ 灰と粘土の層

Fig. 27　H－34号住居跡

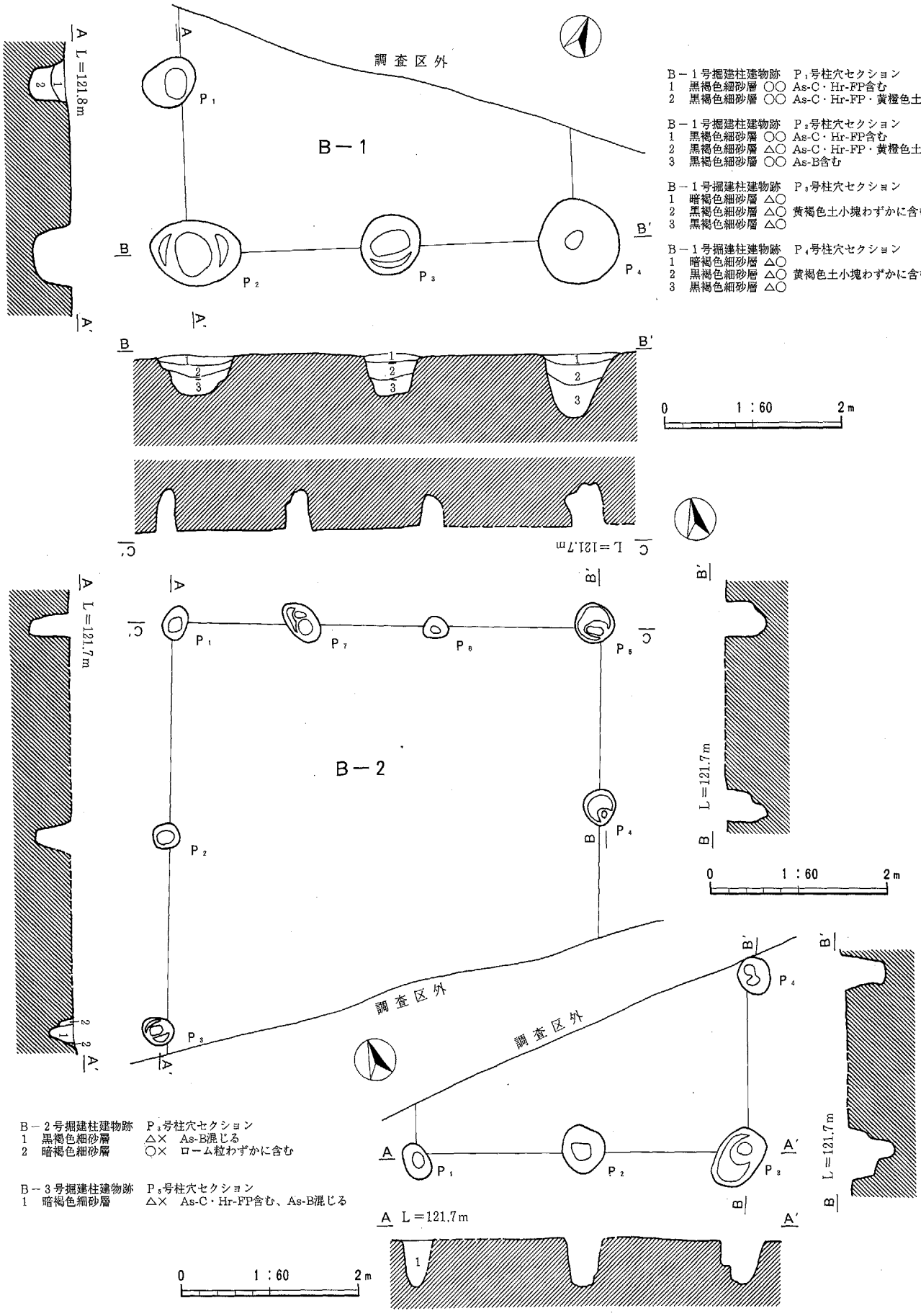
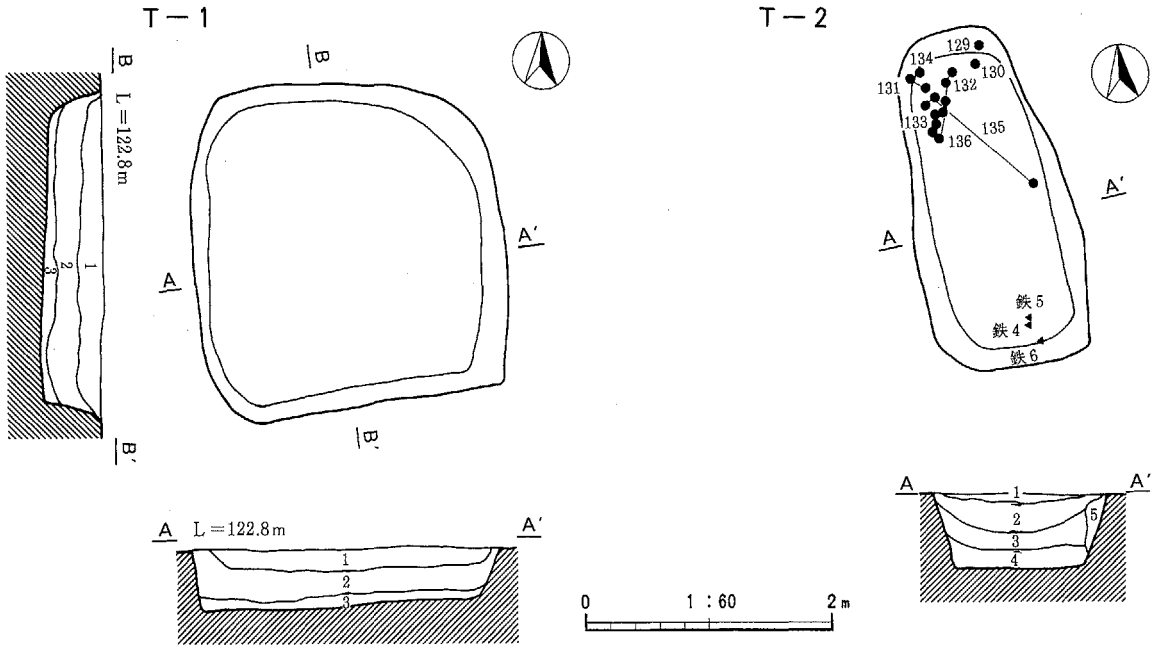
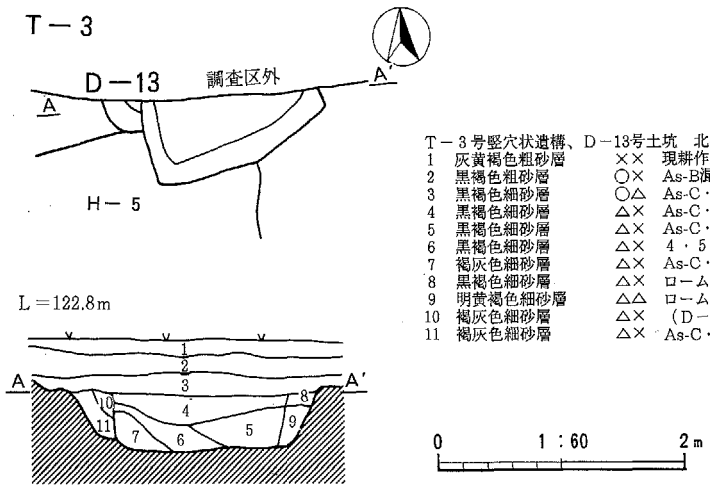


Fig. 28　B－1～3号掘立柱建物跡



T－1号竪穴状遺構		ベルトセクション
1	にぶい黄褐色細砂層	×△
2	にぶい黄褐色細砂層	△△
3	明黄褐色細砂層	△△

T－2号竪穴状遺構		ベルトセクション
1	にぶい黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP・明黄褐色ローム粒含む
2	褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP混じる、明黄褐色ローム粒含む
3	にぶい黄褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP含む、明黄褐色ローム粒2層より少なく含む
4	黒褐色細砂層	△△ As-C・Hr-FP含む
5	にぶい黄褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP含む



T－3号竪穴状遺構、D－13号土坑　北壁ベルトセクション

1	灰黄褐色粗砂層	×× 現耕作土
2	黒褐色粗砂層	○× As-B混じる
3	黒褐色細砂層	○△ As-C・Hr-FP含む
4	黒褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP多量に混じる
5	黒褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP多量に混じる
6	黒褐色細砂層	△× 4・5層よりAs-C・Hr-FP・黄橙色ロームブロック含む
7	褐灰色細砂層	△× As-C・Hr-FPわずかに含む
8	黒褐色細砂層	△× ロームの崩れた層
9	明黄褐色細砂層	△△ ロームの崩れた層
10	褐灰色細砂層	△× （D－13号土坑埋土）
11	褐灰色細砂層	△× As-C・Hr-FPわずかに含む（D－13号土坑埋土）

Fig. 29　T－1・2・3号竪穴状遺構

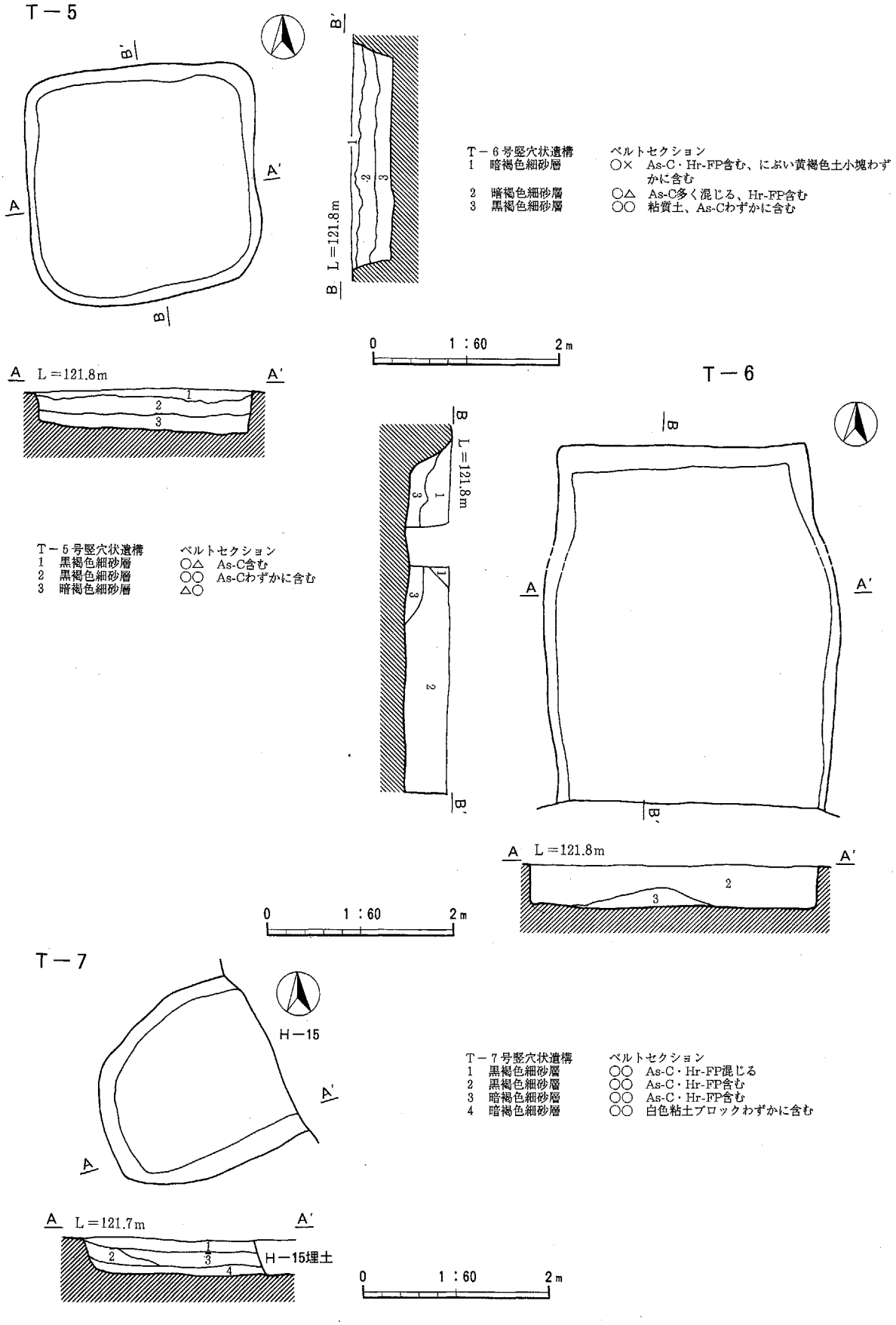
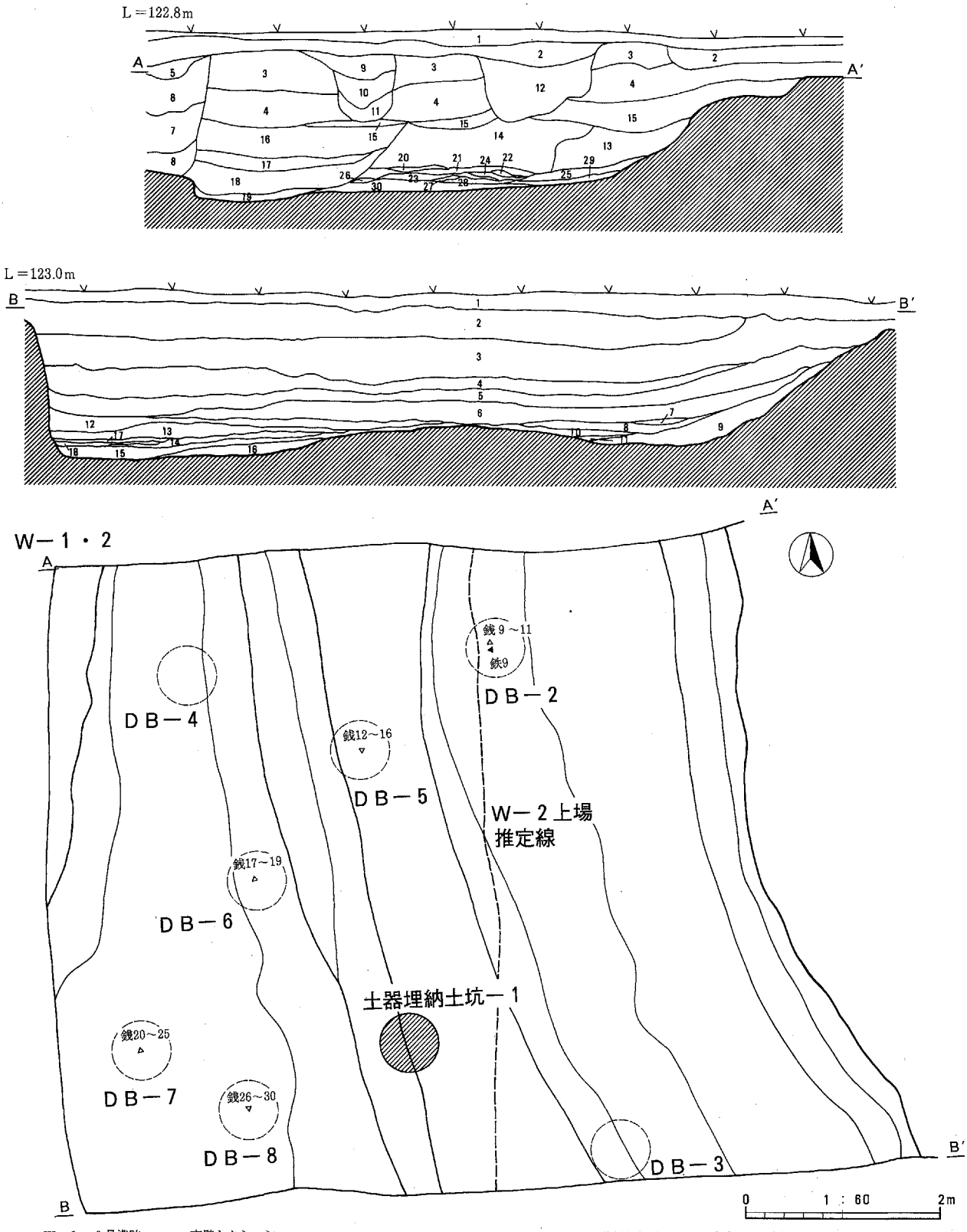


Fig. 30　T－5・6・7号竪穴状遺構

W－1・W－2



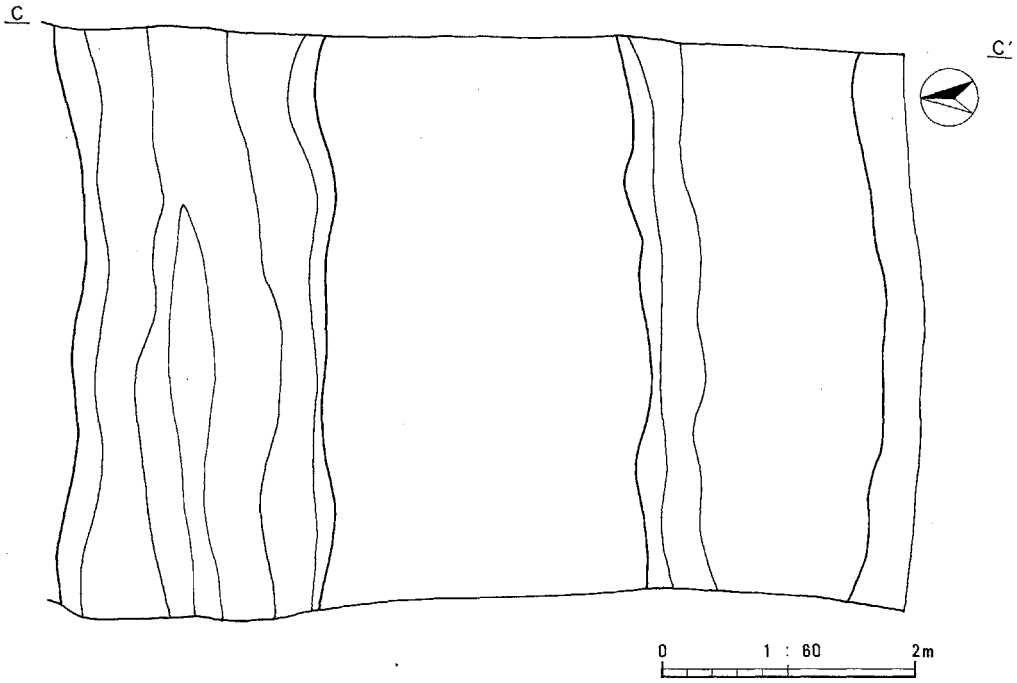
W－1・2号溝跡	南壁セクション	
1 褐灰色粗砂層	○×	現耕作土
2 灰黄褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B含む
3 黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
4 黒褐色粗砂層	○△	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
5 褐灰色粗砂層	○△	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B含む
6 灰黄褐色細砂層	○○	のろ層、As-C・Hr-FP・As-B含む
7 黒褐色粗砂層	○×	As-B含む
8 灰黄褐色細砂層	○○	のろ層
9 黒褐色細砂層	○○	下部に砂利・As-Bを多量に混じる
10 灰黄褐色細砂層	○○	のろ層
11 褐灰色粗砂層	○×	砂利層（As-B含む）
12 灰黄褐色細砂層	○○	のろ層
13 灰黄褐色細砂層	○○	のろ層、As-B含む
14 黒褐色粗砂層	○×	As-B多量に混じる、砂利含む
15 黒褐色細砂層	○○	のろ層、As-B多量に混じる
16 暗褐色細砂層	○○	のろ層
17 灰黄褐色細砂層	△○	のろ層
18 灰黄褐色細砂層	○○	のろ層

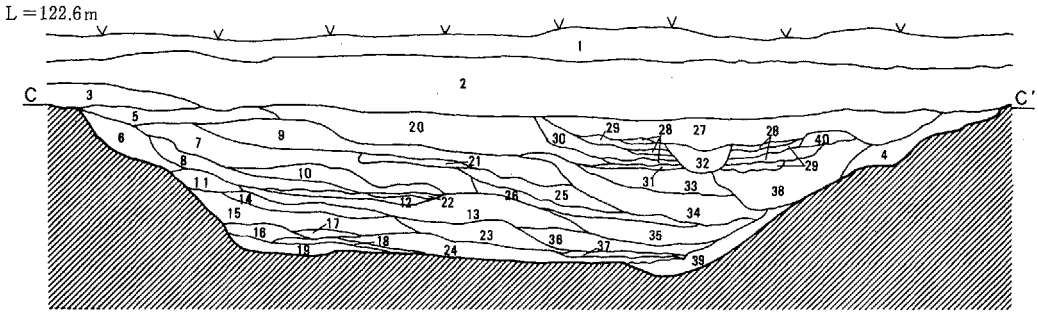
Fig. 31　W－1・2号溝跡、DB－2～8

W－1・2号溝跡　北壁セクション

1	灰黄褐色粗砂層	××	現耕作土
2	黒褐色粗砂層	○×	As-B混じる
3	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
4	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む 、3層より多量に川砂・As-B含む
5	褐灰色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B含む
6	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、5層より少ないAs-B含む（土坑墓埋土）
7	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FPを5・6層より少なく含む、As-B含む（土坑墓埋土）
8	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FPを7層より少なく含む、As-B混じる（土坑墓埋土）
9	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる（土坑墓埋土）
10	褐灰色粗砂層	○×	As-C・Hr-FPをわずかに含む、As-B混じる（土坑墓埋土）
11	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる（土坑墓埋土）
12	褐灰色粗砂層	○×	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる（土坑墓埋土）
13	灰黄褐色細砂層	○△	13層よりAs-C・Hr-FPを多く混じる
14	灰黄褐色細砂層	○△	As-C・Hr-FPをわずかに含む、のろ層
15	黒褐色粗砂層	○△	As-C・Hr-FP・焼土塊わずかに含む、As-B混じる
16	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる、砂利（川砂・As-B）をわずかに含む、のろ層
17	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる、砂利（川砂・As-B）を15層より多く混じる、のろ層
18	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる、砂利（川砂・As-B）をわずかに含む、のろ層
19	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、As-B混じる（15～18層の中で一番多くAs-Bが混じる）、のろ層
20	褐灰色粗砂層	○×	砂利層（As-B含む）
21	灰黄褐色粗砂層	○×	のろ層、砂利・As-B含む
22	灰黄褐色粗砂層	○×	20層より砂利・As-B多く含む
23	灰黄褐色粗砂層	○×	20層より砂利・As-B多く含む
24	褐灰色粗砂層	○×	砂利層（As-B含む）
25	灰黄褐色粗砂層	○×	13層より砂利・As-B多く混じる
26	灰黄褐色粗砂層	○×	総社砂層とのろの混じり
27	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B含む、22層より多く含む
28	灰黄褐色粗砂層	○×	22層よりAs-Bを少なく含む
29	黒褐色細砂層	○○	砂利をわずかに含む
30	褐色粗砂層	○×	総社砂層、上面が道路状遺構面

W－3

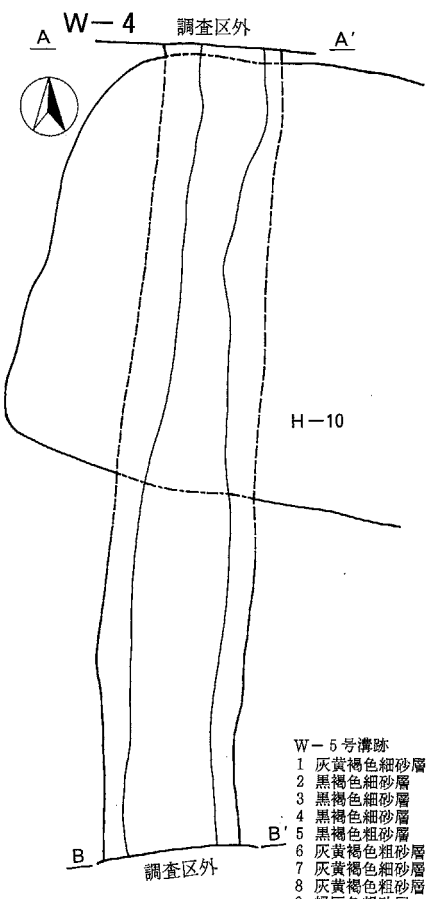


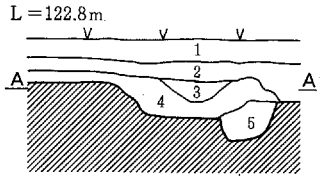


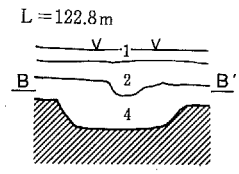
W－3号溝跡　東壁セクション

1	黒褐色粗砂層	○×	現耕作土
2	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B含む
3	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B含む
4	黒色細砂層	○△	As-C含む（地山）
5	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
6	褐灰色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP含む、砂利混じる
7	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
8	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
9	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
10	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
11	黒褐色粗砂層	△×	As-B・砂利混じる
12	黒褐色粗砂層	○×	硬化面
13	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
14	黒褐色粗砂層	△×	As-B・砂利多量に混じる
15	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利多量に混じる
16	黒褐色粗砂層	△×	As-B・砂利多量に混じる、ロームブロック含む
17	黒褐色粗砂層	××	As-B混じる、ローム粒わずかに含む
18	黒褐色粗砂層	○×	As-B混じる、硬化面
19	黒褐色粗砂層	○○	As-B混じる、ローム粒含む、上面硬化面
20	黒褐色粗砂層	××	As-B・砂利混じる
21	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる、硬化面
22	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる、硬化面
23	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
24	黒褐色粗砂層	○×	As-B多量に混じる
25	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利多量に混じる
26	黒褐色粗砂層	○△	As-B・砂利混じる
27	黒褐色細砂層	○△	As-B・砂利混じる、As-C・Hr-FP含む
28	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる、硬化面
29	褐灰色粗砂層	○×	As-B・砂利多く混じる
30	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
31	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる、硬化面
32	黒褐色粗砂層	○△	27層より砂利の混入が多い、As-B混じる
33	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる、34層よりのろ多い
34	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
35	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
36	黒褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
37	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる、硬化面
38	暗褐色粗砂層	○×	As-B・砂利混じる
39	褐灰色粗砂層	○×	As-B混じる
40	黒褐色粗砂層	○×	As-C・Hr-FP・As-B混じる

Fig. 32　W－3号溝跡



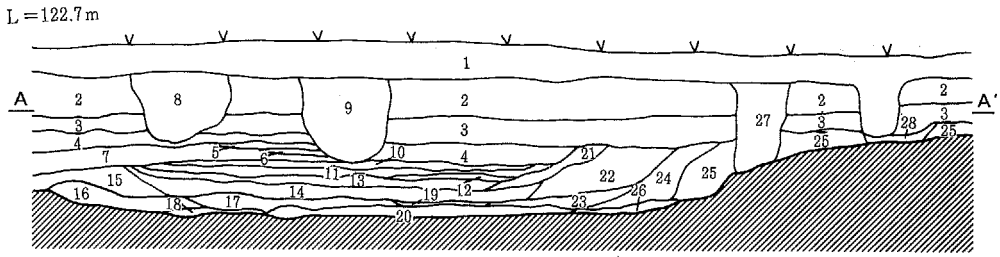




W－4号溝跡		北・南壁セクション
1	黒褐色粗砂層	×× 現耕作土
2	黒褐色粗砂層	×× As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
3	暗褐色粗砂層	×× As-C・Hr-FP・As-B含む、2層よりAs-Bの混じりが少ない
4	黒褐色粗砂層	×× As-C・Hr-FP含む、下部にAs-B多量に混じる
5	暗褐色細砂層	○△ As-C・Hr-FP含む、As-B含まない

W－5号溝跡		東壁セクション
1	灰黄褐色細砂層	△× 小石含む攪乱
2	黒褐色細砂層	○× 現耕作土
3	黒褐色細砂層	○△ 軽石含む
4	黒褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む
5	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、白色軽石多量に含む
6	灰黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP多量に混じる
7	灰黄褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む
8	灰黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP多量に混じる
9	褐灰色粗砂層	○× As-C・Hr-FP多量に混じる
10	灰黄褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP混じる
11	灰黄褐色粗砂層	○× 砂利・As-B混じる
12	灰黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP・砂利・As-B混じる
13	褐灰色細砂層	○× As-C・Hr-FP混じる
14	黒褐色粗砂層	○× 砂利層（As-B含む）
15	灰黄褐色細砂層	○○ のろ層
16	褐灰色細砂層	△○ Hr-FP・黒褐色土ブロック含む
17	褐灰色細砂層	○× As-C・Hr-FP・黒褐色土ブロック含む
18	褐灰色粗砂層	○× 砂利混じる、硬化面
19	褐灰色粗砂層	○× 砂利混じる、硬化面

W－5号溝跡		北壁セクション
1	黒褐色細砂層	△× 現耕作土
2	にぶい黄褐色細砂層	△× Hr-FP含む
3	にぶい黄褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む
4	灰黄褐色細砂層	○× As-C・Hr-FPわずかに含む
5	灰黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、砂利・As-B混じる、硬化面
6	灰黄褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む、As-B・砂利混じる、硬化面
7	灰黄褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FPわずかに含む
8	灰黄褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP含む（土坑）
9	灰黄褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP含む（土坑）
10	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、砂利混じる、硬化面
11	黒褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む
12	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FP含む、硬化面
13	灰黄褐色粗砂層	○× As-B・砂利混じる、硬化面
14	褐灰色細砂層	○△ As-B・砂利含む、のろ層
15	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B・砂利含む
16	黒褐色粗砂層	○× As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B・砂利含む
17	灰黄褐色粗砂層	○△ As-B・砂利含む、のろ層
18	黒褐色細砂層	○○ As-B・砂利含む、のろ層
19	褐灰色細砂層	○× As-B・砂利含む、のろ層
20	灰黄褐色細砂層	○× As-B・砂利含む、のろ層
21	灰黄褐色細砂層	○× 白色軽石、As-B・砂利含む、のろ層
22	灰黄褐色細砂層	○× 白色軽石、As-B・砂利含む、のろ層
23	にぶい黄褐色細砂層	○× 白色軽石、As-B・砂利含む、のろ層
24	灰黄褐色細砂層	△× As-C・Hr-FP含む
25	黒褐色細砂層	○× As-C・Hr-FP含む
26	灰黄褐色細砂層	×○
27	灰黄褐色細砂層	×△ 黒褐色土ブロック含む（土坑）
28	黒褐色細砂層	○○ 硬化している



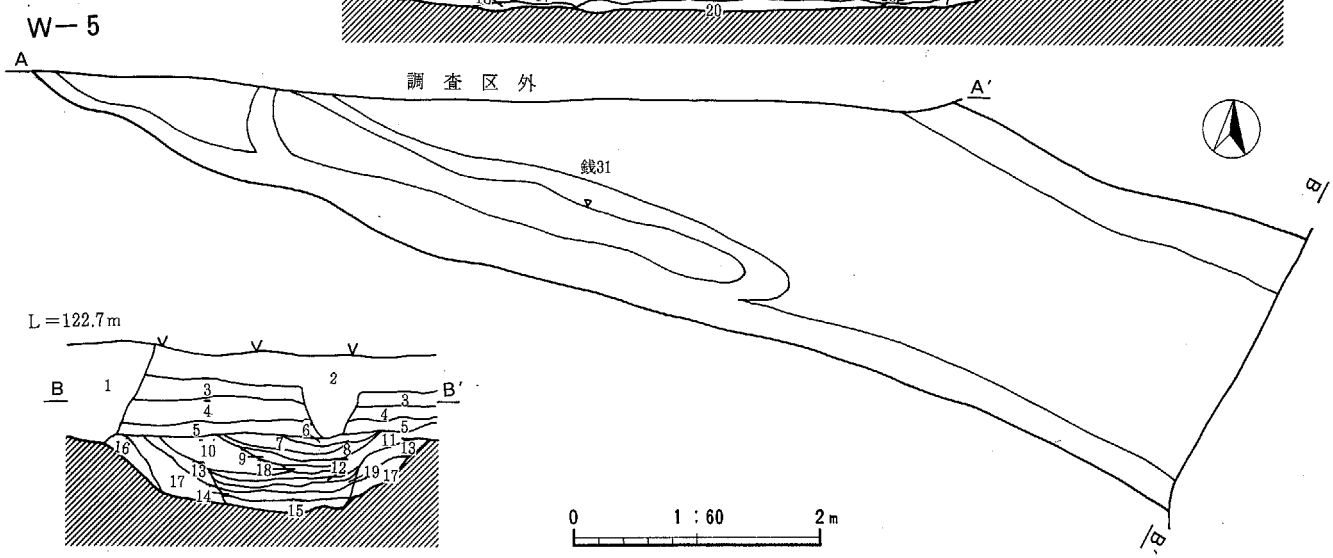
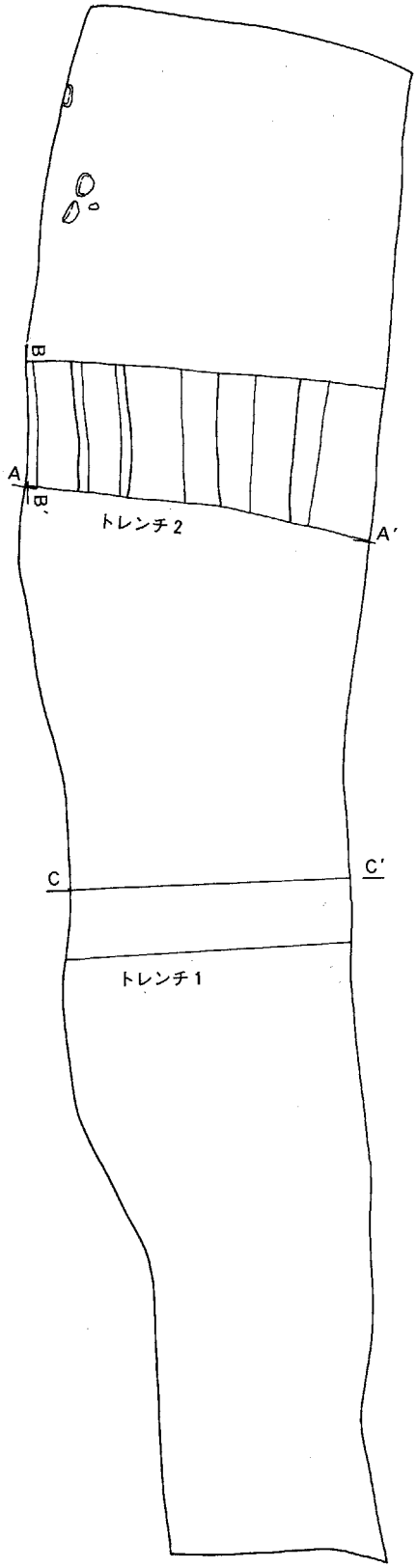
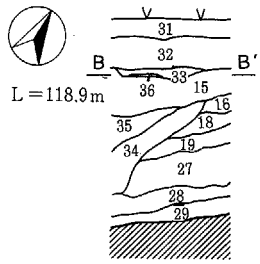
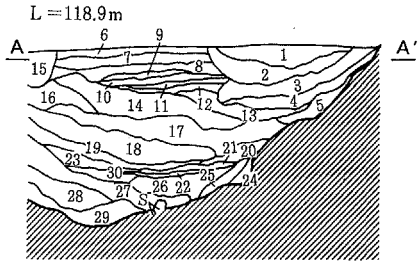


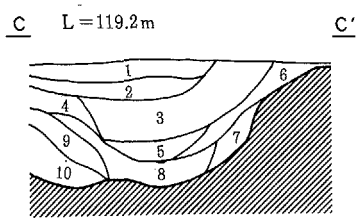
Fig. 33　W－4・5号溝跡







W－6号溝跡 トレンチ2		セクション	
1	にぶい黄褐色細砂層	○×	黄橙色土粒・軽石含む
2	にぶい黄褐色細砂層	○×	黄橙色土粒・軽石含む
3	にぶい黄褐色細砂層	○×	粘土粒・灰白色土ブロック・小石含む
4	にぶい黄褐色細砂層	△×	灰白色土粒・小石含む
5	灰黄褐色細砂層	○×	灰白色土ブロック含む
6	にぶい黄褐色細砂層	○×	黒色土ブロック含む、硬化面
7	にぶい黄褐色細砂層	○×	軽石含む、硬化面
8	にぶい黄褐色細砂層	○×	灰白色土粒・粘土粒・軽石を含む、硬化面
9	にぶい黄橙色細砂層	○×	灰白色土粒・粘土粒・を多く含む、硬化面
10	にぶい黄橙色細砂層	○×	灰白色土ブロック・黒色土ブロック含む
11	にぶい黄橙色細砂層	○×	灰白色土ブロック多く含む
12	褐灰色細砂層	○×	灰白色土ブロック・黒色土ブロック多く含む
13	褐灰色細砂層	○×	灰白色土ブロック・黒色土ブロック・粘土ブロック含む
14	褐灰色細砂層	○×	灰白色土ブロック・粘土ブロック含む
15	にぶい黄褐色細砂層	○×	軽石含む
16	灰黄褐色細砂層	○×	灰白色土ブロック含む
17	褐灰色細砂層	○×	灰白色土ブロック含む
18	暗褐色細砂層	○×	灰白色土ブロック・黄橙色土ブロック含む
19	褐灰色細砂層	○×	
20	灰黄褐色細砂層	○×	
21	褐灰色細砂層	○×	硬化面
22	褐灰色細砂層	○×	上・下面に鉄分凝結層あり、硬化面
23	褐灰色細砂層	○×	灰白色土粒・小石を多く含む
24	褐灰色細砂層	△×	のろ層
25	灰黄褐色細砂層	○×	のろ層
26	灰黄褐色粗砂層	○×	灰白色土ブロック・小石多く含む
27	褐灰色細砂層	○×	
28	暗褐色細砂層	○×	黄橙色土粒含む
29	褐灰色粗砂層	○×	鉄分凝結している小石の層
30	褐灰色細砂層	○×	灰白色土粒多く含む
31	黒褐色細砂層	○×	表土
32	灰黄褐色細砂層	○×	黄橙色土粒・小石を多く含む
33	灰黄褐色細砂層	○×	黄橙色土粒含む、硬化面
34	灰黄褐色細砂層	△×	灰白色土ブロック含む
35	褐灰色細砂層	○×	硬化面
36	灰黄褐色細砂層	△×	灰白色土粒含む



W－6号溝跡 トレンチ1		セクション	
1	灰黄褐色細砂層	○×	白い軽石含む
2	灰黄褐色細砂層	△×	地山の灰色の岩盤ブロック含む
3	にぶい黄褐色細砂層	△×	黄褐色ブロック（地山）と灰色ブロック（地山）含む
4	褐灰色細砂層	○×	小石・軽石含む
5	にぶい黄褐色細砂層	××	3層とほぼ同じ
6	褐灰色細砂層	△×	軽石含む
7	褐灰色細砂層	△×	黄褐色粒と灰色粒わずかに含む
8	褐灰色細砂層	△×	軽石含む
9	褐灰色細砂層	○×	灰色の地山ブロック含む
10	褐灰色粗砂層	○×	地山か

0　1：60　2m

Fig. 34　W－6号溝跡

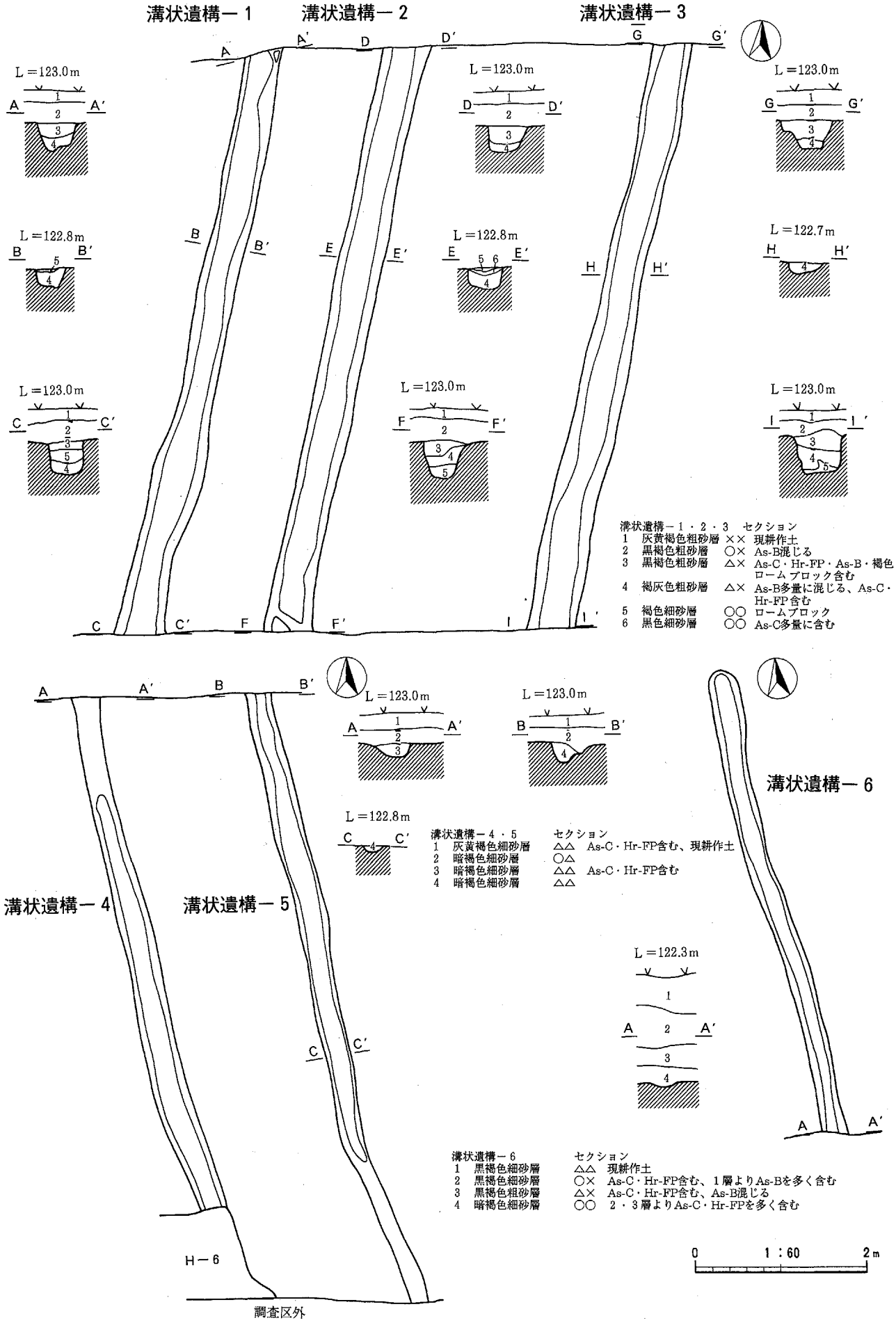


Fig. 35　1～6号溝状遺構

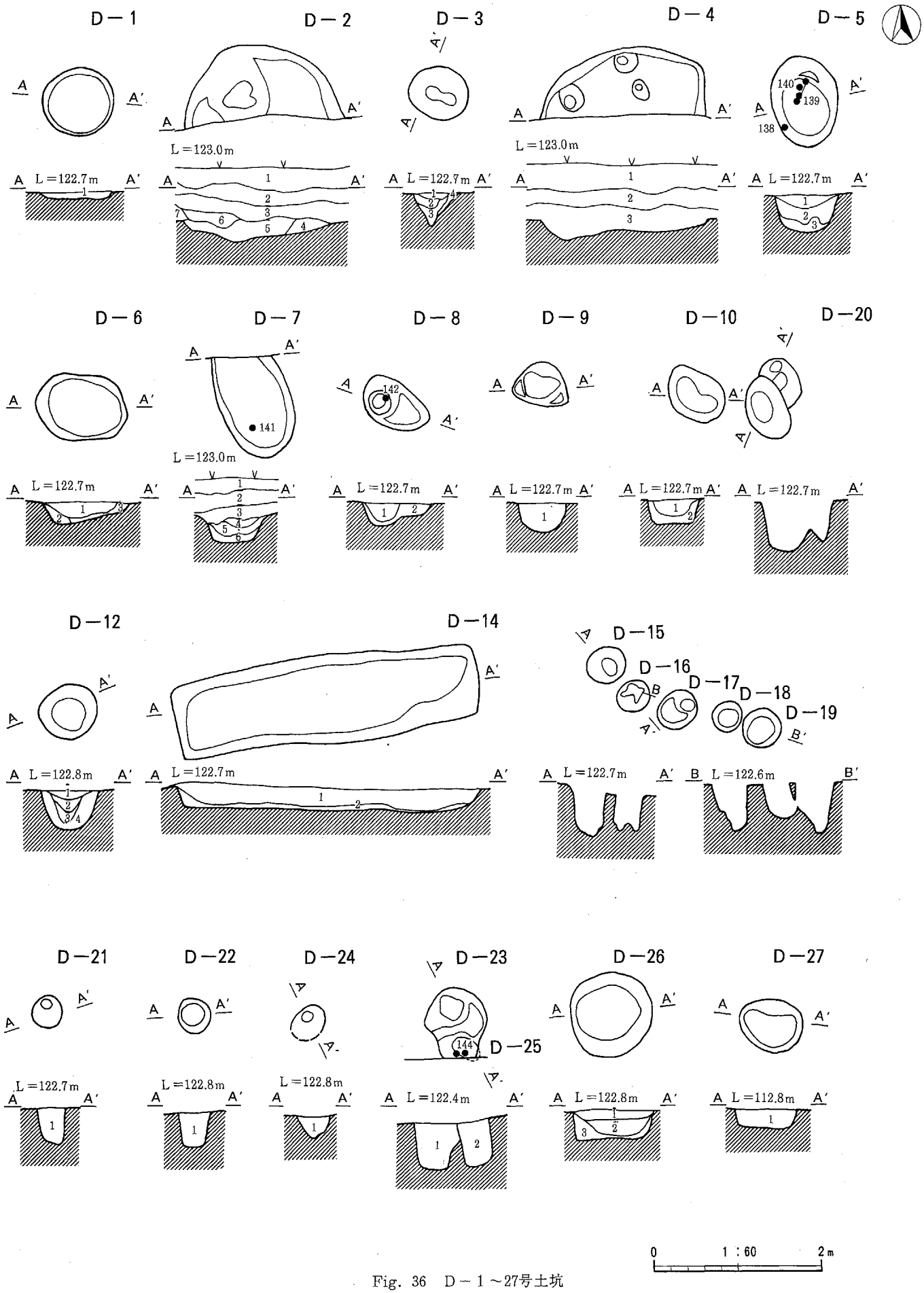


Fig. 36　D－1～27号土坑

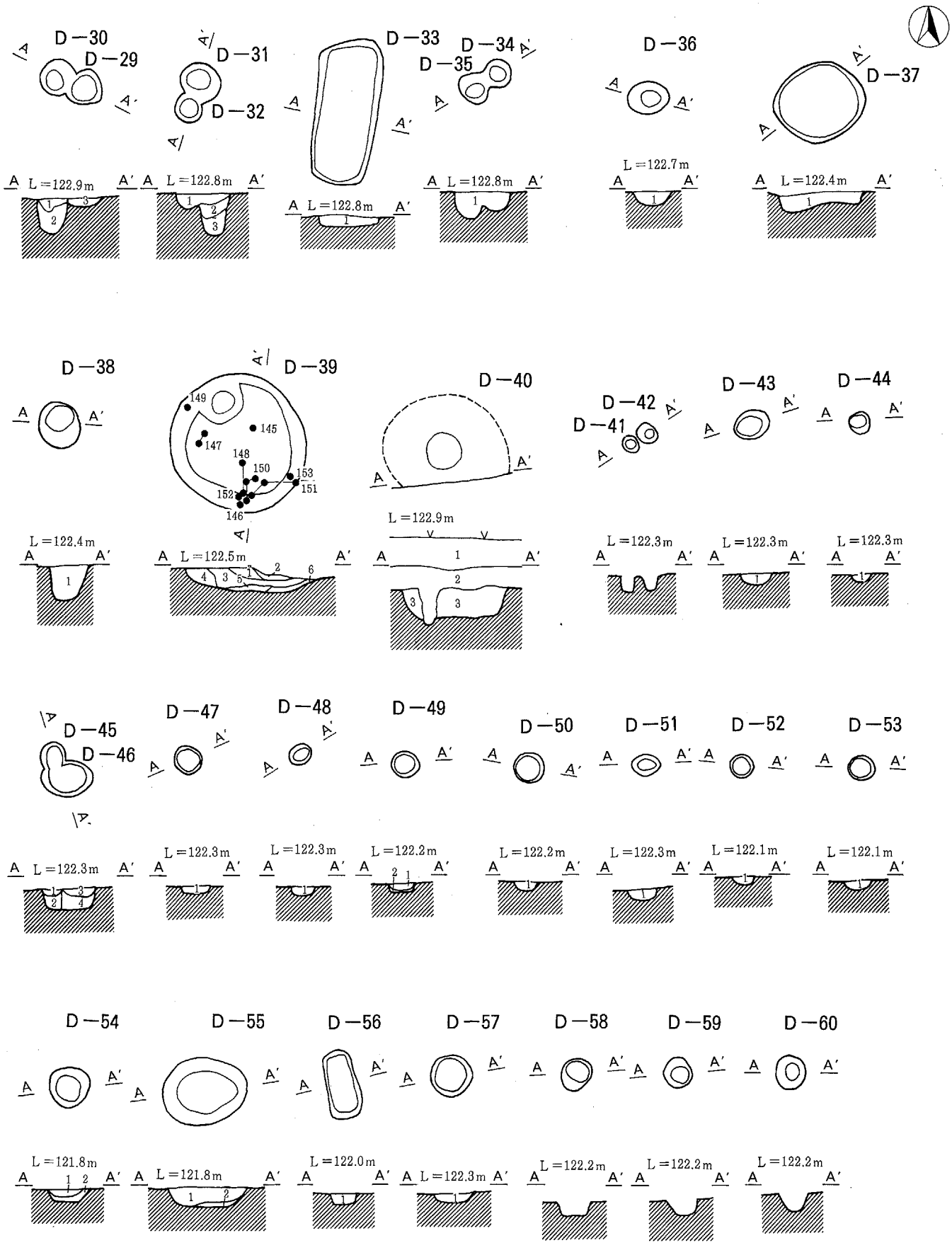


Fig. 37　D－29～60号土坑

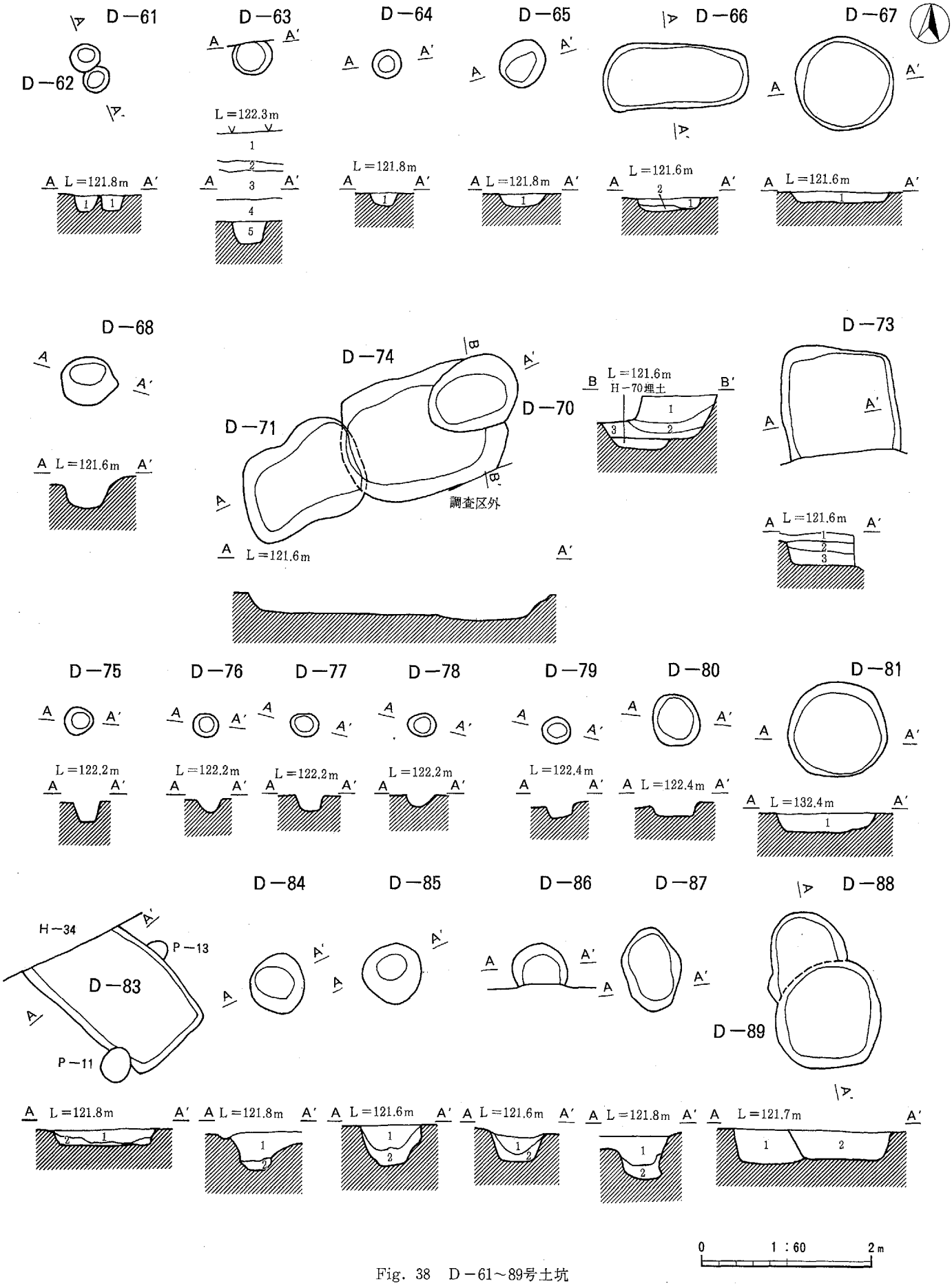


Fig. 38　D－61～89号土坑

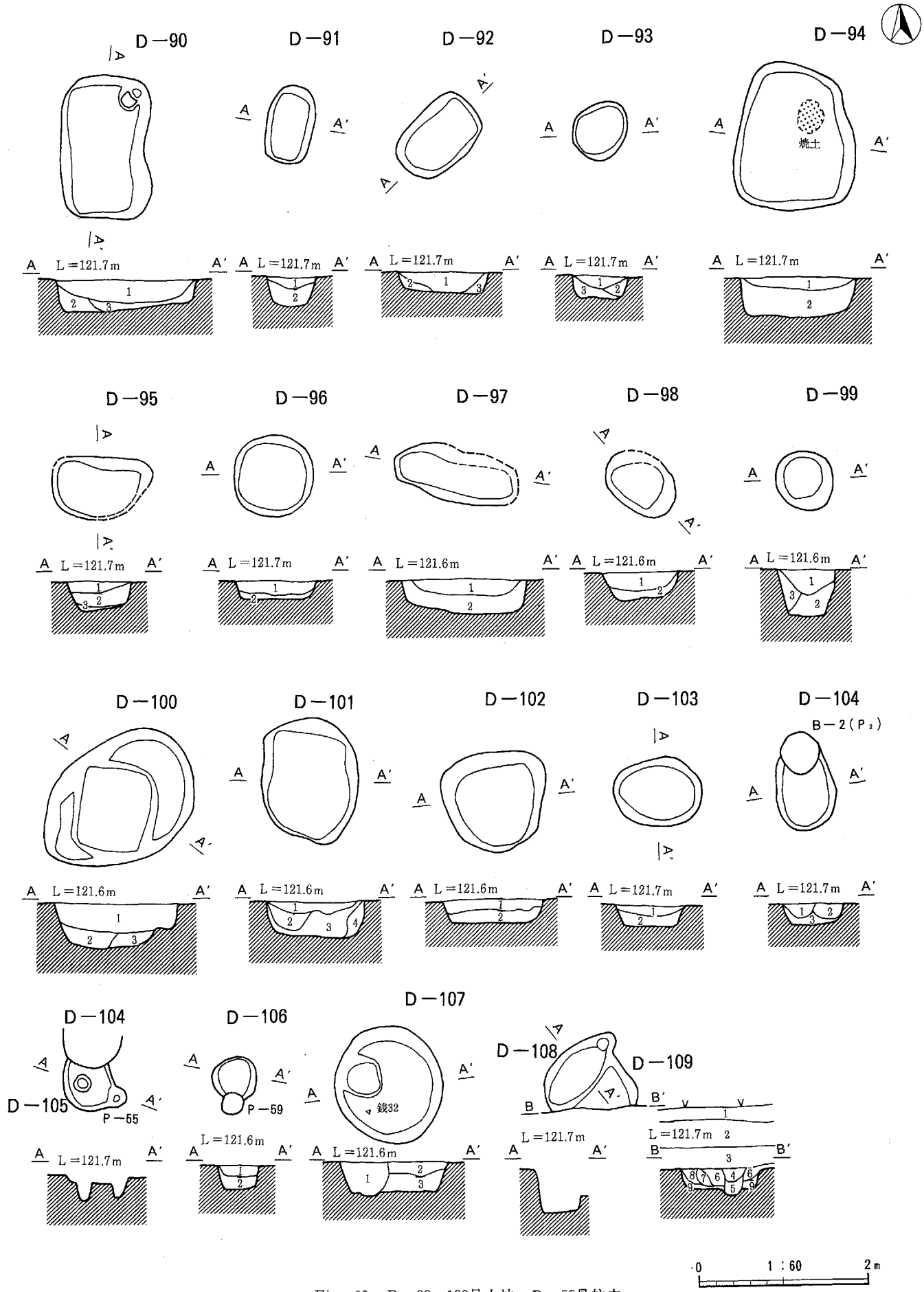


Fig. 39　D－90～109号土坑、P－55号柱穴

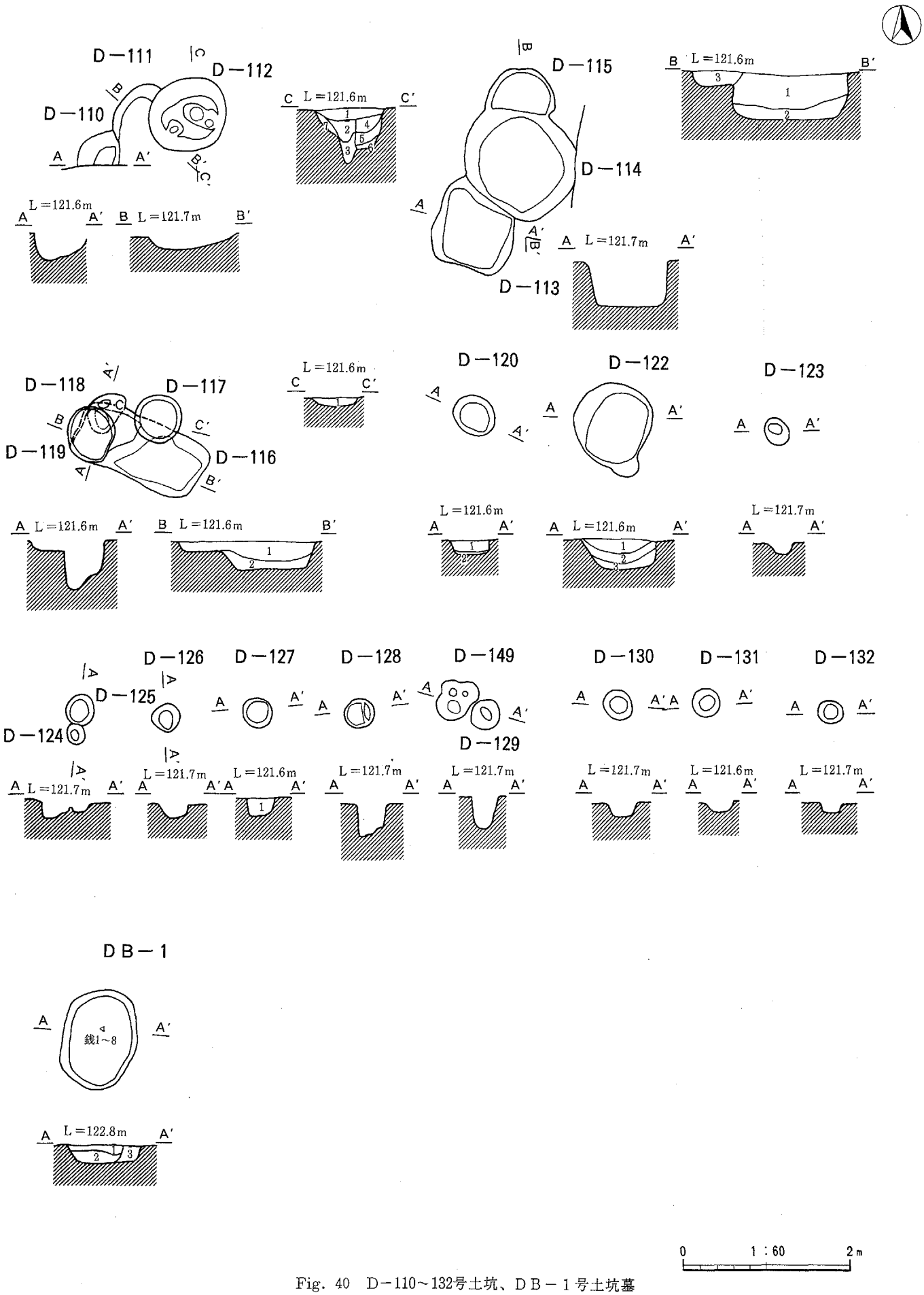


Fig. 40　D－110～132号土坑、D B－1号土坑墓

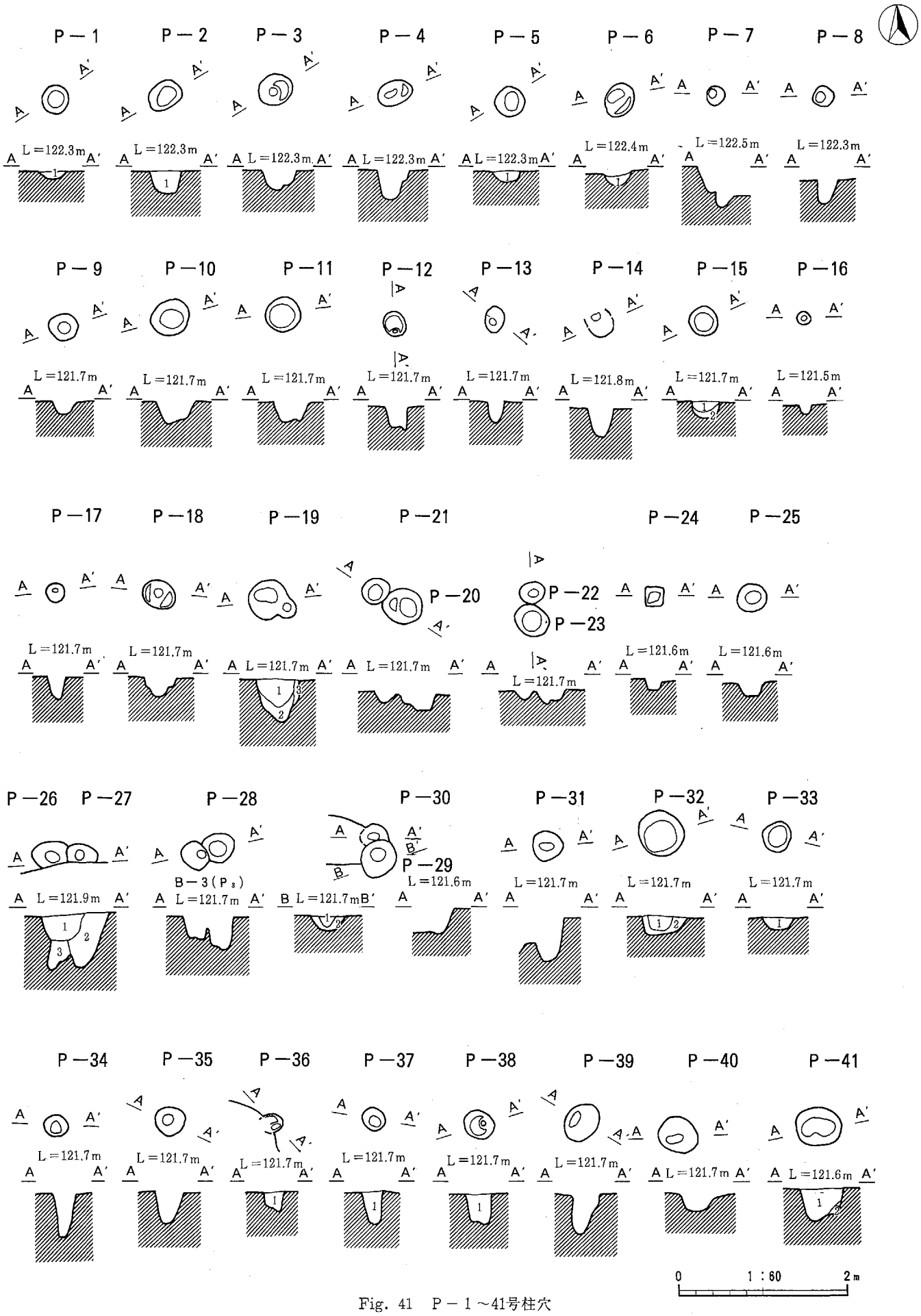


Fig. 41　P－1～41号柱穴

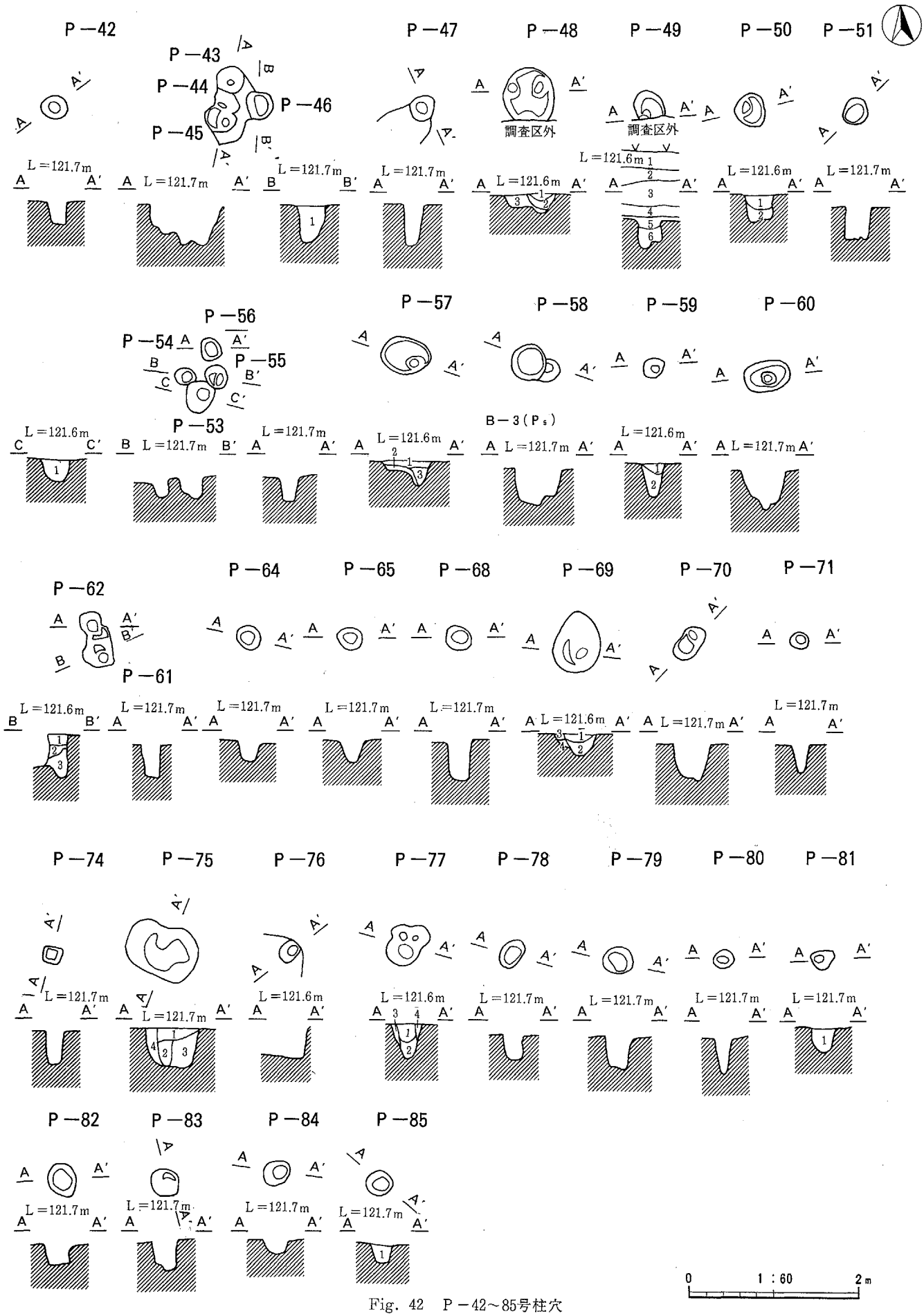


Fig. 42　P－42～85号柱穴

D－1号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP混じる

D－2号土坑セクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　黒褐色粗砂層　○×　As-B混じる
3　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C多量に含む
5　褐色細砂層　△×　As-C含む
6　黒褐色細砂層　××　As-C・Hr-FP・As-B含む
7　黒褐色細砂層　××　As-C・Hr-FP含む

D－3号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○○　ロームブロック含む
3　黒褐色細砂層　○○　2層より多量にロームブロック含む
4　褐灰色細砂層　○×　ローム粒含む

D－4号土坑セクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　黒褐色粗砂層　○×　As-B混じる
3　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む

D－5号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△△　ローム粒含む
2　黒褐色細砂層　△△　ローム粒含む
3　にぶい黄褐色細砂層　○△

D－6号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
2　黒褐色細砂層　××　As-C・Hr-FP含む
3　暗褐色細砂層　△×　1層とロームの混じり

D－7号土坑セクション
1　灰黄褐色粗砂層　××　現耕作土
2　黒褐色粗砂層　○×　As-B混じる
3　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
4　褐色細砂層　××　As-C・Hr-FP含む
5　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
6　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP・ローム粒含む

D－8号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　ローム粒含む

D－9号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む

D－10号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む
2　褐色細砂層　△△

D－11号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP・炭化物含む
2　灰黄褐色細砂層　△△　As-C含む
3　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP・炭化物含む
4　褐色細砂層　○△
5　暗褐色細砂層　△△　ローム粒混じる

D－12号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
2　黒色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、ローム粒わずかに含む
3　黒色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
4　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む

D－14号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP・As-B含む
2　にぶい黄褐色細砂層　×△　As-C・Hr-FP・ローム粒含む

D－15号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　××　As-C・黒色土ブロック含む

D－16号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C含む

D－17号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP・黄橙色土粒含む

D－18号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP・黄橙色土ブロック含む

D－19号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　×△　As-C・Hr-FP含む

D－21号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　×○

D－22号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む

D－23号土坑セクション
1　褐灰色細砂層　△△　As-B混じる

D－26号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP・黄橙色土ロームブロック含む
3　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FPわずかに含む

D－27号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　×△　黒色土・As-C多量に含む

D－29・30号土坑セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　Hr-FP・黄橙色土ロームブロック含む
2　にぶい黄褐色細砂層　△△　Hr-FP・黄橙色土ロームブロック含む
3　黒褐色細砂層　△△　Hr-FP・As-C粒含む

D－31・32号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　×△　As-C粒含む
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　Hr-FP・黄橙色土ロームブロック含む
3　暗褐色細砂層　△△　As-C含む

D－33号土坑セクション
1　暗褐色粗砂層　○×　As-B混じる

D－34・35号土坑セクション
1　暗褐色粗砂層　○×　As-B混じる

D－36号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　×○　Hr-FP・黄橙色ブロック含む

D－37号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　黄橙色粒含む

D－38号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・黄橙色粒含む

D－39号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP・焼土含む
2　黒褐色細砂層　○△　焼土・炭化物含む
3　暗褐色細砂層　○△　As-C・褐色粘土・炭化物含む
4　黒褐色細砂層　○△　As-C・黄褐色土ブロック含む
5　暗褐色細砂層　○○　炭化物含む
6　黒褐色細砂層　△○　炭化物含む

D－40号土坑セクション
1　褐灰色細砂層　○×　現耕作土
2　暗褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP混じる
3　褐色細砂層　△○　小石含む

D－43号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　白色軽石混じる

D－44号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C含む

D－45・46号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP含む
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　△○　As-C粒含む

D－47号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　白色軽石含む

D－48号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C含む

D－49号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　白色軽石粒含む、黄褐色土ブロック含む
2　黒色細砂層　△○

D－50号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む

D－51号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む

D－52号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　白色軽石粒含む

D－53号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△△　As-C含む

D－54号土坑セクション
1　灰褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
2　暗褐色細砂層　△○

D－55号土坑セクション
1　灰褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
2　褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む

D－56号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○

D－57号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○△　白色軽石混じる

D－61・62号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む

D－63号土坑セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　現耕作土
2　暗褐色細砂層　△×
3　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　△△　As-B混じる
5　黒褐色細砂層　△○　As-C含む

D－64号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP・As-C含む

D－65号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△○　白色軽石粒含む

D－66号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△○　As-C含む
2　黒褐色細砂層　△◎　粘性強い

D－67号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP含む

D－70号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP混じる
2　黒褐色細砂層　○○　軽石をわずかに含む、にぶい黄橙色粘土ブロック含む
3　暗褐色細砂層　○○　軽石をわずかに含む、にぶい黄橙色粘土粒を含む

D－73号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP混じる
2　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPわずかに含む
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP焼土粒含む、下部一面に灰が広がる

D－81号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる

D－82号土坑セクション
1　灰黄褐色微砂層　○○　焼土・炭化物多量に含む
2　灰黄褐色微砂層　○○　粘質土

D－83号土坑セクション
1　黄褐色細砂層　××　軽石を含まない
2　黄褐色細砂層　○×　軽石を含まない

D－85号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP多く含む
2　黒褐色細砂層　○△　明黄褐色ロームブロック含む

D－84号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　××　As-C含む

D－87号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　××　As-C含む

D－88・89号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○×　ロームブロック含む、As-B混じる
2　黒褐色細砂層　○×　白色軽石・ロームブロック含む、As-B混じる

D－90号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　ロームブロック・粘質土ブロック含む、As-B混じる
2　暗褐色細砂層　△×　ロームブロック混じる
3　黒褐色細砂層　△△　白色軽石含む

D－91号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　××　ロームブロック粒・灰含む、As-B混じる

D－92号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
2　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む

D－93号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP・炭化物含む
2　黒褐色細砂層　×△　白色軽石含む
3　にぶい黄褐色細砂層　風倒木痕か

D－94号土坑セクション
1　褐灰色粗砂層　△×　灰白色土ロームブロック含む、As-B混じる
2　褐灰色粗砂層　××　明黄褐色土ブロック含む、As-B混じる

D－96号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-B混じる
2　黒褐色細砂層　××　ロームブロックわずかに含む

D－97号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、ロームブロック粒わずかに含む、As-B混じる
2　暗褐色細砂層　△△　As-B混じる

D－98号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・As-B多く含む、ロームブロック粒わずかに含む
2　黒褐色細砂層　○×　左半分As-B多く含む、右下部ロームブロック粒含む

D－99号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
2　にぶい黄褐色細砂層　○△
3　黒褐色細砂層　×○　軽石わずかに含む

D－100号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
2　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む、As-B混じる
3　にぶい黄褐色細砂層　△×　ロームブロック多く含む

D－101号土坑セクション
1　灰黄褐色細砂層　××　灰白色粘土混じる、風倒木痕
2　褐灰色細砂層　××　黄橙色土大粒含む
3　褐灰色細砂層　××　黄橙色土小粒含む
4　明黄褐色細砂層　××　ロームの崩れた層
5　褐灰色細砂層　××　漸移層
6　明黄褐色細砂層　○×　ローム層

D－102号土坑セクション
1　褐灰色細砂層　△△　As-C・Hr-FP・As-B混じる
2　にぶい黄褐色細砂層　△△　ローム層

D－103号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-B混じる
2　暗褐色細砂層　△×　ロームブロックわずかに含む

D－104号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B混じる
2　暗褐色細砂層　××　As-B混じる
3　暗褐色細砂層　△×

D－106号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる
2　褐色細砂層　○×　ローム粒多く含む、粘質土ブロックわずかに含む

D－107号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　××　黄橙色土粒含む
2　黒褐色細砂層　××
3　にぶい黄褐色細砂層　××　黄橙色土粒含む

D－109号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　××　現耕作土
2　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
3　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP多く含む、ロームブロック粒わずかに含む、As-B混じる
4　黒褐色細砂層　○×　ロームブロック含む
5　黒褐色細砂層　×△　ロームブロック粒わずかに含む
6　黒褐色細砂層　△△　ローム粒多く含む
7　黒褐色細砂層　○×　下部にロームブロック粒多く含む
8　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
9　褐色細砂層　○×　地山か
10　暗褐色細砂層　△×

D－110号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B多く含む、As-C・Hr-FP・ロームブロック粒含む

D－112号土坑、P－44号柱穴　セクション
1　暗褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FP含む、下端部にAs-B混じる
2　黒褐色細砂層　××　As-B混じる
3　暗褐色細砂層　××　ロームブロック粒含む、As-B混じる
4　黒褐色細砂層　△△　As-C・Hr-FPわずかに含む
5　黒褐色細砂層　×○　上部に粘質土ブロック含む
6　灰黄褐色細砂層　○△　ロームブロック粒含む
7　にぶい黄褐色細砂層　△△　ロームブロック粒含む

D－114・115土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B混じる
2　黒褐色細砂層　△×
3　暗褐色細砂層　△×　As-B混じる
4　暗褐色細砂層　△△　ロームブロック多く含む（地山）
5　黒褐色細砂層　○×　白色軽石含む（地山）

D－116号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、As-B多く含む
2　暗褐色細砂層　△×　右半分にロームブロック粒多く含み、左半分にAs-B多く含む

D－117号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
2　褐色細砂層　○△　ロームブロック粒含む

D－119号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
2　褐色細砂層　○△　ロームブロック粒含む

D－120号土坑セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FPわずかに含む、As-B混じる
2　褐色細砂層　△△　粘質土ブロック・ローム粒含む

D－122号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、炭化物わずかに含む
2　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・ロームブロック粒含む
3　にぶい黄褐色細砂層　△△　ロームブロック粒多く含む

D－127号土坑セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む
2　暗褐色細砂層　○△　地山か

DB－1号土坑墓　セクション
1　黒褐色粗砂層　○×　As-B多く含む、人骨を検出する
2　黒褐色粗砂層　○×　As-C・Hr-FP・As-B含む、人骨を検出する
3　黒色細砂層　○○　As-Cを多量に含む

P－1・2号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　××　ロームブロック含む

P－6号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・黄橙色土粒含む

P－15号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　○△

P－19号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○×　ロームブロック・粘質土ブロック・白色軽石含む、As-B混じる
2　黒褐色細砂層　△×　As-B・ロームブロック粒含む
3　暗褐色細砂層　○×　ロームブロック粒含む

P－29号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B混じる
2　黒褐色細砂層　○△　粘質土ブロック含む

P－32号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-B混じる、炭化物わずかに含む
2　暗褐色細砂層　○×　白色軽石含む、締まり強い

P－33号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP多く含む

P－36号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・ロームブロック含む
2　黒褐色細砂層　××　As-B多く含む、As-C・Hr-FP含む

P－37号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B多く含む、As-C・Hr-FP含む

P－38号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP・As-B多く含む、炭化物・ロームブロック含む

P－41号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　中央部に大きなロームブロックあり
2　褐色細砂層　○×　ロームブロック粒混じる

P－44号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-B多く含む、As-C・Hr-FP・ロームブロック粒わずかに含む
2　黒褐色細砂層　△×　As-B多く含む、炭化物・ロームブロック粒わずかに含む
3　暗褐色細砂層　△×　As-B多く含む、As-C・Hr-FP含む、下部にロームブロック粒多く含む

P－46号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・ロームブロック粒含む

P－48号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む、As-B多く含む
2　黒褐色細砂層　○△　As-B多く含む、As-C・Hr-FP・炭化物含む、下部にロームブロック含む
3　黒褐色細砂層　△△　As-B多く含む、ロームブロック粒多く含む

P－49号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　×△　現耕作、As-C・Hr-FP含む
2　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP含む
3　灰黄褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP多く含む、As-B混じる
4　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
5　黒褐色細砂層　○△　白色軽石粒含む
6　黒褐色細砂層　△△

P－50号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　△△　Hr-FP含む、As-B混じる
2　にぶい黄褐色細砂層　○△　ロームブロック粒含む、地山か

P－53号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-B混じる

P－57号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B混じる
2　暗褐色細砂層　△×　地山
3　黒褐色細砂層　××　上部に地山のブロック含む、As-B混じる

P－59号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　ロームブロック粒多く含む、As-B混じる
2　黒褐色細砂層　△△　ロームブロック粒含む、As-B混じる

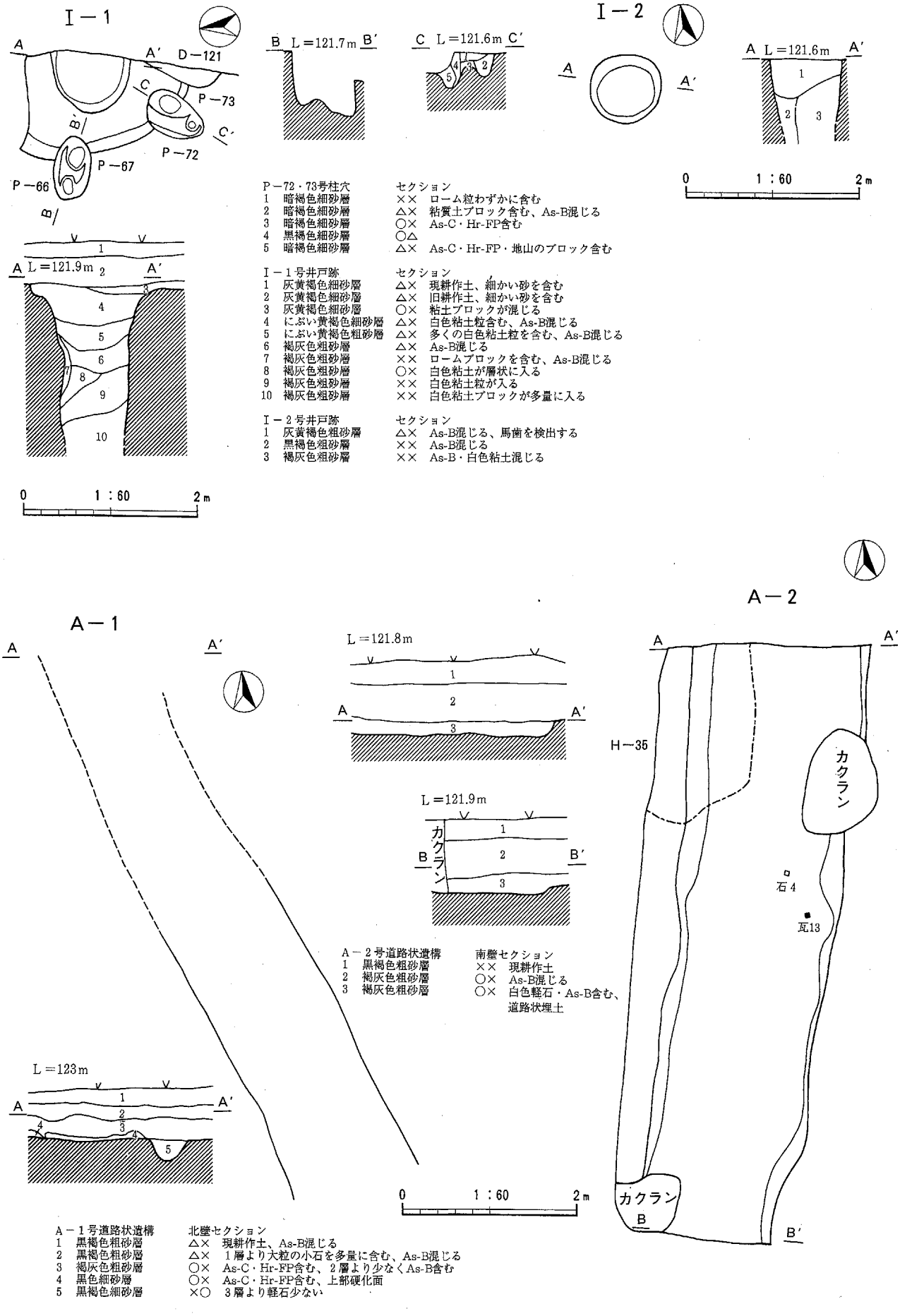
P－61号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む
2　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
3　黒褐色細砂層　××　ロームブロック粒含む

P－75号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B混じる、ロームブロックわずかに含む
2　暗褐色細砂層　××　As-B混じる、ロームブロック含む、非常にもろい
3　黒褐色細砂層　△△　白色軽石粒わずかに含む、As-B混じる
4　黒褐色細砂層　△×　ロームブロックわずかに含む、As-B混じる

P－77号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP含む、As-B混じる
2　黒褐色細砂層　△△　ロームブロック粒含む、As-B混じる
3　暗褐色細砂層　××　地山か
4　黒褐色細砂層　△×　As-B混じる
5　暗褐色細砂層　○×　地山か

P－81号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B多く含む、As-C・Hr-FPわずかに含む
2　にぶい黄褐色細砂層　○×　地山

P－85号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-B多く含む、As-C・Hr-FP含む



P－72・73号柱穴　セクション
1　暗褐色細砂層　××　ローム粒わずかに含む
2　暗褐色細砂層　△×　粘質土ブロック含む、As-B混じる
3　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む
4　黒褐色細砂層　○△
5　暗褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP・地山のブロック含む

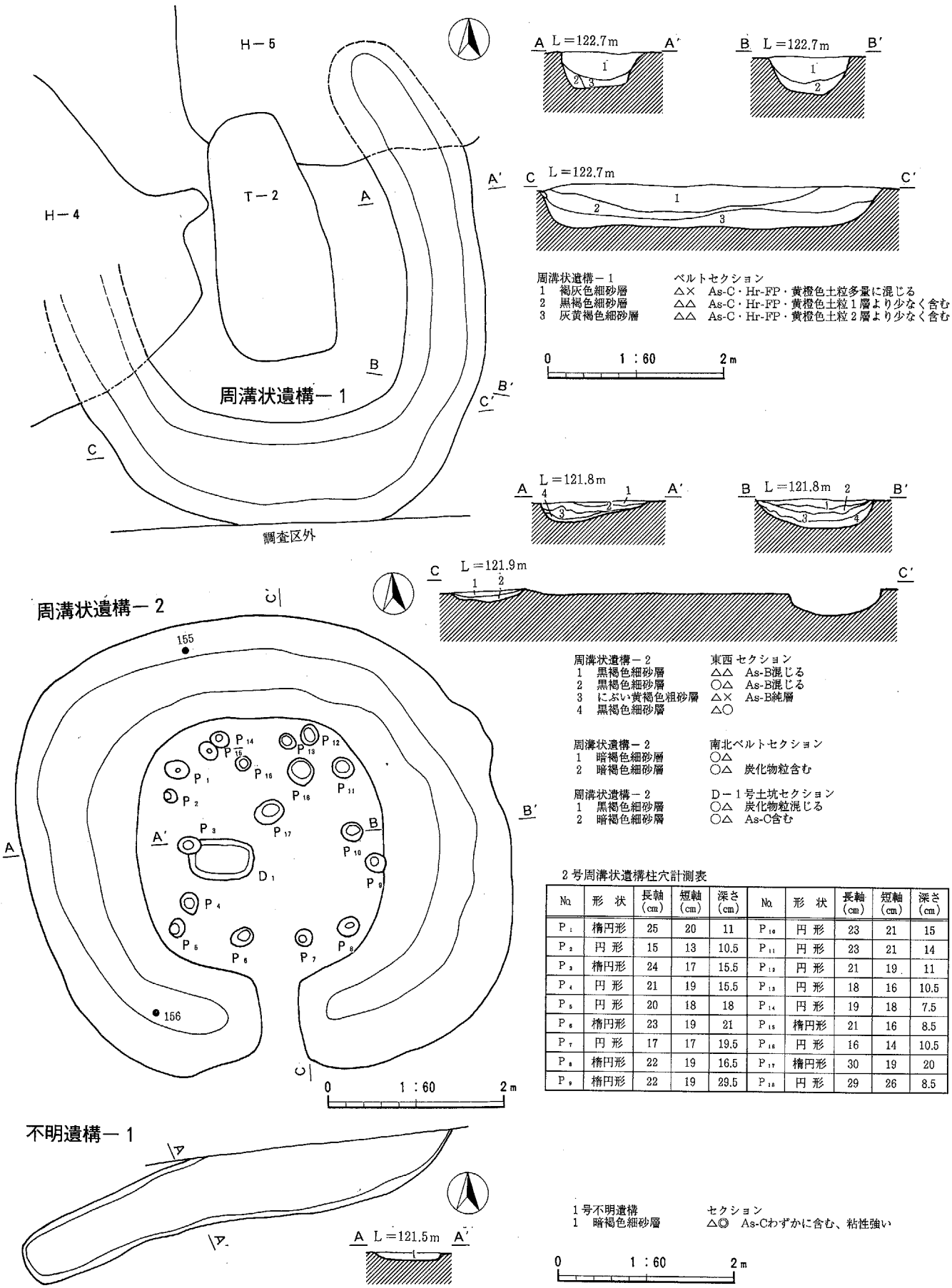
I－1号井戸跡　セクション
1　灰黄褐色細砂層　△×　現耕作土、細かい砂を含む
2　灰黄褐色細砂層　△×　旧耕作土、細かい砂を含む
3　灰黄褐色細砂層　○×　粘土ブロックが混じる
4　にぶい黄褐色細砂層　△×　白色粘土粒含む、As-B混じる
5　にぶい黄褐色粗砂層　△×　多くの白色粘土粒を含む、As-B混じる
6　褐灰色粗砂層　△×　As-B混じる
7　褐灰色粗砂層　××　ロームブロックを含む、As-B混じる
8　褐灰色粗砂層　○×　白色粘土が層状に入る
9　褐灰色粗砂層　××　白色粘土粒が入る
10　褐灰色粗砂層　××　白色粘土ブロックが多量に入る

I－2号井戸跡　セクション
1　灰黄褐色粗砂層　△×　As-B混じる、馬歯を検出する
2　黒褐色粗砂層　××　As-B混じる
3　褐灰色粗砂層　××　As-B・白色粘土混じる

A－2号道路状遺構　南壁セクション
1　黒褐色粗砂層　××　現耕作土
2　褐灰色粗砂層　○×　As-B混じる
3　褐灰色粗砂層　○×　白色軽石・As-B含む、道路状埋土

A－1号道路状遺構　北壁セクション
1　黒褐色粗砂層　△×　現耕作土、As-B混じる
2　黒褐色粗砂層　△×　1層より大粒の小石を多量に含む、As-B混じる
3　褐灰色粗砂層　○×　As-C・Hr-FP含む、2層より少なくAs-B含む
4　黒色細砂層　○×　As-C・Hr-FP含む、上部硬化面
5　黒褐色細砂層　×○　3層より軽石少ない

Fig. 43　P－66・67・72・73号柱穴、I－1・2号井戸跡、A－1・2号道路状遺構



2号周溝状遺構柱穴計測表

No.	形 状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	No.	形 状	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
P1	楕円形	25	20	11	P10	円 形	23	21	15
P2	円 形	15	13	10.5	P11	円 形	23	21	14
P3	楕円形	24	17	15.5	P12	円 形	21	19	11
P4	円 形	21	19	15.5	P13	円 形	18	16	10.5
P5	円 形	20	18	18	P14	円 形	19	18	7.5
P6	楕円形	23	19	21	P15	楕円形	21	16	8.5
P7	円 形	17	17	19.5	P16	円 形	16	14	10.5
P8	楕円形	22	19	16.5	P17	楕円形	30	19	20
P9	楕円形	22	19	29.5	P18	円 形	29	26	8.5

Fig. 44　1・2号周溝状遺構、1号不明遺構

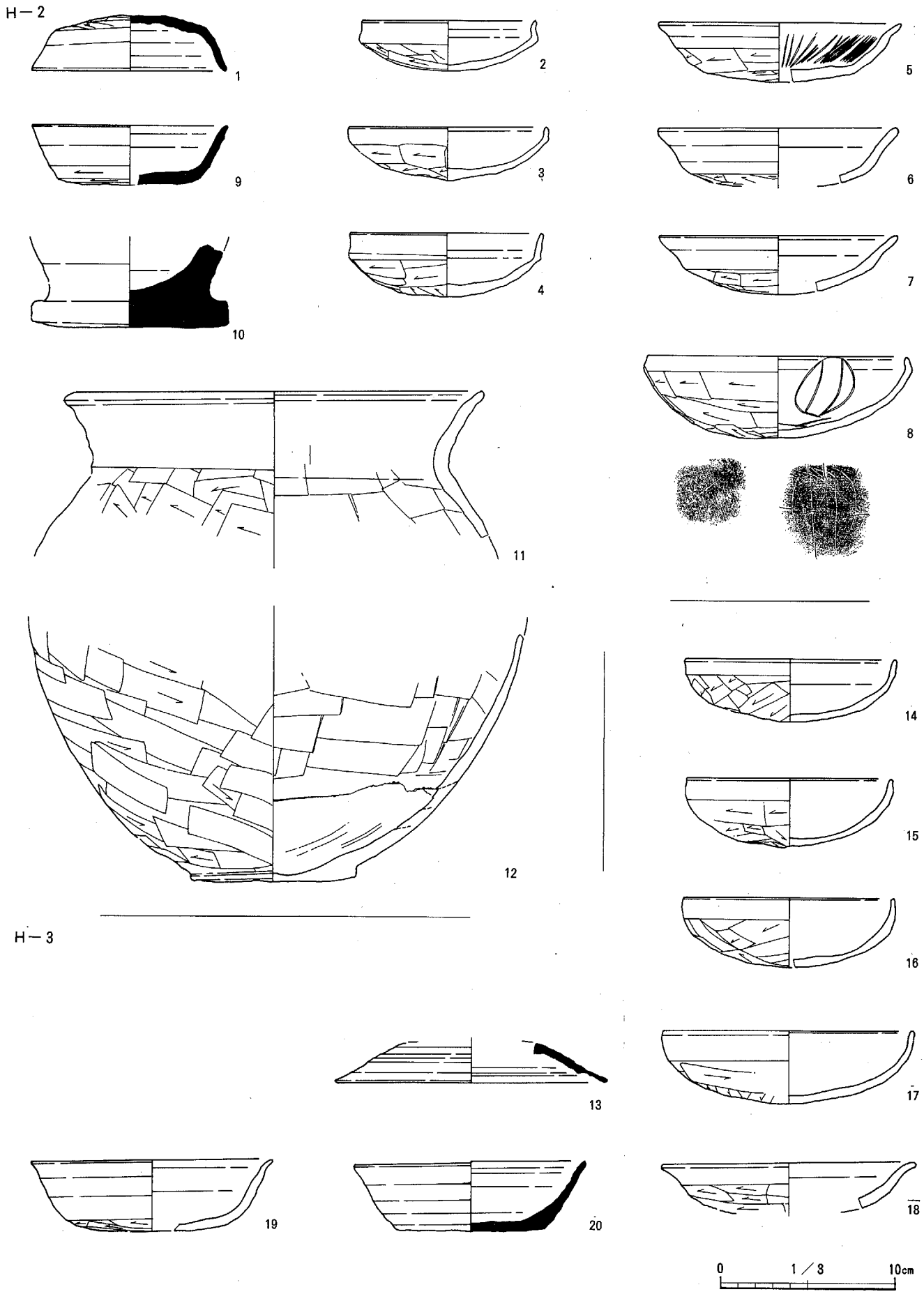


Fig. 45　H－2・3号住居跡出土の土器

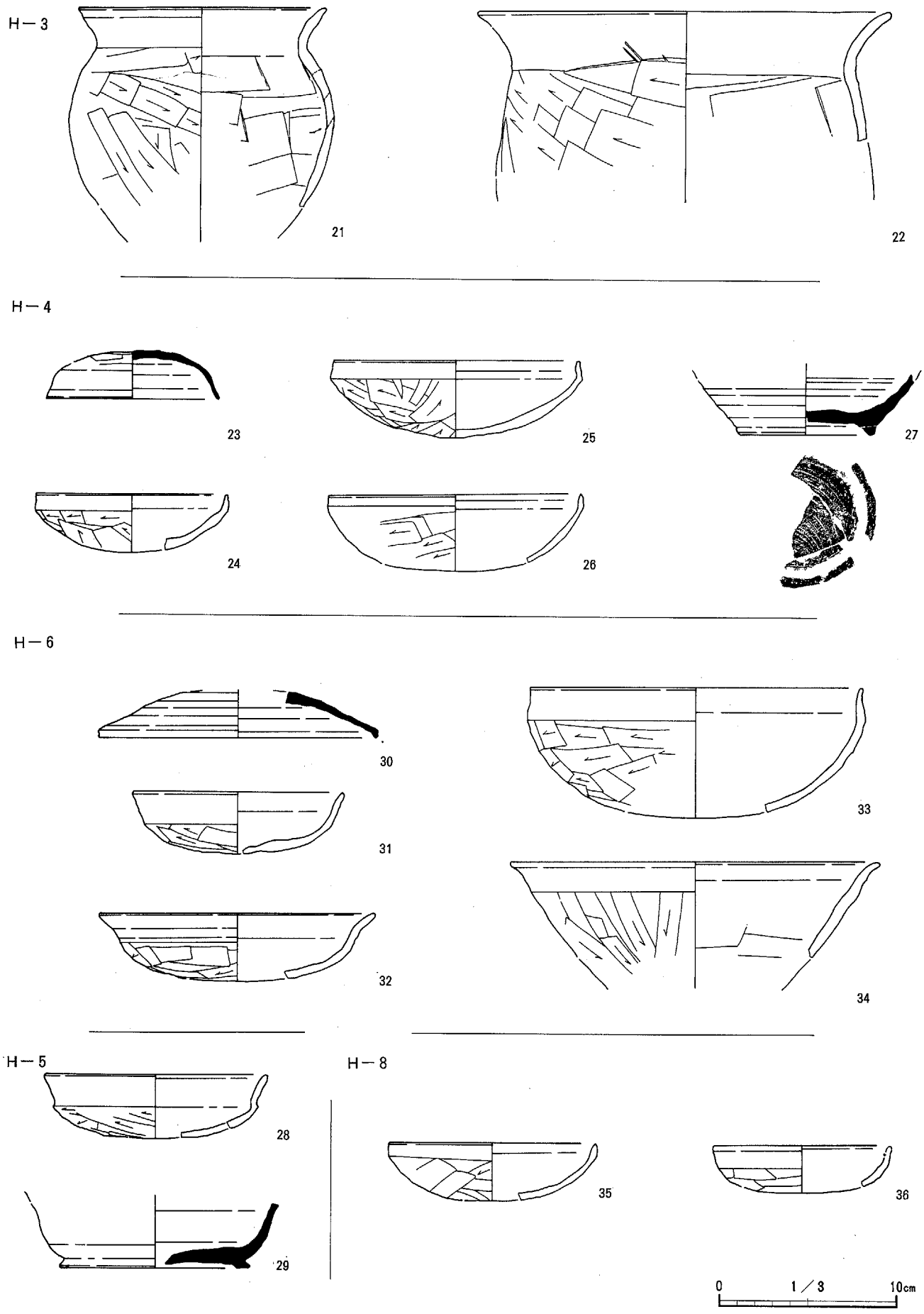


Fig. 46　H－3・4・5・6・8号住居跡出土の土器

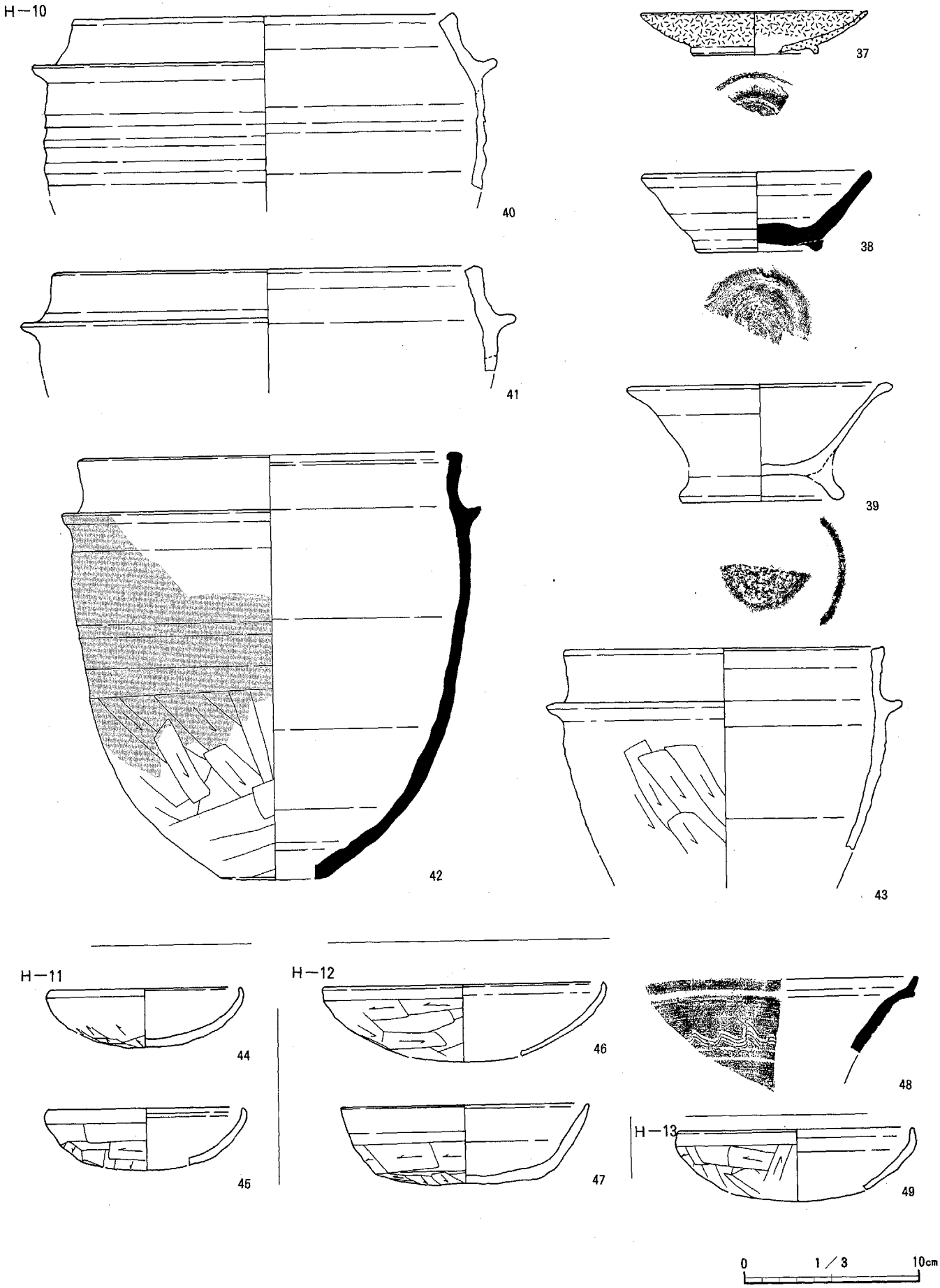


Fig. 47　H－10・11・12・13号住居跡出土の土器

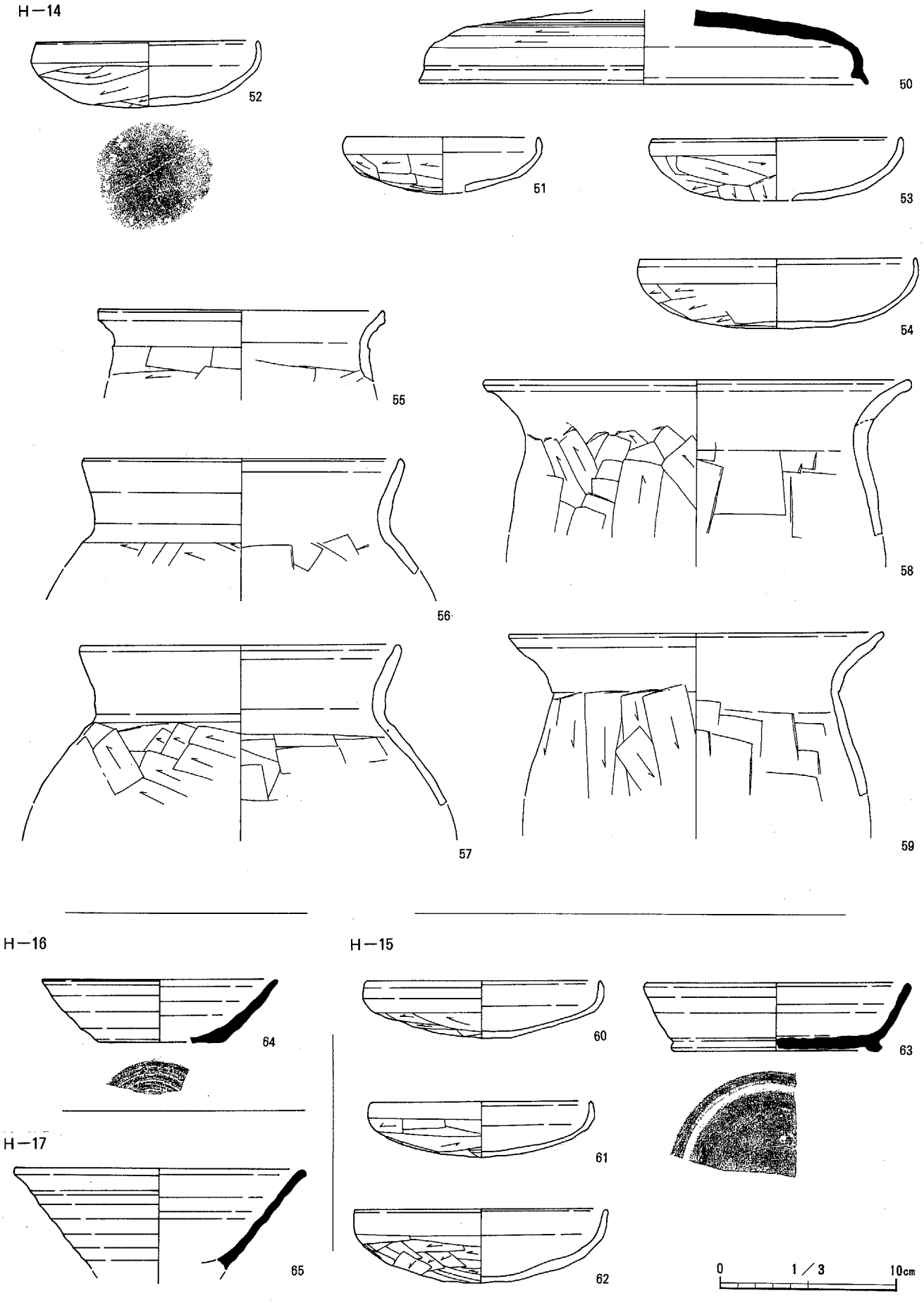


Fig. 48　H－14・15・16・17号住居跡出土の土器

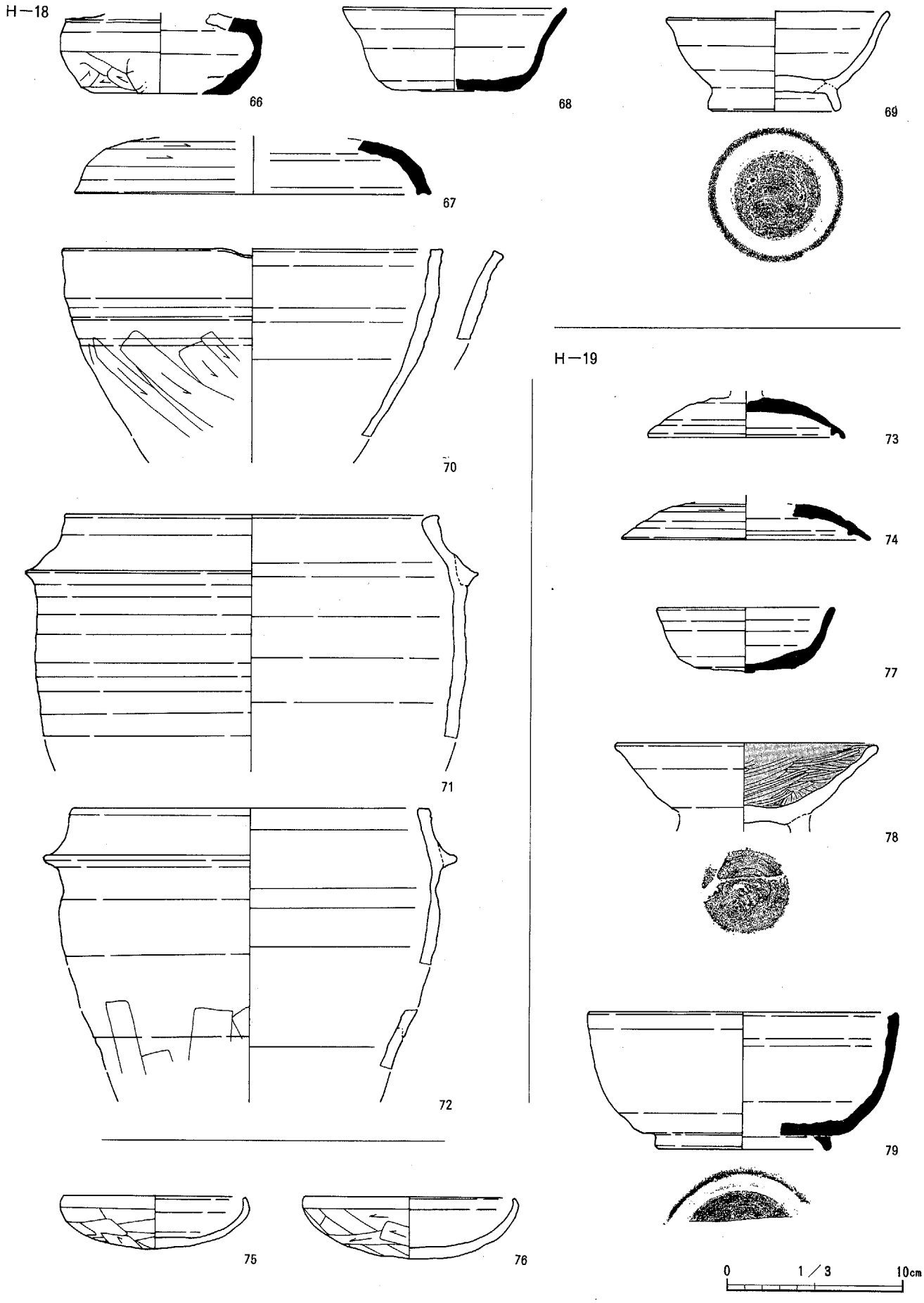


Fig. 49　H－18・19号住居跡出土の土器

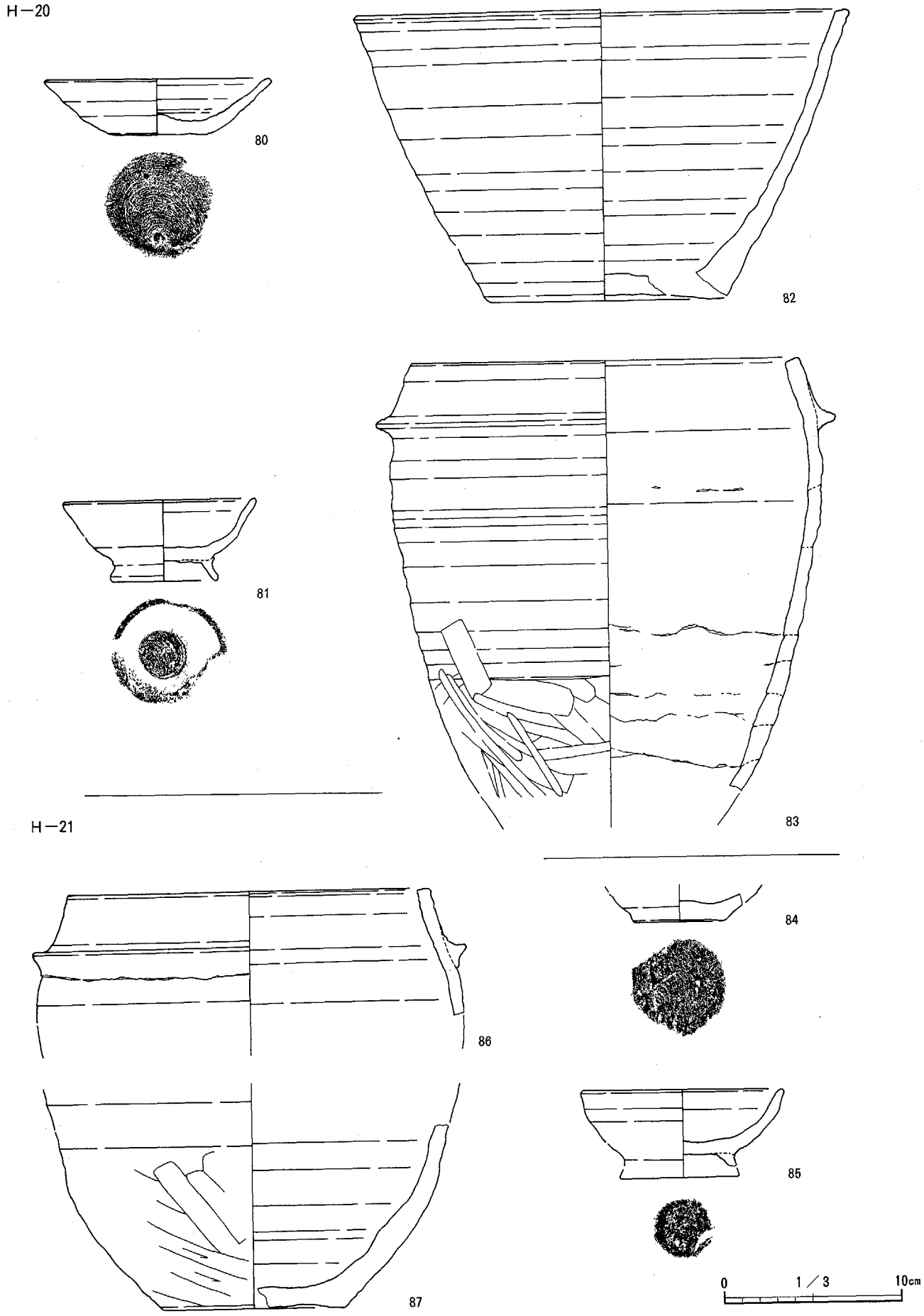


Fig. 50　H－20・21号住居跡出土の土器

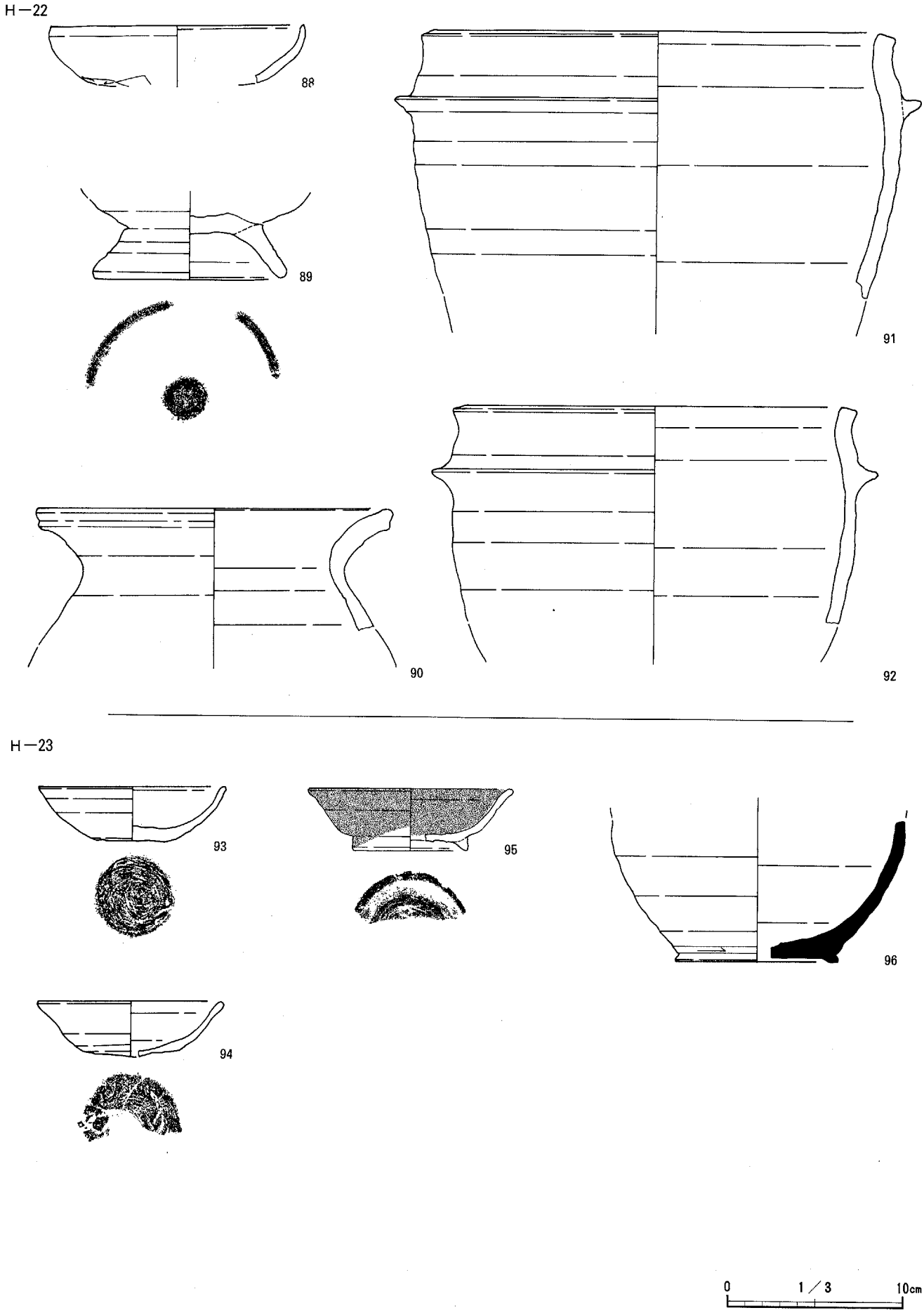


Fig. 51　H－22・23号住居跡出土の土器

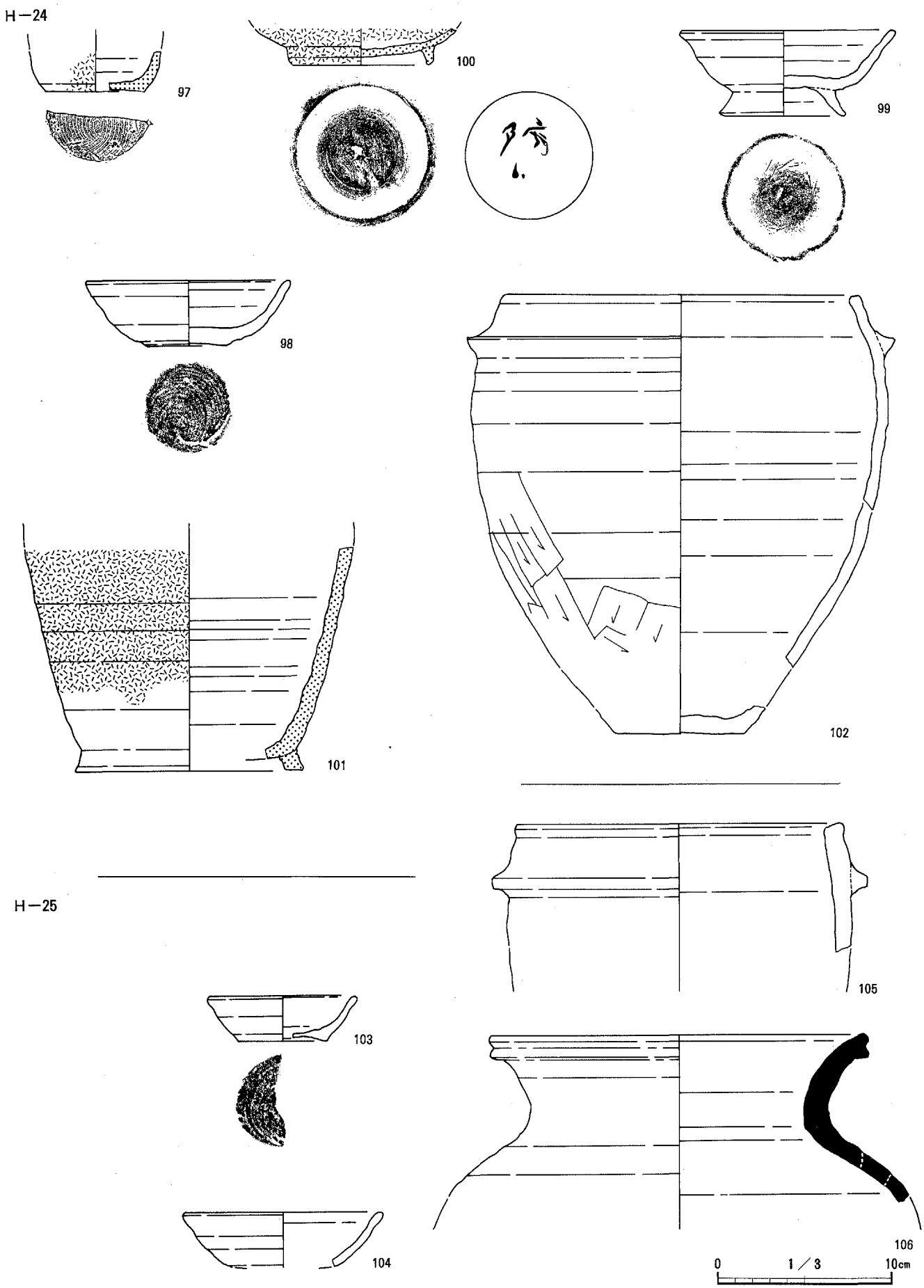


Fig. 52　H－24・25号住居跡出土の土器

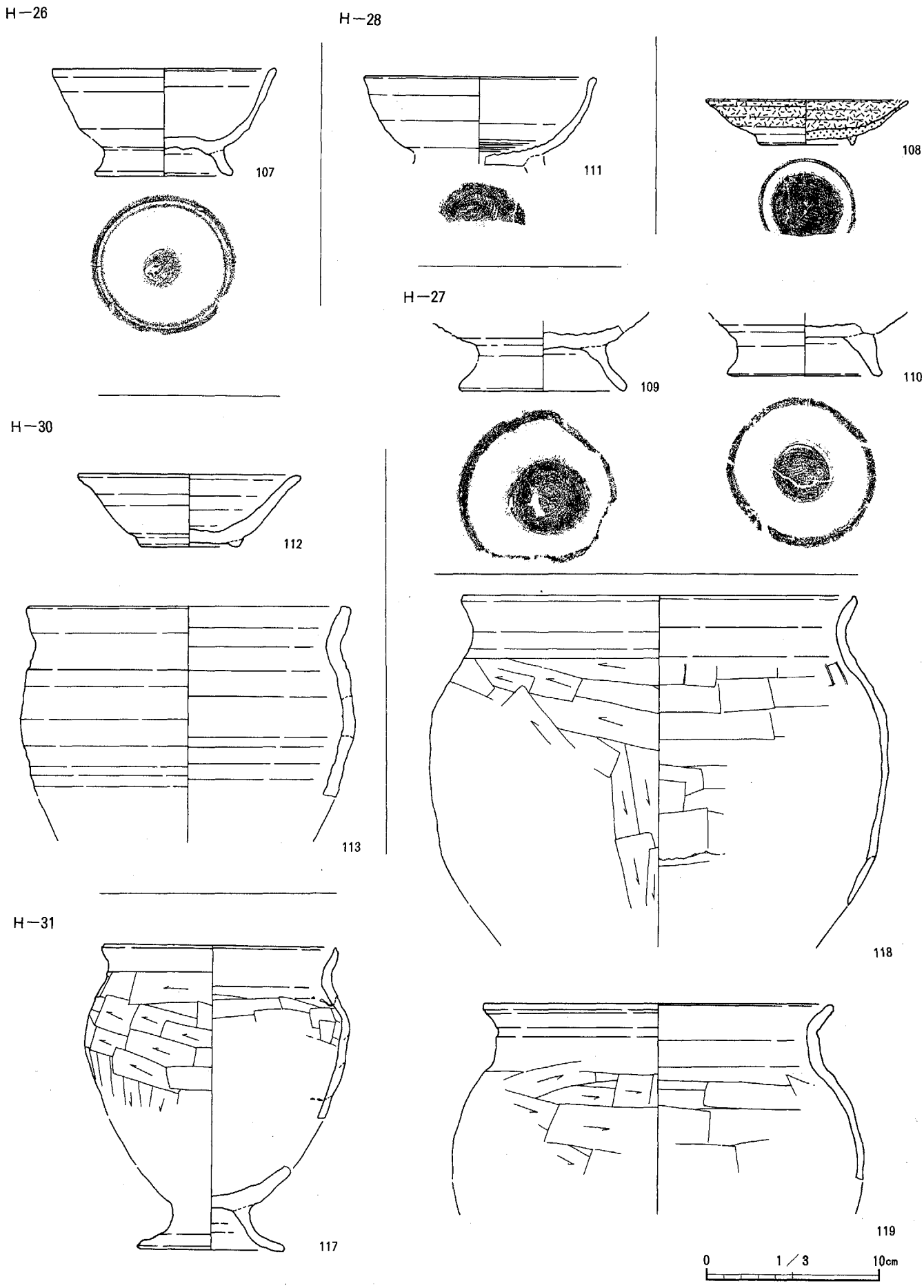


Fig. 53　H－26・27・28・30・31号住居跡出土の土器

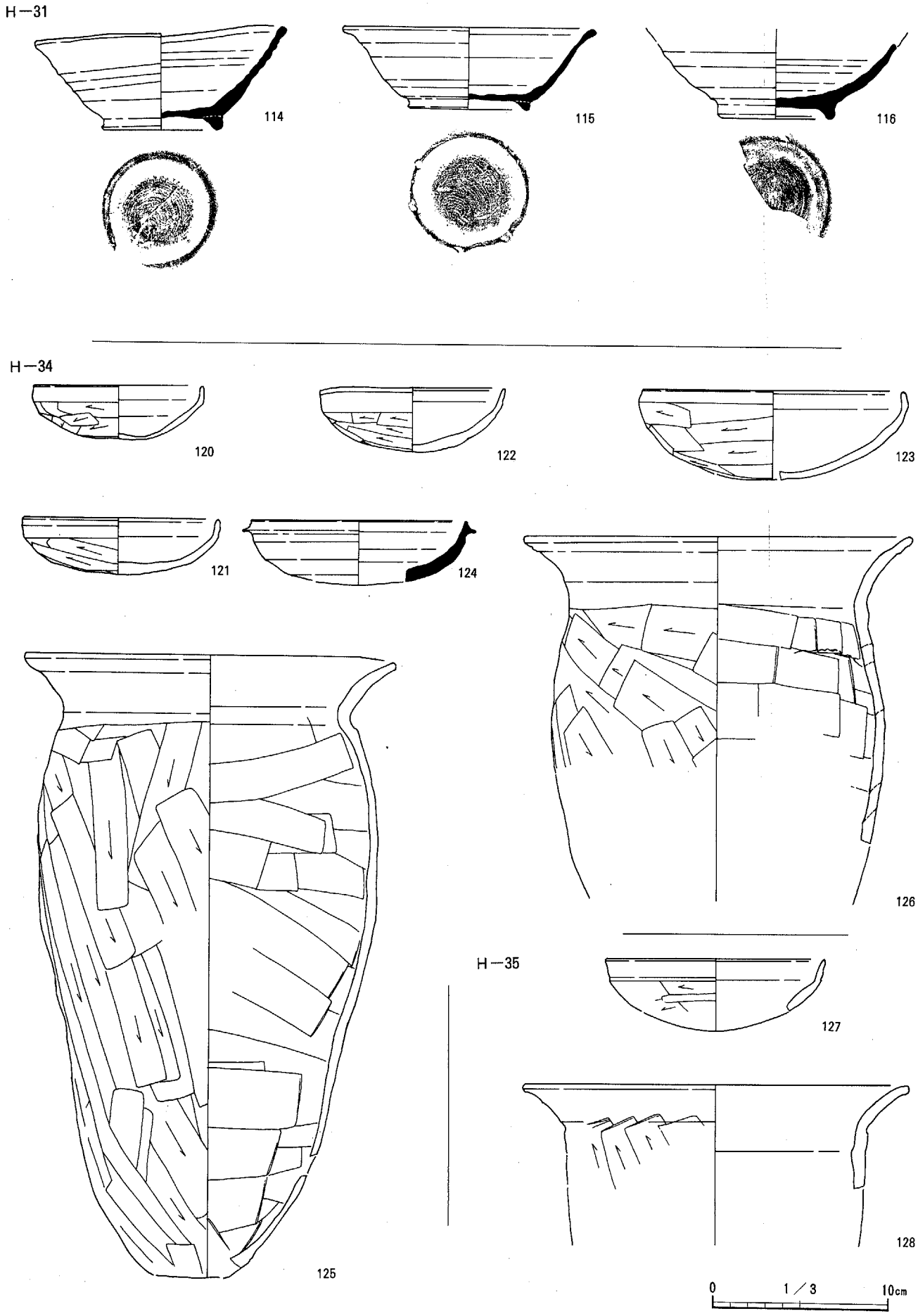


Fig. 54　H－31・34・35号住居跡出土の土器

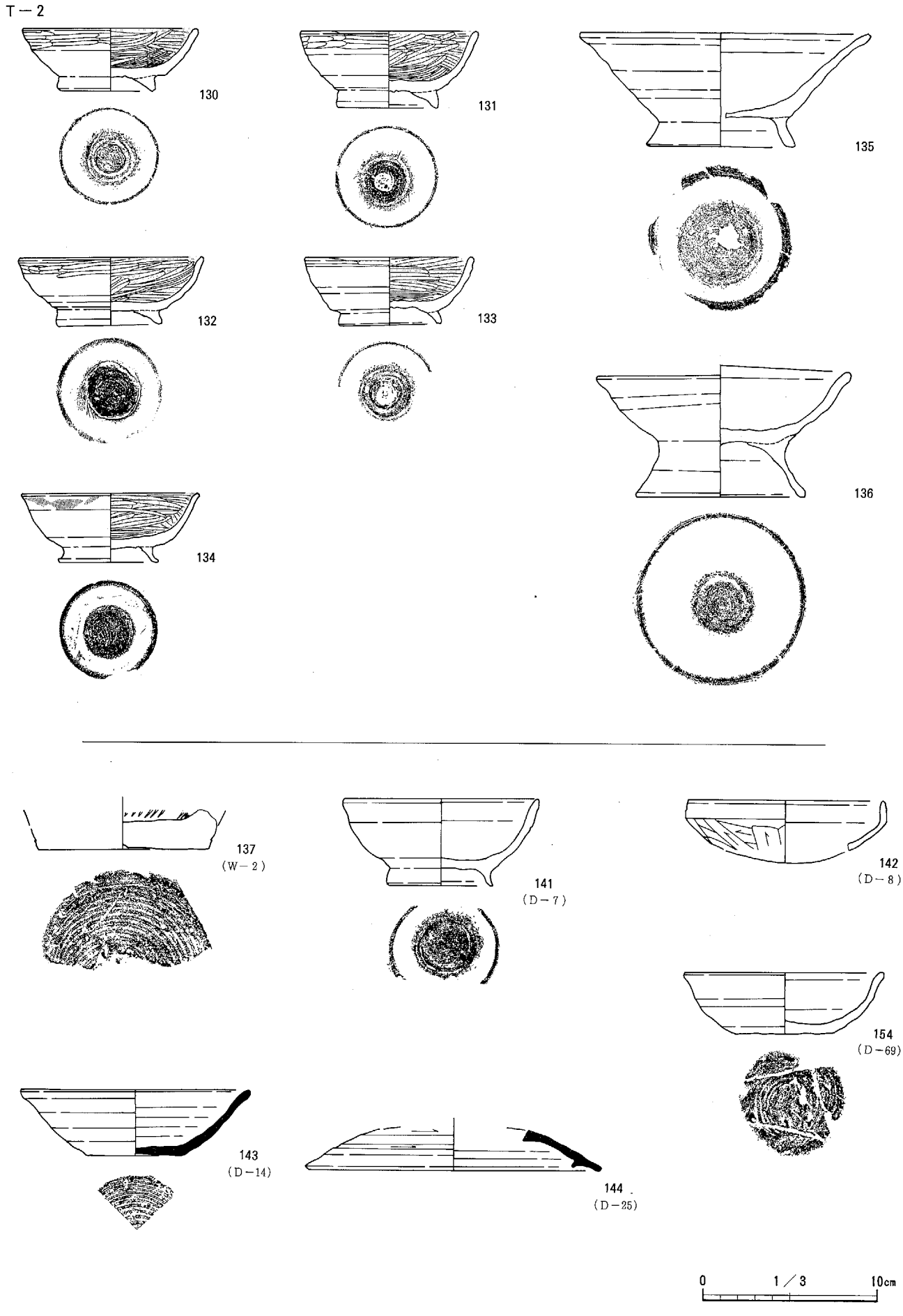


Fig. 55　T－2号竪穴状遺構、W－2号溝跡、D－7・8・14・25・69号土坑出土の土器

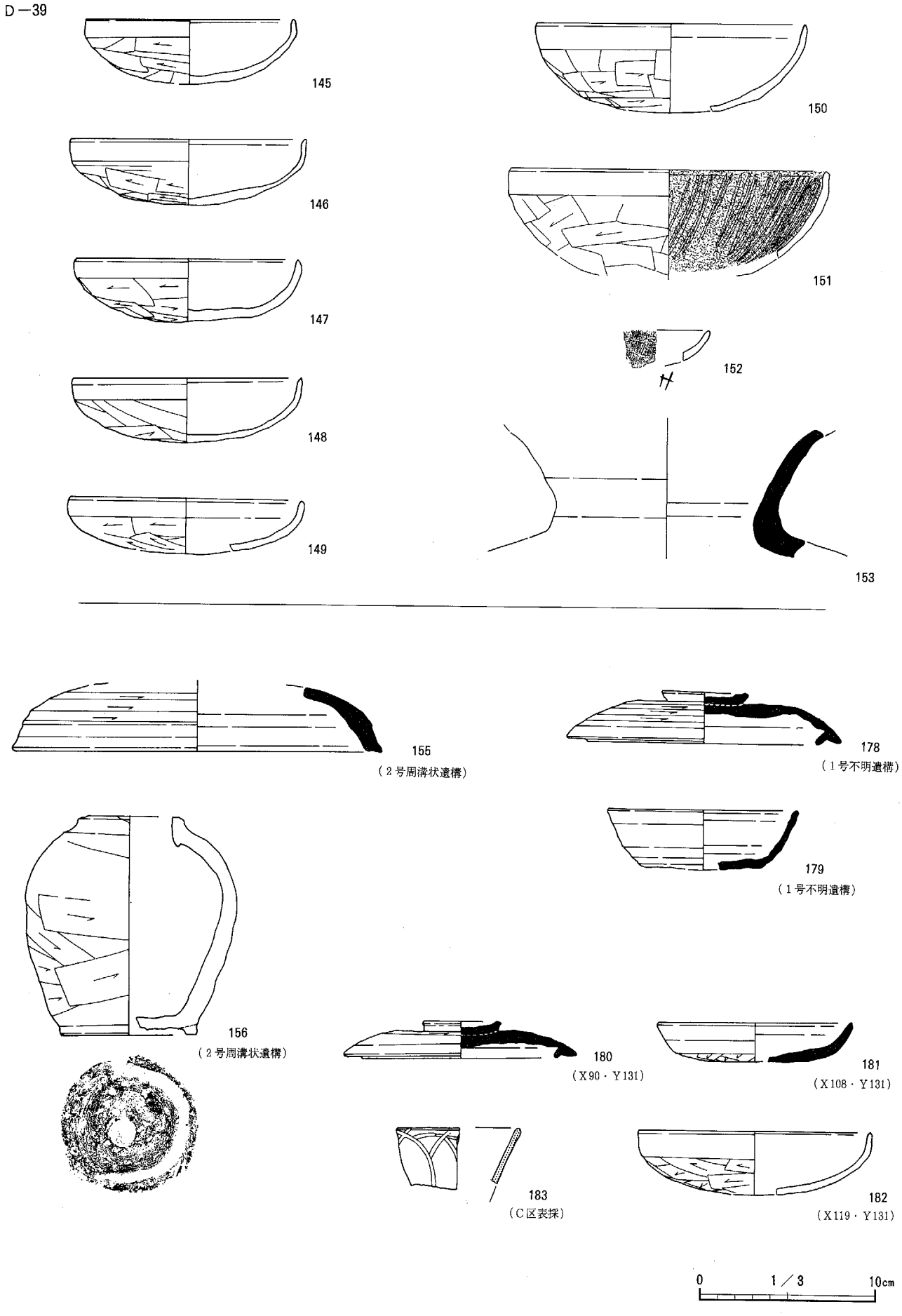


Fig. 56　D－39号土坑、2号周溝状遺構、1号不明遺構、グリッド出土、C区表採の土器

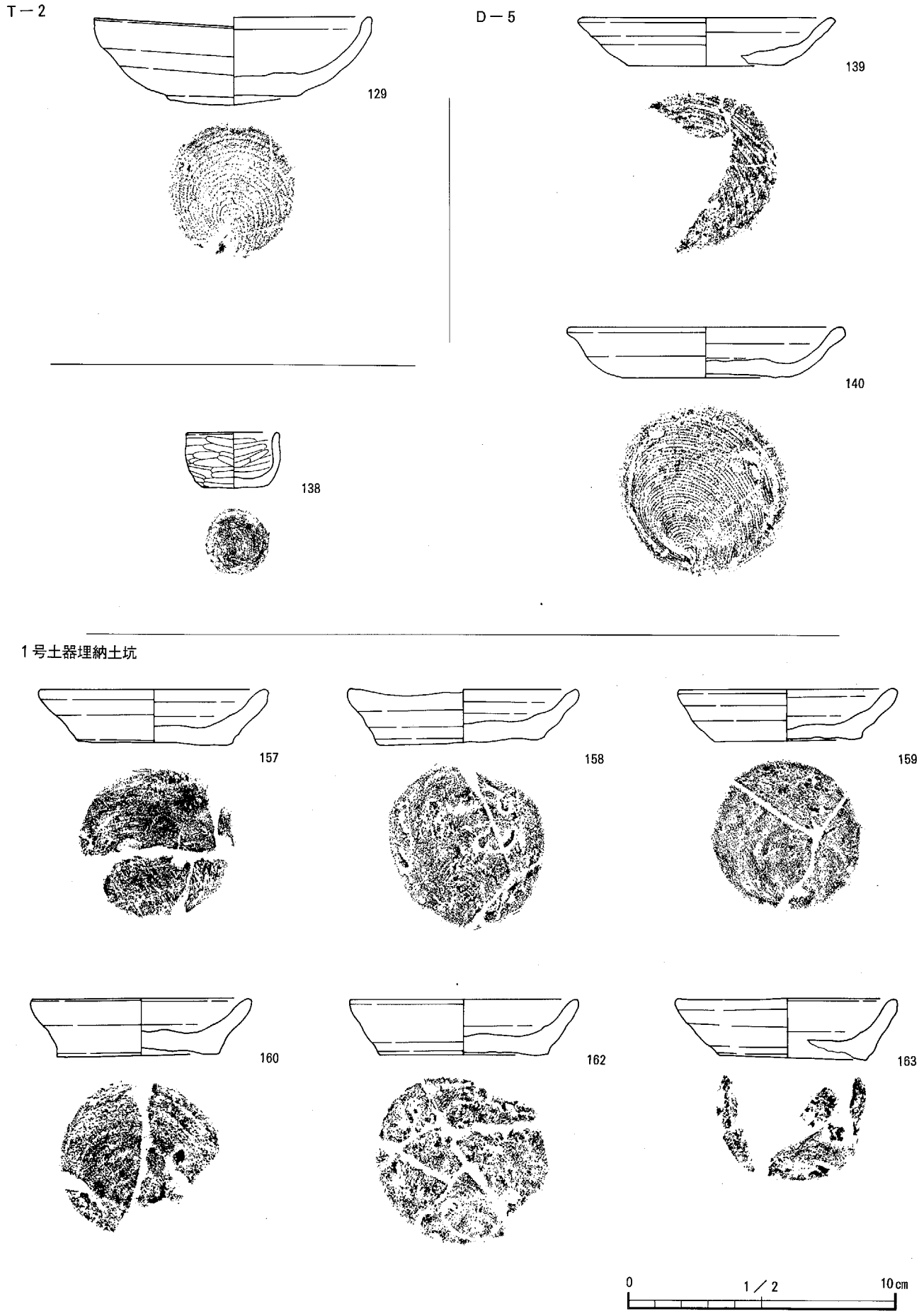
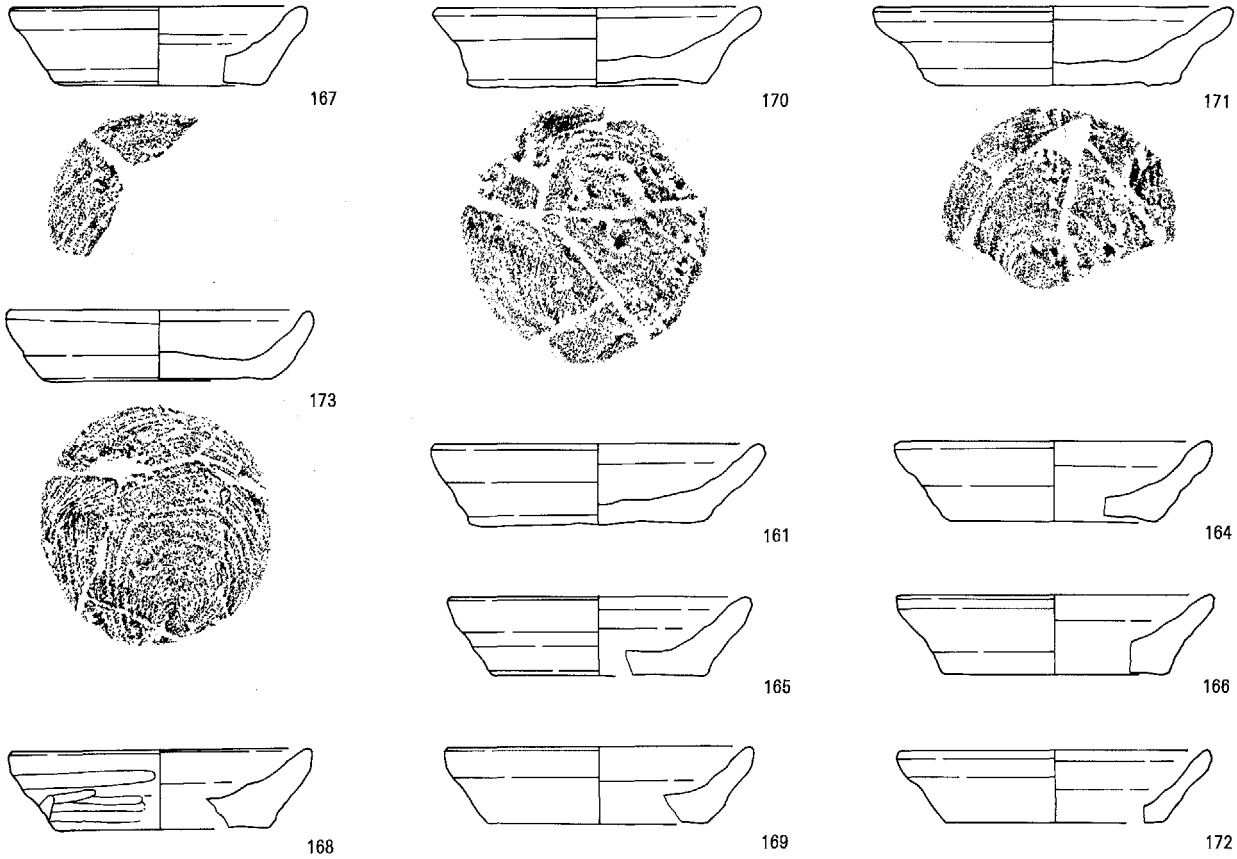


Fig. 57　T－2号竪穴状遺構、D－5号土坑、1号土器埋納土坑出土の土器（カワラケ）

1号土器埋納土坑



2号土器埋納土坑

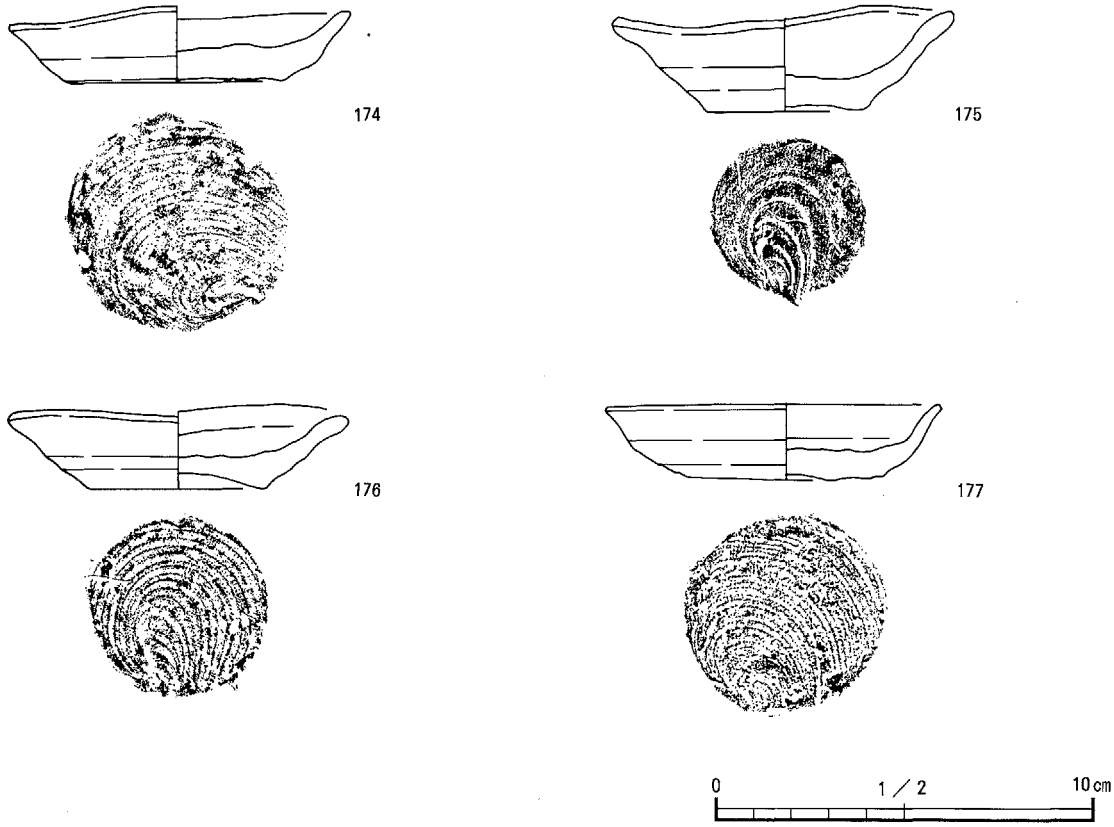


Fig. 58　1・2号土器埋納土坑出土の土器（カワラケ）

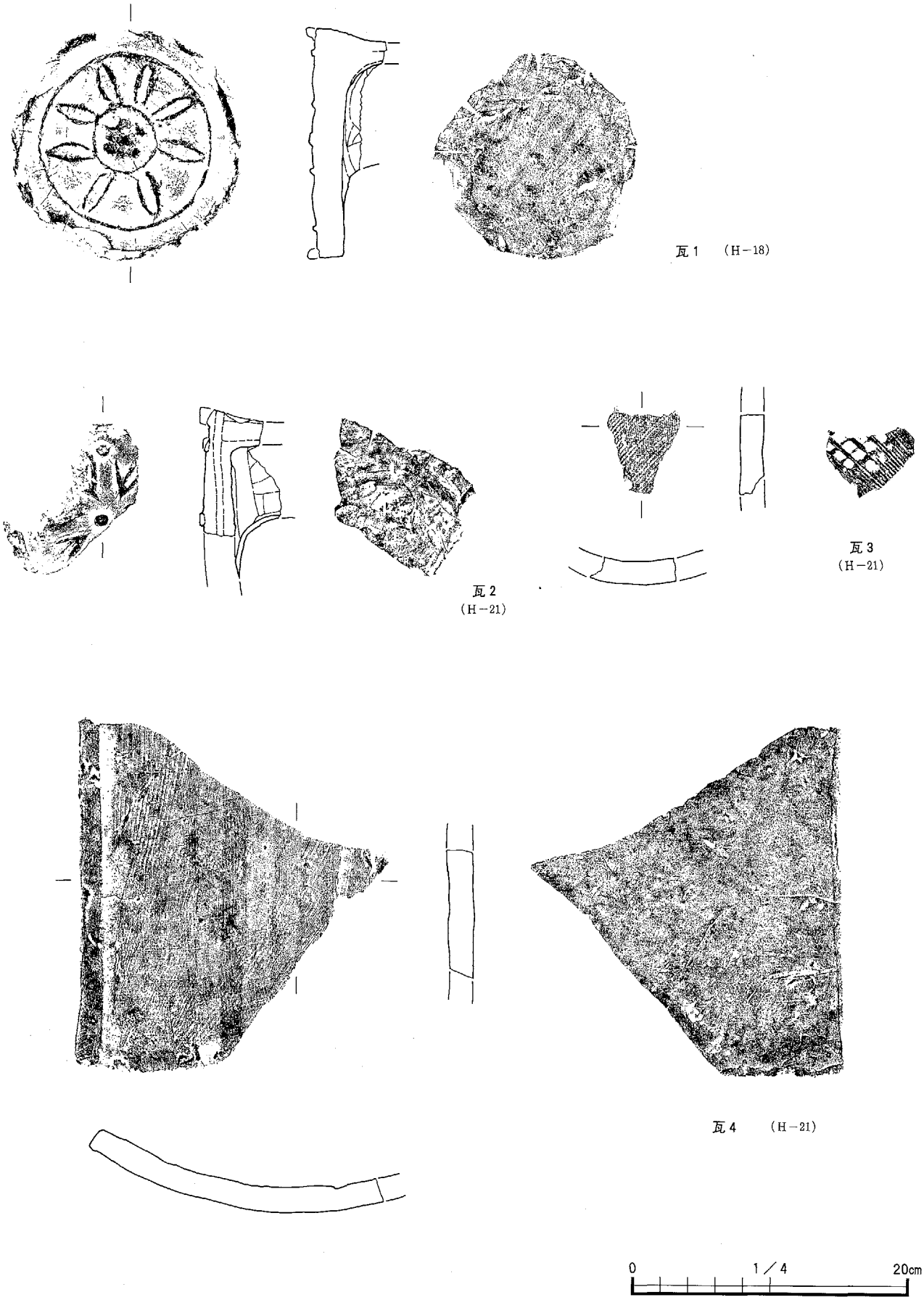
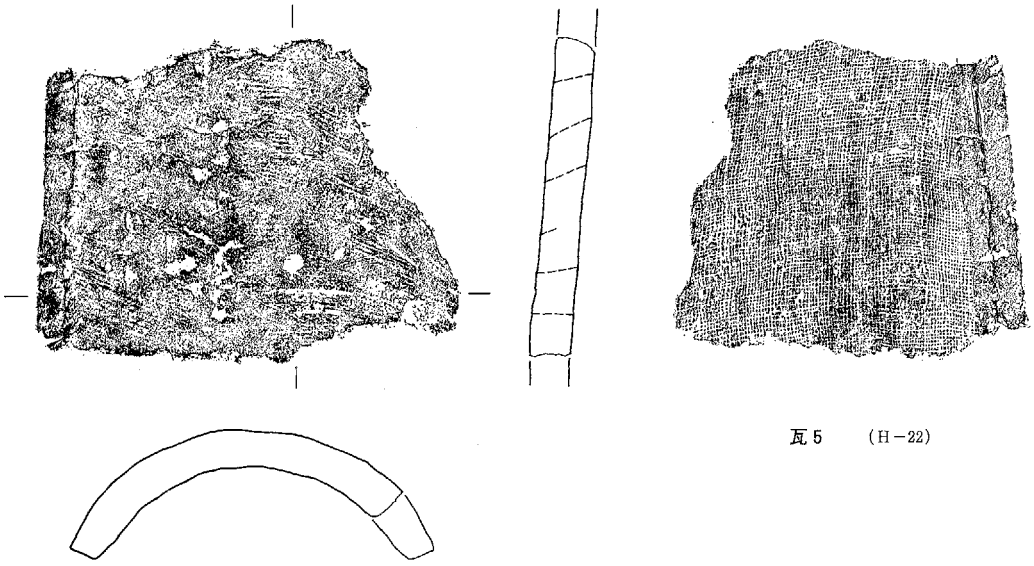
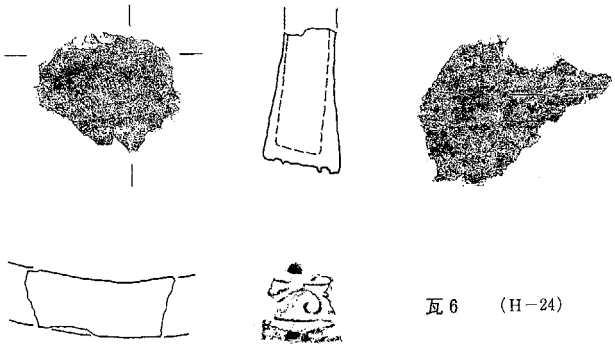


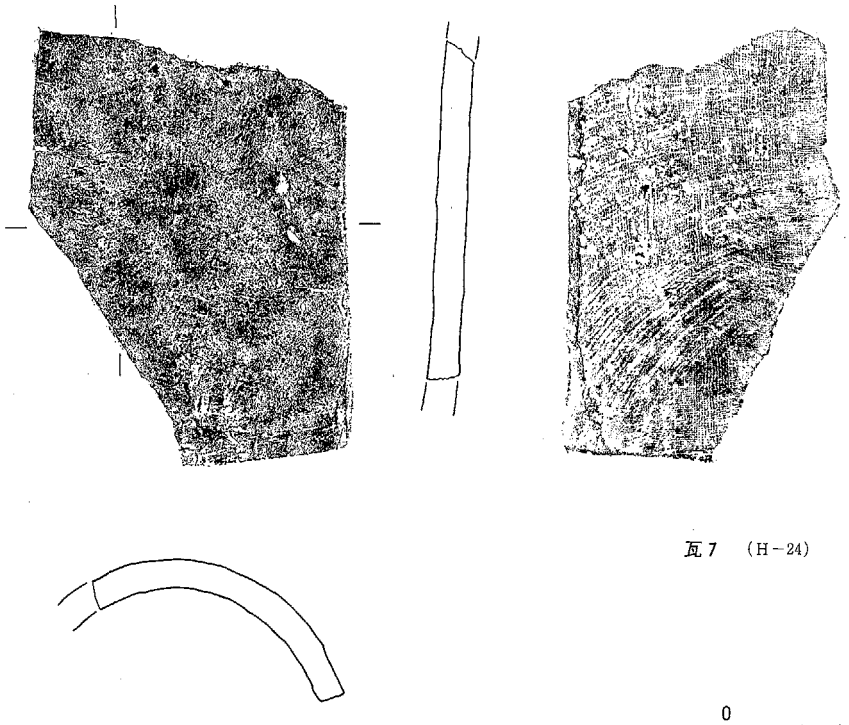
Fig. 59 瓦 (1)



瓦5　(H－22)



瓦6　(H－24)



瓦7　(H－24)

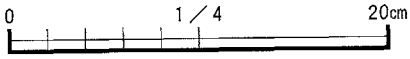


Fig. 60　瓦　(2)

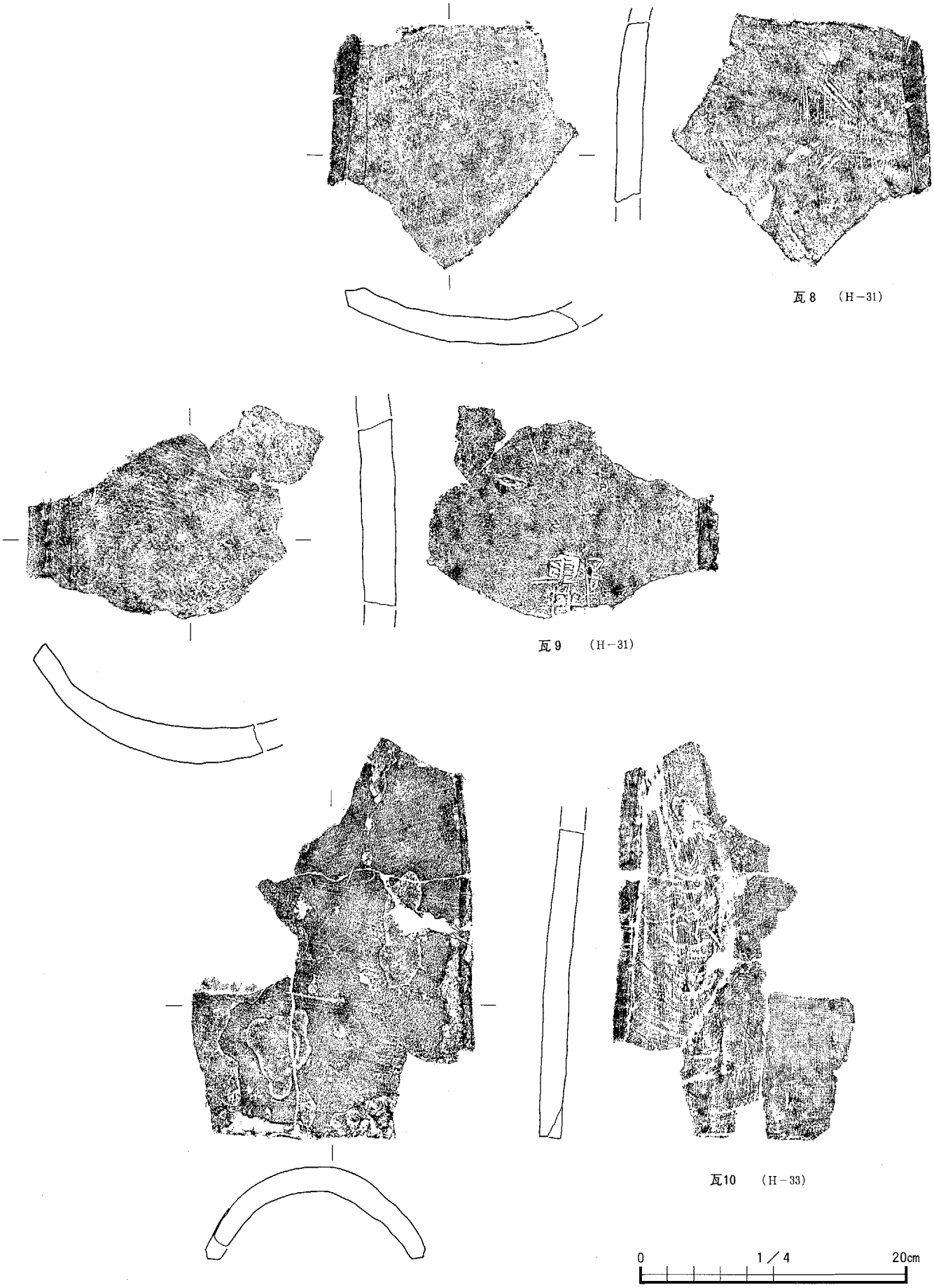
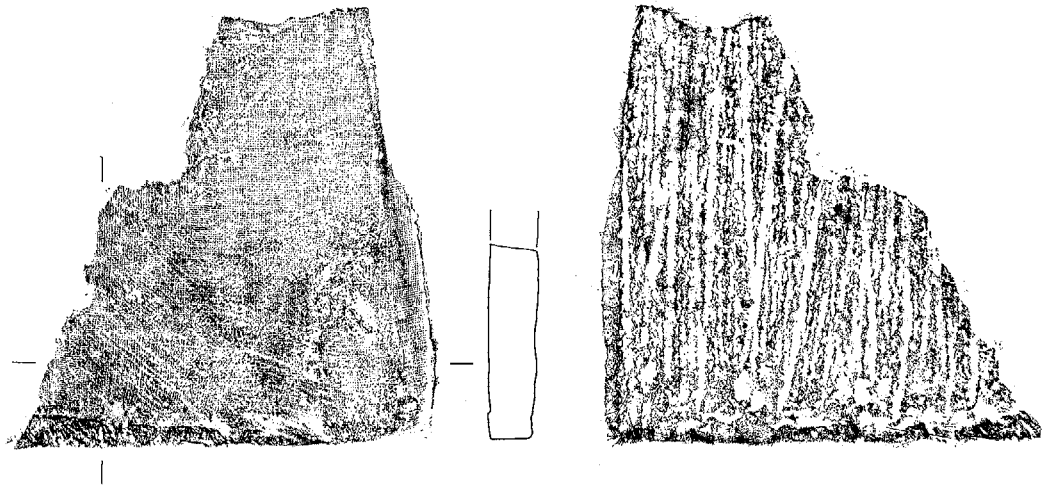
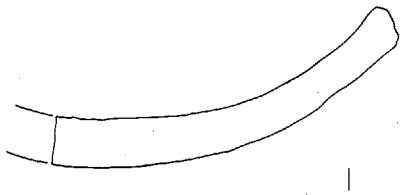
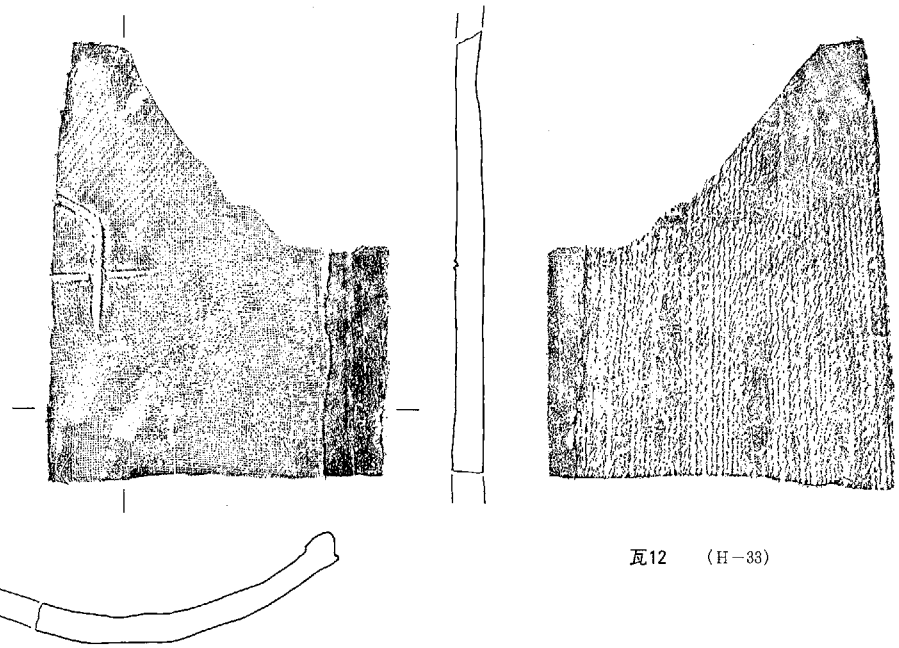


Fig. 61 瓦 (3)

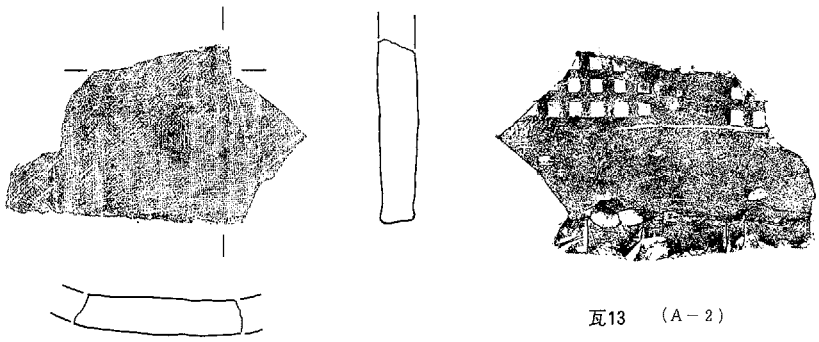


瓦11　(H－33)





瓦12　(H－33)



瓦13　(A－2)

0　1／4　20cm

Fig. 62　瓦　(4)

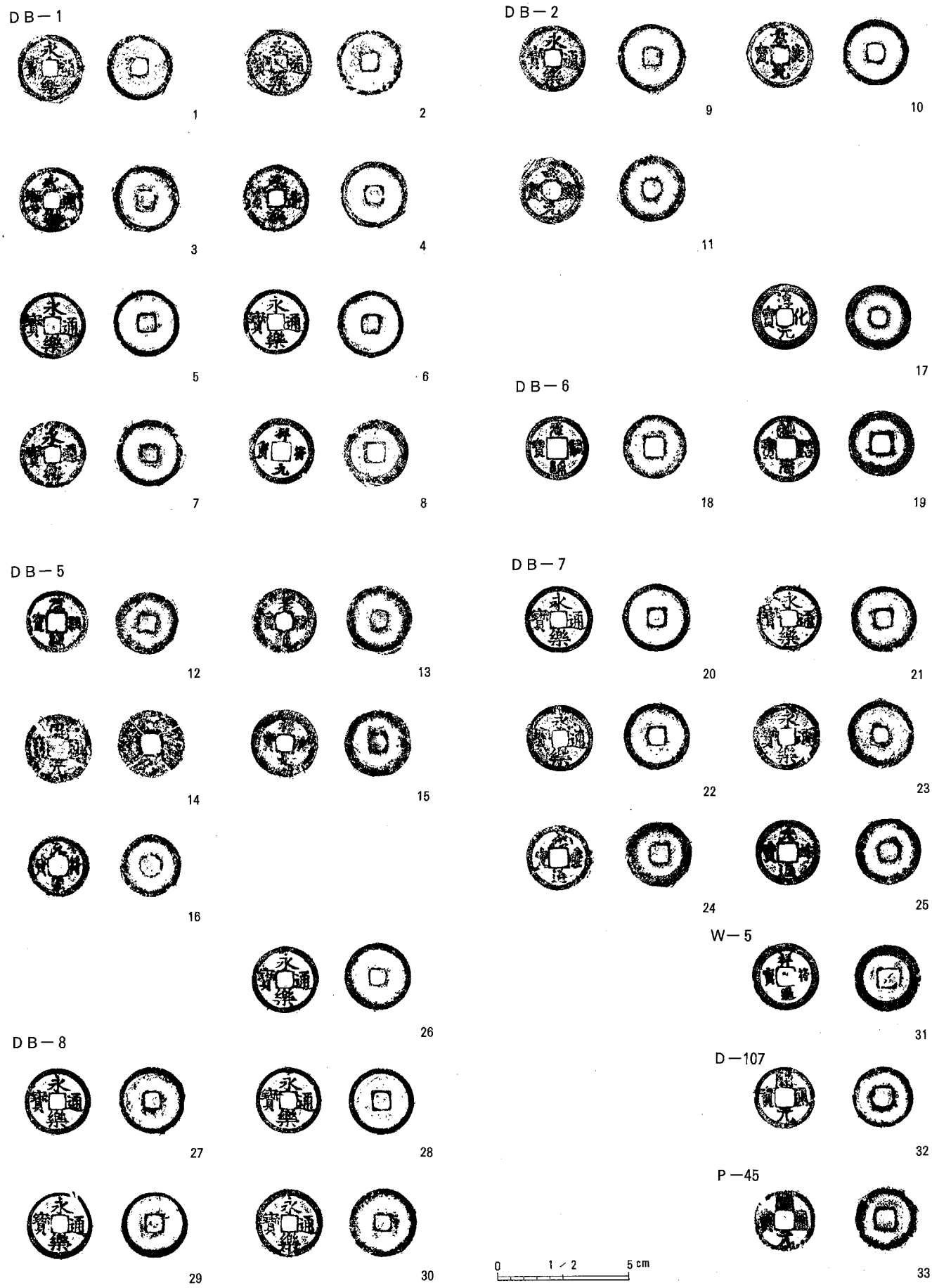

DB－1
1
2
3
4
5
6
7
8
DB－2
9
10
11
17
DB－6
18
19
DB－5
12
13
14
15
16
26
DB－7
20
21
22
23
24
25
W－5
31
D－107
32
P－45
33
DB－8
27
28
29
30
0
1／2
5 cm

Fig. 63　古　銭

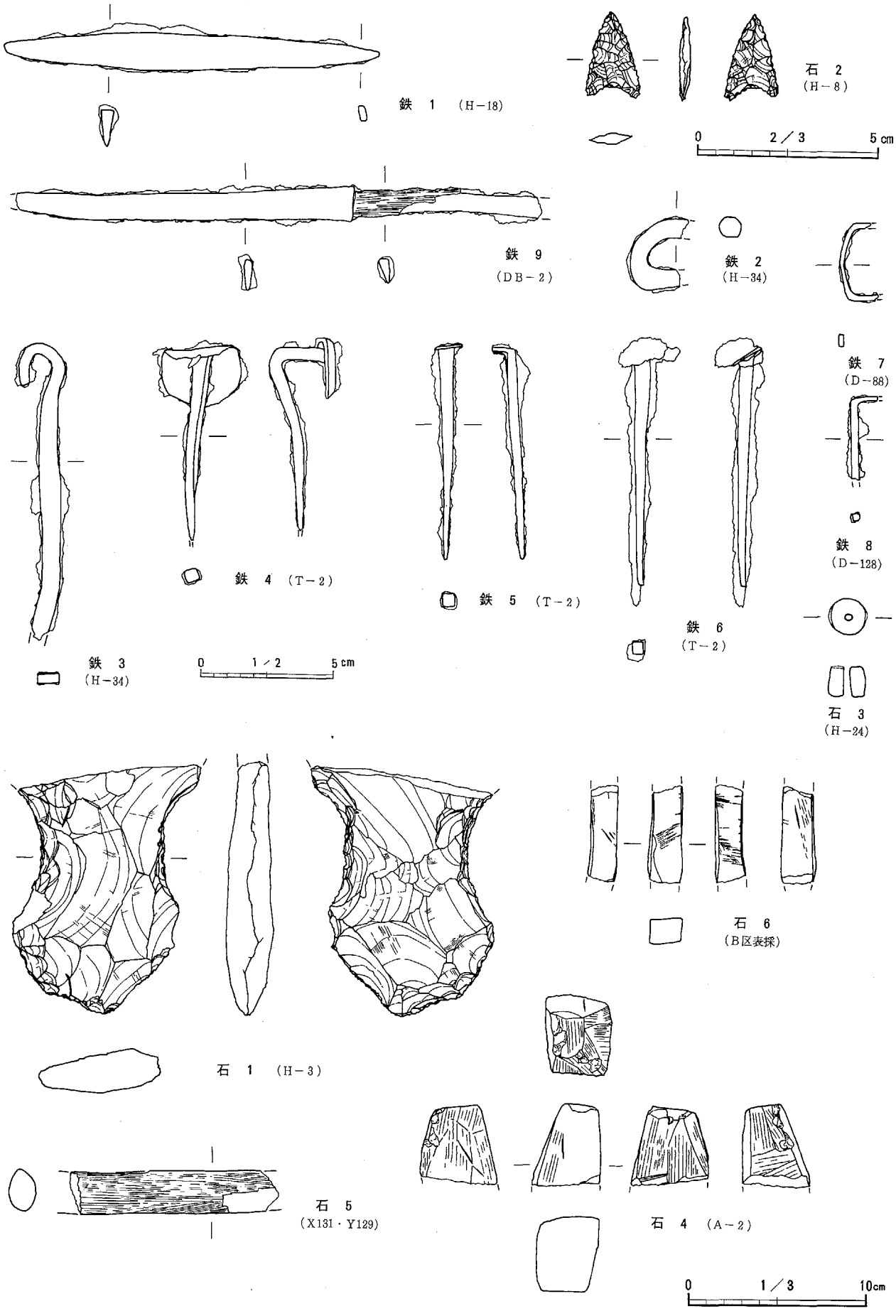
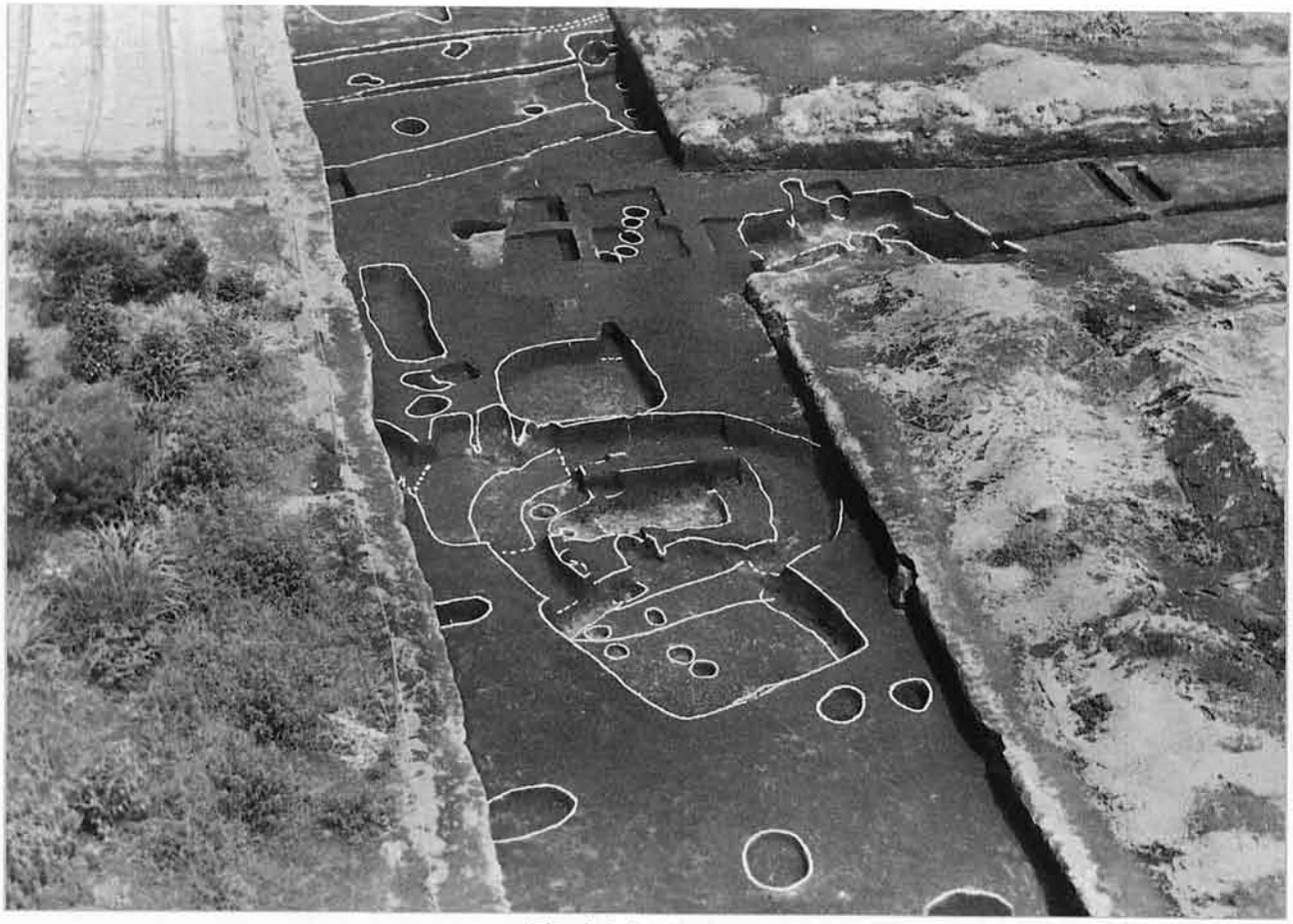
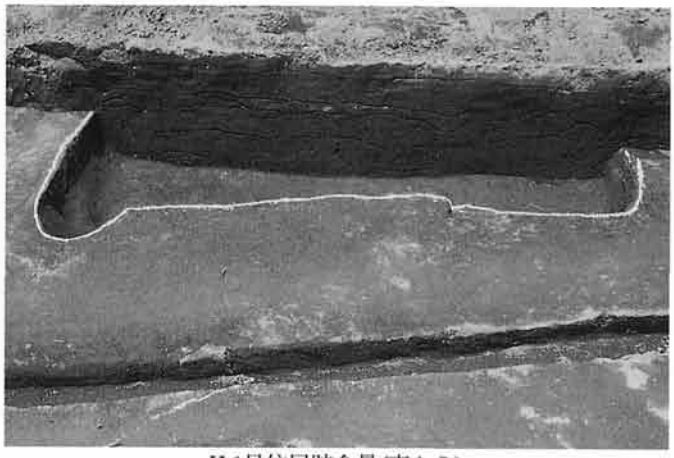


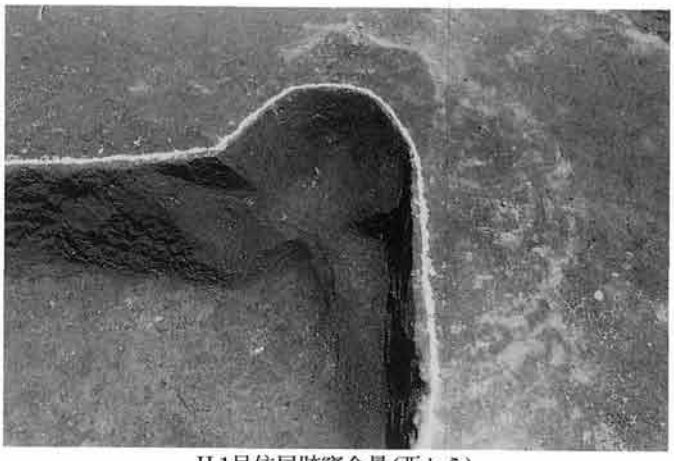
Fig. 64 鉄製品・玉類・石器・砥石・石製品



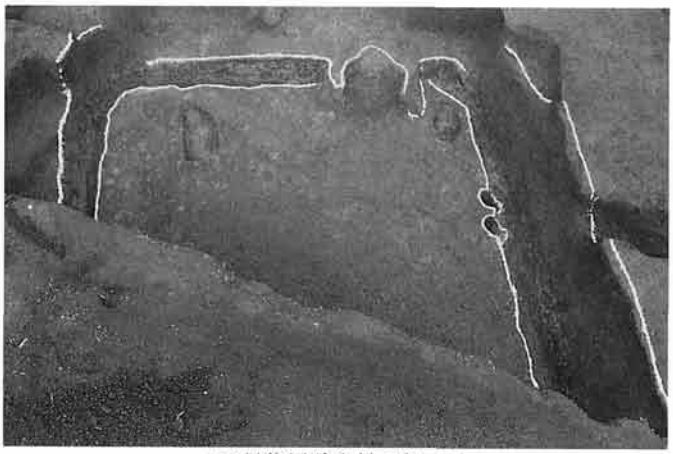
A区　中央部全景(東から)



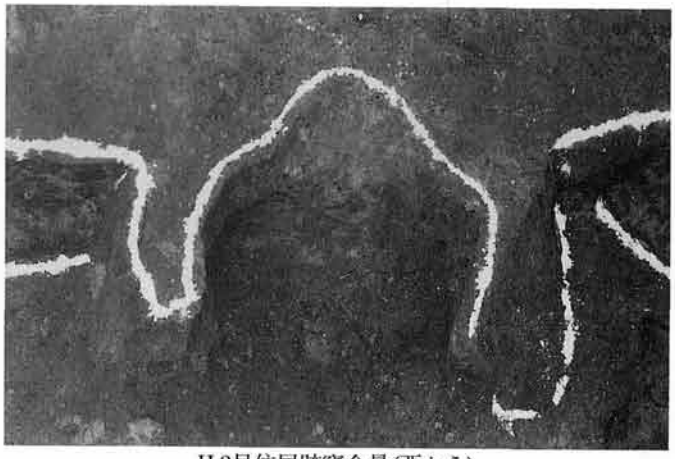
H-1号住居跡全景(東から)



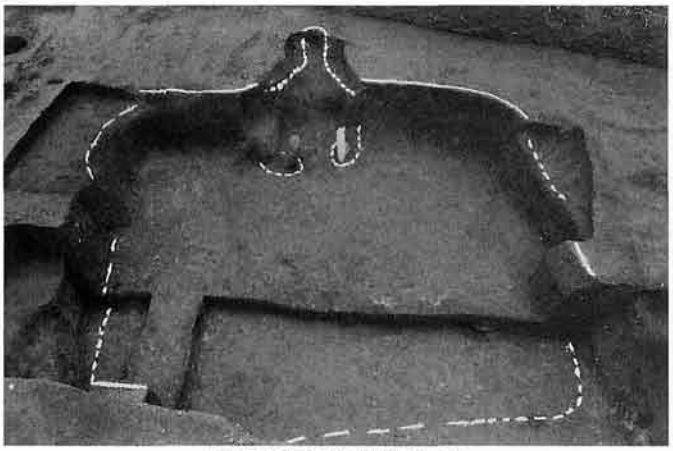
H-1号住居跡竈全景(西から)



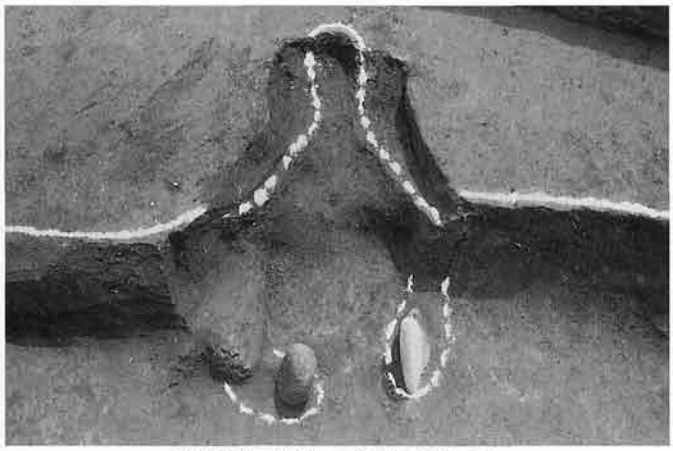
H-2号住居跡全景(西から)



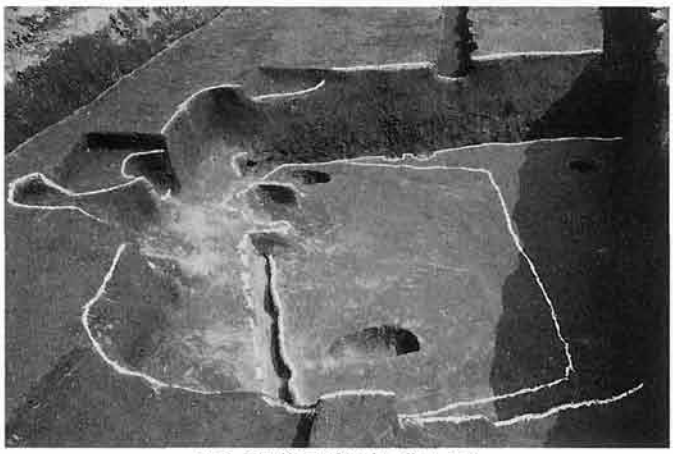
H-2号住居跡竈全景(西から)



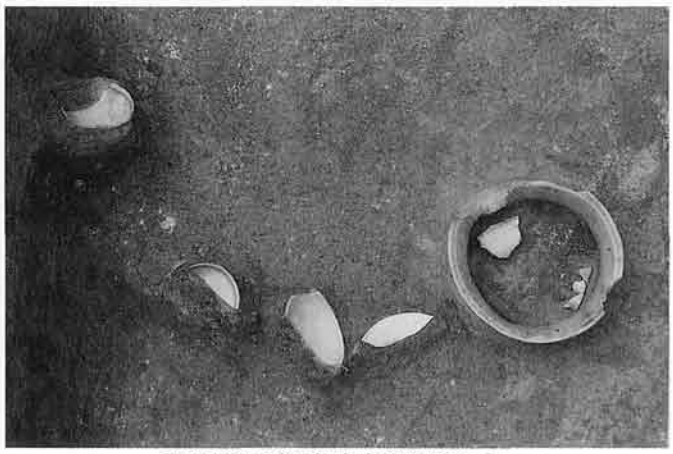
H-3号住居跡全景(西から)



H-3号住居跡カマド全景(西から)



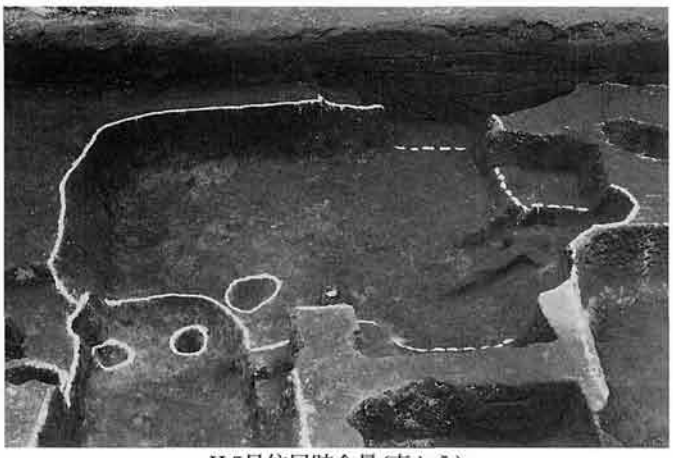
H-2·3号住居跡全景(北から)



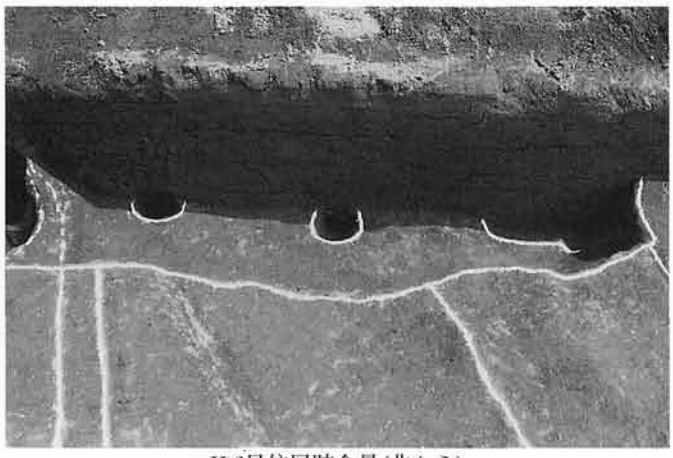
H-3号住居跡置物出土状況(東から)

H-4号住居跡全景(西から)

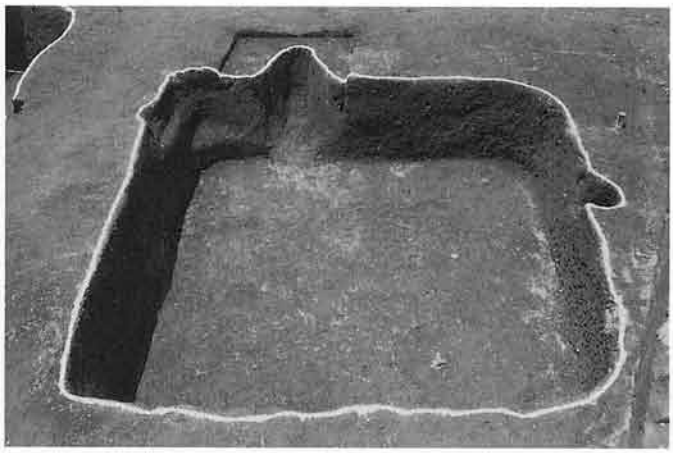
H-4号住居跡竈全景(西から)



H-5号住居跡全景(南から)



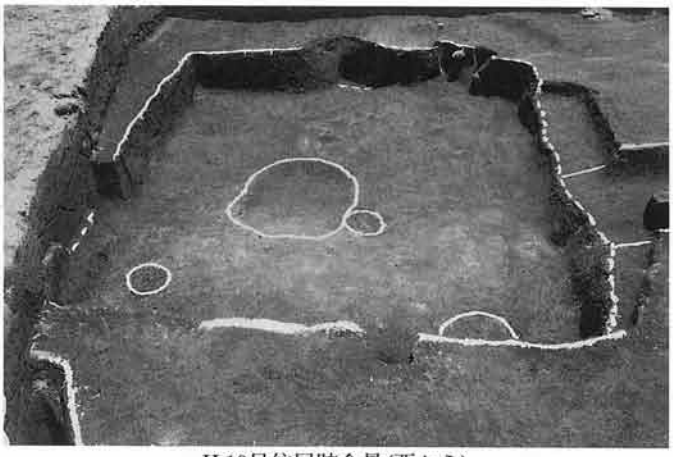
H-6号住居跡全景(北から)



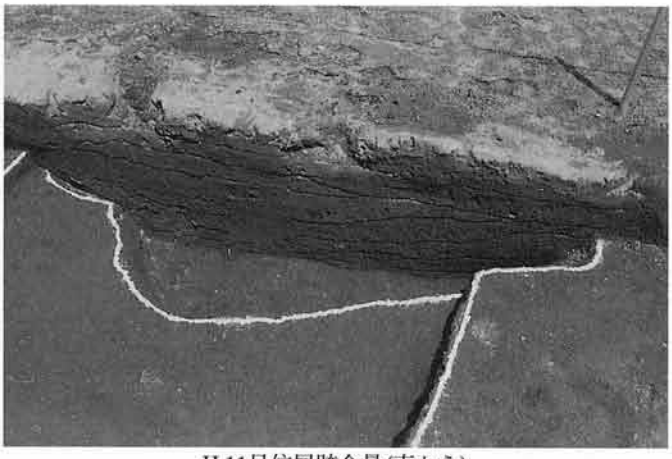
H-8号住居跡全景(東から)

H-8号住居跡竈全景(東から)

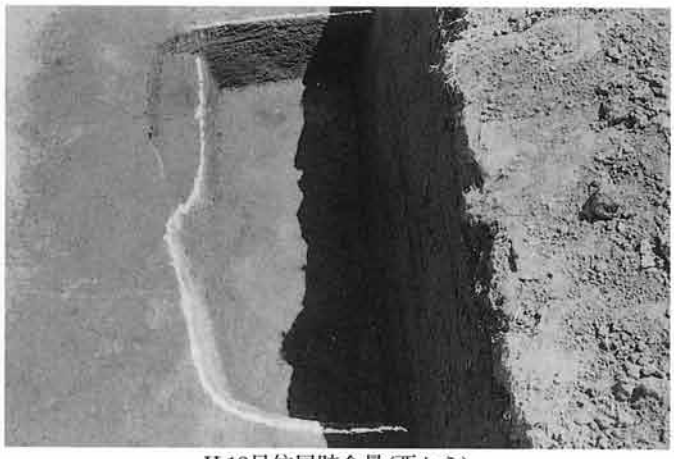
H-9号住居跡全景(東から)



H-10号住居跡全景(西から)

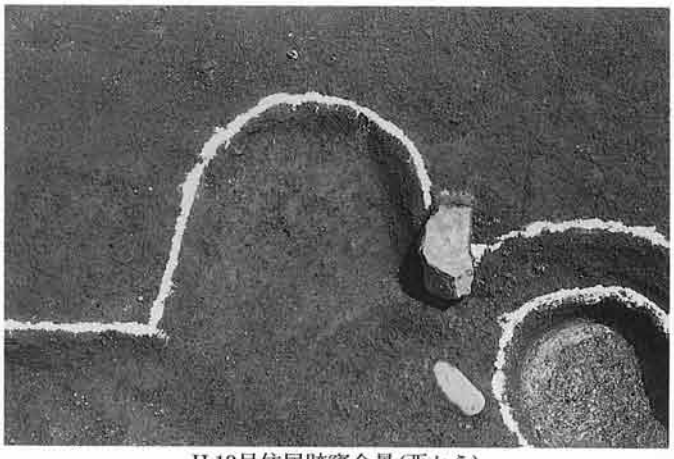


H-11号住居跡全景(南から)



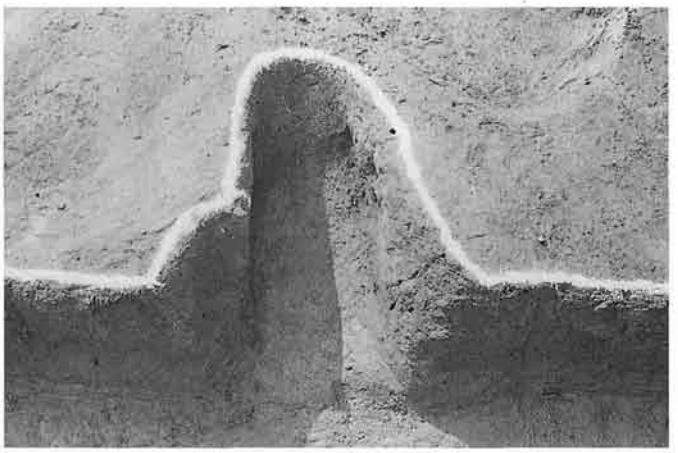
H-12号住居跡全景(西から)

H-13号住居跡全景(西から)

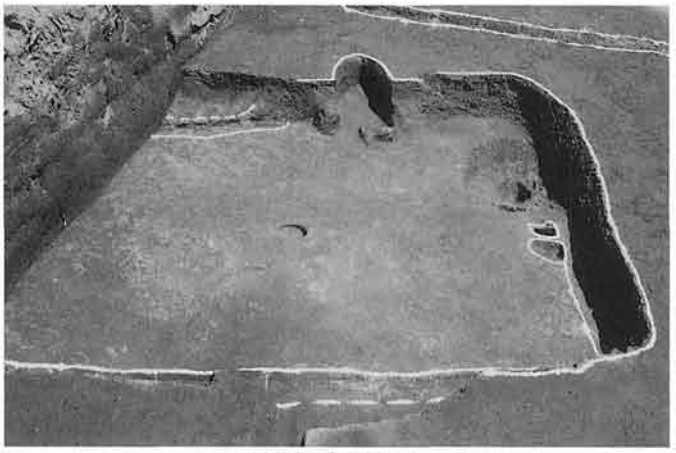


H-13号住居跡竈全景(西から)

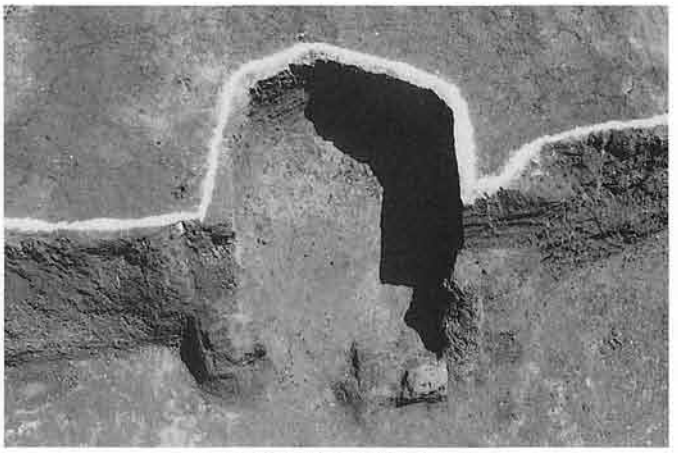
H-14号住居跡全景(東から)



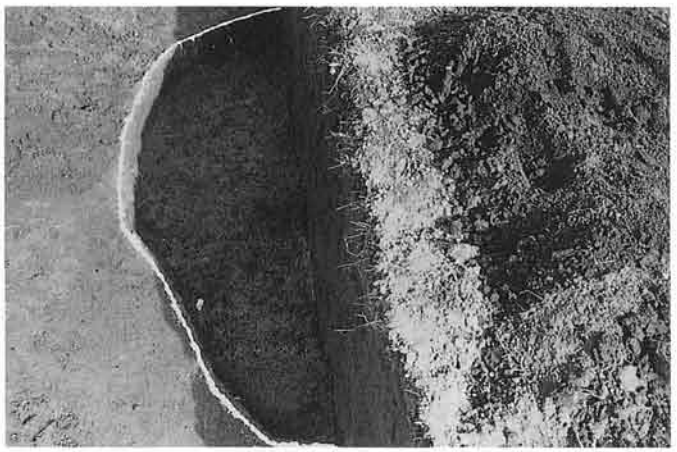
H-14号住居跡竈全景(東から)



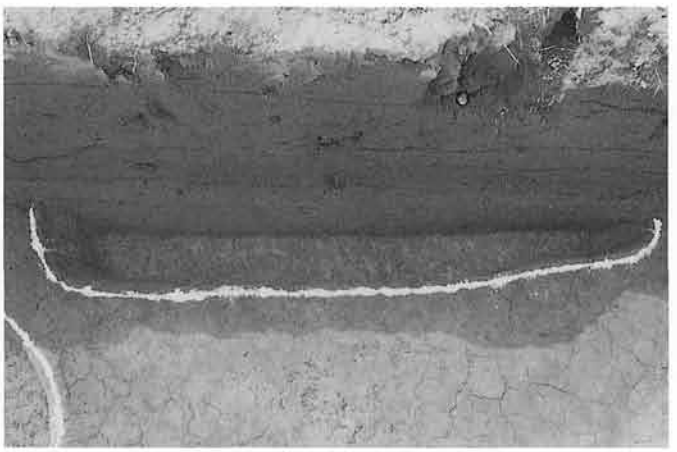
H-15号住居跡全景(西から)



H-15号住居跡竈全景(西から)



H-16号住居跡全景(南から)



H-17号住居跡全景(北から)

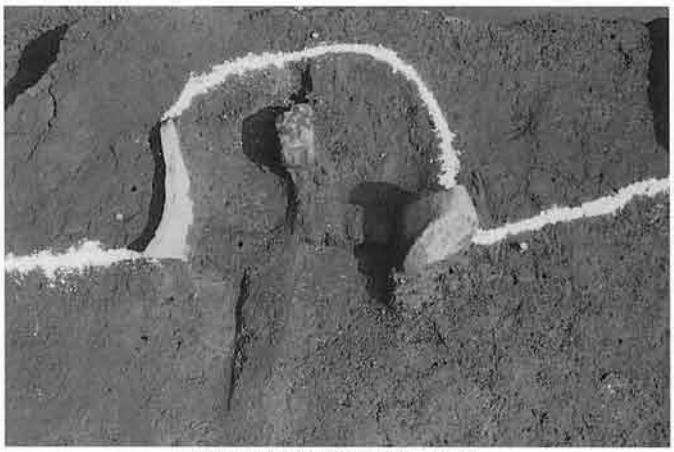
H-18号住居跡全景(西から)

H-18号住居跡竈全景(西から)

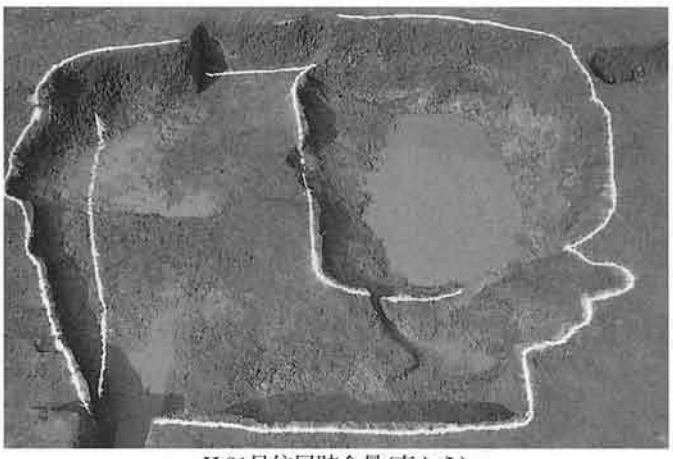
H-18·19号住居跡全景(南から)

H-19号住居跡竈全景(西から)

H-20号住居跡全景(南から)

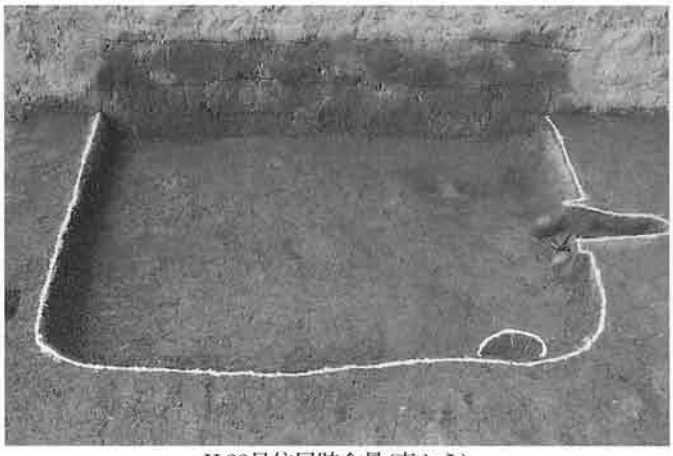


H-20号住居跡竈全景(西から)

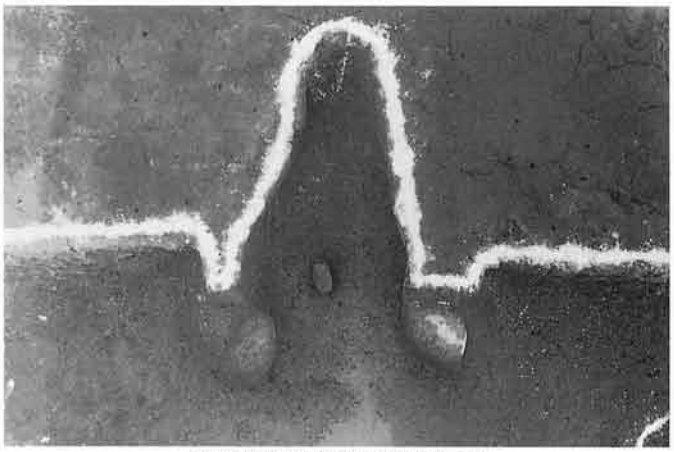


H-21号住居跡全景(南から)

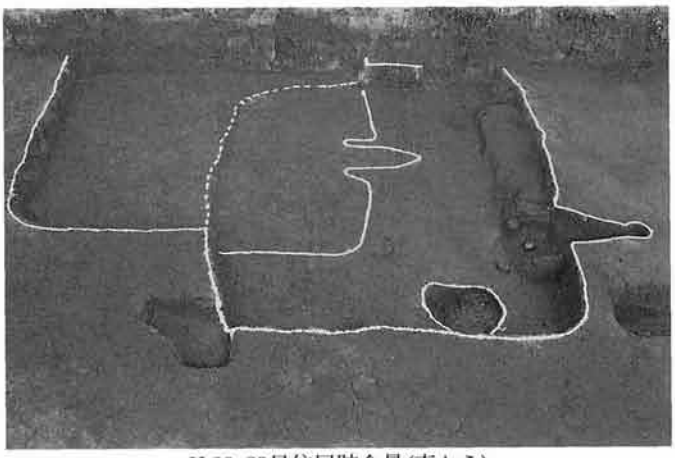
H-21号住居跡竈全景(西から)



H-22号住居跡全景(南から)

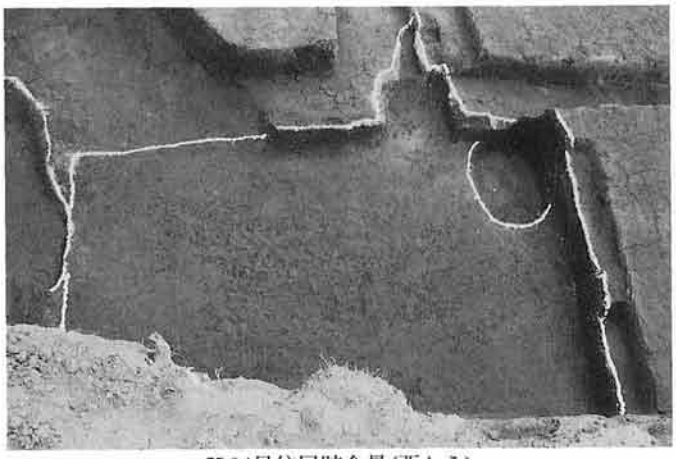


H-22号住居跡竈全景(西から)



H-22·23号住居跡全景(南から)

H-23号住居跡竈全景(西から)



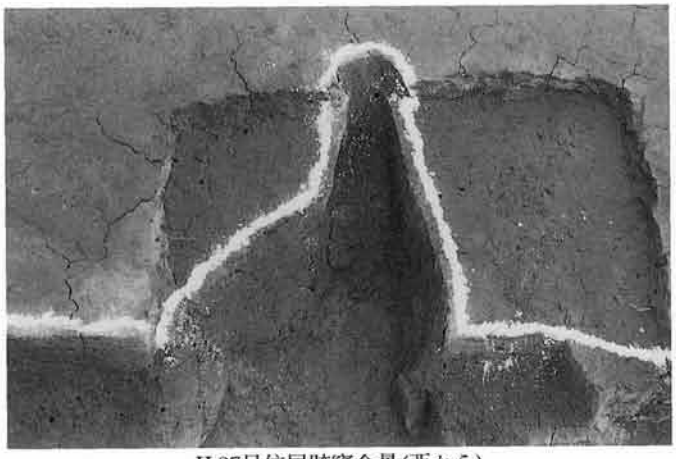
H-24号住居跡全景(西から)

H-24号住居跡竈全景(西から)

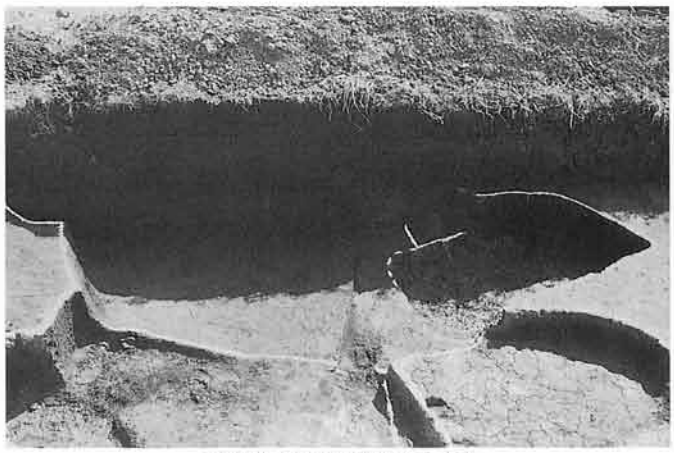
H-25号住居跡全景(南から)

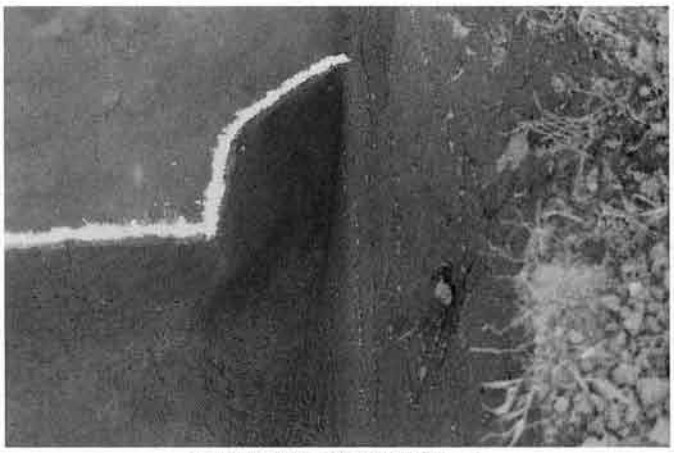
H-26·27号住居跡全景(南から)

H-26号住居跡竈全景(西から)



H-27号住居跡竈全景(西から)


H-28号住居跡全景(北から)

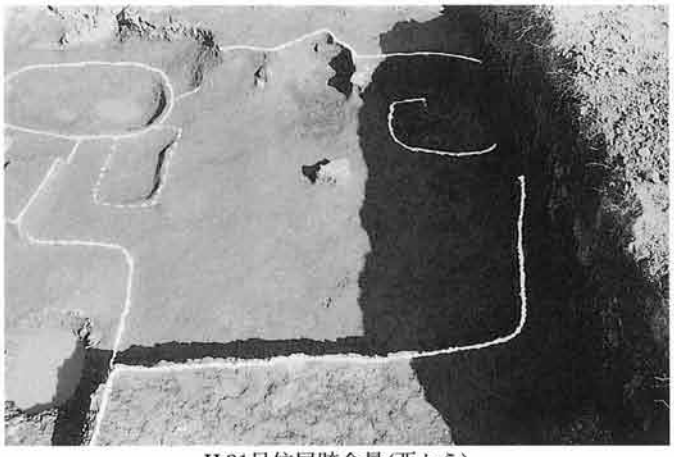

H-28号住居跡竈全景(西から)

H-29号竈全景(西から)

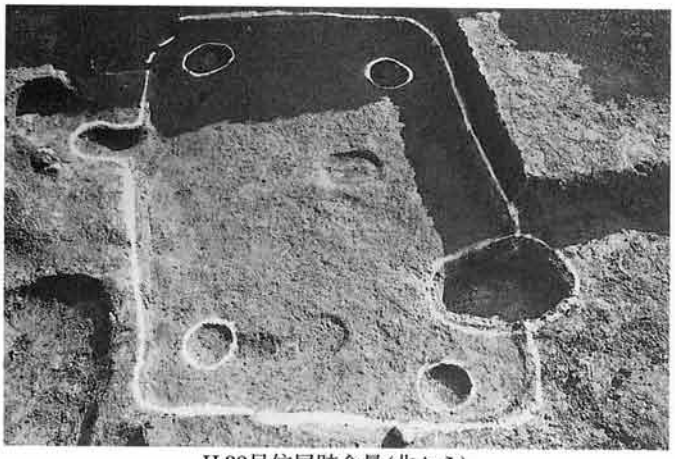
H-23·30·31号住居跡、D-28号土坑全景

H-30号住居跡竈全景(西から)

H-31号住居跡竈付近遺物出土状況(西から)

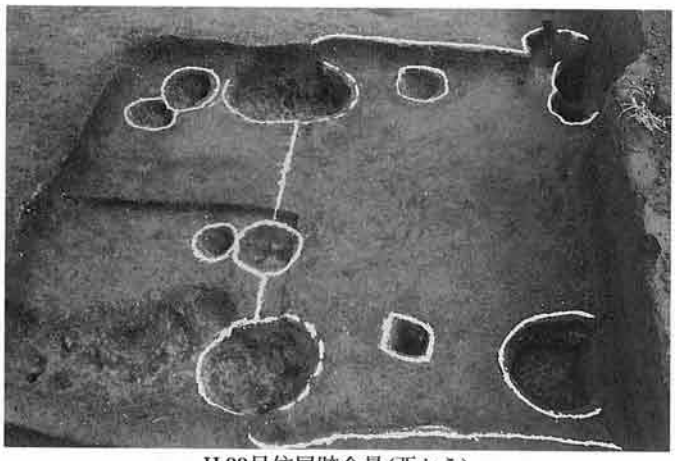

H-31号住居跡全景(西から)

H-31号住居跡竈全景(西から)



H-32号住居跡全景(北から)

H-32号住居跡竈全景(西から)



H-33号住居跡全景(西から)

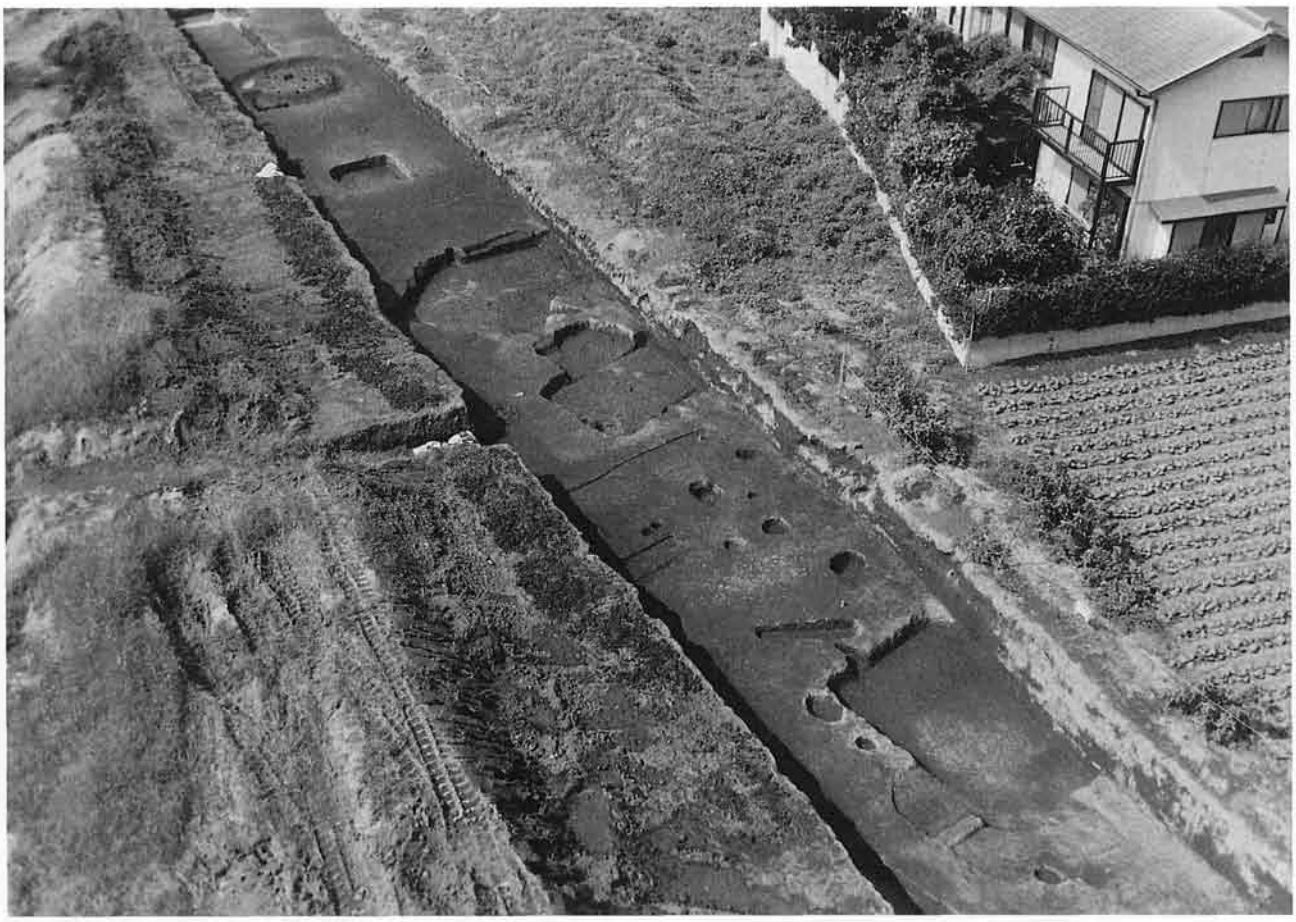
H-33号住居跡竈全景(西から)

H-34号住居跡全景(西から)

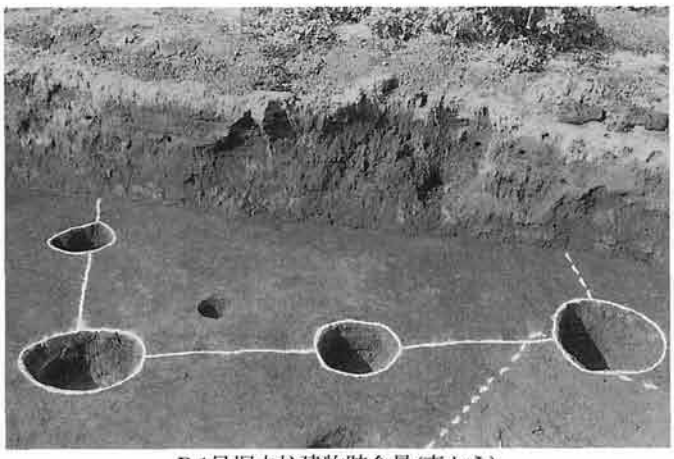
H-34号住居跡新竈全景(西から)

H-34号住居跡新竈横(北から)

H-34号住居跡、P-3·5号柱穴(西から)

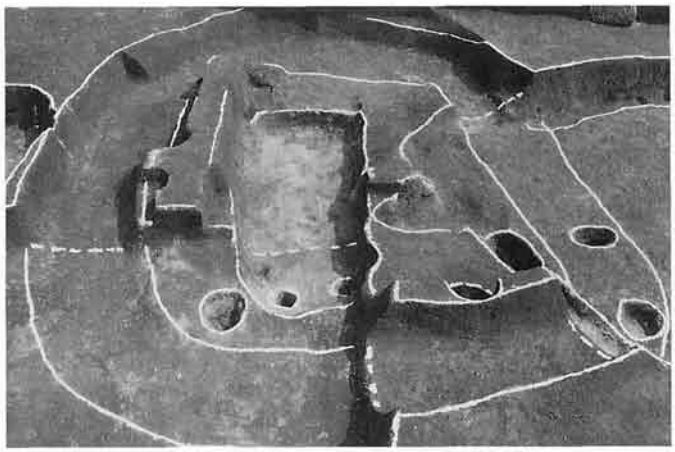


B区中央部全景(東から)



B-1号堀立柱建物跡全景(南から)

B-3号堀立柱建物跡全景(南から)



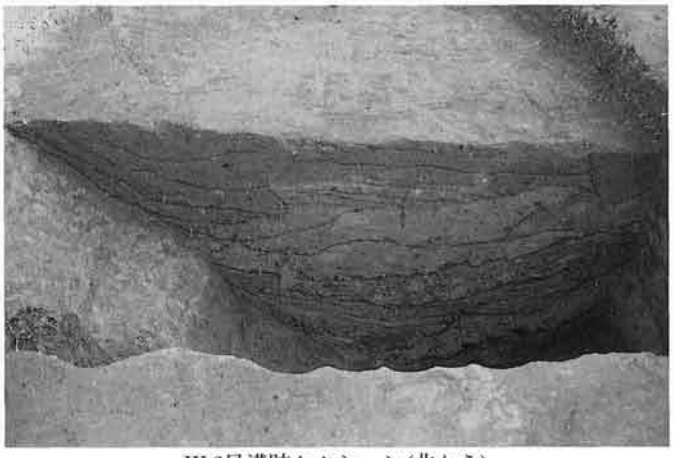
T-2号竪穴状遺構及び1号周溝状遺構全景(北から)

T-2号竪穴状遺構遺物出土状況(東から)

W-1·2号溝跡全景(南から)

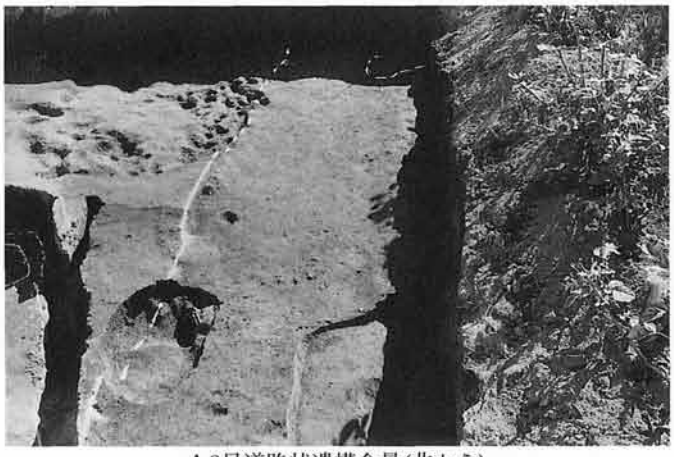
W-3号溝跡セクション(西から)

W-6号溝跡全景(北から)



W-6号溝跡セクション(北から)

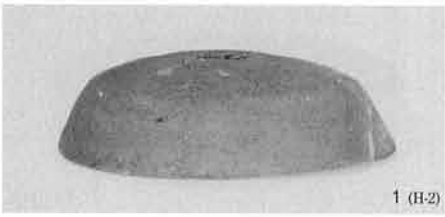
T-2号井戸跡全景(北から)



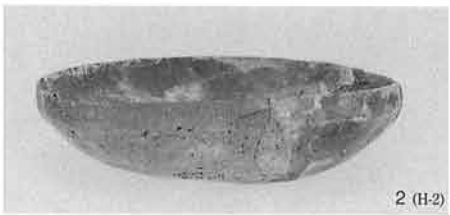
A-2号道路状遺構全景(北から)

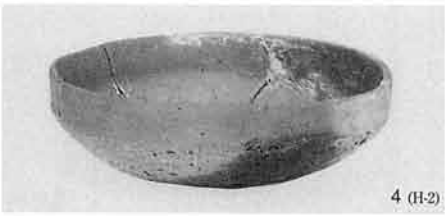
2号周溝状遺構獣骨(北から)

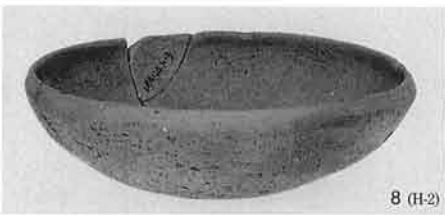
1号不明遺構全景(西から)


1 (H-2)

2 (H-2)


2 (H-2)


4 (H-2)


8 (H-2)

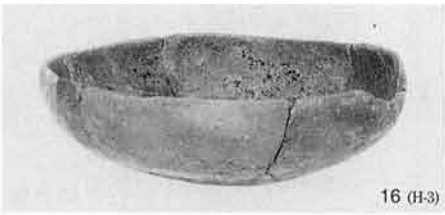
9 (H-2)

14 (H-3)

10 (H-2)

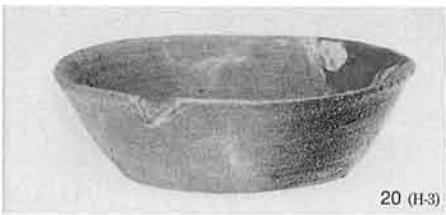
11 (H-2)

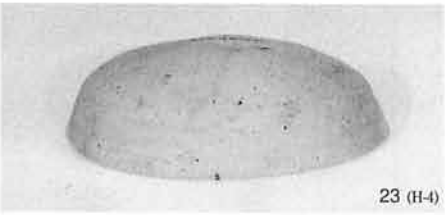
15 (H-3)


16 (H-3)

22 (H-3)

17 (H-3)


20 (H-3)


23 (H-4)

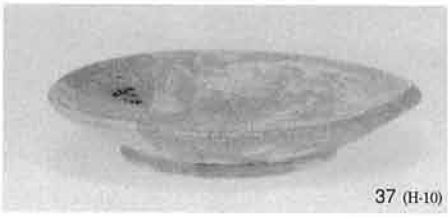
24 (H-4)

25 (H-4)

31 (H-6)

32 (H-6)

33 (H-6)


37 (H-10)

38 (H-10)

44 (H-11)

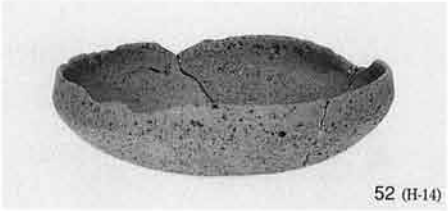
42 (H-10)

39 (H-10)

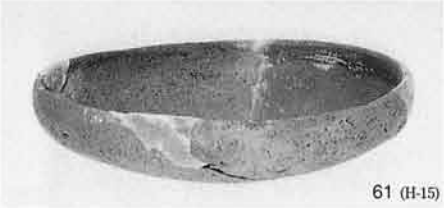
45 (H-11)

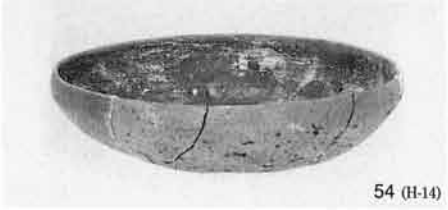
47 (H-12)

49 (H-13)


52 (H-14)

60 (H-15)


61 (H-15)


54 (H-14)

62 (H-15)

63 (H-15)

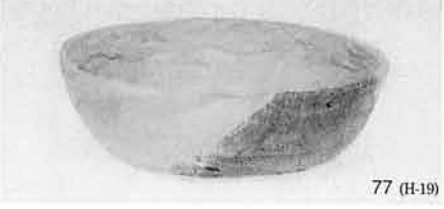
64 (H-16)

73 (H-19)

75 (H-19)

69 (H-18)

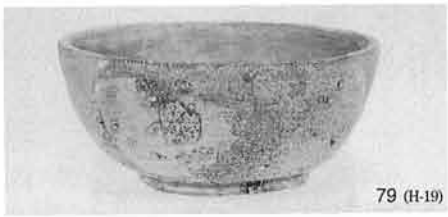
76 (H-19)


77 (H-19)

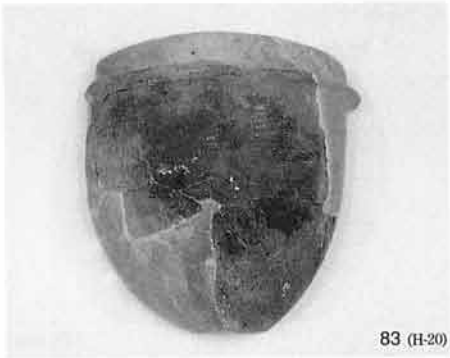
78 (H-19)

81 (H-20)

82 (H-20)

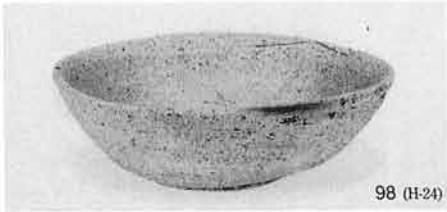

79 (H-19)

86 (H-21)


83 (H-20)

113 (H-30)

93 (H-23)


98 (H-24)

102 (H-24)

112 (H-30)

99 (H-24)

103 (H-25)

107 (H-26)

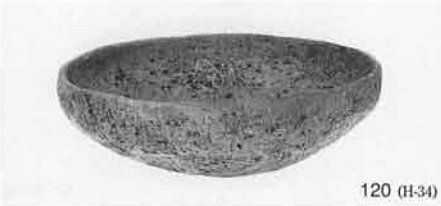
108 (H-27)

111 (H-28)

114 (H-31)

115 (H-31

117 (H-31)


120 (H-34)

124 (H-34)

121 (H-34)

118 (H-31)

126 (H-34)

122 (H-34)

129 (T-2)

123 (H-34)

125 (H-34)

130 (T-2)

131 (T-2)

132 (T-2)

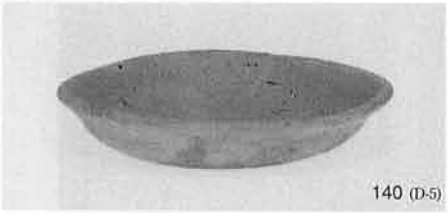
133 (T-2)

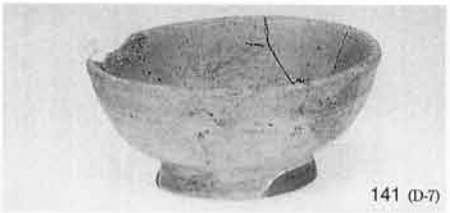
134 (T-2)

135 (T-2)

136 (T-2)

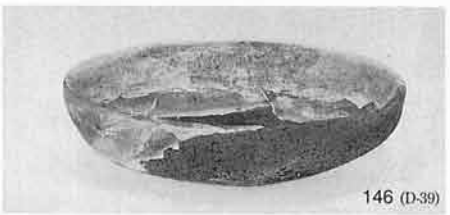
138 (D-5)


140 (D-5)

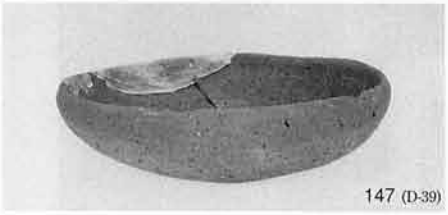

141 (D-7)

142 (D-8)

145 (D-39)

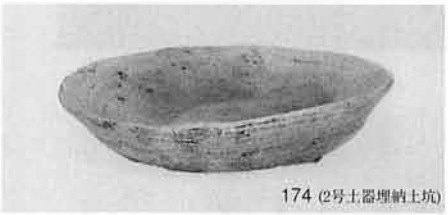

146 (D-39)

154 (D-69)


147 (D-39)

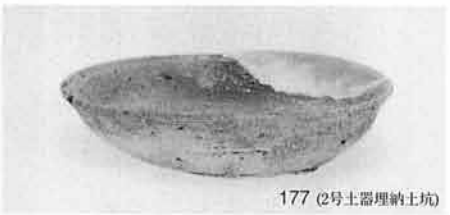
148 (D-39)

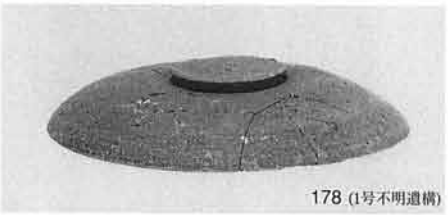
156 (2号周溝状遺構)


174 (2号土器埋納土坑)

175 (2号土器埋納土坑)

176 (2号土器埋納土坑)


177 (2号土器埋納土坑)


178 (1号不明遺構)

瓦3 (H-21)

瓦6 (H-24)

179 (1号不明遺構)

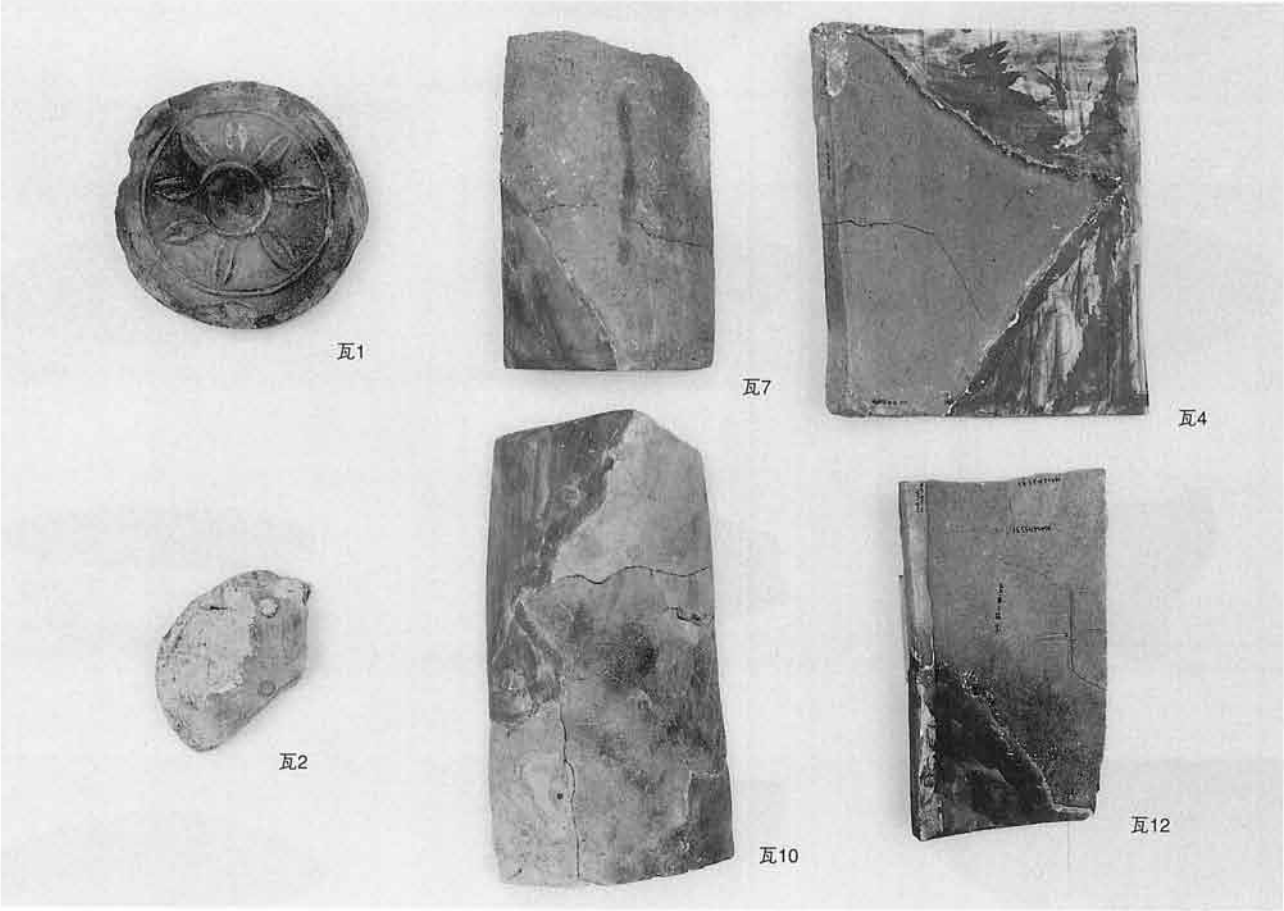
瓦4 (H-31)

瓦13 (A-2)

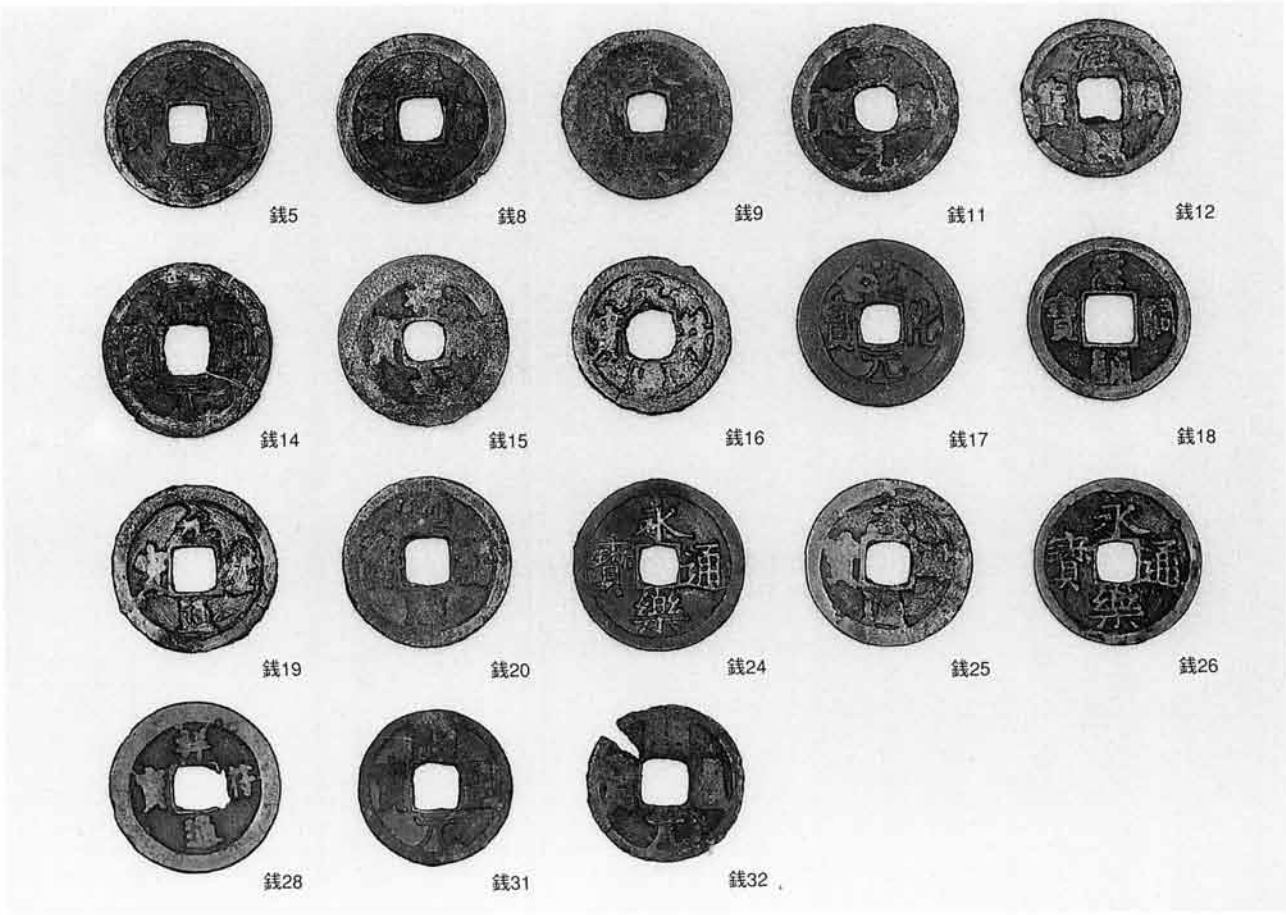
180 (x90,y131)

1

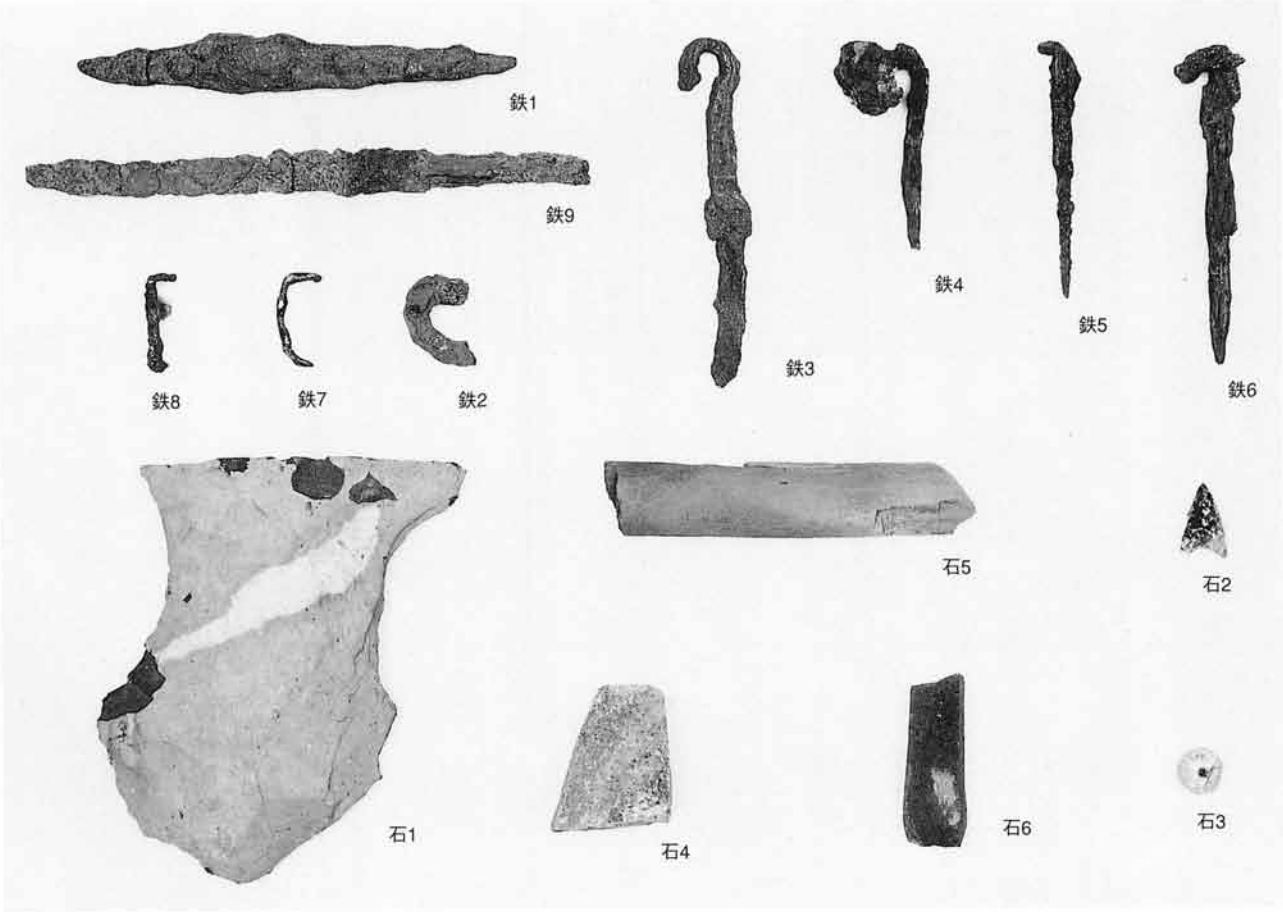
1号土器埋納土坑から出土した土器



主な瓦



古錢



鉄製品·玉類·石器·砥石·石製品

抄　　録

フリガナ	ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵｳﾐｲｾｷｸﾞﾝ　ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵﾐｳﾁﾖﾝｲｾｷ
書名	元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅳ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木　一敏　・　高坂　麻子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371−0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10−2
発行年月日	西暦2003年３月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵﾐｳﾁﾖﾝｲｾｷ 元総社小見内Ⅳ遺跡	ﾏｴﾊﾞｼｼﾓﾄｿｳｼﾞｬﾏﾁ 前橋市元総社町	10201	14A114	36° 23' 21"	139° 02' 02"	20020604 20021121	1,924m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ﾓﾄｿｳｼﾞｬｵﾐｳﾁﾖﾝｲｾｷ 元総社小見内Ⅳ遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・中世	住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、土坑墓、柱穴　他	土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、ｶﾜﾗｹ、瓦、鉄製品　他	なし

元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅳ遺跡

平成15年３月20日　印　　刷
平成15年３月25日　発　　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－2
ＴＥＬ　027－231－9531
印　　刷　株式会社　開文社印刷所
前橋市大手町三丁目18－7
ＴＥＬ　027－231－2597